

国立国語研究所・椎葉民族芸能博物館共同事業

尾前調査班 中間報告書
—宮崎県椎葉村尾前方言
簡易語彙集と文法概説—

下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日

2016 年 3 月

尾前調査班 中間報告書
—宮崎県椎葉村尾前方言簡易語彙集と文法概説—

目 次

0. はじめに	-----
1. 音素論と形態音韻論の中間報告（下地理則）	-----
2. 韻律記述の中間報告（古田万紀子・小川晋史）	-----
3. 格体系記述の中間報告（下地理則）	-----
4. 代名詞体系の中間報告（清岡美里・平塚雄亮・新永悠人）	-----
5. アスペクト体系記述の中間報告（下地理則・占部由子）	-----
6. 自然談話（新永悠人編）	-----
7. 簡易語彙集—尾前方言見出し	-----
8. 簡易語彙集—共通語見出し	-----

0. はじめに

下地理則（九州大学／国立国語研究所）・坂井美日（国立国語研究所）・小川晋史（熊本県立大学）

0.1. 調査地の概要

椎葉村は、宮崎県東臼杵郡^{ひがしうすき}に属し、地理的には宮崎県の北西部、熊本県との県境に位置する。村の面積は537.29km²、その96%は森林で、海拔236~1738.8mの山間部に集落が点在している。椎葉村へのアクセス面は、かつては非常に悪かったが、現在は道路整備に伴い便利になってきている。椎葉村の中心街である上椎葉まで、宮崎県日向市からは車で約2時間弱、公共交通機関（バス・ジャンボタクシー）もある。また最寄り空港は、隣県熊本^{くまもと}の阿蘇熊本空港で、上椎葉まで車で約2時間である。

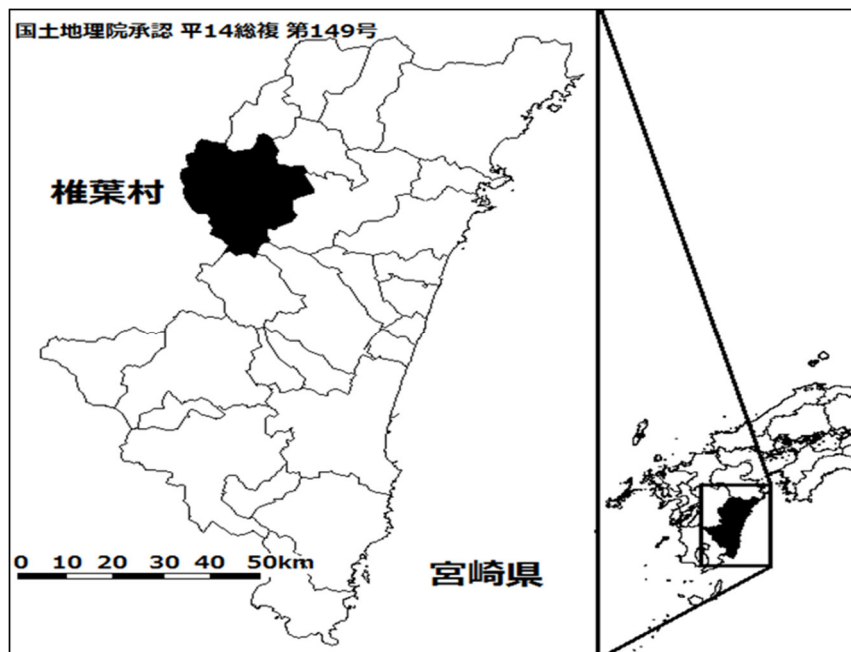


図 1 椎葉村の位置（木部・山本・坂井 2016 より）¹

村内は、大きく4つの大字、大字下福良^{しもふくら}・大字不土野^{ふどの}・大字大河内^{おおかわうち}・大字松尾^{まつお}で構成されており、更に各大字の中は、複数の区で構成されている。大字下福良の中は、上椎葉区^{かみしいば}・鹿野遊区^{かなすび}・仲塔区^{なかつとう}・尾八重区^{おはえ}の4区、大字不土野の中は、尾向区^{おむかい}・不土野区^{ふどの}の2区、大字大河内の中は、大河内区^{こざき}・小崎区^{つがお}・梅尾区^{うめお}の3区、大字松尾の中は、松尾区^{まつお}の1区で構成さ

¹白地図 KenMapVer9.11 を使用して、山本友美氏が作成。

れている（図 2）。

椎葉村の人口は、2015(平成27)年5月1日現在において2,819人（現住人口²）、人口の推移としては、1953(昭和28)年の14,739人をピークに減少の一途を辿っている。各区の人口は、表 1の通りである。適宜参照されたい。なお現在、小学校は6校、上椎葉区、尾向区、不土野区、大河内区、小崎区、松尾区にある。中学校は上椎葉区に1校で³、高校は村内に無い。

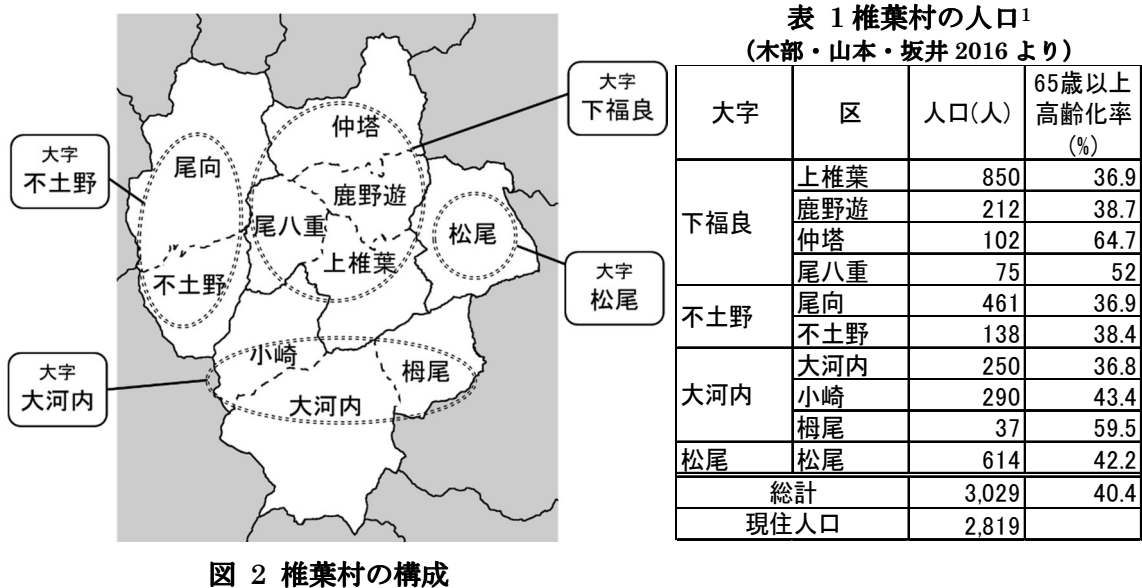


図 2 椎葉村の構成

村内26地区(集落)には神楽が伝承されており、冬祭りには、一晩かけて奉納される。この神楽村の神楽は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。的射節やひえつき節など、生活の中から生まれた民謡も多い。また、柳田國男が1908年に椎葉を訪れて記した『後狩詞記』(1909)が、今日の日本の民俗学の誕生のきっかけであったともいわれており、椎葉村は民俗学発祥の地とされる。

椎葉村の産業は、主に農林業で、林業では造林と共に、椎茸の生産も盛んである。また、猪、鹿等の狩猟も行なわれ、昔ながらの山村生活の営みが続いている。

0.2. 尾前方言調査について

本報告書は、椎葉村方言の中でも特に、尾向区の中の1地区、^{おまえ}尾前の方言についてまとめたものである。以下、椎葉村方言の全体的な概観を述べた後、尾前についての位置づけを示す。

² 住民基本台帳集計では 3,029 人、

³ 従来松尾区にも中学校があったが、2013 年、上椎葉区の中学校と統合された。

まず、椎葉村方言の概観について、吉岡（1994）によると、椎葉村の方言は、大きく4つの区画に分かれるという。椎葉村は、広大な面積と複雑な地形を有し、村内の集落は分散して存在しているため、各地域で言葉に個性が存するのである。従来指摘されている、椎葉村方言の4区画について、吉岡（1994）の記述をもとにまとめると、次のようである。

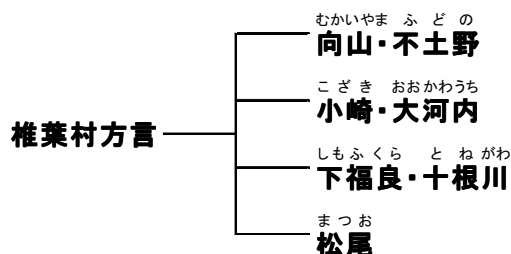
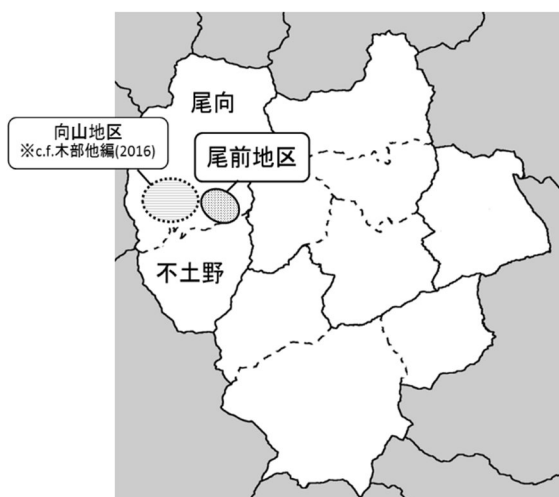


図 3 椎葉村の方言区画
(吉岡 1994 をもとに整理)

図 3の方言区画は、音韻や文法などの言語学的な観察をもとに分けられているが、必ずしも図 2のような行政区画と一致するわけではない。ここでは図 2に無い「向山」「十根川」という名称も挙っているが、向山は、尾向区の中の1地区、十根川は、鹿野遊区の中の1地区である。なお図 3の方言の別は、吉岡（1994）に「村民の言語意識もそれぞれに違いがある」とらえられている（p.237）と述べられるように、話者にも意識されるところであるという。

本報告書で取り上げる尾前の方言は、図 3の4つの大区分の中には、その名が挙っていないが、以下に述べるように椎葉村方言の様相を捉える上で重要な存在であると考える。

尾前は、行政区画でいうと、大字不土野・尾向区の1地区にあたる。尾向区は、尾前地区と向山地区の2つの地区で構成されており、それぞれの地区で尾前神社と向山神社が祭られている。なお、向山地区には更に向山日当、向山日添、尾手納という3つの地域があり、これらの方言の調査結果は、同時刊行の木部他編（2016）に掲載される。尾前地区と向山地区には親交があり、例えばお互いの神楽に、他地域の神楽関係者を招待し合うなど、交流が盛んである。一



方、外部との交流の面において、向山地区とは違いがあるようで、例えば向山地区は、山一つ越えたところの熊本県八代市泉町樅木地区と以前から交友が盛んとのことであるが、

尾前地区にはそのような外部との交流はない。交流すなわち言語の接触の違いは、方言にも大きく反映する可能性がある。また、例えば松永（2005）に、「この集落（注：尾手納）を含む大字不土野（日当，日添，尾前，不土野）の詳細なデータを採り検討する余地はありそうだ」（p.54）と述べられるなど、同じ大字不土野内でも、地域ごとに重要な特徴を有している可能性が考慮される。実際、本報告書1章において後述するように、尾前方言独特と考えられる/hwy/の子音連続（/hwyaa/ [ɸja:]「ハエ」、/hwyete/ [ɸje:te]「干して」など）が存在するなど、地域差があり、かつ言語学的に興味深い現象が既に見つかっている。

これらのことから、方言差を考慮して、行政区画としては同区にある向山の方言や、同大字の不土野の方言とは分けて調査を進める意義が大いにある。

0.3. 尾前調査班の調査計画と本中間報告書の位置づけ

尾前調査班は、国立国語研究所・椎葉民俗博物芸能共同事業のひとつのユニットとして、同共同事業の予算による補助を受けて調査を行っている。国立国語研究所調査班（本部他編2016）が椎葉村の複数地域を対象にした比較方言学的な研究を行う一方、尾前調査班はひとつの地域に集中した記述（いわゆる辞書・文法書・談話資料の3点セットの作成）を行っている。このように、両班による「水平」・「垂直」の分業体制により、椎葉村方言の動態を明らかにすることができ、消滅の危機にあるこれらの方言の記録保存に寄与できると考える。

尾前調査班は、下地理則（九州大学）・小川晋史（熊本県立大学）・平塚雄亮（志学館大学）・新永悠人（成城大学）の研究者チームを中心に、言語学的なトレーニングを受けた九州大学の言語学研究室の学生も加わった共同調査班である。学生のうち、2014年度には古田万紀子（3回参加）が、2015年度には占部由子（3回参加）と清岡美里（4回参加）が、それぞれ卒業論文として椎葉村方言の記述研究に寄与し、その成果は本報告書の2章，4章，5章に収録されている。

尾前調査班は、以下のような調査計画（現時点）を立てている。

2013年度	簡易語彙集の作成（500語目標）→達成
2014年度	簡易語彙集の作成（+500語で1,000語目標）→ほぼ達成
2015年度	簡易語彙集の作成（+500語で1,500語目標）→ほぼ達成 談話収集・書き起こし，基礎的な文法調査 中間報告書の作成（本報告書）
2016年度	簡易語彙集の作成（+500語で2,000語目標） 談話の書き起こし，基礎的な文法調査継続
2017年度	簡易語彙集の完成（+500語で2,500語目標） → 最終成果目標：簡易文法(200ページ)+談話(3時間程度)+辞書(2,500語+例文+音声)

尾前調査班のこれまでの調査日程を以下の表 2 に示すとともに、調査でお世話になった方々のお名前を順不同で挙げておく。記して感謝申し上げる。

表 2. 尾前調査班の調査日程（2015 年度現在）

年度	調査回	日程(※移動日含む)
2013(平 25)年度	第1回	2013 年 12 月 7 日(土)-8 日(日)
	第2回	2014 年 1 月 16 日(木)-17 日(金)
	第3回	2014 年 3 月 4 日(火)-5 日(水)
2014(平 26)年度	第4回	2014 年 9 月 1 日(月)-4(木)
	第5回	2014 年 12 月 6 日(土)-8 日(月)
2015(平 27)年度	第6回	2015 年 5 月 16 日(土)-18 日(月)
	第7回	2015 年 9 月 10 日(木)-14 日(月)
	第8回	2015 年 12 月 9 日(水)-11 日(金)
	第9回	2016 年 3 月 21 日(月)-23 日(水)

尾前調査班が調査地を決めるところからアドバイスをくださり、お世話していただき、さらに調査にも同行してくださった尾前義文さま（椎葉村役場）、尾前調査班の毎回の調査時に暖かく迎えてくださり、さまざまなアドバイスをくださった甲斐眞后教育長と梅北実利さま（椎葉村教育委員会社会教育グループ）に深く感謝申し上げます。また、尾前調査班の調査に毎回同行してくださり、宿の手配から専門的な方言記述のアドバイスまで、あらゆるお世話をしてくださった椎葉民俗芸能博物館学芸員（椎葉村方言記録作成委員会事務局）の山本友美さまにも深く感謝申しあげる。尾前さま、甲斐様、梅北さま、山本さまのご協力・ご尽力のおかげで、調査をスムーズに行うことができ、本報告書の発刊が可能となった。

最後に、尾前調査班の「方言の先生」であり、丁寧に、辛抱強く、方言を教えてくださいました話者の方々に厚く御礼申し上げます（お名前は順不同）。

尾前巽さま、尾前フエカさま、尾前千代子さま、尾前チシさま、尾前靖男さま、尾前迦代さま、尾前一好さま、尾前文雄さま、尾前六女子さま、尾前ハツネ（ギン）さま、尾前新太郎さま、尾前キヨ子さま、尾前ハツ子さま、尾前義則さま、尾前一日出さま、尾前敏美さま、尾前義輝さま、尾前ミカエさま、尾前秀久さま、尾前ウメエさま、尾前キクコさま、尾前源三郎さま、尾前一蔵さま。

【参考文献】

椎葉村編(1994)『椎葉村史』椎葉村

椎葉村編(2012)『宮崎県椎葉村 村勢要覧資料編 2012』椎葉村

椎葉民俗芸能博物館編(1997)『椎葉民俗芸能博物館常設展示図録』鉾脈社

総務省統計局ホームページ(2016 年 1 月 28 日閲覧)

平成 22 年度国勢調査 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/#kekkagai>

国土地理院ホームページ(2016 年 2 月 3 日閲覧)

2015(平成 27)年報道発表資料

<http://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/kihonjohochousa60012.html>

平成 26 年全国都道府県市区町村別面積調・宮崎県

<http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOH/MENCHO/201410/shikuchouson/miyazaki.pdf>

松永修一 (2005)「宮崎県椎葉村方言のアクセントと音声の特徴」『論集』アクセント史資料研究会

吉岡泰夫 (1994)「椎葉の方言概説」徳川宗賢・吉岡泰夫・那須林・山中和子・甲斐光義

(1994)『椎葉のことばと文化』宮崎日日新聞

1. 音素論と形態音韻論の中間報告

下地理則（九州大学）

1. 1. はじめに

尾前方言の子音音素は 14 個(p/b, t/d, k/g, s/z, h, m, n, r, w, y), 母音音素は 5 個(i, u, e, o, a)である。1.5 節で詳述するように, 固有語で[ɸ]と[h]の対立（例：/hwiita/ [ɸ^wi:ta]「吹いた」 vs. /hiita/ [çi:ta]「引いた」）がある点が興味深い。本報告書では[h]と対立する[ɸ]を/h/と/w/の連続と解釈する。このほか, /kw/や/gw/などのいわゆる合拗音の存在, また/wyaata/ [w^ɰa:ta]「沸いた」など, /w/と/y/が連続するという点も, この方言の重要な特徴となっている（鹿児島県甕島方言にもこの特徴がある；黒木 2015）。なお, 語頭（正確には語根頭）ではさらに/hwy/の連続が生じうる（例：/hwyaa/ [ɸ^ha:]「ハエ」）。このように, 音節構造の分析は尾前方言の音韻体系の議論のポイントである（1.4 節）。アクセントについては, いわゆる無アクセント方言である。本報告書では, 2 章において, 音調が句音調や節音調など, イントネーション特徴に関して基礎的な記述を行う。

1. 2. 子音音素の概要

以下の表 1 に見るように, 子音音素のうち/p/は固有語の語根頭に立たず, 出現が限られている。すなわち, 日琉祖語の/*p/は当方言では基本的に/h/（語頭）, /w/（語中）に対応するため, /p/は多くの場合, 語中の/pp/で出現する（例：/toppen/「てっぺん」）。ただし, /*p/に対応する/hw/ [ɸ]もある（例：/hwyaa/ [ɸ^ha:]「ハエ」）。これについては 1.3 節で議論する。

表 1. 子音音素表

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	(p), b	t, d		k, g	
摩擦音		s, z			h
鼻音	m	n			
はじき音		r			
接近音	w		y		

/s/は/i/の前で[ɕ]になる。/se/もまた[ɕe]になることがあるが, 単純語内部では[se]との揺れがあり, 音韻的対立はない。一方, 形態音韻的な派生を経て, 音韻的に生じる/syee/ [ɕe:]もある（次節で詳述）。これは, 母音連続の融合で生じる/y/によるものである。例えば, /seseku/ [seɕeku] ~ [ɕeɕeku]「いじる」は, テ形になると/sesyee/ [seɕe:te] ~ [ɕeɕe:te]となり, /syee/は決して直音で発音されることはない。この/syee/は, sesek-te → seseite → sesyee というテ形の形成規則における ei → yee という母音融合の規則で生じるものである。

/t/は/i/の前で[te], /u/の前で[ts]になるが、話者によって、そして単語によって、/tu/を[tsu]ではなく[tu]と発音することがある（例：/atukehiku/ [atukeçiku]「熱中症で倒れる」）。/z/と/d/はそれぞれ、語頭では/i/の前で[dz], /u/の前で[dz]に、語中では/i/の前で[z], /u/の前で[z]になり、中和する（本報告書では/z/と書く）。なお、/du/と/zu/が対立する話者がいる可能性もある。現時点で、1人の話者から確認できているが、例えば/huzutumi/ [ɸudutsumi] ~ [ɸudutumi]「ほおかむり」という例がある。この例は歴史的には/huu/「ほほ」+ /tutumi/「つつみ」で「ほほつつみ」という複合語から発達した語であると思われる。すなわち、現在/zu/（/d/と/z/の中和と解釈）になっている部分は、歴史的には/du/であったと考えられる。そして、そのような例においてのみ、[du]と発音されることが確認できる。そうであれば、このような話者の体系においては、/zu/を[zu], /du/を[du]と発音し、対立があると考えることができる。いわゆる四つ仮名の区別と関わることであり、今後のさらなる調査が必要である。なお、このような話者でも、/zi/と/di/の対立はない。よって、いわゆる「三つ仮名」の対立がみられる話者であろうと思われる。

/ɾ/ははじき音[r]である。日本語諸方言に広くみられるように、固有語では語頭に立たない。なお、語中では[d]と発音されることもあるようである（例：/esiren/ [jecireN] ~ [jeciden]「大変な」）。これが個人の発音特徴なのか、広くみられる現象なのか、今後の調査が必要である。漢語その他の非固有語で語頭に来る/ɾ/については、同様の特徴は見られないようであるが、これもデータを増やしてみなければわからない。

接近音は単独でオンセットに立つか、ほかの子音と組み合わせさせて/CG/オンセットを形成する。/Cy/の/C/の位置には/w/を含むすべての子音音素がたつ。/wy/の例は後述するように単純語では見当たらず、形態音韻規則で派生されたものである（例：//wak-// + //-ta// → /wyaata/ [wʲa:ta]「沸いた」；//mawas-// + //-ta// → /mawyaata/ [ma wʲa:ta]「回した」）。/Cw/の/C/の位置には/k/, /g/のみがたつ。漢語由来の場合は/kwa/, /gwa/のみが見られ（例：/kʷanzin/ [kwanziN]「乞食」, /kwasi/ [kʷaci]「菓子」, /ikkwai/ [ikkʷai]「一回」, /sangwatu/ [sangʷatsu]「3月」）, 固有語には/kwa/, /kwo/がみられる（例：/kwa/ [kʷa] ~ /kuwa/ [kuwa]「桑」; /kwan/ [kʷan] ~ /kuwan/ [kuwan]「食べない」; /kwoo/ [kʷo:] ~ /kuwoo/ [kuwo:]「食べよう」）。さらに、一部の固有語では/kui/と/kwii/, /gui/と/gwii/が交替する場合もある（/kui/ ~ /kwii/「杭」, /amatigui/ ~ /amatigwii/「甘さが変だ（たりない or 甘すぎる）」）。漢語由来の/kw/, /gw/は直音化が進んでいるようであり、すべての例で直音も容認され、かつ直音のほうがよく聞かれる単語もある。

1.3. /h/に関する音韻解釈

尾前方言で特徴的な音声は、[ɸ]とその拗音化（例えば[ɸa:]「ハエ」および「灰」, [ɸi:ta]「吹いた」, [ɸe:ta]「干した」）であり、これらの音韻解釈が、尾前方言の音素解釈でひとまず問題となるところである。上記の[ɸ]は、本稿では/h/と/w/に分解する共時的解釈をとる。よって、「ハエ」「灰」は/hwyaa/, 「吹いた」は/hwiita/, 「干した」は/hweeta/である。

尾前方言には[h]と[ɸ]が固有語で対立する例が多数見つかる。例えば[çi:ta]「引いた」と

[ɸi:ta]「吹いた」である。また、オノマトペや比較的新しい（しかし尾前方言の使用語彙として確立している）借用語彙を積極的に考慮に入れると、[ɸ]と[h]（および[ç]）のミニマルペアは多数見つかる（[he:tai]「兵隊」vs. [ɸe:ta]「干した」、[ɸja:]「ハエ」vs. [ça:]「ひゃー（驚いたときのオノマトペ）」）。よって、ミニマルペアの片方を/h/と/w/の組み合わせで解釈するか、あるいは/ɸ/と/h/を別個認める必要のいずれかがある。

本報告書で/ɸ/ではなく/h/ + /w/を採用する積極的な動機は、音素を減らせるという単純な理由以外に、この解釈によって形態音韻規則をシンプルかつ体系的に記述できるからである。例えば、「開いた」は/wyaata/ [wja:ta]であり、これは基底の語根//ak//「開く」と過去接辞//ta//の合成による//akta//が、【入力】akta → 【語根末子音交替】aita → 【渡り音挿入規則】wyaata という風に派生すると記述できる（1.5 節で詳述）。派生途中の ai という母音連続が渡り音の連続/wy/を誘発する渡り音挿入規則は一般性の高い規則である。ここで、「吐いた」[ɸja:ta]を/hwyaata/と解釈すれば、//hakta// → haita → /hwyaata/というふうに、全く同じ規則の適用で説明できる。一方、「吐いた」[ɸja:ta]を/ɸyaata/としてしまうと、語根の//hak//を出発点として haktā → haita → ɸaita → ɸwyaata → ɸyaata というふうに、派生途中で語根内部の/h/を/ɸ/に交替させるという余分かつ恣意的な規則が必要である¹。

/h/ + /w/として解釈する立場にたつと、2つの問題が生じるが、いずれも、上述のメリットを放棄するほど重要ではない。まず、/hw/ - /b/という連濁における不整合が生じる（例：/hwya/「ハエ」→ /kuso-byaa/「（種類不明の）ナントカバエ」）。ここで言う不整合は、/hw/という連続が1つの音素/b/に対応するという不整合である。しかし、連濁の不整合は/h/と/ɸ/を別個に認める案でも同じである。例えば/hana/ → /hiban-bana/「ヒガンバナ」において、/h/と/b/が調音位置に関してペアをなさないという意味で不整合を起こしている。よって、連濁の不整合という問題は、/hw/案と/ɸ/案のいずれかに与する問題ではない。次の問題は、音節構造上の例外（/hwya/「ハエ」は例外的な3子音連続）を認めることである。しかし、例外的な子音連続という分析は、通時的な動態をむしろ正確にとらえているともいえる。すなわち、この3子音連続は現在の尾前方言では不安定であり、話者によっては/w/を脱落させることがある（/hwya/ > /hyaa/「ハエ／灰」）。さらに、この/w/の脱落は、1.2 節でみた合拗音のそれと連動して起こっているとみられるため、通時変化の体系的な記述に関して/hw/の解釈のほうが有利であるといえる。

1.4. 母音

母音は、以下の表2に見るように、日本語諸方言に典型的に見られる5母音体系である。後述する母音融合を記述するうえで、母音の前後・高低の素性は重要な意味を持つ。/u/の円唇性は強くないが、本稿および簡易辞書では[u]と表記する。/e/は音節頭で[je]となる傾向に

¹ なお、/ɸ/を認める解釈における ɸwyaata → ɸyaata への派生で生じる w の削除規則は、/h/と/w/に分解する解釈でも必要である（「書く」kakta → kaita → kwyaata → kyaata）。よって、/ɸ/案で余分かつ共時的に恣意的な規則は/h/から/ɸ/への交替に限られる。

ある (/mo.to.e/ [motoje]「本家」, /ie/ [ije]「家」, /e.si.ren/ [jeɕireŋ]「不明な・すごい」, /e.no.ha/ [jenoha]「エノハ(ヤマメ)」など)。*/o/*は狭母音のあとで[wo]になる傾向にある (/kao/ [ka.wo] ~ [ka.o]「顔」, /io/ [iwo]「魚」, /nakiorabi/ [nakiworabu]「泣き叫ぶ」, /suo/ [su.wo]「巣を」)が, */oo.o/*の場合にも[wo]となりやすい (/haberyooo/ [ha.be.ɾo:.wo]「蝶を」など)。

表 2. 母音音素表

		+Front	-Front
+High	-Low	i	u
-High		e	o
	+Low		a

1.5. 音節とモーラ

尾前方言の音節構造は, 1.3 節で述べた/hw/の解釈に起因する特殊性を有する。すなわち, 語頭にだけ許される前初頭子音 (pre-initial; オンセットに先立つ特殊な子音) を認め, ここに/h/が入りうると記述する。前初頭子音を#P で表すと, 尾前方言の音節構造は以下のよう
に一般化できる。

(1) (#P)(C₁(G))V₁(V₂)(C₂)

(a) CV の例: ha.ku [haku]「吐く」(CV.CV)

wa.ku.doo [wakudo:]「カエル」(CV.CV.CVV)

(b) CGV の例: wyaa.te [wʲa:te]「湧いて」(CGV.CV)

ma.wyaa.te [mawʲa:te]「回して」(CV.CGVV.CV)

tyaa.tu.ke.ru [tɕa:tsukeru]「(火を)つける」(CGVV.CV.CV.CV)

hwii.te [ɸi:te]「吹いて」(CGVV.CV)

(c) P.CGV の例: h.wyaa [ɸʲa:]「ハエ」「灰」(P.CGVV)

C₁にはすべての子音がたつが, 固有語では語頭に/h/が来ることはない(1.2 節)。C₂は語末では/n/のみがたつ。(1)より, 子音連続は語中で VC₂.C₁(G)V と定式化できる。C₂.C₁は同器官的な n と C の連続か, あるいは C_iC_iである。

(2) VC_i.C_iV の例:

(a) 閉鎖音 (無声) ga.kip.pa.ra「崖」, bet.ta.ri「たくさん」, rak.kyu「らっきょう」

(b) 閉鎖音 (有声) wad.do.mo (~ wadomo)「私たち」, ka.yug.ga「変えよう」(< kayuru=ga)

(c) 摩擦音 (無声) nakebessuru (< nakebeso suru)「泣く」

(d) 摩擦音 (有声) 現時点ではデータになし

(3) Vn.CV の例：

- (a) zun.byaa 「いっぱい」 (/nb/ [mb])
- (b) bin.ta 「頭」 (/nt/ [nt]), in.da 「帰った」 (/nd/ [nd]), sen.so 「先祖」 (/ns/ [ʒs]), gon.zoo.ba.ti
「ゴンゾウバチ」 (/nz/ [ndz])
- (c) be.ben.ko 「赤ちゃん牛」 (/nk/ [ŋk]), sun.gyaa.ta 「(屁を) すかした」 (/ng/ [ŋg])

音節の各要素のうち V_1, V_2, C_2 は 1 モーラを担う。語根は 1 モーラのものも多数存在するが、これらが単独で（例えば名詞が助詞なしで）発話される場合は長音化される。例えば、*te=o kiran=goto* [teokirangoto] 「手をきらないようにね」の *te* が対格助詞なしで発話されると *te kiran=goto* [te:kirangoto] となる。

1. 6. 母音連続と母音融合

母音連続は、語根内部に基底で生じる場合と、形態音韻規則で派生され、表層では長母音化される場合がある。基底の母音連続は少ない。以下の(4)は簡易語彙集に見つかる既定の母音連続の例である。

(4) 基底の母音連続

- (a) /ai/ (/okai/ 「おかゆ」, /taigyaa/ 「とても」, /kaiko/ 「蚕」 など)
- (b) /au/ (/kauya/ 「川」 など)
- (c) /oi/ (/oiko/ 「甥」, /yaoikan/ 「いやだ」 など)
- (d) /ui/ (/suika/ 「スイカ」, /sensui/ 「池」 /suiziba/ 「台所」 など)

形態音韻論で派生される母音連続は、融合規則を経て長音化して出力される。以下では、もっぱらテ形形成をみるが、歴史的にテ形を含むタ形、子音脱落をとまなう与格形も（一部）同様の形態音韻現象を有する。紙数の都合上、網羅的な形態音韻規則の記述は稿を改めて行いたい。

まず、テ形の形成規則は、語根末子音によって、以下のように一般化できる²。

(5) 語根末が/s, k, g/の場合、これらが/i/に交替する。なお、(b)の[]にあるように、有声子音（半母音を除く）のあとに来る t の有声化規則が先だって適用される。

- (a) 「書いて」 kak-te → kaite
- (b) 「嗅いで」 kag-te → [kagde →] kaide
- (c) 「貸して」 kas-te → kaite

(6) 語根末が/b, m, w/の場合、/u/に交替する。有声化規則の適用は上記と同じである。

- (a) 「飛んで」 tob-te → [tobde →] toude

² 鹿児島県甕島方言の記述（黒木 2015）にも同様な形態音韻現象が報告されている。

- (b) 「読んで」 yom-te → [yomde →] youde
 - (c) 「つかんで」 tukam-te → [tukamde →] tukaude
 - (d) 「言って」 iw-te → iute
- (7) 語根末が/r/の場合、テ形接辞の/t/に同化する。/n/の場合、上記の有声化規則が適用される。/t/の場合、形態音韻規則は適用されない。
- (a) 「取って」 tor-te → totte → /totte/
 - (b) 「死んで」 sin-te → sinde → /sinde/
 - (c) 「待つ」 mat-te → /matte/

(5)と(6)によって生じたテ形接辞の前の母音連続は、さらなる派生規則で長母音として出力される。以下の(8)は、上記で生じた母音連続を表層に出力するまでの規則である。

- (8) a. 入力 → b. 母音融合規則 → (c. 渡り音挿入規則) → (d. 削除規則) → 出力
- //V₁V₂// V₃V₃ (G)V₃V₃ (G)V₃V₃ /(G)V₃V₃/

上記の規則群のうち、母音融合規則を(9)に、渡り音挿入規則（適用制限あり）を(10)に、削除規則（適用制限あり）を(11)に記す。

(9) 母音融合規則

- (a) //ou// → uu
- (b) //au// → oo
- (c) //ei// → ee
- (d) //ui// → ii
- (e) //iu// → uu
- (f) //oi// → ee
- (g) //ai// → aa

(10) 渡り音挿入規則

- (a) V₂が/i/のとき、かつ V₁ → V₂ への移行において、-High から+High にかわる場合に、(8c)の G に y を挿入せよ。
- (b) V₁ → V₂ への移行において -Front から+Front にかわる場合に、(8c)の G に w を挿入せよ。
- (c) 上記の規則から w も y も挿入されるとき、(8c)の G に wy の順序で挿入せよ。

(11) 一般的削除規則：音素配列上の制限に沿わない場合，(8d)の渡り音を削除せよ³。

(a) wyaa → yaa/C_

(b) wyee → wee/(P.)_

yee/C_ [C が歯茎音(t, d, s, z, n, r)]

ee/elsewhere

(c) wii → ii/C_

表 3. テ形の形成にかかる形態音韻規則とその適用(上記(5, 6)に関するもののみ)

	基底	有声化	語根末 子音 交替	母音 融合	渡り音 挿入	削除	出力
「開いて」	//ak-te//	N/A	aite	aate	wyaate	N/A	/wyaate/
「吐いて」	//hak-te//	N/A	haite	haate	hwyaate	N/A	/hwyaate/
「沸いて」	//wak-te//	N/A	waite	waate	*wwyaate	wyaate	/wyaate/
「焼いて」	//yak-te//	N/A	yaite	yaate	*ywyaate	yaate	/yaate/
「書いて」	//kak-te//	N/A	kaite	kaate	*kwyaate	kyaate	/kyaate/
「嗅いで」	//kag-te//	kagde	kaide	kaade	*kwyaade	kyaade	/kyaade/
「言って」	//iw-te//	N/A	iute	uute	yuute	N/A	/yuute/
「浮いて」	//uk-te//	N/A	uite	iite	wiite	N/A	/wiite/
「押して」	//hes-te//	N/A	heite	heete	hyeete	N/A	/hyeete/
「干して」	//hos-te//	N/A	hoite	heete	*hweete	hweete	/hweete/
「溶いて」	//tok-te//	N/A	toite	teete	*twyeete	tyeete	/tyeete/
「飛んで」	//tob-te//	tobde	toude	tuude	N/A	N/A	/tuude/
「はらんで」	//haram-te//	haramde	haraude	haroode	N/A	N/A	/haroode/

形態音韻規則はこのほかにも多数，記述すべきものがある。与格形，主題形，形式名詞 to の接続にかかわるものなど，現在確認できているもので二十以上ある。これらについては紙数の都合上，稿を改めて論じることとする。

参考文献

黒木邦彦(2015)「音韻規則」森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦（編）『甌島里方言記述文法書』

³ wyaa の形は，削除のないそのままの形が表層で実現しうるが，wyee については，筆者の調査メモと簡易辞書のデータに関する限り，表層で確認できていない。つまり，「置いて」が渡り音挿入規則で wyeete になることが実証できていない。よって，(11b)の規則で，y を削除する分析を行っている(*wyeete → weete)。しかし，本報告書の談話資料(文番号 No. 131)において，この形式が出現していることが明らかとなった。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 連携研究 「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」サブプロジェクト「鹿児島県甬島の限界集落における絶滅危機方言のアクセント調査研究」, 1・194, 東京：国立国語研究所.

2. 韻律論の中間報告

古田万紀子（九州大学卒業生）・小川晋史（熊本県立大学）

2.1. はじめに

本章では尾前方言の韻律、特に名詞のアクセント及びイントネーションについての調査結果を報告する。

2.1.1. 用語の定義

まず、用語についてまとめておく。これらの用語は研究者により様々に使用されているが、本章では以下の意味で用いることとする。

(1) アクセント（広義のアクセント）

音節、語、文節単位で現れる韻律的特徴。それ自体に意味はなく、語を区別する役割を担う。文中ではイントネーションよりも優位に現れる。日本語の多くの方言は音の高低によるピッチアクセントを持つ。

本章では、「↑」／「↓」：上昇位置／下降位置、または●／○：高／低、○／▽：自立語／付属語という表記を用いる¹。

例) たまご taˈmaˈgo ○●○

(2) イントネーション

アクセントより大きな単位で現れる韻律的特徴。それ自体に意味があり、疑問などの文法的意味や感情などの心的意味が現れる他、文構造を示す働きもある。

例) それ、本？↑（上昇） — うん、本。↓（下降）

（「本」の●○というアクセントは失われない）

(3) ピッチ（音調）

心理的な音の高低で、物理的な音の高低である F0 と一定の対応がある。本章では原則として「高」か「低」の2種類で表す。

2.2. 先行研究

2.2.1. 椎葉方言のアクセント

松永（2005）は、椎葉方言のアクセントについて「一拍語～三拍語はほぼ全地域でおむね●▽、●○、○●○であるが（中略）アクセントによる語の弁別の意識はなく会話中では様々なパターンが観察される。」としている。同論文では、尾前地区から数キロ西に位置する尾手納地区の高年層女性に語頭の1拍目だけが高くなるピッチパターンが観察されることも報告している。この松永（2005）に即すと、椎葉方言は尾手納地区の女性を除いて、すなわち本章で扱う尾前方言も含め、無アクセントと記述されてきている。

¹ 1 モーラ語の音が伸びて発音され、その語中で高／低が変わるものは、●や○と表す。

2.2.2. 予備的調査より

2013 年 12 月の調査において、以下の様な「A ハ A ダ。」という文が、興味深い音調を伴って発話された。

- (4) a. ninzin^ˈwa ni^ˈnzintyuuwai
ninzin=wa ninzin=to=iw-ru=wai
にんじん=は にんじん=と=いう -PRS=SFP
「にんじんはにんじんと言うなあ」
- b. kawa^ˈwa ka^ˈwa zyan^ˈne^ˈe
kawa=wa kawa zya-ru=ne
川=は 川 だ -PRS=SFP
「川は川だよね」

(2013.12.07.調査資料より)

前半の A を A1、後半を A2 とすると、上の 2 つの例文では明らかに A1 と A2 のピッチパターンが異なる。もし、尾前方言の名詞にアクセントがあるならば、A1 と A2 のピッチパターンは同じになる可能性が高いはずである。しかし(4)ではそうになっていない。更に「ninzin」と「kawa」ではモーラ数が異なっているにも関わらず、(4a)と(4b)全体のピッチパターンが同じであることが分かる。すなわち、A1 に付いている助詞 wa でピッチが上昇した後に、A2 の語頭でピッチ下降するというパターンである。これらのことから尾前方言の名詞にはアクセントが存在せず、「A ハ A ダ。」という文型が持つイントネーションによって(4a)と(4b)が同じピッチパターンになったのではないかと推測し、さらなる詳しい調査に進んだ。

なお、「ni^ˈnzin」の「ni^ˈn」という音節に注目すると、尾子音の直前でピッチ変化が生じていることから、尾前方言のピッチパターンの実現はモーラを最小単位としていると言える。

2.3. 調査 1：読み上げ式調査

2.3.1. 調査法・調査環境

まず名詞自体にアクセントの対立があるのか調査するため、名詞をキャリアセンテンスに入れての読み上げ式調査を行った。キャリアセンテンスは以下の 5 つの要素を考慮して組み立てられ、使用する名詞は『国語学大辞典』（1980: 8-9）の「国語アクセント 類別語彙表」に基づき 255 単語用意した。話者は 85 歳男性 1 名で、調査機材は Roland R-09HR。44.1kHz、16bit、ステレオ、内部マイクで録音した。

要素 1：名詞のモーラ数：1～3

要素 2：名詞の類（「類別語彙表」に基づく分類：1～6）

要素 3：格助詞：no／mo／φ

要素 4：動詞：nyaa（ナイ）／or-an（イナイ）

要素 5：終助詞：wai／nee

※以降、要素 1 は○の数で、要素 2 は数字で表記する。

例) 2 モーラ・第 4 類=[○○]4

(5) 調査票に含めた提示文の例

a. [○]2-mo-nyaa-nee

mo=mo nyaa=nee

藻=も ない=SFP

「藻もないねえ」

b. [○○]5-no-oran-nee

kumo=no oran=nee

蜘蛛=NOM いない=SFP

「蜘蛛がいないねえ」

c. [○○○]1-φ-nyaa-wai

koori nyaa=wai

氷 ない=SFP

「氷（が）ないなあ」

2.3.2 調査内容

松永（2005）が報告しているように全般的に●▽、●○、○●○または●▽、●○▽、●○●▽となるのかをまず調査した。ここではキャリアセンテンスを用いるため、同一のキャリアセンテンスでピッチパターンの相違が見られた場合、それは単語自身が持つアクセントによるものと言える。

2.3.3. 結果

表 1 調査 1 の結果（抜粋）

類	form				音調		F0 曲線のイメージ
1 ²	e	-no	nyaa	nee	○▼	○○ ●○	
2	mo	-mo	nyaa	nee	○▼	○○ ●○	
3	ne	-no	nyaa	nee	○▼	○○ ●○	e no nyaa nee
3	ki	-mo	nyaa	wai	○▼	○○ ○○	
3	me	-mo	nyaa	wai	○▼	○○ ○○	
1	hana	-no	nyaa	nee	○●▼	○○ ●○	
2	mura	φ	nyaa	wai	○●	○○ ○○	mura nyaa wai
3	kumo	-no	oran	nee	○●▼	○●○ ●○	
4	obi	-mo	nyaa	wai	○●▼	○○ ○○	
1	tonari	-no	nyaa	wai	○●●▼	○○ ○○	
1	kemuri	-no	nyaa	wai	○●●▼	○○ ○○	
5	namida	-mo	nyaa	nee	○●●▼	○○ ●○	urami mo nyaa wai
4	urami	-mo	nyaa	wai	○●●▼	○○ ○○	

² /e/は、尾前方言では[je]と発音されるが、他の 1 モーラ名詞が母音内での音調の上昇が見られたのに対し、柄/e/は[jˈe]と発音された。これは、[je]が 1 モーラの（例えば）柄/e/だけでなく 2 モーラの（例えば）家/ie/の発音でもあることと関連がありそうであるが、定かではない。

音響分析には、Paul Boersma 氏と David Weenink 氏によって開発されたオープンソースのソフトウェアである Praat を用いた。

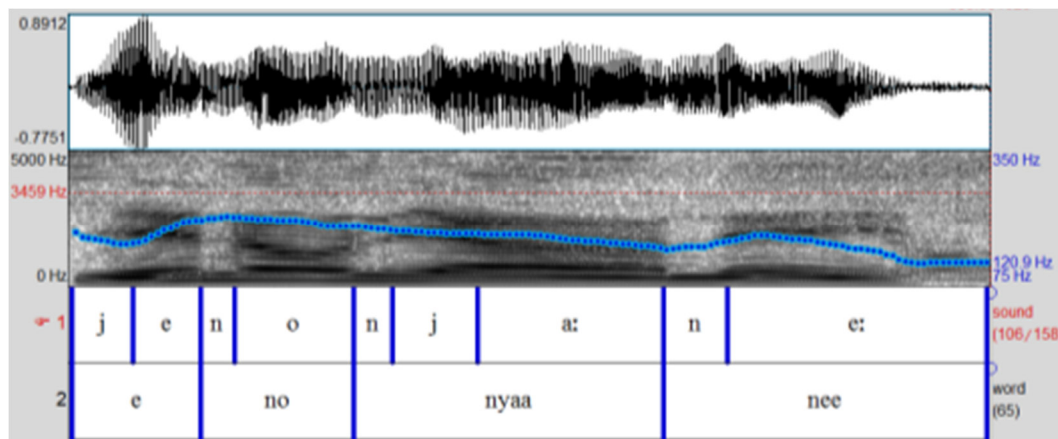


図 1 e no nyaa nee 「柄が無いねえ。」

2.3.4. 考察

調査 1 から以下のことが言える。尾前方言の名詞では「A ガナイ」という文において、名詞 A によらず、文頭から少なくとも 2 モーラ目までに緩やかに上昇し、その後は自然下降する、という単一の音調が現れる。本調査によって観察されたピッチパターンは松永 (2005) の「●▽、●○、○●○」や「●▽、●○▽、●○○▽」とは異なるが、これは今回用いたキャリアセンテンスのイントネーションが反映された可能性がある。さらに、上昇後の下降が名詞と助詞を超えて、後続する述語にまで及んでいることが注目される。「A ガ」と「ナイ」、則ち名詞と述語をひとまとまりとしたような音調が存在するのである。語彙によらないピッチパターンの単一性と、句や節を単位とした音調の実現の可能性が示唆されることから、アクセントについて言えば、尾前方言の名詞はアクセント対立がないと推察される

一方、助詞に関してはその種類や持つ意味によって音調が変化している。「wai」が直前の低音のまま自然下降するのに対し、「nee」は新たな上昇の契機となっているようである。これは、助詞が文全体の意図や焦点さらには構造を表すという役割を担っており、イントネーションと密接に関わっているからではないかと推測される。

2.4. 調査 1 の補完：方言訳調査

2.4.1. 調査法・調査環境

日本語共通語で作成した文を話者に方言に訳してもらった。様々な文のピッチパターンを幅広く収集する方針で行った。調査中に話者自身が作成した自然発話もデータとした。話者は前節と同じである。調査機材は Roland R-09HR。44.1kHz、16bit、ステレオ、で録音した。マイクについては内部マイクと使った場合と外部マイク (SONY ECM-MS907) を使った場合がある。

2.4.2. 調査内容

(6) 提示文の例

- a. 呼びかけ：義雄さんはいますか？
- b. 命令：そこにいろ。
- c. 勧誘：お菓子食べないか。
- d. モーラ数の多い動詞（複合動詞）：桶をひっくり返す。
- e. 形容詞述語文：柄がないねえ。
- f. 副詞：早くご飯を食べなさい。

(7) 自然に発話された文の例

- a. 関係節：そこにあるお菓子を食べなさい。
- b. 引用：子どもには「お菓子食べないか」って（言う）。

2.4.3. 結果

(8) 呼びかけ(=6a)

調査1で見られたのと同様に文頭から2モーラ目でピッチ上昇する。その後は高いまま平板が続き、文頭の語に付いている助詞、あるいは語の最終モーラで急激に下降するか、上昇直後から自然下降して動詞とひとまとまりの音調を形成する。

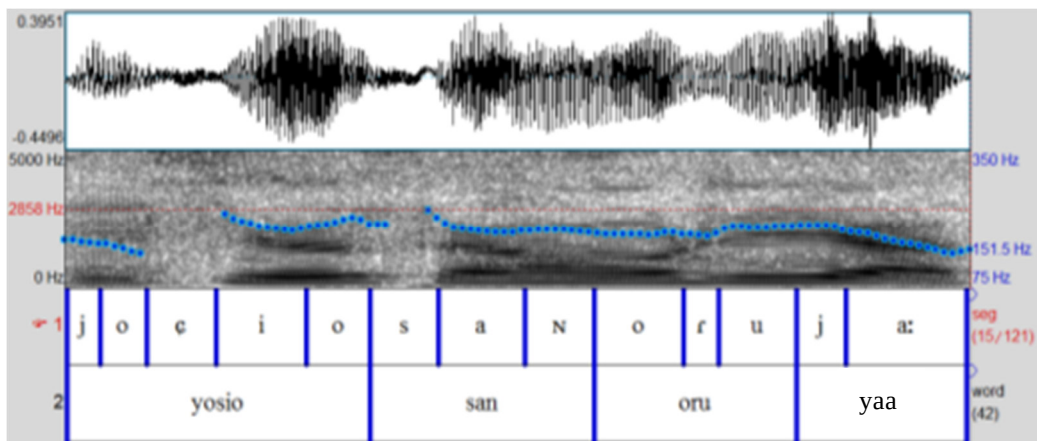


図 2 yosio san oru yaa 「義雄さんはいますか？」

(9) 命令 (=6b)

終助詞を伴わない場合：文末非下降。文末のイントネーションの直前まで名詞と動詞がひとまとまりの音調を形成する。

終助詞を伴う場合：既出の調査 1 に同じ。

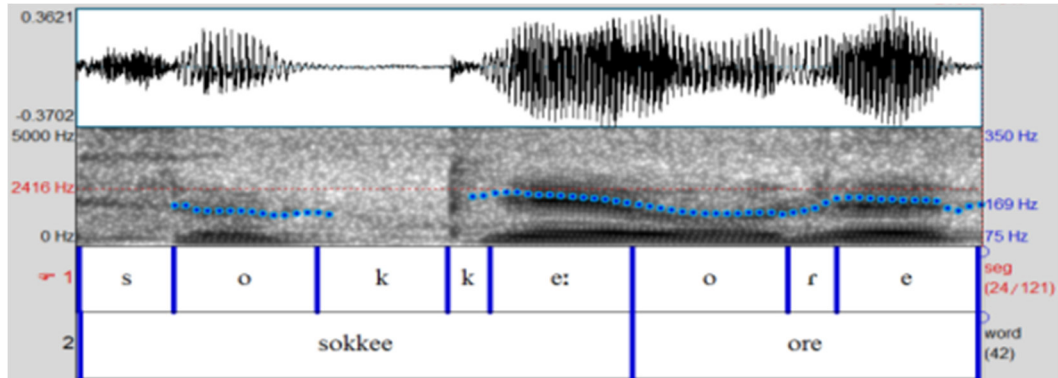


図 3 sokkee ore 「そこにいる。」（終助詞なし）

(10) 勧誘 (=6c)

終助詞を伴わない場合：高いまま平板

終助詞を伴う場合：(8)の呼びかけに同じ

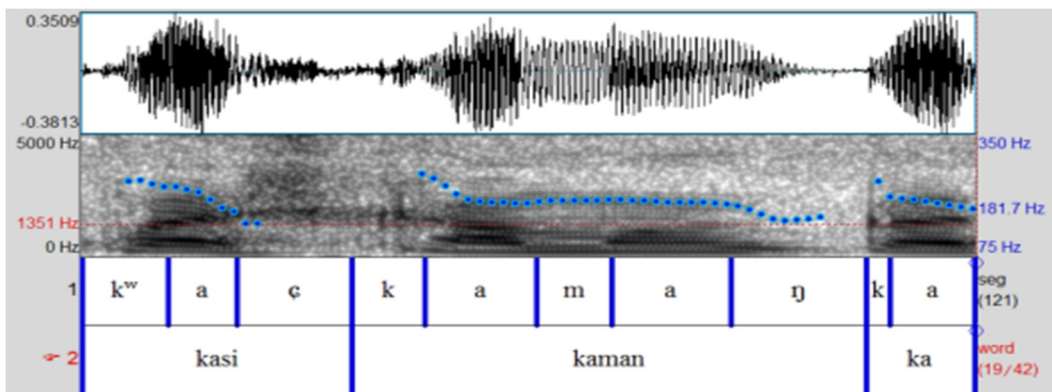


図 4 kasi kaman ka 「お菓子食べないか。」（終助詞あり）

(6) モーラ数の多い動詞（複合動詞） (=6d)

動詞の手前の目的語で下降が見られ、複合動詞ではひとまとまりの音調が見られる。

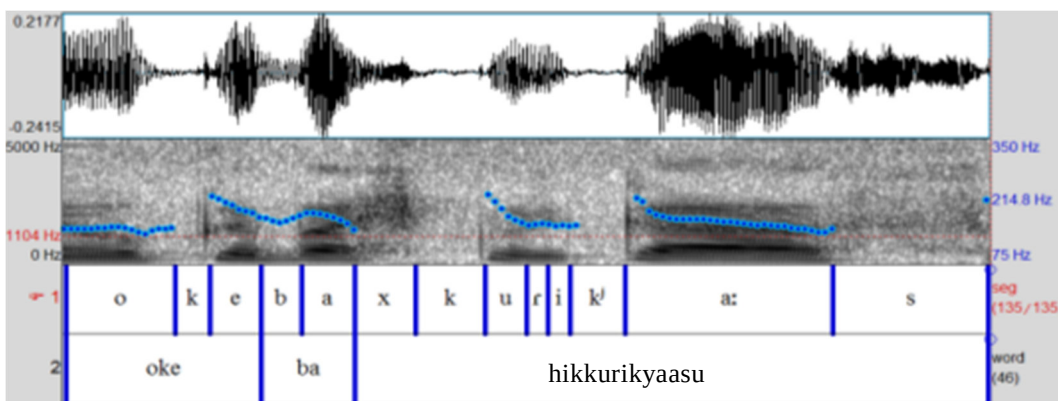


図 5 oke ba hikkurikyaasu 「桶をひっくり返す」

(12) 形容詞述語文 (=6e)

調査 1 (図 1) に同じ。

(13) 副詞 (=6f)

発話全体でひとまとまりの音調を形成した。以下の関係節と同じ。

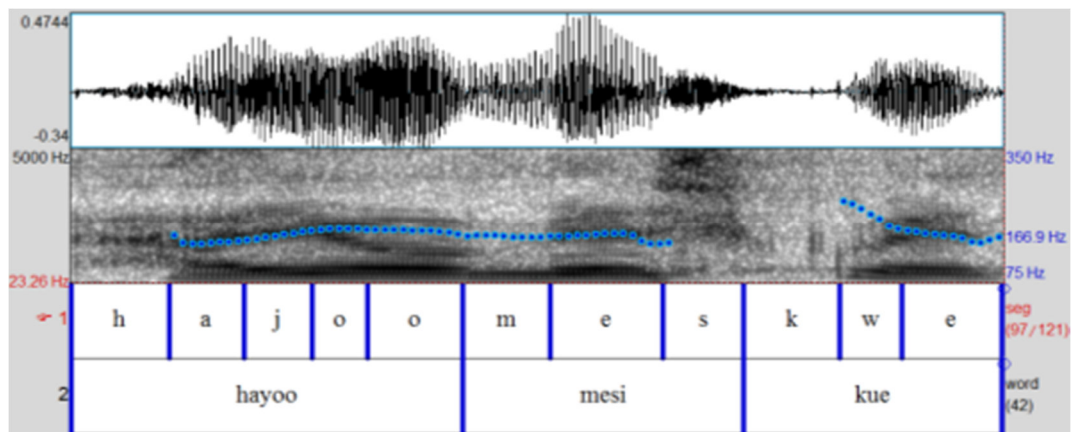


図 6 hayoo mesi kue 「早くご飯を食べなさい。」

(14) 関係節 (=7a)

発話全体でひとまとまりの音調を形成している。

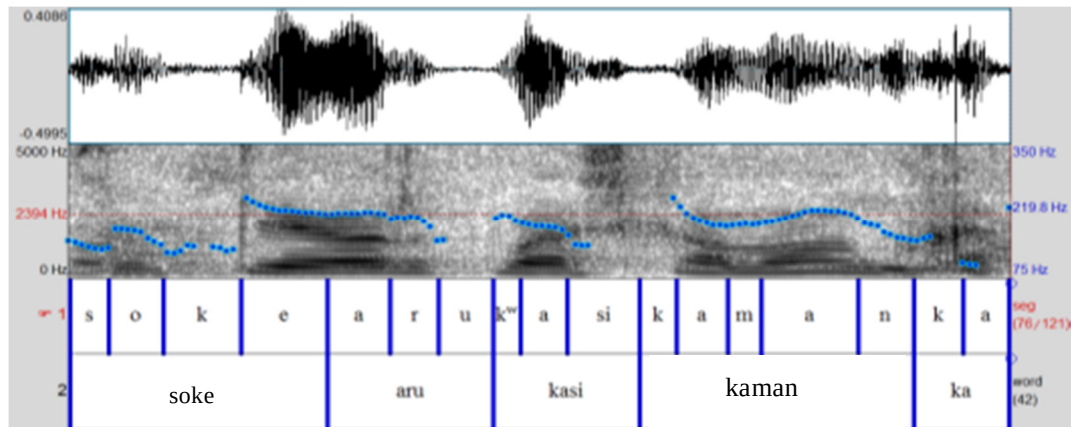


図 7 soke aru kasi kaman ka 「そこにあるお菓子を食べなさい。」

(15) 引用 (=7b)

引用の「ッテ」の直前までがひとまとまりの音調を形成している。

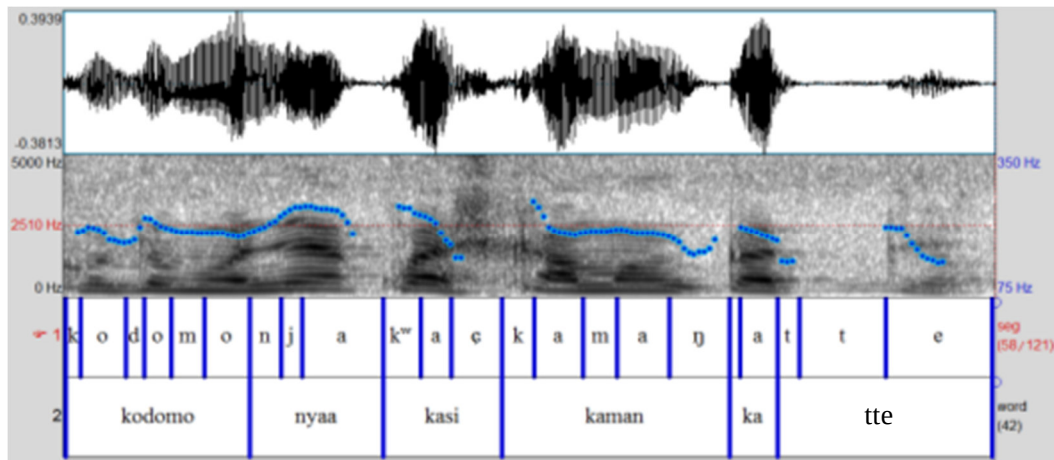


図 8 kodomo nyaa kasi kaman ka tte

「子どもには「お菓子食べないか」って（言う）。」

2.4.4 考察

「A ガナイ」という調査 1 のキャリアセンテンス以外の文型の中でも名詞と述語がひとつの音調を形成している。引用の直前や文末イントネーションがある場合にイントネーション（＝ピッチパターン）のまとまりが分かれることは分かるが、それ以外は概ね平板であることが多い。

このように、尾前方言には句や節を単位とした音調（すなわちイントネーション）が広くみられることが確認できる。以下では、このイントネーションのパターンについての記述に焦点を移す。

2.5. 調査 2：イントネーション調査

2.5.1. 調査文型

2.5.1.1. 他動詞述語文のかき混ぜ文

2.4 節の方言訳調査では提示文が複雑なものもあり、イントネーションに関わる要因が複数混在していた。そこでまずは単純な他動詞述語文から調査していく。日本語における他動詞述語文の基本語順である SOV 語順と、主語と目的語を入れ替えた OSV 語順を調査した。

(16) a. SOV 語順：太郎がごはんを食べる。

b. OSV 語順：ご飯を太郎が食べる。

2.5.1.2. 副詞を含む文のかき混ぜ文

副詞は文中の述語を修飾するものであることから、他動詞述語文における目的語のように述語とひとまとまりのイントネーションを形成する可能性があるため、目的語と同様のかき混ぜ文調査を行う。

2.5.1.3. 自動詞述語文

自動詞には以下の2種類があると言われている。(Perlmutter 1978, Kishimoto 1996)

- (17) a. 非能格動詞：動作主を主語としてとる動詞。自発的行為に従事していることを表している。例) 走る、歩く、泳ぐ、踊る
b. 非対格動詞：対象を主語としてとる動詞。項は、ある種の変化を被る項を表す。例) 凍る、落ちる、開ける、死ぬ、腐る

また Perlmutter (1978) らにより、非能格動詞の主語はもともと主語であるが、非対格動詞の主語は目的語として規定される、という非対格性仮説が提唱された。つまり、非対格動詞の方が非能格動詞よりも主語と動詞の統語的距離が近いということになる。

2.5.1.4. 提示文の例

2.5.1.1 節から 2.5.1.3 節までの調査に用いた提示文の例を示しておく。

(18) 提示文の例

a. 他動詞述語文

S DO V : 次郎さんはうなぎを食べた。
DO S V : うなぎを次郎さんは食べた。
S IO DO V : 彼らは犬にエサをやった。
IO S DO V : ポチに彼らはエサをやった。
IO DO S V : ポチにエサを彼らはやった。

b. 副詞

O 副 V : あおしがき³をたくさん食べた。
副 O V : たくさんあおしがきを食べた。
S 副 V : 私はたくさん食べた。
副 S V : たくさん私は食べた。
S O 副 V : 私はあおしがきをたくさん食べた。
S 副 O V : 私はたくさんあおしがきを食べた。

c. 自動詞述語文

非能格動詞：ねずみが動いた。
非対格動詞：ねずみが落ちた。

その他、以下のような調査文型を用いた。これらは既出の調査でも聞き取りを行っている内容だが、より詳細な分析を行うため追加調査した。

- (19) a. 格助詞「ノ」による名詞句
私の弟の友達の家は壊れた。
b. 関係節「A が V する B」

³ あおしがき：渋を抜いた柿のこと。

魚が焼ける匂いがする。

- c. 引用「〜と」
夫は「今日は休む」と言っていた。
- d. 複合動詞
かめがうさを追い越した。
- e. コピュラ文
犯人はあの人だった。

2.5.1.5. 調査法・調査環境

2.4 節の調査と同様に、日本語共通語で作成した文を方言に訳してもらった。話者は75歳女性1名で、調査機材は Roland R-09HR。44.1kHz、16bit、ステレオ、で録音した。マイクについては内部マイクと使った場合と外部マイク（SONY ECM-MS907）を使っただけの場合がある。

2.5.2. 結果

文節ごとにイントネーションの山がかかることが多く、述語とその直前の文節がひとまとまりのイントネーションを形成する状況は限定的であった。

2.5.2.1 他動詞述語文

語順を入れ替えても文節ごとのイントネーションに差はなかった。目的語が格助詞を伴って出現し、動詞と一体のイントネーションを形成せず、文節内で1つのイントネーションの山を形成することが一般的なようである。

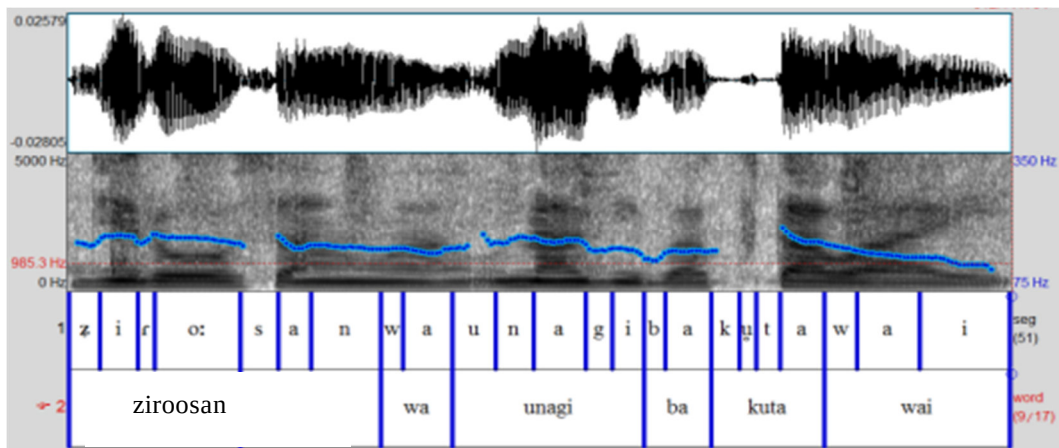


図 9 zироosan wa unagi ba kuta wai 「次郎さんはうなぎを食べた。」

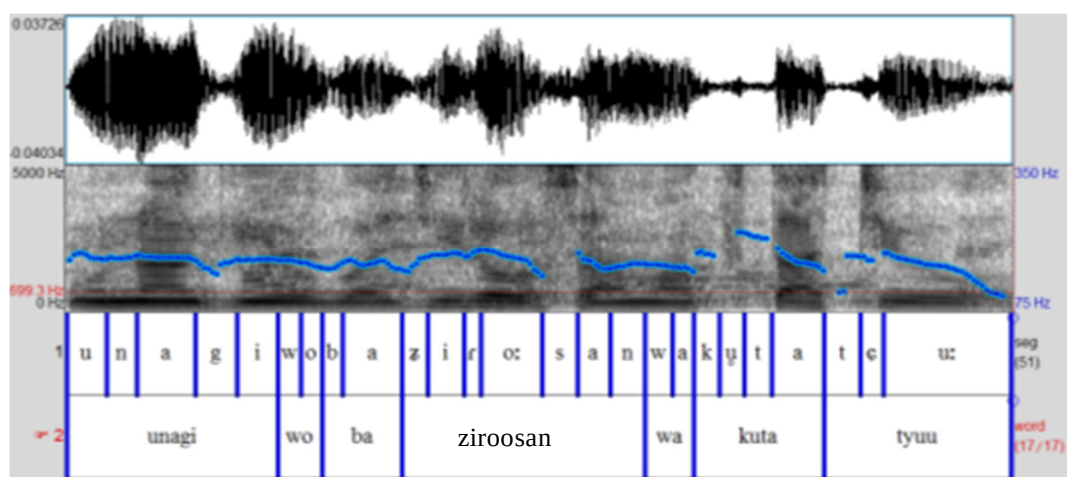


図 10 unagi wo ba ziroosan wa kuta tyuu 「うなぎを次郎さんは食べた。」

三項動詞の調査では、S IO DO V と IO S DO V のみ観察され、OOSV は現れなかった。イントネーション構造は前述の二項動詞とほとんど同じであったが、動詞によっては格助詞ヲでマーキングされるような目的語 (DO) が格助詞を伴わずに現れ、動詞とひとまとまりのイントネーションを形成した。これは 2.4 節の調査で観察されたイントネーション形成と同じである。

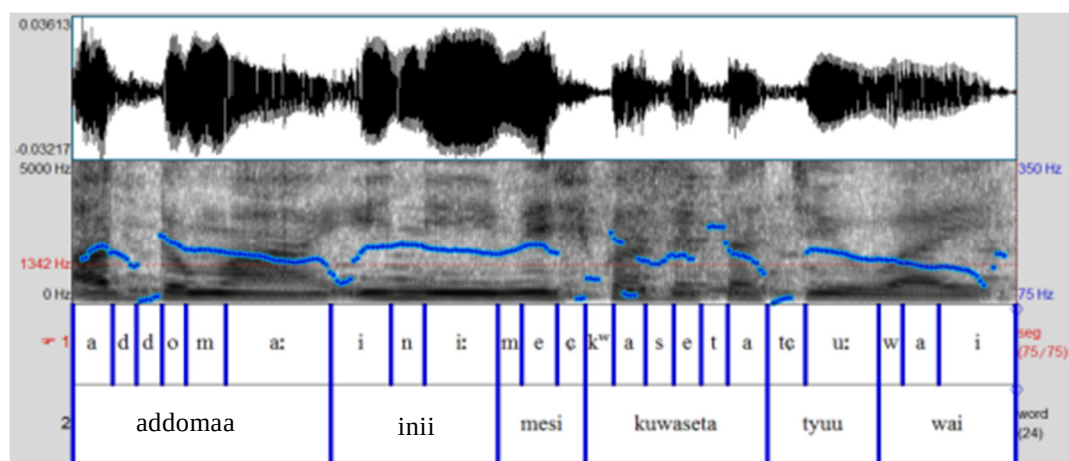


図 11 addomaa inii mesi kuwaseta tyuu wai 「彼らは犬にエサをやった。」

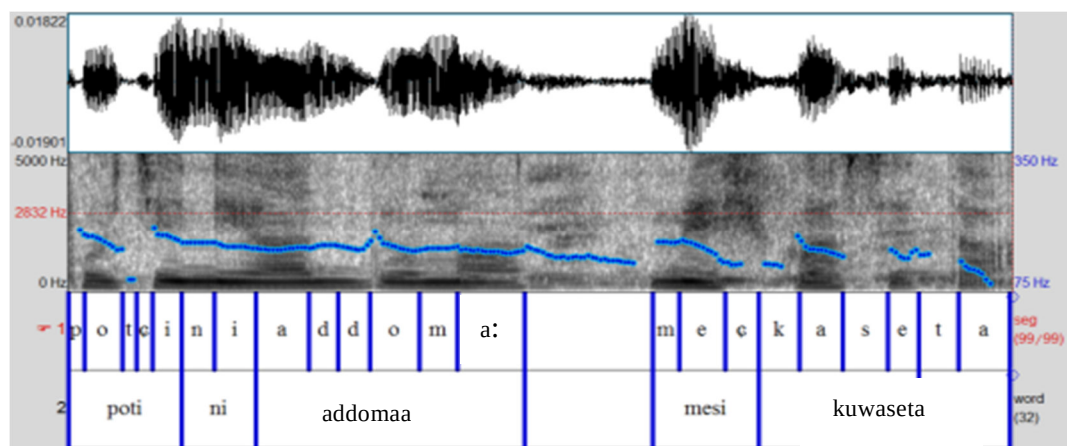


図 12 poti ni addomaa mesi kuwaseta 「ポチに彼らはエサをやった。」

2.5.2.2. 副詞

他動詞述語文における目的語同様、動詞とひとまとまりのイントネーションを形成したケースは少なかった。しかし、モーラ数の少ない（短い）副詞はその直後の文節（名詞を含む）とひとまとまりのイントネーションを形成することもあった。

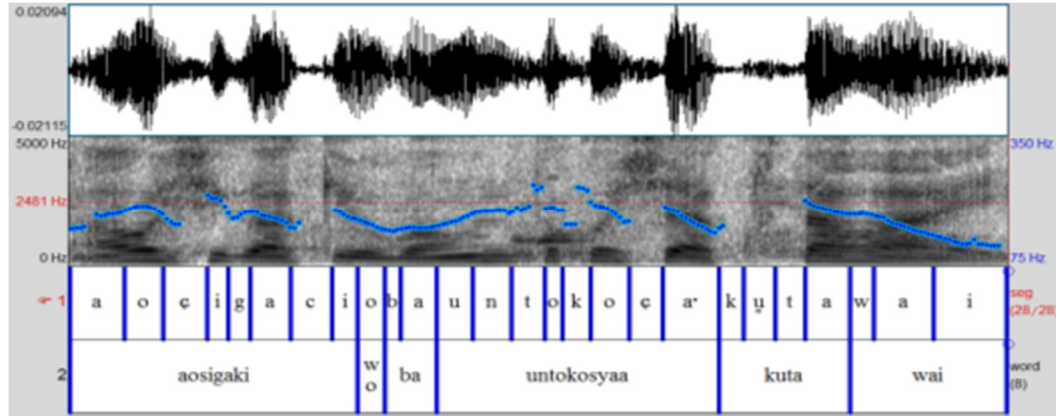


図 13 aosigaki wo ba untokosyaa kuta wai 「あおしがきをたくさん食べた。」

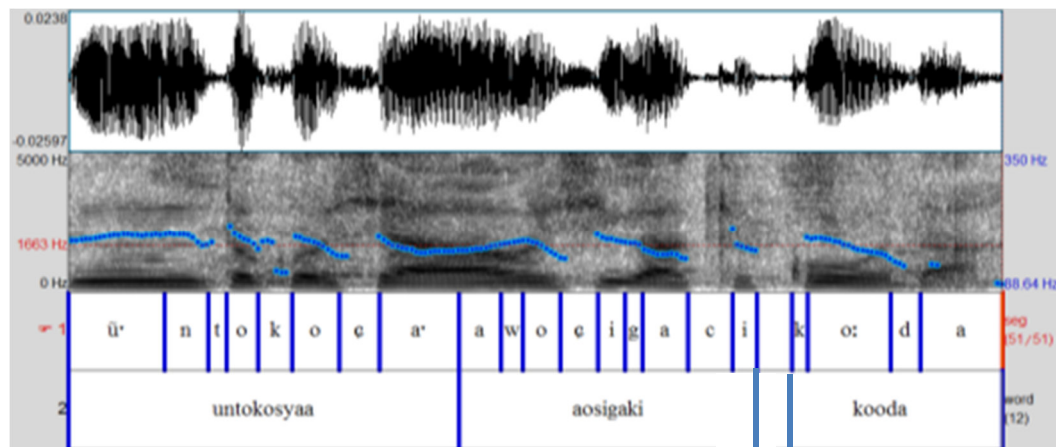


図 14 untokosyaa aosigaki kooda 「たくさんあおしがきを食べた。」

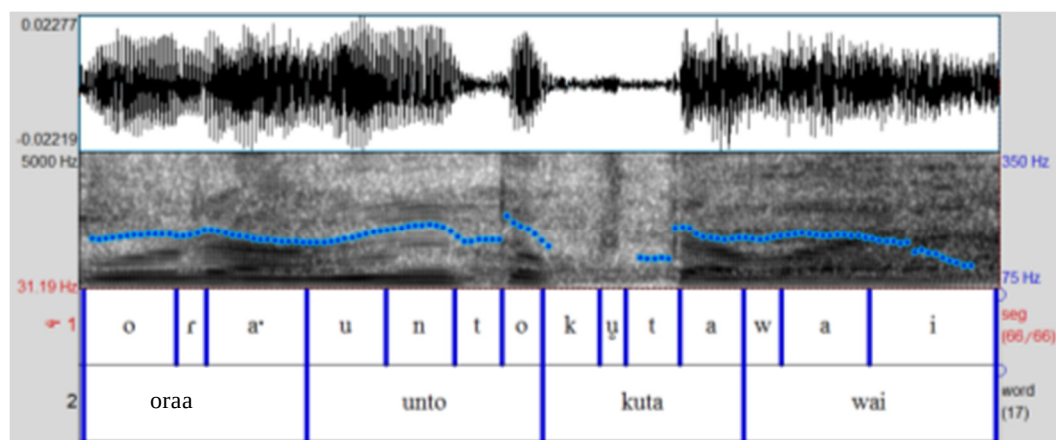


図 15 oraa unto kuta wai 「私はたくさん食べた。」（副詞が短い場合）

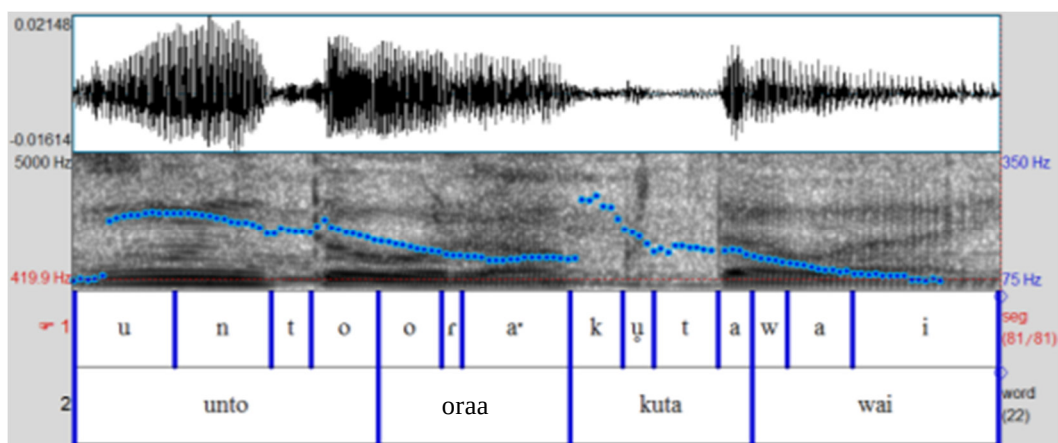


図 16 unto oraa kuta wai 「たくさん私は食べた」 (副詞が短い場合)

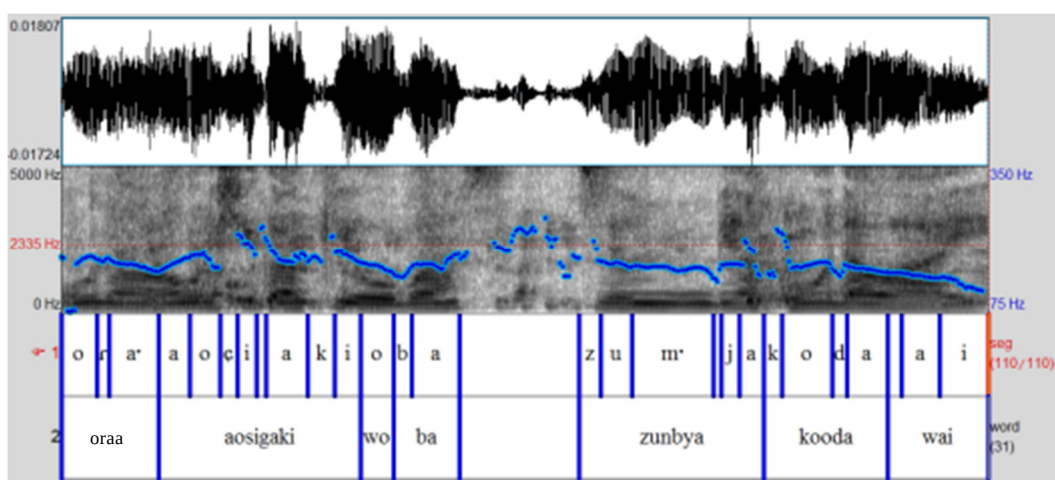


図 17 oraa aosigaki wo ba zunbya kooda wai 「私はあおしがきをたくさん食べた。」

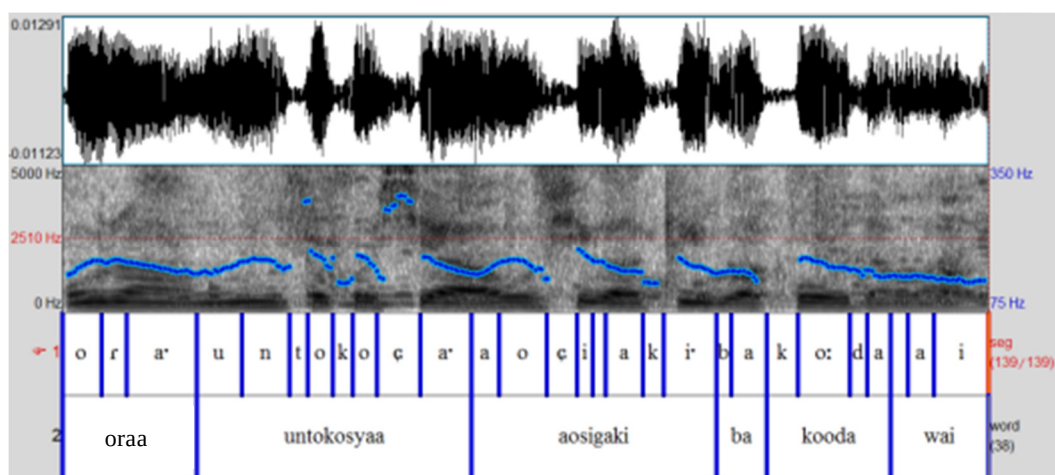


図 18 oraa untokosya aosigaki ba kooda wai 「私はたくさんあおしがきを食べた。」

2.5.2.3. 自動詞述語文

非能格動詞と非対格動詞にイントネーションの差異は見られなかった。いずれも格助詞が1つのまとまりとなるパターンを示す。

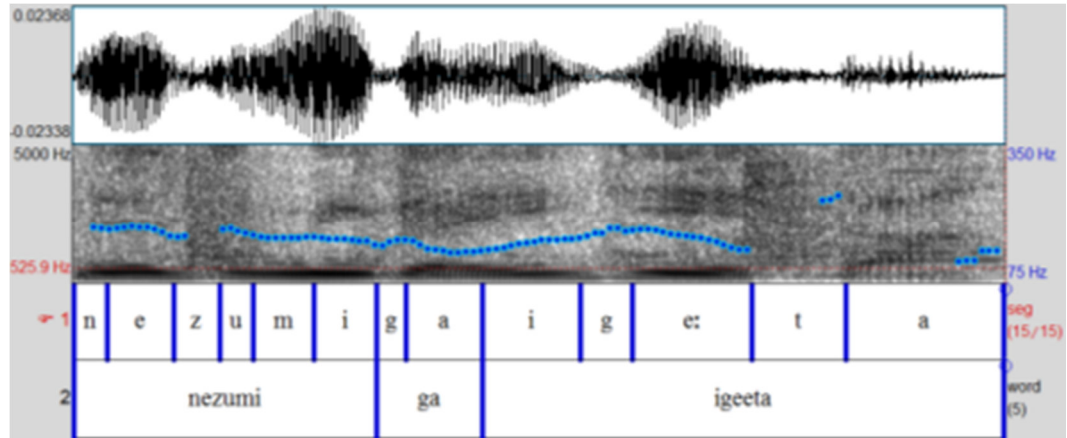


図 19 nezumi ga igeeta 「ねずみが動いた。」

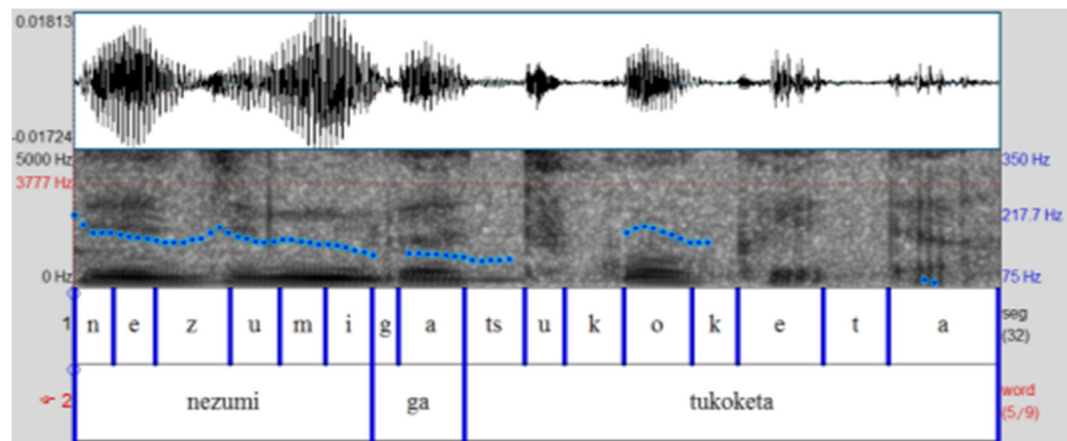


図 20 nezumi ga tukoketa 「ねずみが落ちた。」

2.5.2.4. その他：句・節・引用・複合動詞・コピュラ文

まず、「A の B」「A の B の C」までは主部全体でひとまとまりのイントネーションを形成したが、「A の B の C の D」では最後の「C の D」のみまとまったイントネーションとなり、前半の「A の B の」は文節ごとにイントネーションのまとまりが見える。

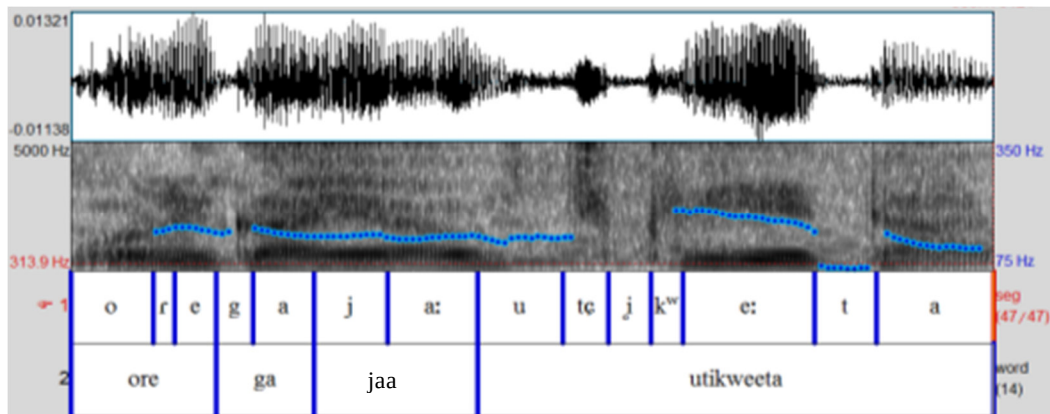


図 21 ore ga jaa utikweeta 「私の家は壊れた。」

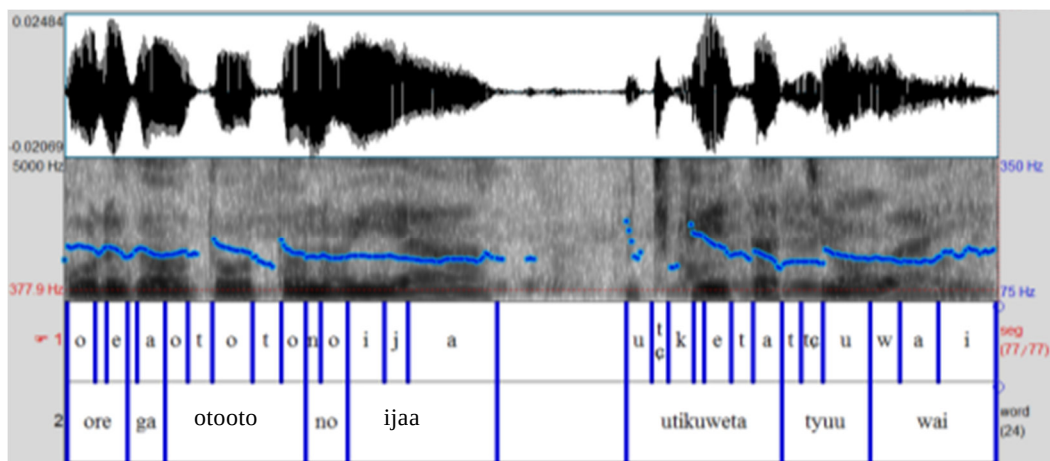


図 22 ore ga ootoo no ijaa utikuweta tyuu wai 「私の弟の家は壊れた。」

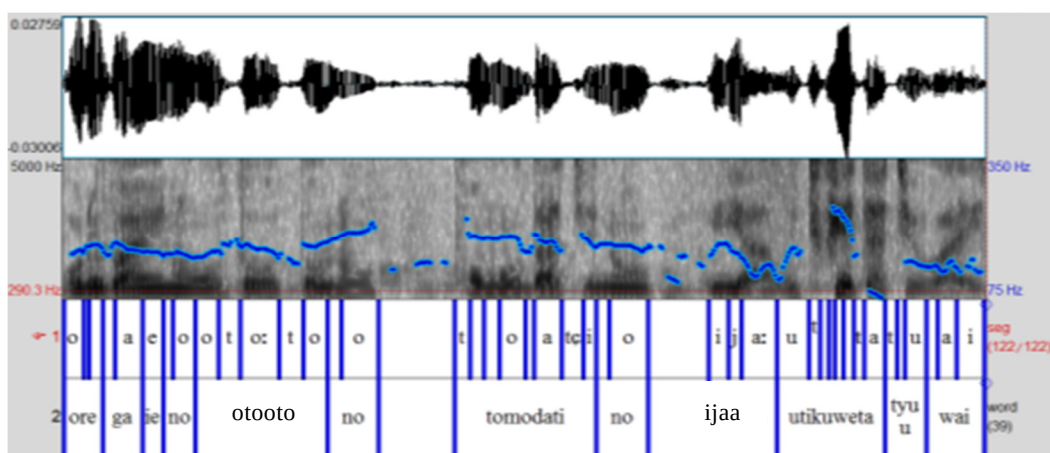


図 23 ore ga e no ootoo no tomodati no ijaa utikuweta tyuu wai
「私の弟の友達の家は壊れた。」

次に、2.4 節の調査と同様、関係節内はひとまとまりのイントネーションを形成した。関係節の先行詞はそのまとまりに含まれなかった。

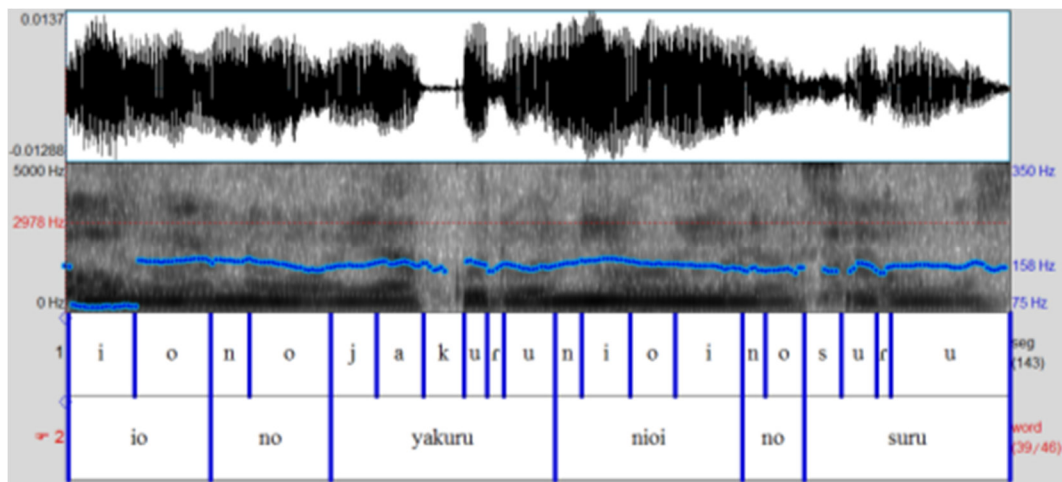


図 24 io no yakuru nioi no suru 「魚が焼ける匂いがする。」

引用がある場合の文を文節単位で見ると、引用を含まない文とほぼ同じイントネーションが現れた。そして、引用の切れ目である助詞「te」でピッチが下がった。

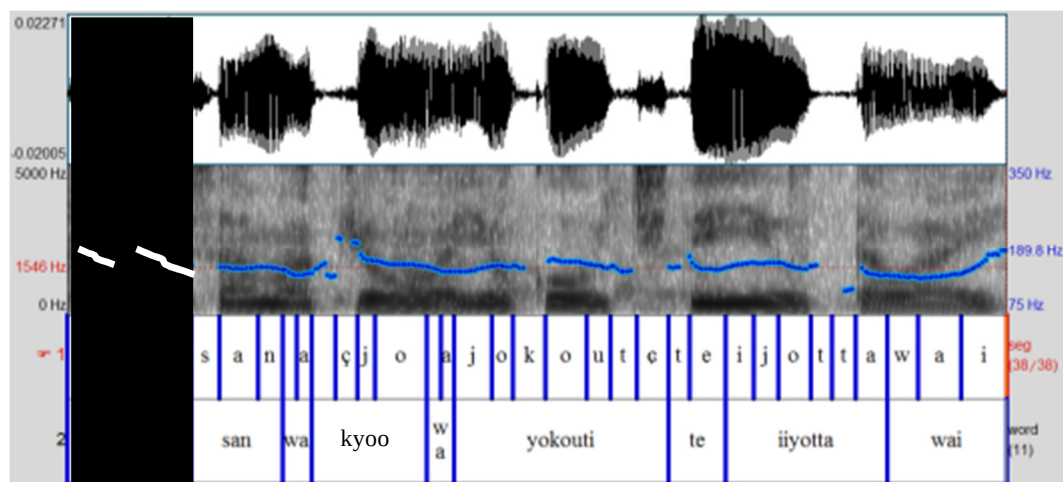


図 25 [REDACTED] san wa kyoo wa yokouti te iiyotta wai
「夫 (***)さんは「今日は休む」と言っていた。」 (***)は個人名)

複合動詞については、概ね複合動詞の中で 1 つのイントネーションを形成した。今回調査した複合名詞は図 26 の「追い越す」以外では「追いかける」「吹き剥がす」「押し流す」であったが、「追いかける」だけは「追い」と「かける」それぞれにイントネーションの山がかかった。

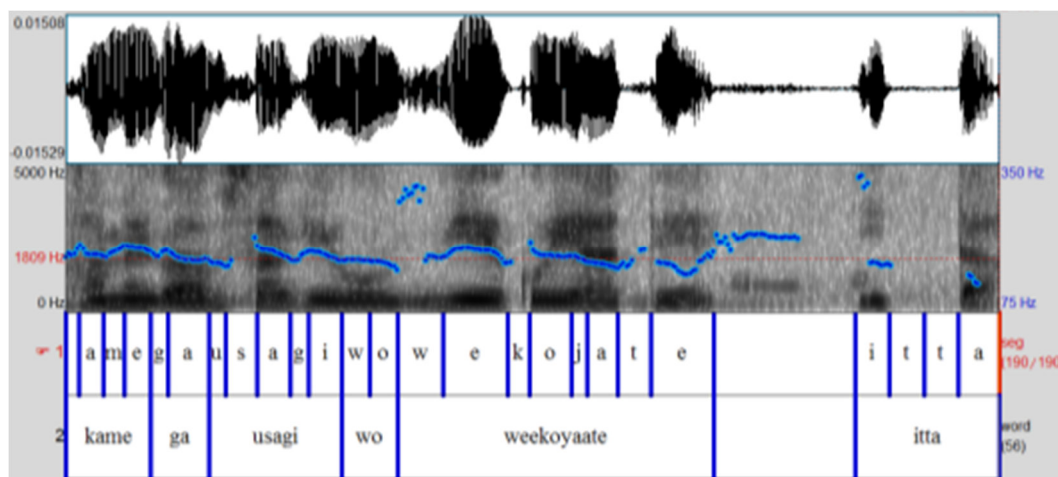


図 26 kame ga usagi wo weekoyaate itta 「かめがうさぎを追い越した。」

最後にコピュラ文について、断定の「zya」（過去形「zyatta」）と直前の名詞がひとまとまりのイントネーションを形成した。

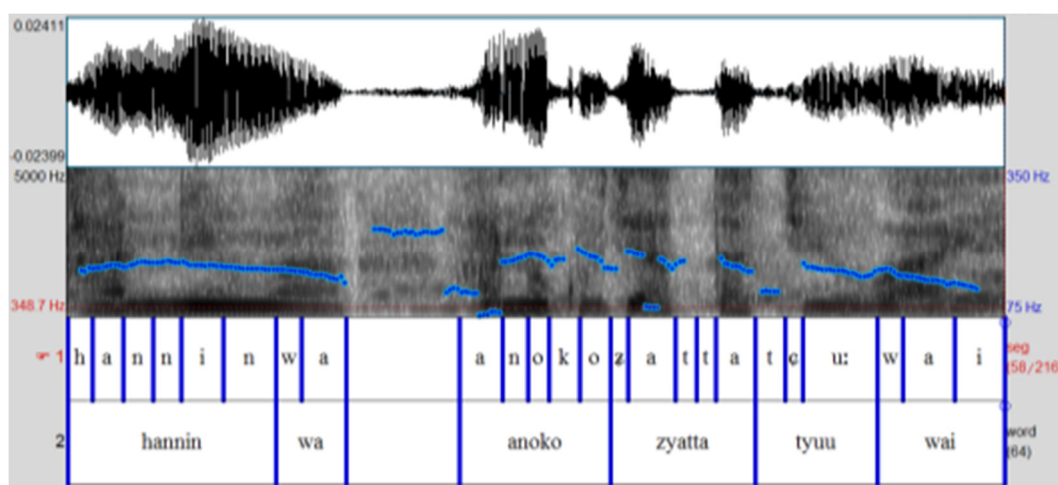


図 27 hannin wa anoko zyatta tyuu wai 「犯人はあの人だった。」

2.5.3. 考察

今回の調査で以下の 3 点が明らかとなった。

(20) 1 文節内にイントネーションの山は 1 つ以内

多くの発話で文節末の助詞へ向かい下降していくイントネーションが現れた。一旦下降が開始するとその文節内で再びピッチが上昇することはない。ここから、尾前方言におけるイントネーションの最小単位は文節であると言える。

(21) 述語の直前の文節が無助詞の場合、その文節は述語とひとまとまりのイントネーションを形成することが出来る。

同様に、そもそも助詞を必要としない副詞や、無助詞の目的語では、述語とその直前の文節がひとまとまりのイントネーションを形成することがある。この傾向は、本稿では詳しく述べていないが、日常的に発話の頻度が高い慣用的な表現、古くから伝わるまじないの言葉などにも同様と考えられる。

(22) イントネーションの下降開始が早い名詞が存在する

出現する名詞の多くで、2.3.4.節の考察にあるように「2 モーラ目までに緩やかに上昇し、その後は自然下降する」という音調が現れる。しかし、名詞の中に語頭の上昇を省略して下降から始まっているようなものがあった。それらに共通して見られる傾向として、①格助詞を伴う、②文節内でイントネーションの山が収束する、③人や犬の名前、④モーラ数が比較的少ない、等が挙げられるが、出現状況によっては上昇を伴うこともあり、一概に言えないが一応ここに報告しておく。また、アクセントについては話者に明確な対立意識がなく、文内の位置でピッチが異なることなどから、尾前方言のアクセント体系が無アクセントであるということは間違いないだろう。

2. 6. おわりに

本章では尾前方言は無アクセントの方言であること、さらにイントネーションの最小単位は文節であることを報告した。一方で、文節を超えたイントネーションのまとまりの規則性や、イントネーションの山の上がり目／下がり目の規則性について、その存在自体は示唆されるものの、明確でないところもある。さらに詳細な調査をするのであれば、助詞やモーラ数の設定をより細かにしていく必要があるだろう。近隣の方言との比較も課題である。

参考文献

- Kishimoto, H. (1996) "Split intransitivity in Japanese and the unaccusative hypothesis" *Language* 72, 248-286
- Perlmutter, D. M. (1978) "Impersonal Passives and the Unaccusative Hypothesis" *Proceedings of the 4th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics*, 157-190.
- 秋山正次 (1983) 「熊本県の方言」飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一 (共編)『講座方言学 9 九州地方の方言』 207-235. 東京: 国書刊行会.
- 岩本実 (1983) 「宮崎県の方言」飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一 (共編)『講座方言学 9 九州地方の方言』 267-293. 東京: 国書刊行会.
- 上野善道 (1984) 「N 型アクセントの一般的特性について」平山輝男博士古稀記念会(編), 『現代方言学課題一記述的研究篇』(第 2 卷) 167-209. 東京: 明治書院.
- 上村孝二 (1983) 「九州方言の概説」飯豊毅一、日野資純、佐藤亮一 (共編)『講座方言学 9 九州地方の方言』 1-28. 東京: 国書刊行会.

- 窪藁晴夫（1999）『日本語の音声』東京：岩波書店。
窪藁晴夫（2006）『アクセントの法則』東京：岩波書店。
国語学会(編)（1991）『国語学大辞典』（第7版）東京：東京堂出版。
斎藤純男（2006）『日本語音声学入門』改訂版 東京：三省堂。
徳川宗賢，吉岡泰夫，那須林，山中和子，甲斐光義（1994）『椎葉のことばと文化』宮崎：
宮崎日日新聞社。
飛田良文，遠藤好英，加藤正信，佐藤武義，蜂谷清人，前田富祺(共編)（2007）『日本語学
研究事典』東京：明治書院。
早田輝洋（1999）『音調のタイポロジー』東京：大修館書店。
福盛貴弘（2010）『基礎からの日本語音声学』東京：東京堂出版。
松永修一（2005）「宮崎県椎葉方言のアクセントと音声の特徴」『論集』（1），49-60.

Leipzig Glossing Rule 参照日:2014年9月6日

<http://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php>

U-biq. みんなの日本語の単語 参照日:2014年11月30日

<http://kyoan.u-biq.org/tango.html>

椎葉村ホームページ 参照日:2014年9月6日

<http://www.vill.shiiba.miyazaki.jp/>

3. 格体系記述の中間報告

下地理則（九州大学）

3.1. 格体系の概要

尾前方言は主格対格型の格組織を有する。後述するように、主語にも直接目的語にも格の交替現象（Differential Case Marking）があり、類型論的に見ても興味深い。以下の表 1 に、本章で記述する尾前方言の格組織の概要をまとめる。S は自動詞主語、A は他動詞主語、P は他動詞直接目的語を、V は述語動詞を表す。ga/no の主格交替(Differential Subject Marking)については 3.2 節で詳述する。o, oba, ba, 無助詞の目的格交替(Differential Object Marking)については 3.3.節で詳述する。

表 1. 尾前方言の格組織の概要

	S/A	P
Differential Case Marking	ga, no, (無助詞)	o, o ba, ba, 無助詞
交替要因 (現時点で判明しているもの)	有生性, 他動性, 焦点化	有生性, PV の隣接性

以下の表 2 は、本報告書執筆時点で確認できている格助詞の形式およびそれらの機能をまとめたものである。主格・対格以外についてはまだ調査が進んでおらず、本報告書ではこの表を示すにとどめる。

表 2. 格助詞のリスト

格	形式	機能	和訳
主格	ga/no	S, A の標示	が
対格	o, ba, oba	P の標示	を
与格	ni	間接目的語, 受身動作主, 変化対象, 方向・着点を表す	に, へ
奪格	kara	受身動作主, 起点を表す	から, に
所格	de	場所, 手段, 理由を表す	で
限界格	made	限界を表す	まで
比格	yorika	比較対象を表す	より
共格	to	共同者を表す	と
属格	(ga)/no	所有・関連・同格を標示	の

ほかの日本語諸方言と同様、A/S/P 項は取り立て標示（主題・対比 *wa*, 累加 *mo*, 限定 *sikya* 「～しか（～ない）」, 例示 *domo* 「でも」など）と格標示が範列的に対立する。それ以外の項の場合、格標示と取り立て標示がこの順序で生じる。

3.2. 主語の格標示の交替 (Differential Subject Marking)

3.2.1. 主格の形式

主格助詞は *ga* と *no* の 2 つである。熊本方言などのように *no* が異形態として *n* になることはない。*no* が *n* になるのは属格の場合だけである。

無助詞主語も確かに生じるが、日本語共通語に比べると格段に頻度は低く、基本的に上記いずれかの有形標示がなされるようである。この観察はこれまでの語彙収集およびそれともなう例文収集、その他 elicitation の調査結果に基づいている。よって、自然談話の考察を今後行うことにより、無助詞主語を *ga* と *no* に加えて積極的に分析対象にすべきかを検討すべきであろう¹。なお、尾前方言の場合、不定語 (*nanka* 「何か」など、(1), (2), (3)) は特に無助詞になることが多く、これは目的語の場合でも同様である。

- (1) *akka nanka ugokiyoruga nanno oruttyaroka?*
 akko=wa nanka ugok-i-or-ru=ga nan=no or-u=to=zyar-oo=ka
 あそこは 何か 動く-連用-IPF-PRS=が 何=NOM2 いる-PRES=の=だ-ろ う=か
 「あそこは何か動いているが、何がいるんだろうか？」
- (2) *dareka hutonba hweetoruhuu.*
 dareka huton=ba hos-tor-ru=huu
 誰か 布団=ACC 干す-PF-PRES=推測
 「誰かが布団を干しているようだ。」
- (3) *nani araioruwai.*
 nani araw-i-or-ru=wai
 何か 洗う-連用-IPF-PRS=SFP
 「何か洗っているようだ。」

この不定語の無助詞現象は、不定語がそもそも主語や目的語として機能しておらず、格支配されない要素として分析できる可能性を示唆する。今後の研究課題としたい。

3.2.2. DSM に関与する要因

主節主語で *ga* と *no* の交替が生じるのは尾前方言を含む九州・琉球諸方言全般の特徴であり、尾前方言の *ga* と *no* の交替要因を分析する際も、ほかの九州諸方言や琉球諸方言ですでに報告されているファクターにひとまず注目する必要がある。九州諸方言のこれまでの研究によって、①情報構造（焦点化の有無）、②主語名詞句の意味特性（有生性）、③述語句の他動性（他動詞文と自動詞文の区別）、④述語の意味特性（意志的行為 vs. 非意志的出来事など、動作主性にかかわる特性）の関与が報告されている（坂井 2015）。現時点では、①②③によっておおよそ *ga* と *no* の交替を記述できることがわかっているが、例外の再検討に④が有効になる可能性がある（後述）。

次節以下で、①②③の変数ごとに考察する。なお、九州方言でよく指摘される尊卑による影響（尊敬対称は *no*）は少なくともこの方言では成立しない。例えば、2 人称代名詞尊称 *wasama* 「あなた様」は代名詞一般の特徴として *ga* のみをとる。また、「乞食が来た」は *kazin=no kita* というふうに *no* を許容し、「先生が来る」は *sensee=ga kuru* というふうに *ga* を許容する。尊卑説への疑義は、これまで尊卑説が前提になってきた肥筑方言圏についても指摘されている（坂井 2015）。

¹ このように無助詞主語が限定的であるという指摘は、肥筑方言圏の佐賀方言（岩橋 2015）や熊本方言（坂井 2011）などにある。よって、この特徴が椎葉方言など九州中南部（豊日、薩隅）でも成り立つ可能性はある。

3.2.3. 焦点化の有無

ga と *no* の分布を記述する際、まず焦点化の有無に着目する必要がある。すなわち、焦点化主語（総記の主語）は総じて *ga* をとる傾向にある。ただし、非焦点の場合に *no* をとるあらゆる主語について、焦点化した際に必ず *ga* になるかどうかをチェックできていない。これは今後の課題である。例えば、以下の(20)のように、主語に特に焦点がおかれていない文（文焦点；中立叙述）では *ga* も *no* も可能であるが、WH 語で焦点化された主語には *no* の容認度が下がることもあり、またその応答における焦点化主語も *no* の容認度が下がることがある。なお、(5), (6)の対比に示されるように、*no* の容認度は WH 語によって異なる可能性もある。

- (4) *miga/no* *umyaa.*
 mi=ga/no *uma-i*
 身=NOM1/NOM2 うまい-PRES
 「身がうまい。」
- (5) *nanga/no* *umyaattyaroka?*
 nan=ga/no *uma-i=to=zyar-oo=ka*
 何=NOM1/NOM2 うまい-PRES=FN=COP-SSP=Q
 「何がうまいんだろうか？」
- (6) *dorega/*no* *umyaagoto* *aruya?*
 *dore=ga/*no* *uma-i=goto* *ar-u=ya*
 どれ=NOM1/*NOM2 おいしい=よう ある-PRES=Q
 「どっちがうまいかな？」
- (7) *miga/#no* *umyaawai.*
 mi=ga/#no *uma-i=wai*
 身=NOM1/NOM2 うまい-PRES=よ
 「身がうまいよ。」((5)に対する答え)

焦点化による *ga* の選好性は、名詞述語 > 形容詞述語 > 動詞述語の序列が認められる。すなわち、有生性の点で *no* をとれると予想される主語（動物名詞や無生物名詞の主語、詳細は次節）が焦点化される際、名詞述語文の場合に最も *ga* になりやすく、続いて形容詞述語、動詞述語と続く。非動詞述語文のほうが、*no* → *ga* の焦点化の機能がきわだつのは琉球諸方言にもみられる（下地 2015）。

3.2.4. 文焦点の場合

上記の(4)のように、主語が焦点化されず、かつ主題にもなっていない（よって取り立て標示がされない）場合、すなわち文焦点環境（中立叙述ともいわれる）では、少なくとも以下の2つの要因に着目する必要がある。すなわち、主語名詞句の有生性と述語の他動性（すなわち主語が S 項か A 項か）である。

以下の表 3 は、主格交替に関する調査票調査で得られた 1 人の女性話者の体系をもとにしている。主格交替は話者によって変動が大きく、大量の自然談話データなどをもとにしない限り、複数話者の体系を統一的にみる一般化は難しい。以下ではこの 1 人の話者の体系について述べるとともに、ほかの話者から得られた様々なデータ（語彙集の例文データなど）についても適宜言及する。

表 3. 文焦点環境における *ga* (G)と *no* (N)の交替

	代名詞(1/2/指示)	親族・固有	人間	動物	無生物
A	G	G	G	GN	G
S	G	G	G(N)	(G)N	(G)N

この結果から、*ga* は特に制限なく、あらゆる主語に使用可能であるといえる。ただし、選好性に違いがあるようで、総じて有生性の階層の下位ほど *no* をとりやすい。総じて *ga* に対する容認度が高くなる背景には、ひとつには共通語の影響があると思われる²。また、3.2.3 節で述べた焦点化の問題があり、文焦点環境だとこちらが解釈している例文のうち、主語の焦点化の例が多数含まれている可能性も否定できない。いずれにせよ、尾前方言の *ga* と *no* の分布を見るうえでは、*no* がどこまで分布可能かを問うことが極めて重要である。

3.2.5. 自他によらず常に *ga* をとるもの：代名詞と親族・固有名詞

代名詞主語（1 人称，2 人称，3 人称指示を含む指示代名詞）については、主節では文焦点にならず常に焦点解釈になるが、表 3 では便宜的に、非代名詞主語に関する文焦点の調査結果と一緒にまとめている。格標示は常に *ga* である。

親族名称は、呼称として使えるもの（例 *ototyan* 「おとうさん」）は常に *ga* を、一般名称（*toto* 「父」）は以下に見る人間名詞と同じふるまいをする。

3.2.6. 人間名詞

A 項は人間名詞で常に *ga* をとる点で、S 項と異なるようである。(8), (9), (10)はすべて人間名詞 *kodomo* 「子供」を主語にとっているが、(8)に見るように A 項は *ga* だけを許容し、(9), (10)に見るように S 項は *ga* も *no* も許容する。

- (8) *kodomoga komao megiita.*
kodomo=ga koma=o megus-i-ta
 子供=NOM1 コマ=ACC まわす-連用-PST
 「子供がコマをまわした」
- (9) *akkode komyaa kodomoga netoru.*
akko=de koma-i kodomo=ga ne-tor-ru
 あそこ=で 小さい-PRS 子供=NOM1 寝る-PF-PRS
 「あそこで小さい子供が寝ている。」
- (10) *akkode komyaa kodomono netoru.*
akko=de koma-i kodomo=no ne-tor-ru
 あそこ=で 小さい-PRS 子供=NOM2 寝る-PF-PRS
 「あそこで小さい子供が寝ている。」

なお、S 項について、話者の第一回答は *ga* である場合がほとんどである。*no* を第一回答に

² *ga* と *nu* の交替が生じる琉球諸方言の場合、共通語との構造的差の大きさゆえか、九州方言に比べて共通語の影響が及びにくい（すなわち、話者は今「何語をしゃべっているか」を意識している）。よって、伝統的方言の体系がもともと持っている *ga* と *nu* の張り合い関係が見やすく、*ga* の使用領域と *nu* の使用領域は、一部の環境を除いて相補的に分布することが多い(Shimoji 2010, Iwasaki 2015)。

した例文は以下の3つである。

- (11) *komyaa kodomono warootoru.*
koma-i kodomo=no waraw-tor-ru
小さい-PRES 子供=NOM2 笑う-PF-PRS
「小さい子供が笑っている」
- (12) *kikara kodomono tukkoketa.*
ki=kara kodomo=no tukkoke-ta
木=から 子供=NOM2 落ちる-PST
「木から子供が落っこちた」
- (13) *kodomono kawade oboretatyuuwai*
kodomo=no kawa=de obore-ta=tyuu=wai
子供=NOM2 川=で 溺れる-PST=伝聞=SFP
「子供が川でおぼれたらしい」

上記3つはいずれも典型的な動作主ではない。よって、動作主性が関与している可能性が出てくるが、すでに見た(10)の「寝る」も典型的な動作主とはいえない。さらに、以下に見るように、非動作主的な例の多くは *ga* を選好する。

- (14) *otodake surumon zyarukee kodomoga tamagatta.*
otodake su-ru=mon zya-ru=kee kodomo=ga tamagar-ta
大きい音 する-PRES=FN COP-PRES=CSL 子供=NOM1 驚く-PST
「大きい音がするので子供が驚いた。」

よって、*no* を選好するのであれば動作主性が低いといえるが、動作主性が低いからといって *no* を選好するとまではいえない。*no* を選好する例について、今後データを増やして考察を加える必要がある。後述する無生物主語の *S* 項についても、なんらかの動きのある場合に *ga* が第一回答になる現象があり、その意味では動作主性が関与するという仮説が説得力を持つ。尾前方言の主格交替と動作主性の関連については、今後の重要な研究課題のひとつである。

3.2.7. 動物名詞

A 項については、ここではじめて *no* を許容するようになる。どちらを選好するかはこの話者のデータだけでは判断できないが、ほかの話者のデータも参考にすると、おおむね *ga* をとることが多いようである(17)。

- (15) *inuga tyooo uute tobiagatta.*
inu=ga tyoo=o ow-te tobiagar-ta
犬=NOM1 蝶=ACC 追う-て 飛びあがる-PST
「犬が蝶を追って飛び上がった。」
- (16) *arimusino esao hakuudoru.*
arimusi=no esa=o hakob-tor-ru
蟻=NOM2 えさ=ACC 運ぶ-PF-PRS
「蟻が餌を運んでいる。」

- (17) *umaga kusa kwiioru.*
 uma=ga kusa ku-i-or-ru
 馬=NOM1 草 食べる-連用-IPF-PRS
 「馬が草を食べている。」【別の話者の発話データより】

S 項については、人間名詞のときと違い、すべての例で *no* を選好する。

- (18) *akkode inuno hoetoru.*
 akko=de inu=no hoe-tor-ru
 あそこ=で 犬=NOM2 吠える-PF-PRS
 「あそこで犬が吠えている」

- (19) *hotaruno hikattoru.*
 hotaru=no hikar-tor-ru
 蛍=NOM2 光る-PF-PRS
 「蛍が光っている。」

- (20) *soke nekono orubai.*
 soko=ni neko=no or-ru=bai
 そこ=に 猫=NOM2 いる-PRS=SFP
 「そこに猫がいるよ。」

このように、A 項についても S 項についても、*no* の許容度が目立った変化が生じるのは動物名詞からであり、*no* の分布を知るうえでは有生性の階層が最も有効であることがわかる。

動物名詞の他動詞文で主語が *no* を許すという現象について追記すべきことがある。九州方言の伝統的な研究でよくいわれる、他動詞文で主語に *no* を使うと（つまり *A no P V* にすると）*A no P* が属格的に解釈されるので、それを回避するために *ga* にする、という説明は、少なくとも尾前方言に関しては成り立たないことがわかる。そもそも、この観点はイントネーションという境界標示手段を考慮に入れていないが、実際は上記の構造的曖昧性はイントネーションで解消できる。すなわち、尾前方言には文節単位にかかるイントネーションがあり、*X no Y* が属格構造であればこれで 1 つのイントネーション句となり、主語・目的語の並置であれば 2 つのイントネーション句になる（古田 2015）。

3.2.8. 無生物

無生物主語他動詞文はそもそも容認されにくい。容認できるとすれば、それは(21)のような自然力が主語の場合や(22)のような移動物・動きのあるものに偏る。これらについて、有生性の階層をもとにすれば *no* が出現可能でかつ選好されると予測されるが、*ga* しか容認されないことがわかった。

- (21) *taihuuga ieo hukitobyata.*
 taihuu=ga ie=o hukitobas-i-ta
 台風=NOM1 家=ACC 吹き飛ばす-連用-PST
 「台風が家を吹き飛ばした。」

- (22) *tamaga teo uttobyata.*
 tama=ga te=o uttobas-i-ta

弾=NOM1 手=ACC 貫く-連用-PST
「弾が手を貫いた。」

このデータに関しては2通りの解釈が可能である。まず、これらは総じて擬人化とみることができる可能性がある。すなわち、これらは、階層上は無生物ではなく、人間として扱われているとみるべきであるという解釈である。もうひとつの解釈は、無生物主語他動詞文が尾前方言では（共通語よりもさらに）容認されにくく、共通語の翻訳のような作業を強要してしまった結果、*ga* だけが容認されたという解釈である。前者の解釈は、例えば(22)を擬人化とみなせるかどうかという問題を含め、擬人化の定義が問題となるであろう。後者の解釈について、実際に調査を担当した筆者の経験から、かなりありうる解釈であると思われる。

自動詞文については、*elicitation* 調査で用いた無生物主語の例文データ 17 例中 13 例は *no* を選好することから、総じて *no* を選好することがわかる。以下はそのうちの数例である。

(23) *zino ugokioru.*
zi=no ugok-i-or-ru
地面=NOM2 動く-連用-IPF-PRS
「地面が動いている。」

(24) *meno detahuu.*
me=no de-ta=huu
芽=NOM2 出る-PST=推測
「芽が出たようだ」

(25) *huneno sizuude ita.*
hune=no sizum-te i-ta
船=NOM2 沈む-て 行く-PST
「船が沈んでいった。」

しかし、4 例は *ga* を第一回答としていた。これらは(29)を除きすべてそれ自体に動きがあるものであり、擬人化と解釈できる余地がありそうであるが、自ら動くという特徴は動物名詞についていえるため、このような説明には疑問も残る。一方、動きは動作主的な特徴を構成する重要な要素として知られており (Dowty 1991, 下地 2016), その意味において、動作主性が高い場合に *ga* が選好されるという活格的な性質を持っている可能性もあるだろう。

(26) *mariga kundari korobete itaga.*
mari=ga kundari korobe-te i-ta=ga
毬=NOM1 下に 転がる-NRT.CVB 行く-PST=SPF
「毬が下に転がっていったよ。」

(27) *sensuikanga sizuude ita.*
sensuikan=ga sizum-te i-ta
潜水艦=NOM1 沈む-NRT.CVB いく

(28) *komaga megurioru.*
koma=ga megur-i-or-ru
コマ=NOM1 まわる-INF-IPF-PRES
「コマが回っている。」

(29) *okayuga nietorubai.*

okayu=ga nie-tor-ru=bai
 おかゆ=NOM1 煮える-PF-PRES=SFP
 「おかゆが煮えているよ。」

3.3. 目的語の格標示の交替 (Differential Object Marking)

3.3.1. データ

(30) 他動詞文全 345 例

- (a) 簡易辞書(下地ほか編 2016)の例文データ
- (b) 目的語標示に関する elicitation 調査票のデータ
- (c) 調査時の自由発話のデータ

(46a)は、簡易辞書の語彙項目それぞれにつけられる例文のデータであり、これは基本的には話者が自由に作例したものである。(46b)は学生の前賀虹帆(九州大2年)が、DOMに関する調査のために作成した調査票にもとづく。(46c)は調査中に得られた自由発話をデータベース化し、それを検索できるようにしたものである。

3.3.2. 対格形式

尾前方言は、直接目的語を標示する格助詞が3つある。*ba*(以下、グロスではACC1), *oba*(ACC2), *o*(ACC3)の3つの格助詞に加え、有形の格標示を欠く無助詞もよく見られる。今回のデータに関する限り、全出現例の半数近くが無助詞である。以下では当方言の目的語の格標示の交替現象(DOM)を扱うが、その際、無助詞も含めて考察する。

(31) 尾前方言の Differential Object Marking (カッコ内はデータベースにおける出現数)

ACC1: *ba* (34 例)

ACC2: *oba* (31 例)

ACC3: *o* (123 例)

無助詞 (157 例)

(32) *arimusino esao hakuudoru.*
 arimusi=no esa=o hakob-tor-ru
 蟻=NOM2 えさ=ACC1 運ぶ-PF-PRS
 「蟻が餌を運んでいる。」

(33) *konasareottaryaa addomoga oreoba ittumo tasukete kuretawai.*
 konas-rare-or-taryaa are-domo=ga ore=oba itumo tasuke-te kure-ta=wai
 いじめ-られ-IPF-たら 彼-ら=NOM1 私=ACC2 いつも 助ける-て くれる-PST=SFP
 「いじめられてたら彼らが私をいつも助けてくれたよ。」

(34) *gedooga oreba hikkokyaata.*
 gedoo=ga ore=ba hikkokas-i-ta
 あの野郎=NOM1 俺=ACC3 突き落とす-連用-PST
 「あの野郎が俺を突き落とした。」

以下の例は、話者に4つの格標示のいずれも可能であることを確かめた結果、いずれのパターンも全く違和感なく意味的な違いも感じられないとされた例の1つである。

- (35) *ano hitowa oregae saihu(ba/oba/o) wasuretahuuwai.*
 ano hito=wa ore=ga=e=ni saihu(=ba/=oba/=o) wasure-ta=huu=wai
 あの 人=は 私=の=家=に 財布(=ACC1/ACC2/ACC3) 忘れる-PST=推定=SFP
 「あの人はうちに財布を忘れたようだ。」

以下に詳しく見るように、P 項の有生性によって、そしてまた P 項と動詞の隣接性によって、格標示に偏りが出てくる。

3.3.3. 対格 oba について

本報告書では、*oba* を *o* と *ba* の連続とせず、1 つの格形式であるとみなして記述を進める。単に形式上の特徴に着目すれば *o* と *ba* に分けることが可能であるが、*o* を対格助詞として分析し、*ba* を格以外の取り立て要素のように明確に分析することはできないからである。これは例えば同根形式(*j*)*u ba* (< 琉球祖語**wo ba*)をもつ南琉球宮古諸方言(Shimoji 2008, 林 2013)とは状況が大きく異なる。

- (36) *uri=u=ba ba=a bassi-i njaan=dooi.*
 それ=ACC=TOP 私=は 忘れ-て 完了=SFP
 「それは俺は忘れてしまったよ。」【南琉球宮古伊良部方言】
- (37) *nimoc=cu=ba pjaasii muc-i-kuu, fni=nkai jaiba.*
 荷物=ACC=TOP 早く 持つ-連用-こい 船=へ だから
 「荷物を早く持ってこいよ、船に（のせないといけないわけ）だから。」【同上】

上記の例にみるように、*ba* が明確な取り立て機能を有する宮古伊良部方言では、(*j*)*u ba* で標示される目的語はかなりの確率で文頭に来て、代名詞に接続する例が多いなど、文における主題として機能し、その後の談話で言及されやすい(Shimoji 2008)。尾前方言の場合、(38)のように取り立て的な解釈が可能な場合もあるが、(39)や(40)のように取り立て性が認められず、単に目的語を標示しているとみられる例のほうが圧倒的に多い。琉球宮古諸方言で(39), (40)のような例に=*ju=ba* が使われることは決してない。

- (38) *otyuugen oseebooba bonzie syoogatuzietyuute*
 otyuugen oseebo=oba bonzie syoogatuzie=to=iw-te
 お中元 お歳暮=ACC2 ボンジエ ショウガツジエ=と=いう-て
 「お中元、お歳暮はボンジエ・ショウガツジエといって、」
- (39) *mizusumasiwa tannakaoba hoote sariku.*
 mizusumasi=wa tannaka=oba haw-te sarik-ru
 ミズスマシ=は 田んぼの中=ACC2 這う-て まわる-PRES
 「ミズスマシは田んぼの中を這ってまわる。」
- (40) *nanihenoba irete kwooya.*
 nanihen=oba ire-te kuw-oo=ya
 何やら=ACC2 入れる-NRT 食べ-よう=SFP
 「いろいろなものを入れて食べよう。」

このように、*oba* における *ba* を取り立て機能しか持たない要素とする根拠に乏しい一方、*ba* だけで目的語を標示する例は多数みつかる。すなわち、本報告書でいう対格 *ba* の例であ

る。

(41) *bintaba* *samasanyaa*.

binta=ba samas-anyaa

頭=ACC1 冷ます-命令

「頭を冷やさない」

(42) *oraa* *kodomoba* *sannin* *sodatetabai*.

ore=wa kodomo=ba sannin sodate-ta=bai

私=は 子供=ACC1 三人 育てる-PST=SGP

「私は子供を 3 人育てたよ。」

(43) *oreba* *bakya* *sitorukee* *ogottottozo!*

ore=ba baka=ni s-i-tor-ru=kee ogor-tor-ru=to=zo

俺=ACC1 馬鹿=に する-連用-PF-PRS=から 怒る-PF-PRS=の=SGP

「俺を馬鹿にしてるから怒ってるんだぞ！」

3.3.4. (o)ba の歴史

以上の観察をもとにすると、かつては *oba* が対格の *o* と取り立ての *ba* に分析可能なほど *ba* に取り立ての機能があったが、これが徐々に取り立ての機能を失って *oba* 全体で格助詞化し、さらに *ba* だけでも目的語の格として整備されつつある途中の状況にあると見られる。実際、このような *o* + *ba* (対格+取り立て) > *ba* (対格) という発達過程は九州各地で起こっており、現在肥筑方言圏では *ba* が唯一の対格助詞として安定しているところも多い。以下は、国立国語研究所の方言文法全国地図(GAJ)の 6 番地図「酒[を] (飲む)」の対格標示 (九州地方のみ抜粋) である。

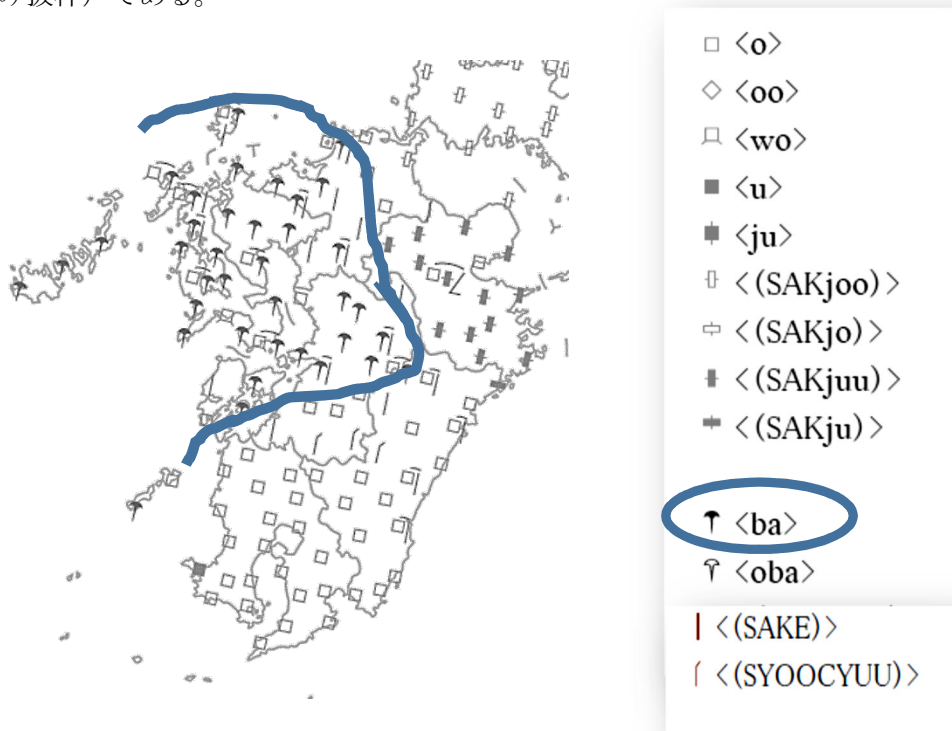


図 1. GAJ の対格形式の分布 (GAJ 6 番地図を抜粋, 囲み線は発表者)

なお、尾前方言が位置する地域（点線囲み）は、<ba>,<o>, 無助詞 (<(SAKE)>) がみられ、おおよそ正確な情報が載っている。この地図で *oba* が見落とされているのは、*oba* の出現頻度が低いことに起因すると思われる。この分布図から、九州祖語ではおそらく **oba* (より正確には **woba*) が存在していたことをうかがわせ、この形式はさらに日琉祖語にもさかのぼると思われる（琉球各地に *juba*, *jooba*, *ba* などの反映形が存在する；下地 2015）。

DOM の観点からすると、**wo* (対格) + *ba* (取り立て) → *ba* (対格) という歴史的なシナリオは重要な意味を持つ。後述するように、取り立てから目的語の格へという流れは、DOM の発達過程としてよくある現象とされているからである (Iemmolo 2011 など参照)。

3.3.5. DOM の要因

尾前方言の目的語標示については（少なくとも）以下の要因が関与的である。

(44) 有生性

有生性の階層について、P 項の階層位置が高いほど有形の格標示を受けやすい。（逆は必ずしも成り立たない：P 項の階層が低くても有形の格標示は生じうる）

(45) 隣接性

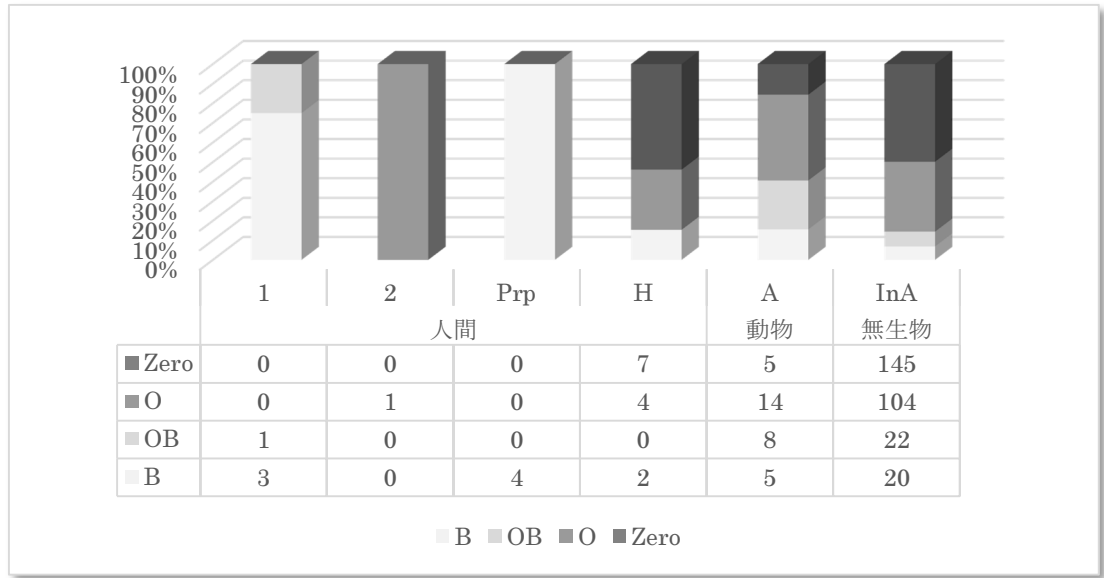
P 項と述語が離れると有形の格標示、とりわけ対格 *o* をとる傾向にある（逆は必ずしも成り立たない：P 項と述語が隣接していても、有形の格標示は可能。）

いずれも、通言語的に指摘される DOM の特徴 (Bossong 1985, Comrie 1986, Kuribayashi 1989, Aissen 2003, Malchukov 2008, etc.) があてはまる。端的に言って、ある名詞句が P であるということを示す必要性が、有形の格標示の動機（のひとつ）になっているということである。

3.3.6. P 項の有生性と DOM

以下の表は、P 項の有生性と対格標示の関係を示したものである。色が薄いほうから *ba* (B), *oba* (OB), *o* (O), 無助詞 (Z) である。

表 4. 有生性の階層と DOM



この結果から、以下のような一般特徴を指摘できる。

(46) 無助詞の分布傾向

無助詞は固有名詞より右側(人間名詞(H), 動物名詞(A), 無生名詞(InA))にのみ生じる。
言い換えれば, 階層上位は有形対格標示のみ生じる。

(47) 対格 o の分布傾向

対格 o は, ほぼ無助詞が生じる領域とオーバーラップし, 階層下位にいくほど用例が増える。

(48) 対格 ba の分布傾向

階層上位, 特に 1 人称代名詞と固有名詞は対格 ba が目立って分布する。(ただし, 対格 ba が階層上位に限定されているわけではない点に注意)

3.3.7. 階層上位名詞 (1 人称, 2 人称, 固有名詞) の P 項

階層上位名詞は, P 項としての使用例が非常に少なく, 有効な一般化が難しい。典型的な他動詞文は A 項が階層上位 (有生, 特に人間) で P 項が階層下位 (特に無生) であり, P 項が階層上位になるような例はきわめてまれであるということである。

(49) oreba sogyaa tomunnai.

ore=ba sogyaa tomu-ru=na=i
俺=ACC1 そんなに 止める-PRS=禁止=SFP
「俺をそんなに止めるなよ。」【1 人称 P】

(50) itokowa oreoba ozyeetyuwai.

itoko=wa ore=oba ozo-i=tyuu=wai
いとこは 私=ACC2 怖い-PRS=伝聞=SFP
「いとこは私が怖いらしい」【1 人称 P】

(51) wasamadomoo turyee kita.

wasama-domo=o ture=ni k-i-ta
あなた-たち=ACC3 連れ=に 来る-連用-PST
「あなた方を迎えに来た。」【2 人称が P】

(52) tarooga zirooba boode tatyata.

taroo=ga ziroo=ba boo=de tatak-i-ta
太郎=NOM1 次郎=ACC1 棒=で 叩く-連用-PST
「太郎が次郎を棒で叩いた。」【固有名詞 P】

(51)について, 2 人称の P 項はデータベースからはこの 1 例のみのため, 今後 2 人称を P 項とする例を増やして再度検証する必要がある。(47)でみた一般特徴を踏まえると, 2 人称の P 項で対格 o が使われていることが例外となる。よって, 予測として以下がたてられる。

(53) 2 人称の P 項は, 基本的には o よりも(o)ba で標示されやすい。

3.3.8. 階層中位 (上記を除く有生名詞) の P 項

上記の階層上位の人間名詞を除く, 普通人間名詞 (非代名詞, 非固有名詞) の P 項は, 無助詞と有形助詞がほぼ同数である。しかし, 以下の抜粋例にみるように, A 項に何が来るか

によって状況が変わる。以下の抜粋例にみるように、A 項も人間名詞である場合は有形の助詞で標示されやすく、A 項のほうが有生性の階層上位の場合は無助詞になりやすい。これは、後述するように、A 項と P 項の階層上の相対的關係が、DOM に重要な影響を与えていることを示唆する。

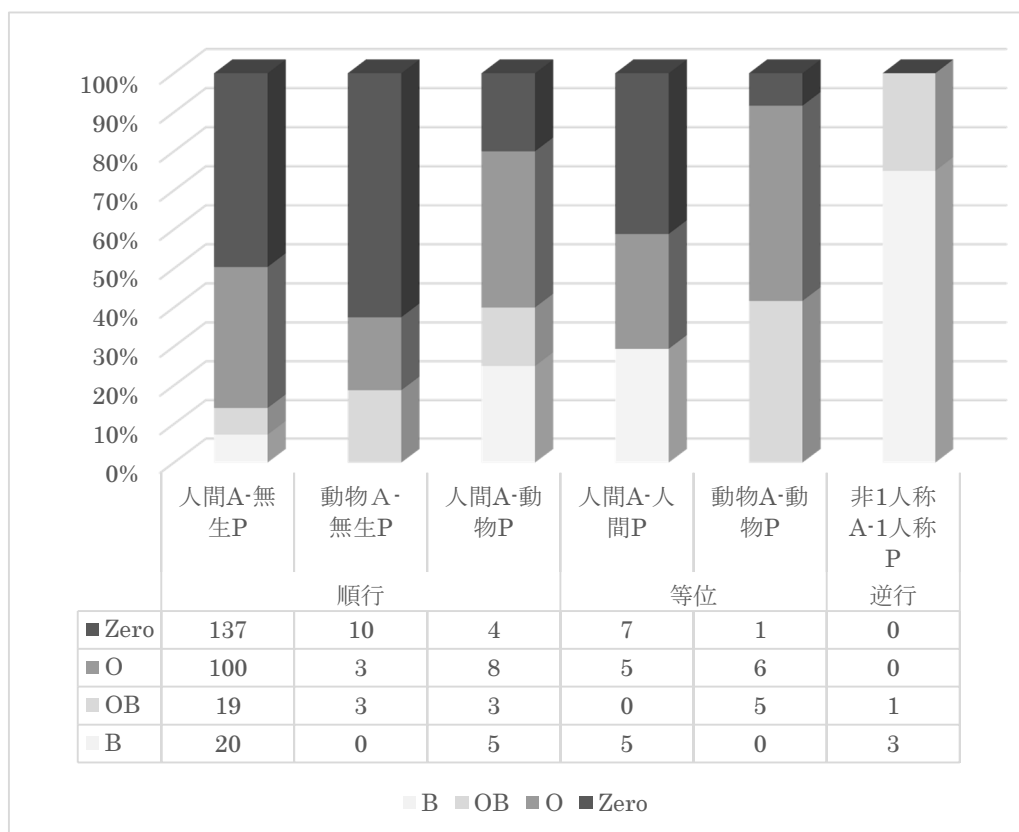
表 5. 人間名詞の P 項

A 項	P 項		和訳	方言	格
1	H	子供	私は子供を 3 人育てたよ。	<i>oraa kodomo ba sannin sodateta wai</i>	B
[1]	H	あの人	あの人を待っているけど来ない	<i>ano hito matoru kedomo kon wai</i>	Z
[2]	H	うちの子	うちの子を見なかった？	<i>oregai no kodomo miradatta dooka?</i>	Z
[2]	H	あの人	あの人を誘ってきなさい。	<i>ano hito sasoo de kita narya</i>	Z
[2]	H	友達	友達を呼んできて。	<i>tomodati yuude kita narya</i>	Z
[2]	H	そいつ	そいつを連れてこい	<i>gedoo ba turete kee.</i>	B
H	H	子供	母が子供を呼んでいた	<i>kaka ga kodomo o yuudotta</i>	0
H	H	子供	先生が子供を殴っていた	<i>sensee ga kodomo o doyaatotta</i>	0
H	H	子供	先生が子供を隠した	<i>sensee ga kodomo o kakwiita</i>	0
H	H	子供	先生が子供を帰した	<i>sensee ga kodomo o modyeeta</i>	0

他動詞文において、A 項は（定義上）動作主であるから、A 項になれる名詞は有生名詞（人間名詞と動物名詞）にほぼ限られる。一方、有生名詞は P 項になることができるという非対称性がある。人間名詞は、それより階層の高い代名詞や固有名詞よりは P 項になりやすいことが表 5 から明らかである。よって、人間名詞は A 項に P 項にもなりやすいという特徴を有する。

動物名詞の場合も、人間名詞の場合と同様に、A 項にも P 項にもなりやすいという特徴を有する。よって、A 項が人間で P 項が動物という組み合わせ、A 項も P 項も動物名詞の場合もあり、また A 項が動物で P 項が無生物という組み合わせもある。興味深いことに、これら 3 つのパターンに応じて、動物名詞 P 項の格標示が変わってくる。

表 6. A 項と P 項の相対的關係と DOM



(54) 人間 A > 動物 P

kinyuu moma mita.
kinyuu moma mi-ta
昨日 ムササビ 見る-PST
「昨日ムササビをみた。」

(55) 動物 A > 無生 P

koomorino kuso site kozuudoru
koomori=no kuso s-i-te kozum-tor-ru
コウモリ=NOM2 糞 する-連用-て こんもりする-PF-PRS
「コウモリが糞をして（それが）こんもりしている。」

(56) 動物 A > 動物 P

kusomusino kite arimuso kuyaate ikiotta.
kuso-musi=no k-i-te arimusi=o kuya-i-te ik-i-or-ta
クソ-虫=NOM2 来る-THM-NRT 蟻=ACC1 啜える-THM-NRT 行く-THM-IPF-PST
「(正体不明の) 虫が来て、蟻を啜えて行った。」

3.3.9. A/P 項の相対關係と DOM

これまで、P 項の有生性にだけ注目して分析を行ってきた。しかし、すでに見たように、人間名詞の P 項と動物名詞の P 項は A 項との相対的關係で変わってくることを見た。すなわち、単に P 項の有生性だけで格標示が決まるわけではないということが示唆される。

3.3.10. 順行・等位・逆行

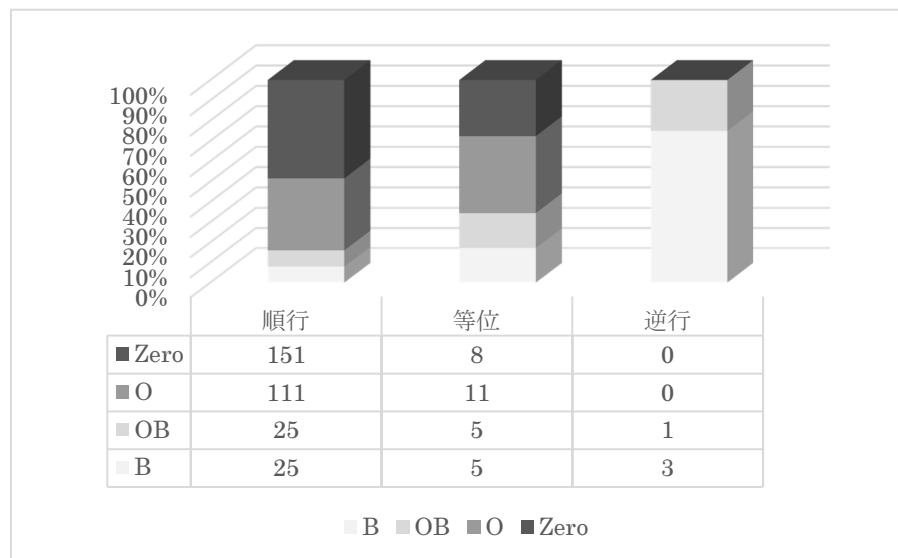
通常の他動詞文は A 項が人間や動物, P 項が無生物など, A 項のほうが階層上位である。特に, A 項が人間(代名詞・固有名詞・その他人間名詞)で P 項が無生物であるような, いわば階層の両端の組み合わせが最も普通であり, 実際そのデータが大多数を占める(表 6)。

A 項が階層上位である場合を「順行」と呼ぶことにし, A 項と P 項の階層位置が等しい場合を「等位」, P 項のほうが階層上位である場合を「逆行」と呼んでおく。順行関係にある限り, 他動詞文においてどちらが主語になるかは自明であることが多く, 格標示に頼る必要性は低いと予測される。一方, 有生性の階層の相対的關係が等位の場合や逆行関係の場合は, 階層性を利用した格関係の推測ができない, あるいは裏切られるため, 目的語であることを明示する必要性が相対的に高まると予測される。すなわち, 以下の予測が成り立つ。

(57) 無助詞 P 項の割合は順行で最も高く, 逆行で最も低い。その間に等位が来る。

表 6 にその傾向は見て取れるが, まだわかりにくい。以下は, 表 6 のデータの順行関係, 等位関係, 逆行関係にあるものをすべて 1 つのカテゴリーにまとめなおしたものである。この表は(57)の予測を裏付けている。

表 7. A 項と P 項の相対的關係と DOM (簡略版)



順行関係の頻度が圧倒的に高い。逆行関係が少ないのは, そのような能動文を作らずに受動文にしてしまいやすいという言語の特徴に起因するのであろう。しかし, 逆行関係の能動文を作る必要に迫られる場合も出てくる。このような場合に, 有形格標示はきわめて有効な曖昧性解消の手段になる。

(58) 逆行関係 (2 人称 A > 1 人称 P)

oreba sogyaa tomunnai.
 ore=ba sogyaa tomu=ru=na=i
 俺=ACC1 そんなに 止める-PRS=禁止=SPF
 「俺をそんなに止めるなよ。」

(59) 逆行関係 (3 人称 A > 1 人称 P)

<i>oreba</i>	<i>bakyaa</i>	<i>sitorukee</i>	<i>ogottottozo!</i>
ore=ba	baka=ni	s-i-tor-ru=kee	ogor-tor-ru=to=zo
俺=ACC1	馬鹿=に	する-連用-PF-PRS=から	怒る-PF-PRS=の=SFP

「俺を馬鹿にしてるから怒ってるんだぞ！」

3.3.11. 隣接性

自然談話でも語彙収集過程で得られた例文データでも、目的語と動詞がこの順序で隣接していることが圧倒的に多いことがわかっている。よって、格関係の推測の手段として、動詞の直前位置という隣接条件は有効だと考えられる。これと異なる語順（非隣接語順）の場合、問題の名詞句が目的語であることを明示する必要性が高まると予測される。実際、隣接語順では半数以上の P が無助詞であるのに対し、非隣接では無助詞はほとんど見られないことが分かった。非隣接の場合に *o* の使用割合が目立って上昇することから、語順によって誘発される DOM では対格 *o* が重要であることがわかる。

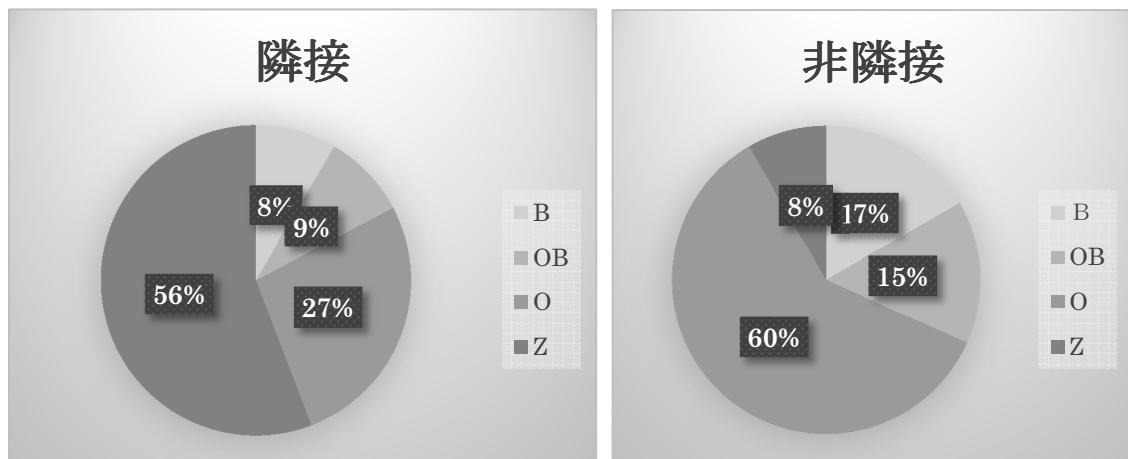


図 3. 隣接性と DOM

- (60) *umaga kusa(ba/oba/o/Ø) kwiioru.*
 uma=ga kusa(=ba/=oba/=o/Ø) kuw-i-or-ru
 馬=NOM 草(=ACC1/=ACC2/=ACC3/無助詞) 食う-THM-IPF-PRES
 「馬が草を食べている。」
- (61) *umaga kusa(ba/oba/o/*Ø) umasooni kwiioru.*
 uma=ga kusa(=ba/=oba/=o/Ø) uma-soo=ni kuw-i-or-ru
 馬=NOM 草(=ACC1/=ACC2/=ACC3/無助詞) うまい-そう=DAT 食う-THM-IPF-PRES
 「馬が草をうまそうに食べている。」
- (62) *kamuge misikoo kittaryaa*
kamuge misika-ku kir-taryaa
 髪の毛 短い-ADV 切る-COND
noomisono kariikee tanda karuu natta.
 noomiso=no karu-i=kee tanda karu-ku nar-ta
 脳みそ=NOM 軽い-PRES=CSL なおさら 軽い-ADV なる-PST
 「髪を短く切ったら、脳みそが軽いからなおさら軽くなった。」

3.3.12. 特定性

上記で見てきたように、尾前方言の DOM は有生性と語順が効いている。一方、DOM において特定性(specificity)が重要なファクターとなる言語も数多く報告されている。尾前方言に関しては、特定性は有生性や語順ほど明確に効いていないと思われ、日本語諸方言一般の特徴として、DOM といえば有生性が関与する、という一般特徴がみられる可能性が一層高まったといえる³。以下の例は、話し手が具体的に指示対象を指して述べる場合（すなわち特定名詞の場合）であるが、有形の対格標示も無助詞もみられ、かつ無助詞のほうが多数を占める（有形 6 vs. 無助詞 8）。このように、特定性に注目しても、尾前方言の DOM で有生性・語順に着目するほど有効な一般化を得られないのである。

なお、無助詞である例は全て順行関係にあり、かつ P が無生物であるから、すでにみた要因に照らし合わせて矛盾のない出現環境である。有形助詞を取る場合のうち 2 例は非隣接条件にあり、ここで格助詞が出現することも予測可能である。

表 7. 特定性と DOM

ID	A 有生性	P 有生性	P 和訳	動詞	例文とその和訳	格	隣 接 性
(63)	[3]	I	あその家	壊す	<i>akko=no ie=ba huruu natte simoota=ken utikuyaate simau=to=bai.</i> あその家を、古くなってしまったから、 [一般人称]壊してしまうんだよ。	B	非
(64)	[3]	I	あの家	壊す	<i>ano ie=ba utikuyasioru=bai.</i> [大工たちが]あの家を壊してるよ。	B	
(65)	H	I	あの傘	壊す	<i>are=ga ano kasa utikuziite itta=bai.</i> あいつがあの傘を壊していったよ。	Z	
(66)	H	I	この品物	壊す	<i>dono yatu=ga kono sinamono=o kuziita ttyaroo=ka?</i> どいつがこの品物を壊したのかな。	O	
(67)	[2]	I	この食器	戻す	<i>kono syokki modyeete weete.</i> この食器を戻しておいて。	Z	
(68)	[2]	I	その刻んだ 葱	載せる	<i>sono kizanda negi=o noseta=naryaa.</i> その刻んだねぎをのせなさい。	Z	
(69)	[1]	H	あの人	待つ	<i>ano hito matoru=kedomo kon=wai.</i> [俺は]あの人を待ってるけど来ないよ。	Z	
(70)	[2]	I	それ	見せる	<i>sore misete kuren=no?</i> それを見せてくれない？	Z	

³ 一方、Frellesvig et.al. (2015)は、古典日本語について、対格ヲが特定性をベースにした DOM であるとの論を展開している。

(71)	[2]	H	うちの子	見る	oregai=no kodomo miradatta=doo=ka? うちの子をみなかった？	Z	
(72)	[2]	H	あの人	誘う	ano hito sasooode kita=narya あの人を誘ってきなさい。	Z	
(73)	[3]	I	この本	読む	kono hon yomanyaa ikan=ga この本を読まないとだめだろ。	Z	
(74)	[1]	I	それ	いじる	sore=oba seseku それを触る。	OB	
(75)	[1]	I	それ	する	sore=o moo doo suru=tyuu ki=ni=mo narenkatta=ken=ne. それをもうどうする気にもなれなかった からね,	O	非
(76)	[1]	I	これ	めくる	kore=o mekuru=wake=yo. これをめくるわけよ。	O	

3.3.13. まとめ

以上、3.3 節では DOM について詳しく記述を行ってきた。これにより、尾前方言の DOM には【有生性】と【隣接性】が重要なファクターとして関与していることが明確になった。いずれも、DOM が曖昧性解消の手段として役立っていることを示している。しかし、まだ課題も残っている。特に、今回わかったことは有形格助詞 vs. 無助詞の対立の様相であり、どういう場合に有形格助詞のうち何が使われやすいかというところまではあまり踏み込めていない。今回明らかになったことは、①階層上位名詞の P 項には ba が使われやすく、② o が使われやすいのは階層下位であり、③非隣接条件では o の使用頻度が大幅に上昇する、というところまでである。

参考文献

- Aissen, J., 2003. Differential object marking: iconicity vs. economy. *Natural Language and Linguistic Theory* 21, 435–483.
- Bossong, G (1985) *Differentielle Objectmarkierung in den Neuiranischen Sprachen*. Narr, Tu'bingen.
- Comrie, B., 1989. *Language Universals and Linguistic Typology*, revised ed. University of Chicago Press, Chicago.
- 林由華(2013)「南琉球宮古語池間方言の文法」京都大学大学院博士論文。
- Iemmolo, Giorgio. 2011. Towards a typological study of differential object marking and differential object indexation. PhD thesis, University of Pavia.
- Iwasaki, Shoichi (2015) Animacy and differential subject marking in the Ikema dialect of Miyako. *Studies in Language* 39 (3).
- Malchukov, Andrej L. 2006. Transitivity parameters and transitivity alternations: Constraining co-variation. In Leonid Kulikov, Andrej Malchukov and Peter de

Swart (eds.) *Case, valency and transitivity*, 329–359, Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.

坂井美日 (2011) 「現代熊本市方言の主語表示」『阪大社会言語学ノート』11号, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室

坂井美日(2013)「甕島方言の格配列—日本語方言の類型論的展開の可能性」2013年度日本語学会秋季大会ワークショップ, 松丸真大・黒木邦彦・坂井美日・山本友美・平塚雄亮「甕島方言から考える方言類型論と方言接触論」, 於静岡大学

坂井美日(2015)「第六章 統語論」, 窪蘭晴夫監修, 森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦編『甕島文法書』, 国立国語研究所

佐々木冠(1998)「水海道方言の対格 --- 有生対格と無生対格の統語論 ---」『日本語科学』4. 99-121.

佐々木冠(2006)「格」渋谷勝己・工藤真由美・井上優・日高水穂(編)『方言学2 方言の文法』東京: 岩波書店.

下地理則(2015)「琉球諸方言における有標主格と分裂自動詞性」『方言の研究』1.

下地理則・坂井美日・小川晋史(2016)「はじめに」下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日(編)「尾前調査班 中間報告書—宮崎県椎葉村尾前方言—簡易語彙集と文法概説—」国立国語研究所.

Shimoji, Michinori. 2008. A grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan language. Unpublished PhD thesis, Australian National University.

Shimoji, Michinori. 2010. Ryukyuan languages: an introduction. In Shimoji, Michinori, and Thomas Pellard, eds., *An introduction to Ryukyuan languages*, Tokyo: ILCAA.

4. 代名詞体系記述の中間報告

清岡美里（九州大学卒業生）・平塚雄亮（志學館大学）・新永悠人（成城大学）

4.1. はじめに

本章では、代名詞の体系について記述する。人称代名詞を中心に、指示詞・疑問語・不定表現等、関連の諸形式を体系的に整理し、形態論的な分析を行うことを目指す。さらに、近年北琉球や九州南部の一部地域において人称代名詞の複数を表す形式（以下複数形式）が非複数的な意味を持つ現象が報告されており（新永 2013, 森ほか編 2015）、同様の現象が尾前方言にも確認されたことを報告する。

4.1.1. 話者情報

調査は全 3 回実施した。2015 年 5 月の第 1 回調査では男性 2 名、9 月の第 2 回調査では男性 3 名と女性 6 名、12 月の第 3 回調査では男女各 1 名の話者に協力していただき、聞き取りを行った。いずれも現在尾前地区に居住する 70 歳以上の高齢層である。山村集落のため、ほとんどの話者が進学や就職のために地区を出て生活した外住歴がある。うち 1 人は徴兵のため 10 年以上村を離れていた。

4.1.2. 調査方法

人称代名詞や指示詞を引き出す例文を作成し、文脈も含めて翻訳してもらう翻訳型の面接調査と、話者が自発的に示した用例や会話の中に出てくる用例を分析する談話調査の両方によって得られたデータを使用した。

4.2. 人称代名詞の体系

尾前方言の 1, 2 人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞を以下の表に示す。いずれの代名詞も、複数形は単数形に接尾辞-domo を付ける。代名詞の使用に関して、男女間の性差はほぼ見受けられない。

表 1 尾前方言の 1・2 人称代名詞・指示代名詞・再帰代名詞

人称 \ 単複		単数形	複数形
1 人称		ore	ore-domo/on-domo
2 人称	（目上）・ 同輩以下	wa-re	ware-domo/wad-domo
	目下	konata/konta (wa-ga) (unu)	konata-domo/konta-domo (wa-ga-domo) (un-domo)
	目上	wa-sama	wa-sama-domo
3 人称			ko-re-domo

	ko-re a-re ※指示代名詞で代用される (ko-no gedoo) (so-no gedoo) (a-no gedoo)	so-re 	so-re-domo a-re-domo/a-d-domo (ko-no gedoo-domo) (so-mo gedoo-domo) (a-no gedoo-domo)
再帰代名詞	menmee		menmee-domo

4.2.1. 1 人称

ore

1 人称を表す語は ore であり，目下の相手にも目上の相手にも用いられる。ただし，近年は共通語の影響からより丁寧に話す際に boku や watashi が使用される場合もある。複数形については ore-domo と on-domo が現れたが，両者に意味・用法の区別はない。以下，例文中の音素表記は，音韻規則を経るなどして形態素境界がわからなくなっているものはそれを示さず，グロスでは「:」を用いて複数の意味を並べることがある。

- (1) oryaa moo kore=de modor-u=wai.
1SG:TOP もう これ=で 帰る-NPST=SFP
(目上の相手に対して)「私はもうこれで帰ります。」
- (2) ondomya konnya=wa nani kwoo=kai.
1:PL:TOP 今夜=TOP 何 食べる:VOL=SFP
(夫婦間の会話で)「私たちは今夜は何を食べようか。」

4.2.2. 2 人称

ware, konta/konata

通常，2 人称に対しては ware が用いられる。konta, konata という年下の 2 人称に対する形式もあるが，頻繁に使用する話者は（高齢層であっても）少ない。男女どちらもこれらの形式を使用可能だが，konata は若干女性的な言い回しであるという話者もいた。

- (3) waryaa kinyuu yakuba=de mi-ta=wai.
2SG:TOP 昨日 役場=LOC 見る-PST=SFP
(友人に対して)「あなたは昨日役場で見た。」
- (4) waddoma dokkara ki-ta=kai?
2PL:TOP どこ:ABL 来る-PST=Q
「あなたたちはどこから来たの？」

waga, unu

2 人称には waga, unu という表現もあるが，話者にとっては汚い言葉であるという認識が強いため普段の会話の中にはほとんど出てこない。話者の内省としては unu の方がより乱暴な言い回しであるようだ。unu に関しては，複数形の -domo が接続する場合には un-domo のように撥音化が起きる。

- (5) *wagaa atti ik-ee.*
 2SG:TOP あっち 行く -IMP
 (自分の子どもに対して)「お前はあっちに行ってなさい。」
- (6) *waga-domaa doyassik-u=zo.*
 2-PL:TOP たたく -NPST=SFP
 (子どもたちに対して)「お前らはたたくぞ。」

wasama

目上の2人称に対しての非常に丁寧な表現として *wasama* があるが、日常会話ではあまり使用せず、目上に対しても *ware* を使うことが多い。

- (7) *wasama=wa doko=no mono=ka?*
 2SG=TOP どこ=GEN 者=Q
 「あなたさまはどこの方ですか？」
- (8) *wasama-domo=o turyee ki-ta.*
 2-PL=ACC 連れる:NRT 来る -PST
 「あなたさまがたを迎えに来ました。」

4.2.3. 3人称

3人称を指す代名詞には指示代名詞を用いる。2人称のような待遇関係による区別はない。

kore, sore, are

kore (近称), *sore* (中称), *are* (遠称) の区別がある。複数形は *-domo* を接続させる。*are* に関しては、*are-domo* → *ad-domo* のように /re/ → /d/ への変化が起きる。これは随意的なものであり、意味による使い分けは見られない (自然発話の中での出現頻度は *ad-domo* の方が高い)。*kore, sore* については *kod-domo, sod-domo* のようにはならない。

- (9) *koryaa toowee tokoro=kara ki-ta sensee=ttyuu=wai.*
 これ:TOP 遠い:NPST ところ=ABL 来る -PST 先生=SEEM=SFP
 「この人は遠いところから来た先生らしい。」
- (10) *ore=mo soree oote mi-tyaa=née.*
 1SG=も それ:DAT 会う:NRT みる -DES:NPST=SFP
 「私もその人に会ってみたいなあ。」
- (11) *aryaa suk-an=kee mir-oo gota nyaa.*
 あれ:TOP 好き -NEG=CSL 見る -VOL ようす:TOP ない:NPST
 「(私は)あの人は嫌いだから見たくない。」
- (12) *are-domaa kumamoto=kara ki-ta=ttyuu=wai.*
 あれ-PL:TOP 熊本=ABL 来る -PST=SEEM=SFP
 「あの人たちは熊本から来たらしい。」

kono gedoo , sono gedoo , ano gedoo

指示連体詞と gedoo の句による指示表現は「こいつ」「そいつ」「あいつ」といった指示対象を侮蔑する意味になる。

- (13) *sono gedoo=ba ture-te ke-e.*
 その 外道=ACC 連れる-NRT くる-IMP
 「そいつを連れて来い。」

- (14) *sono gedoo-domo=ga wari koto=bakari kayaa-te,*
 その 外道-PL=NOM 悪い:NPST こと=ばかり する-NRT
 「そいつらが悪戯ばかりして,」

4.2.4. 再帰代名詞

再帰代名詞は人称を問わず *menmee* であり, 複数を表す場合は-domo が接続する。

- (15) *waga=ga menmee yasina-eba ee=wa.*
 2SG=NOM 自分 世話する-COND いい:NPST=SPF
 (捨て犬を拾ってきた子供に対して)「お前が自分で世話すればいい。」

- (16) *oryaa menmee=no heyaa mottor-u=wai.*
 1SG:TOP 自分=GEN 部屋 持つ:CONT-NPST=SPF
 「私は自分の部屋を持っている。」

4.3. 指示代名詞等の体系

4.3.1. 指示詞の体系

尾前方言における指示詞の体系は以下のとおりである。

表 2 尾前方言の指示詞

品詞 範疇 称	代名詞			連体詞	様態 副詞	様態 連体詞
	事物・人物	場所	方向			
近称	ko-re	ko-ko	ko-tti	ko-no	ko-o, ko-gee	ko-gyan
中称	so-re	so-ko	so-tti	so-no	so-o, so-gee	so-gyan
遠称	a-re	a-kko	a-tti	a-no	a-a, a-gee	a-gyan
不定称	do-re	do-ko	do-tti	do-no	do-o, do-gee	do-gyan

4.3.2. 指示詞の形態論的特徴

指示詞は代名詞・連体詞・副詞の品詞をまたぐカテゴリーである。指示詞はすべて指示語根+接尾辞に分析できる。指示語根は ko-, so-, a-, do-の4系列で, 接尾辞部分で指示対象や品詞を決定する。

- (17) sore totte yar-ei.
 それ 取る:NRT やる-IMP
 「それを取って。」
- (18) ano okasi totte kure-n=no?
 あの お菓子 取る:NRT くれる-NEG=Q
 「あのお菓子を取ってくれない？」
- (19) agee si-tok-ya yokatta.
 ああ する-CONT-COND いい:PST
 「(あの時)ああしておけばよかった。」

場所を表す指示代名詞と格助詞=ni は以下のように変化する。

-ko=ni →/n/の脱落→ -ko=i →母音融合→ -ke=e (→子音重複→ -kke=e)

上記のうち、「母音融合」および「渡り音挿入」の規則は1節で述べる動詞テ形の形態音韻規則に準ずる(例://oi// → /(w)yee/)。

- (20) kokyee nimotuwa weetokee.
 koko=ni nimotu=wa oki-te=ok-ee
 ここ=DAT 荷物=TOP 置く-NRT=おく-IMP
 「ここに荷物は置いといて。」
- (21) dokkee ikyaa eekai?
 doko=ni ik-yaa yo-i=kai
 どこ=DAT 行く-COND いい-NPST=Q
 「どこに行けばいいの？」

4.4. 疑問語・不定語

先述した指示詞のdo系列を除いた疑問語・不定語の一覧を以下に掲げる。不定語は疑問後の末尾に-kaを付けた形を以下に示す(これ以外にも-demoを付けた形もある)。

表3 尾前方言の疑問語・不定語

	事物	人物	時間	数量	理由
疑問語	nani	dare	itu	ikura	doosite (nansite) nannoge(e)ni
不定語	nani-ka	dare-ka	itu-ka	ikura-ka	doosite-ka (nansite-ka)

理由を問う疑問語として doosite と nansite が現れたが、意味の違いは見られない。nannoge(e)ni という語は道理の通らないことをする相手に対して注意するとき用いる表現

であり, doosite より強意の意味合いを持っていると考えられる。これを不定語化した nannoge(e)ni-ka という表現は見られなかった。

- (22) *yuumesya nani=kai?*

夕飯:TOP 何=Q

「(今日の)夕飯は何？」

- (23) *dare=ga ki-tor-u=kai?*

誰=NOM 来る-CONT-NPST=Q

「誰が来ているの？」

- (24) *waryaa itu modor-u=kai?*

2SG:TOP いつ 帰る-NPST=Q

「あなたはいつ帰るの？」

- (25) *ikura koote kurya ee=kai?*

いくつ 買う:NRT 来る:COND いい:NPST=Q

「いくつ買って来ればいい？」

- (26) *nansite kokeenya mikan=no atto=zyaroo=ka?*

どうして ここ=DAT:TOP ミカン=NOM ある:NPST:の=だろう=Q

「どうしてここにはミカンがあるのだろうか？」

- (27) *nannogeeni sogyana koto yuu=ka?*

どうして そんな こと 言う:NPST=Q

(相手を諷めて)「どうしてそんなことを言うのか？」

- (28) *nani-ka kwuu mono mote k-ite kure-e.*

何-か 食べる:NPST もの 持つ-NRT くる-NRT くれる-IMP

「何か食べるものを持ってきて。」

- (29) *itu-demo asobi kee.*

いつでも 遊び 来る:IMP

「いつでも遊びにおいで。」

4.5. 複数形式の非複数用法

4.2.1 節の例文 (2) の on-domo 「私たち」や 4.4.2 節の例文 (5) の waddomo 「あなたたち」のように、代名詞の複数形式は 2 人 (または 2 つ) 以上の指示対象を指すのが原則である (むしろ、それゆえに「複数」形式とラベル付けするのである)。

複数には意味的に 2 つのタイプがあることがよく知られている。1 つは正常複数 (normal plural) と呼ばれるもので、英語の horses のように、「(一頭の) 馬 + (もう一頭の) 馬 + (さらにもう一頭の) 馬…」のように、同質のものが 2 つ以上存在することを意味する。もう 1 つは近似複数 (plural of approximation) と呼ばれるもので、「数個の物や人が、正確に同じ種類に属するものではないが、同じ形式に含まれている」状態を意味する (イエスパーセン 2006)。例えば、日本語標準語において「私たち」が「私 + 私でない一人またはそれ以上の人」を指す場合がそれに当たる。

従って、尾前方言の on-domo 「私たち」などは、上記の近似複数に該当する。しかし、尾前方言の複数形式には、上記の近似複数にも、正常複数にも分類され得ない現象が存在する。

類似の現象は北琉球奄美大島湯湾方言（新永 2013）や鹿児島県甕島里方言（森ほか編 2015）においても報告されている。以下では、尾前方言における「複数形式の非複数用法」を報告する。

- (30) *ondomo=nyaa* *niaw-an=domo* *dandan=nao.*

1:APPR=DAT:TOP 似合う-NEG=CONC ありがとう=SEF

「私なんかには似合わないけれど、ありがとうね。」

（文脈：話者個人に宛てて高価な贈り物をもらった際に礼を言う。）

- (31) *tootyán-domo=wa* *moo* *mesi* *kutta=tyaroo=ka?*

お父さん-APPR=TOP もう ご飯 食べる:PST=:だろ う=SEF

「お父さんなんかはもうご飯を食べたんだろうか？」

（文脈：仕事に出た際に、家に一人残った父親のことを考えて口にした。）

- (32) *are-domo=nyaa* *utiaw-an=ga* *ee=ga.*

あれ-APPR=DAT:TOP かまう-NEG=NOM いい:NPST=SEF

「あの人なんかにかまわない方がいいよ。」

（文脈：特定の嫌な相手のことを指して言う。）

- (33) *betuni nan=mo isogasii* *koto nai=kee* *sumoo-domo* *mi-yotta.*

別に 何も=も 忙しい:NPST こと ない:NPST=CSL 相撲-APPR 見る-CONT:PST

「別に何も忙しいことはなかったから、相撲なんかを見ていたよ。」

（文脈：「何をしていた？」と聞かれて答える。「相撲」は無生物名詞であるため、通常複数を表す-domo はつかない。）

(30)～(33)の例文は、いずれも-domo が接続する名詞が文脈上単数である状況で発話されたものである。しかし、現時点までのわずかなデータでは未だ一般化し難いのが現状である。この-domo の用法については、今後も継続的な調査・研究が望まれる。

参考文献

- イエスペルセン（2006）『文法の原理』安藤貞雄訳、東京：岩波書店
迫野虔徳（2012）『方言史と日本語史』大阪：清文堂出版。
新永悠人（2013）「北琉球湯湾方言の複数を表す形態素と名詞句階層」『日本方言研究会第96回研究発表会発表原稿集』41-48。
森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦（編）（2015）『甕島里方言記述文法書』国立国語研究所。

グロス一覧

グロス	英語	日本語
1	1st person	一人称
2	2nd person	二人称
ABL	ablative	奪格
ACC	accusative	対格
ALL	allative	方向格
APPR	approximative	近似複数
CONC	concessive	逆接
COND	conditional	条件
CONT	continuous	継続相
CSL	causal	原因・理由
DAT	dative	与格
DES	desirous	希望
GEN	genitive	属格
IMP	imperative	命令
INST	instrumental	具格
LOC	locative	所格
NEG	negative	否定
NPST	non-past	非過去
NRT	narrative	継起
PL	plural	複数
PROH	prohibitive	禁止
PST	past	過去
Q	question	疑問
SEEM	seeming	様態
SFP	sentence final particle	終助詞
SG	singular	単数
TOP	topic	主題
VOL	volitional	意志

5. アスペクト体系記述の中間報告

下地理則（九州大学）・占部由子（九州大学学生）

5.1. はじめに

本章では、これまでの調査で得たデータ（面接調査、談話調査、簡易語彙集の例文データ）から明らかになっている範囲内で、尾前方言のアスペクト体系の基礎的な記述を行う。なお、本章は、卒業論文として当現象を詳細に扱っている占部(2016)の調査データ（本章末尾の添付資料）をもとに、分析および一般化に関して大幅な修正を行い、新たな見解を示したものである。

5.2. 概観

椎葉諸方言のアスペクトに関しては村上（1994）による報告があり、【トル】【 Chol】【ヨル】【オル】の4つのアスペクト形式が観察されると指摘している。尾前調査班の調査により、尾前方言では村上（1994）で挙げられている【 Chol】は全く見られず、【ヨル】もほとんど見られないことがわかっている。尾前方言のアスペクトの対立は接辞-or（非完了、村上の【オル】）と-tor（完了、村上の【トル】）の対立として記述できる。おおまかに、-or は出来事の終了限界前（将然、進行）を、-tor は終了限界後（結果）を表すが、以下に見るように、-tor が進行の意味を表せる場合もある（後述）。

(1) <i>taore-or-u</i> 倒れる-IPF-PRES 「倒れつつある」(将然)	<i>tob-i-or-u</i> 走る-INF-IPF-PRES 「走っている」(進行)	<i>tabe-or-u</i> 食べる-IPF-PRES 「食べている」(進行)
(2) <i>taore-tor-u</i> 倒れる-PF-PRES 「倒れている」(結果)	<i>tuu-dor-u</i> 走る-PF-PRES 「走っている」(結果/進行)	<i>tabe-tor-u</i> 食べる-PF-PRES 「食べている」(結果/進行)

5.3. 形態音韻的特徴

非完了接辞-or の/o/はほとんどの場合[wo]として発音されるが、これは基本的にはこの音素の異音の条件から予測できる (/io/ [iwo]の傾向；1.3 節)。すなわち、この接辞の前接要素は連用形であり、子音語幹動詞および母音語幹動詞語幹のうち/i/で終わるものの場合は、前接要素が/i/で終わる。しかし、「食べる」のような、連用形が/e/で終わる母音語幹動詞でも[wo]になることが多く、話者によっては[o]を許容しない。上述のように、-or は連用形に直接後続した存在動詞*wor を起源とし、-tor はテ形とそれに後続する存在動詞を起源とする。九州方言および西日本方言のほとんどでは、*wor の頭子音は y に変化した。尾前方言では古形の*w が（音声的に）保持されているわけである。

すでに1章でみたように、テ形は母音融合をはじめとする複雑な形態音韻規則がある（1.5 節）、上記の「走っている」の語幹も、有声化(*tob-te* → *tobde*)・母音連続派生 (*tobde* → *toude*)・母音融合(*toude* → *tuude*)を経てきた形式である。問題は、完了接辞-tor を、共時的に-te と or に分析できるかという点である。(2)については、以下のような言い方もできるため、接辞-tor を、-te-or に分析可能であるが、便宜的に-tor として分析し、PF (perfective) とグロスをふる。

- (3) *taoretya* *oran.*
 {taore-te=wa} or-an
 倒れる-て=は いる-NEG
 「倒れてはいないよ。」

5.4. 運動動詞の語彙的特徴とアスペクト対立：実態

本節では、以下の表 1 の動詞に関して、それぞれ-or（非完了）と-tor（完了）を取れるか、取ったときどのようなアスペクト解釈（将然相・進行相・結果相など）をもたらすかを記述する。なお、動詞の選定は工藤(2014)、木部ほか(2002)を参考にした。動詞の分類は工藤(2014)に従う。工藤の理論では、動詞は語彙特徴から出来事の開始限界と終了限界を持つかどうかで区分されるとし、終了限界のみをもつ主体変化動詞、開始限界のみを持つ主体動作動詞、いずれも持つ主体動作客体変化動詞、いずれも欠く状態動詞に区分できるとしている。

表 1. 調査動詞一覧

動詞の種類		動詞
運動動詞	主体動作 客体変化動詞	<i>akeru</i> 「開ける」、 <i>utikuyasu</i> 「壊す」、 <i>uuru</i> 「植える」、 <i>niru</i> 「煮る」、 <i>atumeru</i> 「集める」、 <i>tunmoru</i> 「折る」、 <i>tukuru</i> 「作る」
	主体変化動詞	<i>aku</i> 「開く」、 <i>iku</i> 「行く」、 <i>taoreru</i> 「倒れる」、 <i>suwaru</i> 「座る」、 <i>kiru</i> 「着る」、 <i>saku</i> 「咲く」、 <i>sinu</i> 「死ぬ」、 <i>nankorobu</i> 「寝ころぶ」、 <i>utikueru</i> 「壊れる」
	主体動作動詞	<i>huru</i> 「降る」、 <i>tobu/tuudesariku</i> 「走る」、 <i>yomu</i> 「読む」、 <i>oyogu</i> 「泳ぐ」、 <i>awaru</i> 「触る」、 <i>moyasu</i> 「燃やす」、 <i>kaku</i> 「書く」
	状態動詞	<i>ogoru/harakaku</i> 「怒る」、 <i>kirau</i> 「嫌う」、 <i>omou</i> 「思う」、 <i>mieru</i> 「見える」、 <i>ityaa</i> 「痛む（痛い）」
存在動詞		<i>oru</i> 「いる（人）」、 <i>oru</i> 「いる（人以外）」、 <i>aru</i> 「ある（存在）」、 <i>aru</i> 「ある（挙行）」

以下の表 2 に、運動動詞における調査結果をまとめる（例文リストは本章末尾の添付資料）。

表 2. 将然、進行、完了、痕跡の調査結果一覧¹

動詞の 種類	ID	動詞		アスペクト			
				将然	進行	完了	痕跡
主体変化動詞	1	aku	開く		O	T	?
	2	iku	行く		O	T	
	3	taoreru	倒れる		O	T	
	4	suwaru	座る	O	O	T	
	5	kiru	着る		O	T	
	6	saku	咲く		O	T	?
	7	sinu	死ぬ		O	T	
	8	nankorobu	寝ころぶ		O	T	?
	9	utikuyasu	壊れる		O	T	
主体動作客体変化 動詞	10	akeru	開ける		O	T	T
	11	utikuyasu	壊す		O	T	
	12	uuru	植える	O	O	T	
	13	tunmoru	折る		O	?	?
	14	niru	煮る		O/(T)	(T)	
	15	atumeru	集める	O	O	T	
	16	tukuru	作る		O/T	?	
主体動作動詞	17	huru	降る		O/T	T	
	18	tobu	走る		O/T	T	
	19	tuudesariku			O	T	
	20	yomu	読む		O/T	T	
	21	oyogu	泳ぐ		O/T	?	
	22	sawaru	触る		O/T	?	?
	23	moyasu	燃やす		O/T	?	
	24	kaku	書く		O/(T)	T	
	25	ogoru	怒る		O/T	T	
状態動詞	26	harakaku			?	T	
	27	kirau	嫌う	?	O	T	?
	28	omou	思う		O/T	?	
	29	kangaeru	考える		O/T	?	
	30	mieru	見える		O	T	
	31	itamu	痛む		?	?	

この表において O は-or、T は-tor が用いられたことを表す。「?」については調査を行っていない。空白部分に関しては調査を行ったが、アスペクト形式が用いられなかったあるいは許容されなかったものである。工藤にならい, アスペクトは将然相（動作の開始限界前）,

¹ 占部(2016)の結果を一部修正。占部(2016)では7番「死ぬ」と21番「泳ぐ」に痕跡用法があると報告しているが、例文をみると sindotta=huu「死んでいたようだ」のように、推測の=huu が連続した形式であった。よって、-tor が痕跡の機能を担っているかどうか断定できない。

進行相（動作の開始限界後，終了限界前），結果相（動作の終了限界後）の3つを想定して調査を行ったが，後述するように，将然と進行の区別については不要であるとの結論を示す。

上記のアスペクトと別に，-tor 形式が後述する結果相と関連する痕跡エヴィデンシャル（動作の結果生じる痕跡から動作の完了を推測する場合）についても調査している。

5.5. 運動動詞の語彙的特徴とアスペクト対立：分析と一般化

5.5.1. 一般化

表2をもとに非完了-or と完了-tor の分布を考察すると，少なくとも以下の特徴がみとれる。

(4) 尾前方言の運動動詞のアスペクト体系の一般化

- (a) Oの左にTが来ることはない。（Oは左から，Tは右から伸びる）
- (b) OとTがオーバーラップするのは進行相である。
- (c) O/Tが進行相を表せるのは主体動作動詞および主体動作客体変化動詞のうち目的語で指示される対象が動作によって生じるような場合，すなわち作成動詞である。
- (d) 状態動詞は，主体動作動詞的なもの（25, 28, 29番）と主体変化動詞的なもの（27, 30番）に二分される。
- (e) 痕跡は他動詞文に限られる（目的語の結果状態から動作を推定することに限られる）
- (f) 将然は，変化動詞に限られる。（つまり，動作主体の変化（開始限界）ないし客体の変化（終了限界点）がわかるものに限られる）
- (g) Tに痕跡用法があるなら，Tには必ず結果相用法がある。（おそらく，結果相用法から意味的な拡張をうけて発達したことが，この事実から想定される）
- (h) Oに将然用法があるなら，Oには必ず進行相用法がある。（おそらく，進行相用法から意味的な拡張をうけて発達したことが，この事実から想定される。しかし，5.5.4節参照）

尾前方言に関する上記の一般化は，基本的に工藤(2014)の提示する西日本方言の一般的特徴に矛盾しないようである。以下，尾前方言の言語事実として特に興味深い点，今後さらに検討すべき問題点について述べる。

5.5.2. 主体動作動詞と主体動作客体変化動詞の中間的存在の作成動詞

(4c)に関して，工藤の分類で主体動作客体変化動詞に入れられるもののうち，いわゆる作成動詞は，主体動作動詞的であるとみることもしける，という可能性を示唆する。ここで興味深いのが，工藤によって主体動作動詞とされるものの中にも，ほかの主体動作動詞と違って他動詞である（すなわち客体をもつ）ものは「書く」など作成動詞が含まれる。よって，作成動詞を主体動作動詞と主体動作客体変化動詞の中間のような位置づけとみてもよいであろう。

主体動作と主体動作客体変化の2タイプの違いは，終了限界を有するかどうかである。主体動作客体変化動詞を特徴づける終了限界とは，客体への変化が生じた限界点のことであるはずである。そうであれば，客体は必然的に，動作の起動前に，動作対象として存在している必要があり，それが動作過程で変化を被る必要がある。しかし，作成動詞における客体は，逆に動作の結果として生じるもの（effected O, Hopper 1979）である。作成動詞は，この意味において，通常の主体動作客体変化動詞と異なり，終了限界を欠くといえるであろう。

う。一方、作成過程によって徐々に対象が出来上がっていくという意味では、対象の出現こそが終了限界であるともいえる。よって、作成動詞は、主体動作動詞と同様、終了限界を欠くとも、明確に有するともいえるのである。作成動詞が主体動作動詞と主体動作客体変化動詞の中間的な（あるいはハイブリッド的な）特徴を持っているという仮説に立って、今後アスペクトの振る舞いを調査する予定である。

工藤（2014）で述べられている西日本諸方言におけるトル系の拡大（表 2 で O の領域に T が入ってくる状況）に関する仮説について、占部(2016)が明らかにした表 2 にみる尾前方言の実態は重要な示唆を与えている。工藤の理論では、このような状況は主体動作動詞、主体動作客体変化動詞、主体変化動詞の順に起こることである。尾前方言の実態を踏まえて考えれば、トル系の拡大は、主体動作動詞から（主体動作動詞と主体動作客体変化動詞の中間的存在としての）作成動詞を経て、主体動作客体変化動詞に至るという可能性が高い。

5.5.3. 痕跡エヴィデンシャル

(4c, e)の一般化は、データ数が少ないために意味のある一般化とはいえない可能性があるが、工藤(2014)の研究ですでに指摘されている事実（結果相から痕跡用法への拡張）に矛盾しない。なお、痕跡用法が極めて限定的であることと、当方言で痕跡の際に頻繁に使われる非伝聞推測形式=*huu* 「～するようだ／したようだ」の存在は関連していると思われる。

5.5.4. 将然と進行について

(4f)について、将然と進行の区別が前提となっているが、この2つの区別は、特に主体変化動詞においては自明ではない。これについては以下に詳しく述べる。さらに、将然を意味的に明確に定義できるという前提に立ったとしても、将然を表す専用形式=*de sioru* 「～しようとしている」（例：*iroo=de sioru* 「入ろうとしている」）や=*goto sitoru* 「～しようとしている」、*-kaketoru* 「～しかけている」が存在するため、尾前方言において*-or* が将然相を表す第一候補であるとは必ずしも言えないし、実際にそうではないようである。

主体変化動詞については、結果相以外（将然・進行相）で*-or*、結果相で*-tor* という区別ははっきりしている。この傾向は工藤（2014）において述べられている宇和島方言を含め西日本諸方言の特徴に一致する。しかし、結果相以外における将然と進行の区別について、その区別にどれほど意味があるのかについては疑問が残る。以下、キーポイントとなる例を挙げて議論する。

進行相（工藤 2014 では「直前」）は、本章では開始限界後かつ終了限界前の局面を指す。終了限界が存在しない主体動作動詞の場合は、開始限界を超えたあとの動作が一定期間継続する様子を表し、主体変化動詞の場合は出来事が終了限界へ向かって変質していく様子を表す。主体動作客体変化動詞の場合、その両方の性質を持っているといえる。すなわち、主体については継続を、客体については変質過程を表す。

一方、将然相は、工藤の理論をもとにすれば開始限界前の局面を指す。占部(2016)は1番「開く」や5番「着る」などについて、将然は*-or* が使えないが進行で使えるとしている（添付資料 01, 05 など参照）。進行とされているものは「開いている最中」「着ている最中」であり、主体の変質の過程であるが、将然とされるものはまだ門が動きもしていない段階や着物を触ってもいない段階である。これら2つの例は将然と進行の区別が明確のようにみえ、*-or* が後者だけに使える点をもって、*-or* は将然に使えない、という考察も有効に見える。

表 3. 「開く」 (添付資料 01 番より抜粋)

将然	mousugu mon ga akuttya nee もうすぐ門が開くんだよね
進行	mon ga akiworu wai 門が開いている (最中) よ
完了	mon ga aitoru wai 門が (完全に) 開いているよ

表 4. 「着る」 (添付資料 05 番より抜粋)

将然	ano zii wa ima uwagi wo kiru huu wai あのおじいさんは今上着を着るようだ
進行	uwagi wo kiworu wai (今まさに) 上着を着ている (最中) よ
完了	kitoru wai (もう上着を) 着ているよ

しかし、主体変化動詞は終了限界しかないという工藤の立場を堅持するなら、将然と進行 (いずれも終了限界前) の対立は存在しない (中和する) と考えられる。すなわち、将然 (開始限界前かつ終了限界前) と進行 (開始限界後かつ終了限界前) の区別において重要な、開始限界の認定は、言語的には不可能であるはずである。

では、占部(2016)において将然相を表せるとされた場合はどういう場合であろうか？ 占部(2016)は、表 1 にあるように、4 番の「座る」の将然相で-or が使えるとしている (添付資料の 04 番)。

表 5. 「座る」 (添付資料 04 番より抜粋)

将然	akkee suwariworu bai [座ってはいけなところ座ろうとする人を見て咄嗟に] あそこに座ろうとしているよ
進行	suwariworu bai/ kosikakeworu bai (今まさに) 座っているよ/ (今まさに椅子に) 座っているよ
完了	suwattoru bai (次郎が)座っているよ

しかし、上記の将然と進行は、いずれも腰を椅子に落とす前の局面であり、終了局面を迎えていないという点において 2 つの区別はなく、主体の変質過程として連続しており、将然と進行というふうに線を引くのは恣意的である。同じことは主体動作客体変化動詞の「植える」と「集める」にもいえる。

この問題は、将然と進行を区別できるテストフレーム (例えば、「まだ座りはじめてないけど_____」に入るなら将然、ダメなら進行など) を開発することで解決できるかもしれないが、上記の例でいう「すわりはじめ」 (開始限界) がどこで開始されたかを客観的に区別することができない以上、本質的な解決にはならない。結局、この種のアプローチの根本的な問題は、話者が、言語形式の介在以前に、将然・進行・結果を概念的・意味的に区別しているという前提にある。

本章ではむしろ、話者が言語形式-or を使うことで、語彙的に開始限界のないところに開始限界を追加する、すなわち、-or の機能は本質的に開始限界後から終了限界前までの局面（変質過程）を言語化することであり、この意味において、主体動作動詞や主体動作客体変化動詞における-or となんらかわりないという分析を提示する。椅子に座ってもいないのに-or を使った話者は、その時点で開始限界を超えたとみたということであり、同じ場面をみて-or を使わなかった話者は、開始限界をまだ超えていないと見ているわけである。

主体変化動詞の多くは「死ぬ」などの瞬間的な出来事（achievement）である。このような動詞の場合、主体の変質は一瞬のうちに生じると知覚されるのが普通であるから、変質過程を-or で取り出すことは難しい。この違いが、-or の使いやすさの度合いに影響を与える。しかし、話者があえて-or を使えば、変質過程を取り出す解釈が生まれるはずである。例えば「死ぬ」の場合、-or を用いることは通常はないが、それは単一の主体の変質が想定されるからである。占部(2016)が指摘するように、-or が可能となるのは、主語が複数存在するなどのような場合であり、個々の主体の変質が一瞬であっても全体が変質し終わるまで時間がかかるという解釈になる。

表 6. 「死ぬ」（添付資料 07 番より抜粋）

将然	kono toryaa nani ka doo sitattyaroo ka sinikakattoru nee この鳥は何かどうかしたのだろうか死にかかっているね
進行	kozumatte sinuru/siniworu 鳥が次々と死んでいく
完了	tori no sindotto wai 鳥が死んでいるんだよ

占部(2016)は、主体変化動詞で-or が使えるのは、①瞬間的な動作が複数の主体によって多回的に生じる場合や、②通常の世界知識からは瞬時に起こると考えられる出来事（例えば「倒れる」）が時間幅を持って生じるような場合である、としている。表 2 の 3 番の「倒れる」について、占部(2016)の調査データをみると、「木が倒れる」の場合は-or の使用ができないが、「（ビルのような）建物が倒れる」は-or の使用が可能である。なお、占部は後者について「進行」を表すとしているが、すでに見たように、本章では-or が開始限界を追加して終了限界前の局面（進行相＝変質過程）を取り出しているにすぎないとみる。

表 7. 「倒れる」（添付資料 03 番より抜粋）

将然	ano ki wa taoresoo ni aru あの木は倒れそうだね
進行	taoreworu bai abunyaa bai （建物がだんだんと）倒れるよ 危ないよ
完了	kono hito wa kora taoretoru ga no この人は倒れているね

なお、saku「咲く」については花のつぼみが開いて行く最中や 7 分咲きなどの状態に sakioru、完全に咲いている状態が syaatoru という内省を話者が持っているが、多回性を持つ文脈の方が用いられやすい。すなわち、前段落で述べた②より①の解釈のほうが-or を使いやすい。こうした、本来-or を使いにくい瞬間的な動詞に対して、どういう文脈でなら自然に使える

かという問題も、今後の研究課題である。

結局、尾前方言の主体変化動詞のアスペクトを記述していく中で、将然と進行の区別は不要・不可能であるという結論に至った。いずれも-tor の表す完了相と体系的に対立する「非完了相」として 1 つのカテゴリーをなしているとみるべきであり、それは-or と-tor の形式的対立を出発点にしている。

(4h)で、O に将然用法があるなら、O には必ず進行相用法があると指摘したが、これは、本節で示した新たな解釈によれば、例えば「座る」に関して、座っていない状態から座り始める過程のある時点をもって-or を使える（＝出来事が開始されたと解釈できる）話者は、それよりもあとの時点に対して-or を使えるのは当然である、と分析できる。

5.5.5. 状態動詞の位置づけ

工藤(2014)が状態動詞と呼ぶカテゴリーは、主に知覚動詞（思考動詞・心理動詞）である。(4d)で一般化したように、尾前方言のデータに関する限り、このカテゴリーはアスペクト対立に関して主体動作的にふるまう動詞群（ogoru「怒る（＝叱る）」、omou「思う」、kangaeru「考える」）と、主体変化動詞的にふるまう動詞群（kirau「嫌う」、mieru「見える」）の2つに分けることができそうである。

主体動作動詞的にふるまう動詞群は、動作主の意志的な動作であり、時間幅をもつ出来事である。さらに、明確な終了限界がない。よって、これらが主体動作動詞的にふるまうのは納得できる。例えば「考える」は以下のように進行相で **O/T** が、結果相で **T** が使用される。なお、**(9)**は、考えているプロセスではなく「何かを考えて行動した」結果に対して怒りが向けられているため、ここで使われる kangaetoru が結果相であると判断できる。

- (5) ano hito=wa naniyara kanga-e-or-u/kanga-e-tor-u=kee
あの 人=は なにやら 考える-IPF-PRES/考える-PF-PRES=から
「あの人は何か考えているから（話しかけないほうがいい）」
- (6) waga nani kanga-e-tor-u=ka!
お前 何 考える-PF-PRES=Q
「お前は何を考えているんだ！」【怒るとき】

主体変化動詞的にふるまう状態動詞は非意志的であり、（それに関連して）出来事はコントロールできない瞬時の変化としてとらえられるといえそうである。すなわち、主体変化動詞と同様のアスペクト的性質を持っているといえる。なお、harakaku は心理変化としての「怒る(get angry)」であり、占部(2016)は調査において進行や将然の場面の訳出そのものが難しい（すなわち-or を使うことが難しい）と指摘している。これはすでに見た主体変化動詞と全く同じ特徴である。「嫌う」も同様に、通常は嫌っている状態（すなわち完了形式 kirootoru「嫌っている」）を言語化する。しかし、占部(2016)が示すように、極めて特殊な文脈を用意すれば、非完了形式 kiryaatoru「嫌いつつある」も使用可能となる。

- (7) ano otokaa ore=oba kiryaatoru.
あの 男は 私=ACC 嫌う-IPF-PRES
「あの男は私のことを嫌いつつある」

占部(2016)によると、この場合、まだ完全に嫌われているわけではなく、取り返しのつく状態を表し、これを kirootoru に言い換えると完全に嫌われていることを言い表すという。す

なわち、-or は、主体変化動詞である「嫌う」に対して、開始限界（嫌いはじめ）を挿入し、開始限界から終了限界（完全なる嫌悪）までの時間幅が存在する解釈を許す。

工藤理論では、状態動詞というカテゴリーをあえて別に設ける理由として、テンス対立の貧弱さを挙げている。さらに工藤は、状態動詞においてはアスペクト対立も消失する傾向にあるとしている。しかし、尾前方言の言語実態を考慮すると、状態動詞とされるカテゴリーの動詞群は、実際は主体動作動詞ないし主体変化動詞という 2 つの異なるタイプに分けることができ、前者は（主体動作動詞として）アスペクト対立が消失するが、後者はむしろ明確なアスペクト対立がみられるといえるだろう。

5.5.6. 主体動作動詞の *tuude sariku*

表 2 にあるとおり、「走る」については *tobu* と *tuudesariku* という 2 つの形が現れた。まず *tobu* は徒競走などのコースが決められた状況、始点から終点が決められた状態で走ることを示している。この動詞は他の主体動作動詞と同様に進行相において -or と -tor が併用され、結果相においては -tor のみが許容される。

- (8) *ima itininensee=ga tob-i-or-u/tuu-dor-u=wai.*

今 一年生=NOM 走る-INF-IPF-PRES/走る-PF-PRES=SFP

「今 1/2 年生が走っているよ」【進行相；O/T】

- (9) *taroo=wa moo izen tuu-dor-u=kee moo hasir-ase-n=de ee.*

太郎=TOP もう 前に 走る-PF-PRES=から もう 走る-CAUS-NEG=で よい

「太郎はもう前に走っているから、もう走らせないでよい。」【結果相；T】

tuude sariku は、テ形＋補助動詞の補助動詞構文であり、*sariku* は「歩く」の本動詞用法から文法化したものである。「～してまわる」のように「散発的・多回的な進行」を描くのに使われる (sporadic progressive; SPROG とグロスをふる)。占部(2016)によると、例えば道端を走り回る様子や、鬼ごっこなどの遊びで走っている様子を表す際に用いられる。この補助動詞構文は、それ自体が本動詞的に、*tuudesariki* という連用形の形で非完了アスペクト -or をとることができるが、興味深いことに、-or をとらなくても進行相を表すことができる。

- (10) *undoozyoo=o kodomo=ga tuu-de sarik-u=wai.*

運動場=ACC 子供=NOM 走る-て SPROG-PRES=SFP

「運動場を子どもが走っているよ」

このような点から、-te *sariku* の構文は進行相を表す補助動詞となりつつあることが伺える。ファン・デル・ルベ (2014) によると北琉球語群に属する鹿児島県沖永良部正名方言、沖縄県今帰仁謝名方言ではテ中止形＋?akkimu (あるく) (今帰仁謝名方言では?attjuN) という形式で反復、習慣を、久米島謝名堂方言 (「あるく」は?attsuN となる) ではこれらに加えて動作継続を表すことができるという。文法化の起点としてファン・デル・ルベは多回性に着目し、そこからより時間の抽象化した反復、習慣へと至るか、「歩く」という単一の動作が多回により継続しているように見えることから発展し動作継続として用いられるようになるか、あるいはその両方だと述べている。占部(2016)は、尾前方言においても(11)のような反復習慣の文脈で用いられており、文法化の経路が類似していると指摘する。

- (11) *kodomo-domo=wa hinbii oni kayaate tuu-de sarii-te*
 子供-たち=は 毎日 鬼 して 走る-て SPROG-て
kutu=mo nani=mo hum-i-yabu-ru.
 くつ=も 何=も 踏む-INF-破る-PRES
 「子どもたちは毎日鬼ごっこをして走って靴なんてぼろぼろだ」

ただし *tuude sariku* を使う場合、話者は多くの場合で *-or* を使って進行相を表している。*-tor* については進行相において使われる例はなく、完了相の場合に 1 例存在する。区別について詳しい調査を行えていないが、使用できる範囲や頻度に違いがありそうである。

5.6. 存在動詞のアスペクト対立

存在動詞は九州方言全般でよく見られる *ariyuru/attoru* 形式（イベントなど、一時的な出来事存在）に相当する *arioru/attoru* が見られる。「今、祭りがある」ときは *arioru/attoru* をいずれも用いることができるが、「さっきまで祭りがあった」ときは *attotta* しか使われない。*oru* 「いる」でアスペクト形式が現れたのは以下の 1 例のみで、過去の習慣を表す習慣相である。なお、尾前方言では、運動動詞に関しても、過去の習慣を *-or* で表すことは極めて一般的であり、むしろ義務的といってもよいほどである。

- (12) *ima=wa oran=domo mukasi=wa saru=no or.i-ot-ta.*
 今=は いない=けど 昔=は サル=NOM いる-INF-PST
 「今はいないが、昔はサルがいた。」

参考文献

- 占部由子(2016) 「宮崎県椎葉村尾前方言におけるアスペクトの体系」九州大学文学部言語学応用言語学研究室卒業論文。
 木部暢子・沖裕子・井上文子 (2002) 「テンス・アスペクト」 大西拓一郎 (編) 『方言文法調査ガイドブック』
 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキストー現代日本語の時間の表現ー』, 日本語研究叢書第 2 期第 7 巻. 東京:ひつじ書房.
 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』, ひつじ研究叢書(言語編) 第 111 巻. 東京:ひつじ書房.
 ファン・デル・ルベ, ハイス (2014) 「沖永良部語正名方言における動詞?akkimu の文法化」『琉球の方言』 39 : 75-85
 村上敬一 (1994) 「宮崎県東臼杵郡椎葉村方言のアスペクト」『方言資料叢刊』 4: 297-305.

添付資料：占部(2016)の調査データ

主体変化動詞

01. aku 「開く」

将然	mousugu mon ga akuttya nee もうすぐ門が開くんだよね
進行	mon ga akiworu wai 門が開いている（最中）よ
完了	mon ga aitoru wai 門が（完全に）開いているよ
現在の 反復習慣	asa sitizi goro ni wa, mon ga aku/aitoru mon nee 朝7時ごろには門が開く/開いているものね

02. iku 「行く」

将然	babasan ga kauyaa sentaku iku tite sinamono woba tarai ni ireworu おばあさんが川に洗濯に行くと言って洗濯物をタライに入れている
進行	sentaku mono motte kauyaa sentaku ikiworu wai （おばあさんは）洗濯物をもって川に洗濯に行っている（最中）よ
完了	babasan wa kauyaa sentaku ni itoru wai おばあさんは川に洗濯に行っているよ
現在の 反復習慣	myaahinbii kauyaa babasan wa sentaku iku/itoru ga, nani arau kasiran 毎日川におばあさんは洗濯に行く/行っているが、何を洗うのか

03. taoreru 「倒れる」

将然	ano ki wa taoresoo ni aru あの木は倒れそうだね
進行	taoreworu bai abunyaa bai （建物がだんだんと）倒れるよ 危ないよ
完了	kono hito wa kora taoreturu ga no この人は倒れているね
現在の 反復習慣	ano hito wa syottyuu taoruru kee sewa nyaa ga あの人はしょっちゅう倒れるから心配いらないよ
過去の 反復習慣	ano hito wa maya wa yuu waruu nariwottare/taorewotta domo ima wa genki ni natta noo あの人は前はよく悪くなっていたが/倒れていたが、今は元気になったね

04. suwaru 「座る」

将然	akkee suwariworu bai
----	----------------------

	[座ってはいけないところに座ろうとする人を見て咄嗟に] あそこに座ろうとしているよ
進行	suwariworu bai/ kosikakeworu bai (今まさに) 座っているよ/ (今まさに椅子に) 座っているよ
完了	suwattoru bai (次郎が)座っているよ
現在の 反復習慣	koraa konoko ga ittumo kokkee suwattotto bai これはこの子がいつもここに座っている (椅子) だよ
過去の 反復習慣	koraa mukasi kara koko no oyazi no suwattotta/suwariwotta isu bai これは昔からこの親父が座っていた椅子だよ

05. kiru「着る」

未遂	matigoote toton to ba kiroode sita 間違えてお父さんの (上着) を着ようとした
将然	ano zii wa ima uwagi wo kiru huu wai あのおじいさんは今上着を着るようだ
進行	uwagi wo kiworu wai (今まさに) 上着を着ている (最中) よ
完了	kitoru wai (もう上着を) 着ているよ
痕跡	kita huu de sokee hikkakete aru wai (上着を) 着たようでそこにひっかけてあるよ
現在の 反復習慣	myaahinbii kore bakkari kiworu gaa kore ga itiban ki ni itta to zyaroo 毎日こればかり着ているがこれが一番気に入ったのだろう
過去の 反復習慣	mukasi wa kore bakkari kitotta ga komoo basi natta to kasira 昔はこればかり着ていたが小さくなったのだろうか (最近を着ていない)

06. saku「咲く」

将然	moo kora saku wai もうこの花は咲くね
進行	tugitugi sakiworu bai 次々と (朝顔が) 咲いている (最中) よ
完了	moo syaatoru wai もう (朝顔が完全に) 咲いているよ

07. sinu「死ぬ」

未遂	yama sarikiwotta ryaa gake no haryaa ikiwotte kokete sinu toko zyatta 山を歩いていたら、崖に行っていてこけて死ぬところだった
----	--

将然	kono toryaa nani ka doo sitattyaroo ka sinikakattoru nee この鳥は何かどうかしたのだろうか死にかかっているね
進行	kozumatte sinuru/siniworu 鳥が次々と死んでいく
完了	tori no sindotto wai 鳥が死んでいるんだよ
痕跡	sindotta huu wai. ti no ato no aru (何か) 死んでいたようだ。血の跡がある
現在の 反復習慣	hinbii zunbyaa tori no sindoru ga nee 日々たくさんの鳥が死んでいるよ
過去の 反復習慣	mukasi wa zunbyaa tori no sindotta domo ima wa sukunoo natta 昔はたくさん鳥が死んでいたが今は少なくなった

08. nankorobu 「寝ころぶ」

進行 (将然?)	nankorobiwotta 寝ころぼうとしつつある
完了	kotatii nankuruudotta ryaa nemutta huu こたつで寝ころんでいた (いつのまにか) 眠ったようだ

09.utikueru 「壊れる」

将然	kono kosikakyaa utikuee kakattoru この椅子は壊れかけている
進行	ano akiya wa utikueworu kee abunyaa あの空家は壊れている (最中) だから危ない
完了	ano isu wa moo kekkuu hegen wai utikueetoru あの椅子はもう完全にだめだよ壊れている
痕跡	ano kosikake wa utikue soo ni nattotta ga katazuketa huu あの椅子は壊れそうになっていたが、片づけたようだ
現在の 反復習慣	tanbii kosikake no utikuetoru gaa 毎回椅子が壊れているね
過去の 反復習慣	mukasi wa sugu kowarewotta domo titta zyoobu ganee 昔はすぐ壊れていたが (今は) 少し丈夫になったね

主体動作客体変化動詞

10. akeru 「開ける」

将然	hako woba akeyooto sitoru zyaroo ka [箱の蓋に手を伸ばしている様子を見て]
----	--

	(どうして) 箱を開けようとしているのだろうか
進行	huta woba akeworu フタを開けている (最中) だ
完了	taroo wa huta wo aketoru gaa naka noo nan no ittoru kai 太郎はフタを開けているが中に何が入っているかい？
痕跡	taroo ga kono hako aketa/aketoru huu 太郎がこの箱を開けた/開けているようだ
現在の 反復習慣	kyoo mo huta woba aketa huu 今日もフタを開けたようだ

11. utikuyasu 「壊す」

将然	akko no ie ba huruu nattta kee utikuyaate simau to bai [機材などが古い空家を壊そうとしているのを見て] あその家を古くなったので壊してしまうのだよ
進行	ano ie woba utikuyasiworu bai あの家を壊している (最中) よ
完了	utikuyaate simoota/utikuyasitoru huu (もう家を) 壊してしまった/完全に壊しているようだ
痕跡	are ga ano kasa utikuziite ita bai [壊れた傘を見て] あの人があの傘を壊して行ったんだ
現在の 反復習慣	araa nandemo kandemo utikuyaate simau kee kasan ga ee bai あの人はなんでもかんでも壊してしまう人だから貸さない方がいい
過去の 反復習慣	syokuzyatta kara siwottare domo ima wa siworan 仕事だったから (昔は家を壊すことを) していたけれど、今はしていない

12. uuru 「植える」

未遂	uuru tokoro zyatta (間違えて) 植えるところだった
将然	nani wo ueworu dooka [苗をもって田んぼに入っている人を見て] 何を植えようとしているのか
進行	wasama nani ueworu kao あなたは何を植えている (最中) のですか
完了	nani uetoru kao 何を植えているんですか
痕跡	hana woba uete simootoru huu wai 花を植えてしまっているようだ

現在の 反復習慣	myaa hinbii ueworu/uatoru 毎日植えている
過去の 反復習慣	taue wo siwotta/sitotta/uewotta 田植えをしていた/植えていた

13. tunmoru 「折る」

未遂	enpitu wo tunmoriworu tokoro zyatta 鉛筆を折っているところだった
将然	tunmoroodo siworu [両手で枝を持っている人を見て] (今にも枝を) 折ろうとしている
進行	izen kara yeda wo tunmoriworu さっきから枝を折っている
完了	moo tunmotte simoota もう (枝を) 折ってしまった

14. niru 「煮る」

未遂	abunyaa siakusi made niwotta 危ない、しゃもじまで煮るところだった
将然	imakara baba syuru niru huu wai [鍋に具材を入れているが、火はまだついていない] 今からおばあさんは味噌汁を煮るようだ
進行	ima baba nankin wo niworu/(nitoru) huu wai 今おばあさんはかぼちゃを煮ているようだ
完了	nitoru kee kuoo yai (かぼちゃを) 煮ているから食べよう babasan wa moo nankin niagatta gotaru kee ondomo ga saryaa iruru wai おばあさんはもうカボチャがに上がったみたいだから、私たちがお皿に入れるよ
痕跡	tonari ga nankin niru huu de kaza no eerai 隣の家がかぼちゃを煮たようでいい匂いがするね
現在の 反復習慣	myaahinbii syuru wo nitoru 毎日味噌汁を煮ている
過去の 反復習慣	mukasi wa yoo baba ga nankin wo niwotta 昔はよくおばあさんがかぼちゃを煮ていた

15. atumeru 「集める」

未遂	matigoote matukasa made hiroota wai
----	-------------------------------------

	間違って松ぼっくりまで拾ったよ
将然	hi woba takoo to omotte byaara atumeworu [周りをきょろきょろとしているおじいさんを見て] 火を焚こうと思って枝を集めようとしている
進行	takimono wo toriworu 火を焚くための枝を集めている
完了	moo nizyuppon atumetoru もう 20 本も（枝を）集めている
痕跡	kore wa dare ga hiruuta to zyaroo ka [集めたものが置いてあるのを見て] これは誰が拾ったのだろうか
現在の 反復習慣	myaahinbii byaara wo atumetoru 毎日枝を集めている
過去の 反復習慣	mukasi wa mainiti byaara wo hiroiwotta/atumewotta 昔は毎日枝を拾っていた/集めていた

16. tukuru 「作る」

将然	nan sini suiziba ikiworu dooka 何をしに台所へ行っているのか
進行	hanako ga mata misosiru no tukuriwotte nioi no ee nee 花子がまた味噌汁を作っていて匂いがいいね
完了	hanako ga misosiru wo tukutte owatta huu zyakee kondo wa mesi zyaroo 花子が味噌汁を作り終わったようだから今度はご飯（を作る）だろう
痕跡	misosiru no deketoru hanako ga tukutta ttyaroo kaa 味噌汁ができている 花子が作ったのだろうか
現在の 反復習慣	hanako mo yaoikan hinbii misosiru no tukuttee 花子も大変だ 毎日味噌汁を作って

主体動作動詞

17. huru 「降る」

将然	ame no hutte kuru goto aru kee modoroo yaa 雨が降ってくるみたいだから戻ろうよ
進行	kyuu mo ame no huttee/huttoru/huriworu 今日も雨が降って/降っている
完了	ame no huttotta 雨が降っていた
痕跡	ame no hutte mizutamari no deketa huu wai 雨が降って水たまりができたようだ
現在の	hinbii ame bakkari huttee

反復習慣	毎日雨ばかり降って
過去の反復習慣	sensyuu wa ame bakkari huttee yenti mo nani mo sitosito sitoo 先週は雨ばかり降って家の中もなにもしとしとしている

18. tobu 「走る」

未遂	toboo to omotta domo tobazi yokatta 走ろうと思ったけど走らなくてよかった
将然	ima kara tobu goto sitoru 今から走ろうとしている
進行	ima itininensee ga tobiworu/ tuudoru wai 今1・2年生が走っているよ
完了	taroo wa moo izen tuudoru tyee moo hasirasen de ee 太郎はもうさっき走っているのもう走らせなくていい
痕跡	issyoo kenmee asedare natte hasitte kitaryaa muzoo kee ioo to omotta domo iwadatta 一所懸命汗だくになって走ってきてかわいそうなので言おうと思ったことがあるけど言わなかった
現在の反復習慣	gokiro zutu hinbii tobiworu tyuu ga erai ko zyaaru 5キロずつ毎日走っているって えらい子だね
過去の反復習慣	taroo ga mukasi wa hinbii tobiwotta domo ima wa miran nee 太郎が昔は毎日走っていたが今は見ないね

19. tuudesariku 「走る」

進行	maeno mini woba tuudesarikiworu 前の道を走っている
完了	tuudesariitotta domo ame no hurizyaate modotta huu 走っていたが雨が降り始めたので戻ってきたようだ
現在の反復習慣	kodomodomo wa hinbii onikayaate tuudesariite kutu mo nani mo humiyaburu 子どもたちは毎日鬼ごっこをして走って靴なんてぼろぼろだ

20. yomu 「読む」

将然	ano baasan wa sinbun yomu to zyaroo [新聞を手にとろうとするおばあさんを見て] あのおばあさんは新聞を読むのだろう
進行	izen kara hon ba yomiworu/ yuudoru さっきから本を読んでいる
完了	baasan ga sinbun yuudotta tyakee baasan ni kite mita naryaa dooka

	おばあさんが新聞を読んでいたから、おばあさんに聞いてみたらどうか
痕跡	koraa moo dareka ga yuuda ato zya naa [よれた新聞を見て] これはもう誰かが読んだ後だな
現在の 反復習慣	uti no baasan wa itumo sinbun wa yomu to yo/yuudotto yo うちのおばあさんはいつも新聞を読むんだよ/読んでいるんだよ
過去の 反復習慣	mukasi wa yuudotta toraa denee ima wa terebi bakari mitoru 昔は（新聞を）読んでいたんだけどね 今はテレビばかり見ている

21. oyogu 「泳ぐ」

将然	ano hito wa ima kauyaa iroode sitou naa あの人は今川に入ろうとしているね
進行	ano hito wa oyedoru/oyogiworu あの人は泳いでいる
痕跡	kono hito wa oyedotta to zya naa [髪が濡れているのを見て] この人は泳いでいたんだな
現在の 反復習慣	araa myaahinbii kauyaa itte oyedoru あの人は毎日川に行って泳いでいる
過去の 反復習慣	araa mukasi wa yuu kauyaa oyedotta domo ima wa ikan goto natta ga nee あの人は昔はよく川に行って泳いでいたけれど今は行かなくなったね

22. sawaru 「触る」

将然	ano nusutoinu wa tee yattara nigeta あのバカ犬は（触ろうとして）手を伸ばしたら逃げた
進行	ano hito wa ima inu sawattoru あの人は今犬を触っている
完了	ano booke zii wa nusutoinu bakari seseitotte ikekisanyaa あのジジイは犬ばかり触っていて汚い

23. moyasu 「燃やす」

未遂	matigoo te asita takuto made takoozi sita wai 間違って明日焼く分の薪まで焼こうとしていた
将然	hi wo takoodo siworu 火を焚こうとしている
進行	saigo no ippon ga moeworu/moyasiworu （複数あったマッチの）最後の一本が燃えている/燃やしている
完了	moyaate simoota kee tukyaa naran （マッチを）燃やしてしまったので（煙草に火を）つけることができない
痕跡	moyaata huu nee

	[焼き畑の後を見て] 燃やしたようだね
現在の 反復習慣	maitosi yabo kitte yakiworu nee 毎年焼き畑をして焼いているね
過去の 反復習慣	myaatosi yabo kitte yakiwotta 毎年焼き畑をして焼いていた

24. kaku「書く」

未遂	simoota tosyokan no hon ni syaka kakooode sita しまった図書館の本に字を書こうとした
将然	anokaa nani kakooto omottotto zyaroo [ペンを持って何かを書きだそうとする人を見て] あの子は何を書こうと思っているのだろう
進行	anoko ni wa yuu myaa yaa tegami kakiworu huu kee betina mono ni hanyaate miroo ya あの子には言わないでおこう 手紙を書いている最中のようだから別の 人に話してみようか
完了	ano hito wa tegami kyaate simoota huu kee yuubinkyokii dasi iku doo se あの子は手紙を書いてしまったようだから郵便局に出しに行くだろう
痕跡	kono zi wa taroo ga kyaata ttyaroo kaa [メモに書いてある文字を見て] この字は太郎が書いたのだろうか
現在の 反復習慣	taroo wa myaahinbii nikki wo kakiworu/ kyaatoru huu 太郎は毎日日記を書いているようだ
過去の 反復習慣	mukasi wa hinbii kakiwotta domo tikagoro wa kyaatyanyaa 昔は毎日（日記を）書いていたけれど近頃は書いていない

状態動詞

25. ogoru「怒る」

未遂	matigoote taroo wo ogoru toko zyatta 間違って太郎を怒るところだった
将然	nusuto kodomo ga warikoto suru kee ogori iku huu wai 悪がきが悪いことするから怒りに行くようだ
進行	sakki no zikan ni sensee no ogoriwotta ga nan sita ttyaroo ka さっきの時間に先生が怒っていたけれど何をしたのだろうか
完了	imamade ogottotta kee korekara moo ogoran de eega 今まで（太郎のことを）怒っていたから今からはもう怒らなくていいよ
痕跡	taroo wa nansite tonari no hanakosan ni ogotta ttyaroo [不服そうな太郎と落ち込んでいる太郎を見て]

	太郎はどうして隣の花子を怒ったのだろう
現在の 反復習慣	taroo wa nansite hinbii hinoogori bakari surudoo ka 太郎はどうして毎日怒ることばかりするのか
過去の 反復習慣	mukasi wa ogorimoori bakari siwotta ga ima wa yuu natta nee 昔は怒ってばかりだったが今はよくなったね

26. harakaku 「怒る」

完了	nani harakyaatotto zyaroo ka nee (おじいさんは) どうして怒っているのだろうか
----	---

27. kirau 「嫌う」

進行	ano otkokaa ore oba kiryaaworu あの男は私のことを嫌っている (途中で)
完了	moo kekkuu kirootoru kekkuu sukan toyo もう完全に嫌っている 完全に好きじゃないんだよ

28. omou 「思う」

進行	konya wa nani siwokkanaa to omoototto wai 今夜は (夕飯を) 何にしようかと思っている
完了	oraa kyuu wa kamisiibya ikooto omoototta domo ame no huru kee yameta 私は今日上椎葉に行こうと思っていたが雨が降ったのでやめた

29. kangaeru 「考える」

進行	ano hito wa naniyara kangaeworu/kangaetoru kee iwan hooga eega あの人は何か考えているから話しかけない方がいい
----	---

30. mieru 「見える」

将然	motitto ita nara ore ga ie no miyuru wai もうちょっと行けば、私の家が見えるよ
進行	hata no tibitto zutu miewotta 旗が少しずつ見えていた
完了	hata no tiitto mietoru wai 旗が少し見えている
現在の 反復習慣	koko wo sibaraku nobottara hata ga yuu miyuru toko ni ikuke nee ここをしばらく登ったら、旗がよく見えるところに行くからね
過去の 反復習慣	mukasi wa asokoni nobotte ittara hata no yuu miewotta domo ima wa noonatta huu wai 昔はあそこに登って行ったら旗がよく見えていたが、今は無くなったよう

	だ
--	---

31. ityaa 「痛む」

将然	koraa ato de ityaa doo [擦り傷ができてまだ痛みはない] これは後で痛いぞ
進行	koko no ityaa wai ここ（怪我した所）が痛いんだよ

6. 尾前方言の自然談話資料

新永悠人（成城大学）

6.1. はじめに

以下に、尾前方言の自然談話資料を載せる。ご提供いただいた話者は4名で、年齢は収録時（2015年9月）のものである。本談話資料は、この4名の方の自由会話である。

話者 OY	= 男性、86 歳
話者 OT	= 男性、85 歳
話者 OK	= 男性、55 歳
話者 YW	= 女性、年齢未調査

6.2. 表記と記号類

本談話資料は、1章の音韻表記を用いて、かつ以下の特殊記号類を用いる。

[]	カッコ内の音声の書き起こし and/or 標準語訳が不明または不安あり。次回以降の調査でネイティブと共に確認すべきもの。
xxx	聞き取れなかった言葉。
..	少し長い休止（pause）、または言いよどみを示す。
mm	相槌（を意図する鼻音）。共通語訳は「んん」とする。
^^	笑い声。共通語訳は「(笑)」とする。
PN	個人名

単語（自立語）、助詞（接語）ごとにスペースを入れて区切っている。複合語は語幹境界にもスペースを入れている。

6.3. 自然談話

1.
話者 OT [kyuuma] nigiyaaddoo. .. min.yoo ga.
共通語訳 [今日も]にぎやかだよ。..民謡が。
2.
話者 OK soo, soo, min.yoo ga noo.
共通語訳 そう、そう、民謡がね。
3.
話者 OT hietuki .. hietukibusi ga.
共通語訳 稗搗き .. 稗搗き節が。
4.
話者 OK min.yoo, kotosi wa [ueekee]
共通語訳 民謡、今年は[多いから]
5.
話者 OT nihyaku ..

共通語訳	二百..
6.	
話者 OK	gozyuunin zya xxx.
共通語訳	五十人だ xxx。
7.	
話者 OT	gozyuu, .. nihyaku gozyuu ttaka, nihyaku ..
共通語訳	五十、.. 二百五十と言ったか、二百..
8.	
話者 OK	mada ookatta? sukunakatta?
共通語訳	まだ多かった？ 少なかった？
9.	
話者 OT	[inya, inya, suga oohen.] nihyaku .. yonzyuu toka, yo, nihyaku [yo mei] toka, [tya gotatta kee.]
共通語訳	[いや、いや、そんなに多くない。] 二百 .. 四十とか、四、二百[余名] とか、[というようだったから。]
10.	
話者 OT	nihya, nihyaku wa dottii site mo koetotta.
共通語訳	二百、二百はどっちにしても超えていた。
11.	
話者 OK	ima made dewa nibanme gurai ni ooi.
共通語訳	今まででは二番目ぐらいに多い。
12.	
話者 OT	mm.
共通語訳	んん。
13.	
話者 OK	kesa samukatta doo.
共通語訳	今朝、寒かったよ。
14.	
話者 OT	samukatta ga nee.
共通語訳	寒かったねえ。
15.	
話者 OT	kaze [hiki zyaa syoo.] nukkattari samukattari suru kee.
共通語訳	風邪[引きそうだった。] 暑かったり寒かったりするから。
16.	
話者 OK	nee.
共通語訳	ねえ。
17.	
話者 OK	soo, soo. hi ga nukuu site noo.
共通語訳	そう、そう。陽気が温かくてね。
18.	
話者 OT	daibu moo suzusyuu naryaa sita nee. koka mata tokubetu suzusyuu wai.
共通語訳	だいぶもう涼しくなりはしたね。ここはまた特別涼しいな。
19.	
話者 OK	aki no gota ad doo nee.

共通語訳	秋のようだね。
20.	
話者 OT	aki no goto aru.
共通語訳	秋のようだ。
21.	
話者 OK	anu [ye] nu waki, [narasitata], a, akkee haka xxx
共通語訳	あの[家]の脇、[?], あ、あそこへ墓 xxx
22.	
話者 OT	xxx [soo] xxx moo
共通語訳	xxx [?] xxx もう。
23.	
話者 OK	akko nara yee noo. tikyaa kee noo.
共通語訳	あそこなら良いね。近いからね。
24.	
話者 OT	mm.
共通語訳	んん。
25.	
話者 OT	[kazuregageeyotta]
共通語訳	[?]
26.	
話者 OK	aa, ara dotti muki ..
共通語訳	ああ、あれはどっち向き..
27.	
話者 OT	konda [mukane] xxx, kita kana.
共通語訳	今度は[?]xxx、北かな。
28.	
話者 OK	eeto, nisi, eeto, minami, aa, minami, kita, higasi ka.
共通語訳	ええと、西、ええと、南、ああ、南、北、東か。
29.	
話者 OT	kita muki no ..
共通語訳	北向きの ..
30.	
話者 OK	higasi zya kee, nisi muki.
共通語訳	東だから、西向き。
31.	
話者 OK	iya, sono, are ga yo.
共通語訳	いや、その、あれがよ。
32.	
話者 OT	iya, minami zya nya?
共通語訳	いや、南じゃない？
33.	
話者 OK	inya, ano, are, zii wa dotti muku [rya], zi, mozi, .. hotoke isi no mozi yo, mozi, dotti muki?
共通語訳	いいや、あの、あれ、字はどっち向く[?], 字、文字、.. 仏石の文字よ、

- 文字、どっち向き？
34.
話者 OT [muko sinyā mukenya syuu nakaroo.] [wari dooka.]
共通語訳 [むこうの方へ向けないとしようがないだろう。] [?]
35.
話者 OK mukoyama muki dayo.
共通語訳 向山向きだよ。
36.
話者 OT zya nya.
共通語訳 じゃない。
37.
話者 OT koo yaro nee. higasi ya nya.
共通語訳 こうだろうね。東じゃない。
38.
話者 OK nnyaa.
共通語訳 いや。
39.
話者 OK yappa, yoo, OTsan, yappa kotti muki zyaro.
共通語訳 やっぱ、よう、OTさん、やっぱこっち向きだろう。
40.
話者 OT yappa ..
共通語訳 やっぱ ..
41.
話者 OK kotti muki. ano, mm aru. annoo, ..eeto tera no boozu ga yo, .. kotti, koryaa
共通語訳 hen wa yo, こっち向き。あの、んんある。あの、.. ええと寺の坊主がよ、.. こっち、ここら辺はよ、
42.
話者 OK eettoo, kee, koryaa hen wa yappa nisi muki yo. mozi ga.
共通語訳 ええっと、けえ、ここら辺はやっぱ西向きよ。文字が。
43.
話者 OK koo, namaia, namiamudabutu ga, zya kee.
共通語訳 こう、南無阿、南無阿弥陀仏が、だから。
44.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
45.
話者 OT nisi tyuu na atti ka?
共通語訳 西と言うのはあっちか？
46.
話者 OK tti, eeto kotti, koo.
共通語訳 っち、ええと、こっち、こう。
47.
話者 OT kotti zya roo.

共通語訳	こっちだろう。
48.	
話者 OK	koo, koo, koo, koo, koo ga kita zyakee noo.
共通語訳	こう、こう、こう、こう、こうが北だからね。
49.	
話者 OT	soo, soo, soo, soo.
共通語訳	そう、そう、そう、そう。
50.	
話者 OK	kotti ga kita zyakee noo.
共通語訳	こっちが北だからね。
51.	
話者 OT	soo, soo yo. koo, koo mite ori, koo mite ori, kotti ga higasi ya. koo, koo naru wa.
共通語訳	そう、そうよ。こう、こう見た時、こう見た時、こっちが東だ。 こう、こうなるわ。
52.	
話者 OK	minami, higasi, nisi.
共通語訳	南、東、西。
53.	
話者 OK	motiitto koo zya mon. moo tyoi koo.
共通語訳	もうちょっとうだもの。もうちょいこう。
54.	
話者 OT	[zyaru] kee, tiitto koo, .. mukoo [ni site mo], tiitto [katabukureen] yo. .. soo senya mairaren mon nee.
共通語訳	[だ]から、ちょっとう、..向こう[にしても]、ちょっとう[?]よ。..そうし なければお参りできないもんね。
55.	
話者 OK	[naa ne], mae no hoo ni motte kurya yoo. [wawa] kara mawatte, koo mawareba yoo.
共通語訳	[なんで]、前の方に持って来ればよ。[?]から周って、こう周ればよ。
56.	
話者 OT	iya, moo doose, mae no hoo kara [maireba] ..
共通語訳	いや、もうどうせ、前の方から[参れば] ..
57.	
話者 OK	ara, [annee] dogya [sitorya]. tokorode.
共通語訳	あれは、[?]どう[しているか]。ところで。
58.	
話者 OT	ma, massugu [wai].
共通語訳	ま、まっすぐ[だよ]。
59.	
話者 OK	aa?
共通語訳	ああ？
60.	

話者 OT
共通語訳

61.

話者 OT
共通語訳

62.

話者 OK
共通語訳

63.

話者 OK
共通語訳

64.

話者 OT
共通語訳

65.

話者 OK
共通語訳

66.

話者 OT
共通語訳

67.

話者 OK
共通語訳

68.

話者 OT
共通語訳

69.

話者 OK
共通語訳

70.

話者 OT
共通語訳

71.

話者 OT
共通語訳

72.

話者 OK
共通語訳

73.

話者 OT
共通語訳

74.

話者 OK
共通語訳

massugu [iteyo]. kotti mitoru wai.
まっすぐ[?]. こっち見ているよ。

nisyaa kotti [zyaru] kee, koo.
西はこっち[だ]から、こう。

tittooo minami muki sitoru.
ちょっと南向きになっている。

nnya nisi zya ne. kotti wa higasi zya wa.
いや、西じゃない。こっちは東だわ。

soo, kotti wa higasi [yaru koowa].
そう、こっちは東[?].

minami muki sitoru.
南向きしている。

minami muki [wai].
南向き[?].

hotoke isi no zi ga.
仏石の字が。

mm.
んん。

daitai sogyaa ka.
大体そんなか。

soo yo.
そうよ。

kitamuki [tte] xxx, waree, oowada no hoo.
北向き[?]xxx、お前、大和田の方。

iya, kita muki zya nee. nisi muki zya.
いや、北向きじゃない。西向きだ。

nisi muki.
西向き。

taigya nisi muki site [yassen]?
大概西向きして[はいない]？

75.
話者 OK omae no tera ga yo.
共通語訳 尾前の寺がよ。
76.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
77.
話者 OT tera, nisi, kotti no hoo zya roo. kotti mitoruke, nisi ..
共通語訳 寺、西、こっちの方だろう。こっち見てるから、西 ..
78.
話者 OK zyakee nisi yo. moo taigyaa nisi yo.
共通語訳 だから西よ。もう大概西よ。
79.
話者 OT soo, soo.
共通語訳 そう、そう。
80.
話者 OT mukoo no hoo kara naname [na] nisi na?
共通語訳 向こうの方から斜め[は]西か？
81.
話者 OK ore ga e, ima, nisi zya ga. OT ozisan mo ima nisi muki sitoru wa. ima ga. ue
 mo. ^^
共通語訳 俺の家、今、西だ。OT おじさんも今西向きしているわ。今が。上も。
 (笑)
82.
話者 OT are ..
共通語訳 あれ ..
83.
話者 OK ue mo yo.
共通語訳 上もよ。
84.
話者 OT [nama] nisi .. soo, uwa muki, ue [simyayamyootottoyo].
共通語訳 [今]西 .. そう、上向き、上[?].
85.
話者 OK zyakee, soo, soo, soo, soo. zyakee, ue no ano akko mo. [anne] ga e mo. ore
 ga e [to] nisi muki. yappa age bai.
共通語訳 だから、そう、そう、そう、そう。だから、上のあのあそこも。[姉]
 の家も。俺の家[?]西向き。やっぱあんなだ。
86.
話者 OT mm, mm, mm.
共通語訳 んん、んん、んん。
87.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
- 88.

話者 OK 共通語訳 89.	boozii kiite [N].. taigyaa tasika nisimuki, hotoke isi no zii kaku mon ne. 坊主に聞いて[も]、大概確か西向き、仏石の字書くもんね。
話者 OT 共通語訳 90.	aa, haa. ああ、はあ。
話者 OK 共通語訳 91.	PN3 wa hito no yuu gotaa senkee. ^^ PN3 は人の言うようにはしないから。(笑)
話者 OT 共通語訳 92.	nnya .. [nisi cjuu] naryaa, maari, [uri] ga .. いや、.. [西という]なら、まわり、[?]が ..
話者 OK 共通語訳 93.	^^ (笑)
話者 OK 共通語訳 94.	noo. tootyan. noo. なあ。父ちゃん。なあ。
話者 OY 共通語訳 95.	aa? ああ？
話者 OK 共通語訳 96.	hotoke isi no zi yo. 仏石の字よ。
話者 OK 共通語訳 97.	hotoke isi no zi yo. zi. tatut toki dotti muki .. 仏石の字よ。字。建てる時どっち向き ..
話者 OT 共通語訳 98.	tatut to zya. 建てるのだ。
話者 OY 共通語訳 99.	hotoke isi? 仏石？
話者 OK 共通語訳 100.	hotoke isi no zi wo kaku wa. namiamudabutu toka iroiro. .. dotti muki .. mi, mi, muketoru ka [tyu] yo. 仏石の字を書くわ。南無阿弥陀仏とかいろいろ。.. どっち向き .. み、 み、向けているか[という]よ。
話者 OY 共通語訳 101.	mm, mm, mm. んん、んん、んん。
話者 OT 共通語訳 102.	taturu ka [tyuu] to yo. 建てるか[という]のよ。

話者 OK 共通語訳 103.	daitai. 大体。
話者 OY 共通語訳 104.	sora moo ano .. nani .. de, na, o, menmee omuu goto [tee] .. それはもうあの .. 何 .. で、な、お、自分たち思うように[?] ..
話者 OK 共通語訳	soN nara [aNne] ga omoo goto sita kee, ^^ .. soN nara OT saN no omoo goto seeba .. それなら[?]が思うようにしたから、(笑) .. それなら OT さんの思うようにすれば ..
105. 話者 OT 共通語訳 106.	re, suumasen .. れ、すいません ..
話者 YW 共通語訳 107.	naani ga [siranta]. bonsan [kini] kikanya waka .. bonsan. 何が[?]。坊さん[に]聞かなければ、分か .. 坊さん。
話者 OK 共通語訳	[menmu] .. [naani] innya inya imamade n to minna, minna nisi muki ni sitorukee, omae no tera demo .. [?] .. [?]いやいや今までのみんな、みんな西向きにしているから、尾前の寺でも ..
108. 話者 YW 共通語訳 109.	bonsan .. ni. bonsan. 坊さん .. に。坊さん。
話者 OK 共通語訳 110.	ano, innya, omae no .. tera ttyuu ka sono, a, PN4 ga ie yo. mukasi no tera yo. あの、いや、尾前の .. 寺というかその、あ、PN4 の家よ。昔の寺よ。
話者 OT 共通語訳 111.	daitai, .. maa .. koko hen no .. 大体、.. まあ .. ここら辺の ..
話者 OY 共通語訳	hotoke isi [satta] ano .. omae .. araa .. PN4, PN4 [gata] wa erai hometa tyuu wa. 仏石[?]あの .. 尾前 .. あれは .. PN4、PN4[岩]はすごく褒めたというわ。
112. 話者 OK 共通語訳	mm. itiroo [gata] no, zyakee, nisi kara, nisi .. nisi muki ni nattoru wa, koo. .. nisi muite koo, zii ga. んん。イチロー[岩]の、だから、西から、西 .. 西向きになっているわ、こう。.. 西向いてこう、字が。
113. 話者 OT	xxx

共通語訳	xxx
114.	
話者 OY	mm.
共通語訳	んん。
115.	
話者 OT	soo ya yo. kotti kara itte .. nankasyo mo ..
共通語訳	そうだよ。こっちから行って .. 何か所も ..
116.	
話者 OK	zi ga yo. .. zyakee, ore ga e no, ore ga e n to mo, ue n to mo, [wara] nisi miitoz zya nyaa ya. zii yo. hotoke isi no zi. koo.
共通語訳	字がよ。.. だから、俺の家の、俺の家のも、上のも、[?] 西向いている んじゃないか。字よ。仏石の字。こう。
117.	
話者 OT	ehhe.
共通語訳	えっへ。
118.	
話者 OY	ano yo.
共通語訳	あのよう。
119.	
話者 OK	zyakee, aryaa dotti multe mo eemon zyaroo ka tyuu hanasi yo.
共通語訳	だから、あれはどっち向いても良いものだろうかという話よ。
120.	
話者 OY	ano .. sore .. ima wa moo [wyeetekatyee] dotti de mo mukete aru wake zyarukee, i, ima no ningen domo ..
共通語訳	あの .. それ .. 今はもう[?]どっちでも向けてあるわけだから、い、今 の人間たち ..
121.	
話者 OT	xxx
共通語訳	xxx
122.	
話者 OK	^^ maa, sora soo zyakeedo, ima wa sora moo boti ^^ [meimei myaa]
共通語訳	(笑) まあ、それはそうだけど、今はそれはもう墓地 (笑) [?]
123.	
話者 OT	^^ so, ma, ma, mae [zi eekoto wai mo]
共通語訳	(笑) そう、ま、ま、前[?]
124.	
話者 OY	kita makura no nisi muki [tti] te yuuta mono yo.
共通語訳	北枕のニシ向き[?]って言ったものよ。
125.	
話者 OT	soo yo. soo yo. mm.
共通語訳	おうよ。そうよ。んん。
126.	
話者 OK	sore, sore, sore, soo.
共通語訳	それ、それ、それ、そう。

127.
話者 OT kita makura wa nisi muki.
共通語訳 北枕はニシ向き。
128.
話者 OK zyakee, mukasi wa sogee zya wa. daitai noo.
共通語訳 だから、昔はそうだわ。大体ね。
129.
話者 OY mm. minna [soizya].
共通語訳 んん。みんな[そうだ]。
130.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
131.
話者 OK kita makura no nisi muki. zyakee .. sisi no [hwyaahuri] [kit] toki moo kita
makura no nisi muki wyeete, [hwyaahuri] [kittyaro]?
共通語訳 北枕のニシ向き。だから .. イノシシの[?][着る]時も北枕のニシ向き置
いて[?][着るだろう]?
132.
話者 OT makura wa ..
共通語訳 枕は ..
133.
話者 OY soo, soo, soo, soo, soo ..
共通語訳 そう、そう、そう、そう、そう ..
134.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
135.
話者 OK ^^ noo.
共通語訳 (笑) ねえ。
136.
話者 OY sonnaredomo [in] .. anoo .. moo ima [kwaso] zyarukee .. dotti miitoru yara
wakaran wai.
共通語訳 そうだけれども[?] .. あのー .. もう今[火葬]だから .. どっち向いて
いるやら分からないわ。
137.
話者 OT ima [kane] ..
共通語訳 今[?] ..
138.
話者 OK ^^
共通語訳 (笑)
139.
話者 OK ^^
共通語訳 (笑)
- 140.

話者 OT 共通語訳 141.	^^ .. kitamakura [tyen] .. wakaran. (笑) .. 北枕[?] .. 分からない。
話者 OT 共通語訳 142.	[aa ita] [?]
話者 OK 共通語訳 143.	dotti mite ^^ .. xxx どっち見て (笑) .. xxx
話者 OT 共通語訳 144.	sore to .. [kwa, kwaso] sen mono un to ga, [ware] .. それと .. [火、火葬]しない者いるのが、[お前] ..
話者 OY 共通語訳 145.	aa? ああ？
話者 OT 共通語訳 146.	mukasi [kwaso] sen mono un taa yappari .. kita maku .. 昔[火葬]しない者いるのはやはり .. 北枕 ..
話者 OK 共通語訳 147.	kita makura no nisi muki yo noo. soo, soo. yappa soo. zyaro? ore ga .. ore mo soo omote, zyakee, sisi no [hwyaahuri] [kit] toki yo. 北枕のニシ向きよね。そう、そう。やっぱそう。だろ？ 俺が .. 俺も そう思って、だから、イノシシの[?][着る]時よ。
話者 OY 共通語訳 148.	mm. んん。
話者 OY 共通語訳 149.	soz zyakee yo. .. itiban .. それだからよ。.. 一番 ..
話者 OT 共通語訳 150.	mm. んん。
話者 OT 共通語訳 151.	mm. kita .. んん。北 ..
話者 OK 共通語訳 152.	kita makura no nisi muki site weete, [hwyaahuri] kirukee, .. 北枕のニシ向きして置いて、[?]着るから、..
話者 OT 共通語訳 153.	ai, hai, hai. はい、はい、はい。
話者 OK 共通語訳 154.	zyakee, .. mukasi no haka wo mitara yappa .. nisi muki nate .. だから、.. 昔の墓を見たらやっぱ .. ニシ向きになって ..

話者 OT	mm, mm.
共通語訳	んん、んん。
155.	
話者 OY	mm, soo yo.
共通語訳	んん、そうよ。
156.	
話者 OK	[huriitaa].
共通語訳	[古いのは]。
157.	
話者 OT	aa [huriitaa] soo yuu koto bai [sai]. xxx wa OY ani no yuu koto wakaran
	yuute ..
共通語訳	ああ[古いのは]そういうことだ[?]. xxx は OY 兄の言うこと分からないと言って ..
158.	
話者 OK	soo.
共通語訳	そう。
159.	
話者 OK	mm.
共通語訳	んん。
160.	
話者 OK	^^ zyakee, son nara [PN5 ziisan] wa [kaso] sitakee, sono [hi], [hi], minami
	muki .. ^^
共通語訳	(笑) だから、そんなら[PN5 じいさん]は[火葬]したから、その[?], [?], 南向き .. (笑)
161.	
話者 OY	so, soz zya, soz zyakee yo.
共通語訳	そ、それだ、それだからよ。
162.	
話者 OT	xxx
共通語訳	xxx
163.	
話者 OY	ima wa .. [aigahite].
共通語訳	今は .. [?].
164.	
話者 OT	soo yo.
共通語訳	そうよ。
165.	
話者 OY	ano ..
共通語訳	あの ..
166.	
話者 OT	zyakee mata ziisaN [nontatto].
共通語訳	だからまたじいさん[?].
167.	
話者 OK	zyakee, [konaa] OTsan wa menmee de .. ma, OTsan no yuu koto wa

共通語訳	an no zya kee. ^^ だから、[今度は]OT さんは自分で .. ま、OT さんの言うことはある のだから。(笑)
168. 話者 OY 共通語訳	[tuimootti] [?]
169. 話者 OT 共通語訳	soo, soo, soo, soo senyaa, [ware] .. [konnyaa] .. そう、そう、そう、そうしなければ、[お前] .. [今度は] ..
170. 話者 OY 共通語訳	xxx xxx
171. 話者 OK 共通語訳	sore kodomo ni .. kodomo ni yuute kikasetokaanya. それ子供に .. 子供に聞かせておかなければ。
172. 話者 OT 共通語訳	soo yo. そうよ。
173. 話者 OK 共通語訳	^^ (笑)
174. 話者 OY 共通語訳	anoo [hotte] mitoryaa .. aa koraa yuu nisi mukkee sitoru bai nee. .. kita, ano, kita makuryaa site [aaga] sitoru bai nee [ti yute] mitattai. あの[掘って]見ていると .. ああこれはよく西向きしているわね。.. 北、あの、北枕して[?]しているわね[?]見ていた。
175. 話者 OT 共通語訳	[hodomatubyaa] mon. [?]もの。
176. 話者 OK 共通語訳	mm. んん。
177. 話者 OT 共通語訳	kita muki. 北向き。
178. 話者 OT 共通語訳	mm, mm, mm. んん、んん、んん。
179. 話者 OY 共通語訳	PN1 [anyo] haka zyatta xxx ... [tyeemottirisindoruzyattokareenagasin] PN1[?]墓だった xxx ... [?]
180. 話者 OY 共通語訳	sono [hotta wori] yo. その[掘った時]よ。

181.
話者 OT mm, mm.
共通語訳 んん、んん。
182.
話者 OY mukasi no [hono] ga .. koraa yuu yappa .. kita makuryaa site, sitoru bai nee tte.
共通語訳 昔の[?]が .. これはよくやっぱ .. 北枕して、しているわねって。
183.
話者 OY tada kita makura tte nde moo, moo sotti no hoo agyaa suru dake zyaru mon naa, dotti ..
共通語訳 ただ北枕ってんでもう、もうそっちの方ああするだけだもんなあ、どっち ..
184.
話者 OK ^^
共通語訳 (笑)
185.
話者 OT soo, soo, soo yo.
共通語訳 そう、そう、そうよ。
186.
話者 OK koge .. [tozi] ga kogyaa nattoki wa daitai kita makura, daitai kottii ..
共通語訳 こう .. [?]がこうなるときはだいたい北枕、だいたいこっち ..
187.
話者 OY ima.
共通語訳 今。
188.
話者 OY da, daitai sono gurai.
共通語訳 だ、だいたいそのぐらい。
189.
話者 OT daitai [senyaa] moo daitai yo.
共通語訳 だいたい[それは]もうだいたいよ。
190.
話者 OY mm.
共通語訳 んん。
191.
話者 OT sore, sore koso ano .. zisyaku motte itte suuryaa en domo nee.
共通語訳 それ、それこそあの .. 磁石持って行ってすれば良いけどもね。
192.
話者 OY sore.
共通語訳 それ。
193.
話者 OT ^^
共通語訳 (笑)
194.
話者 OK mm.

共通語訳	んん。
195.	
話者 OY	soz .. soz zyarukee, mukasi kara yu, yuu wotta. are. higasi [yugawa] ni minami kido tti te yuute naa.
共通語訳	そ .. それだから、昔から言、言っていた。あれ。東[湯川]に南木戸って言ってなあ。
196.	
話者 OT	^^
共通語訳	(笑)
197.	
話者 OY	higasi no hoo ga [yuugawa] de, minami no hoo ga kido.
共通語訳	東の方が[?]で、南の方が木戸。
198.	
話者 OT	mm.
共通語訳	んん。
199.	
話者 OT	mm. soo, soo.
共通語訳	んん。そう、そう。
200.	
話者 OY	[sozi] ga moo sonna mono tte.
共通語訳	[?]がもうそんなものって。
201.	
話者 OK	mm.
共通語訳	んん。
202.	
話者 OY	mm.
共通語訳	んん。
203.	
話者 OK	ma, [tomo] ga noo, koryaa sono tikei de noo, mi, mizu no dotti, [kama] wa dotti kara, kamade .. wa deru ka, kamasaki kara deruka de sono .. doozi wo dotti ni motte kuru ka noo.
共通語訳	ま、[?]がね、これはその地形でね、み、水のどっち、[方向]はどっちから、カマデ（畑に向かって右上手）.. は出るか、鎌先（畑に向かって左上手）から出るかでその .. 土間をどっちに持って来るかね。
204.	
話者 OY	soz zyaru kee ..
共通語訳	それだから ..
205.	
話者 OT	soo, soo yo.
共通語訳	そう、そうよ。
206.	
話者 OT	soo, maa soo iu koto yo.
共通語訳	そう、まあそういうことよ。
207.	

話者 OY 共通語訳 208.	soz zyarukee, anoo .. mm. それだから、あの .. んん。
話者 OY 共通語訳 209.	[kumano] baki zyatta .. aN .. zyatta to [ne] yo. [?] おばさんだった .. あの .. だったの [?] よ。
話者 OT 共通語訳 210.	mm. んん。
話者 OY 共通語訳 211.	akko, ara [zikakutee]torooga? あそこ、あれは [?] しているだろうか？
話者 OT 共通語訳 212.	mm, mm, mm. んん、んん、んん。
話者 OK 共通語訳 213.	mm, mm. んん、んん。
話者 OY 共通語訳 214.	[yosikakitukuuri] soi zya yuukee, ima naryaa ano, da, dekut to zyarekee, sogyaa [iimesee] ti te .. [?] そうだと言うから、今ならあの、だ、できるのだから、そう[?]と 言って ..
話者 OT 共通語訳 215.	mm, mm. んん、んん。
話者 OY 共通語訳 216.	ore ga ano .. kido o ba ano kotti ka, a, kotti kara mukasi no kido o ba hiki .. [hityaa wana] to yuukee yo. 俺があ の .. 木戸をあのこっ ちか、あ、こっ ちから昔の木戸を引き .. [?] と言うからよ。
話者 OY 共通語訳 217.	sora dekuru ga. deken kotaa na. ore ga naani ka site son toki mo oran. [orezya .. keru]. それはできるよ。できないことはな (い)。俺が何かしてそのときもい ない。[?]
話者 OY 共通語訳 218.	soz zyarukee, dekuruka ttute ore ga moo, mae no hi [zyatyurooze]. それだから、できるかと言って俺がもう、前 の日[だと言っている]。
話者 OY 共通語訳 219.	[yuutate] [aga, sogya] ore ga .. sore site yaroo to omoute yo. [言ったので][ああ、そう]俺が .. それしてやろうと思っ てよ。
話者 OT 共通語訳	mm んん。

220.
話者 OY sore .. koko o ba, kido o ba tukutte aru. sogyaa ie wa dekuruka tte ore ga
yuute ..
共通語訳 それ .. ここを、木戸を作っている。そんな家は出来るかって俺が言っ
て ..
221.
話者 OY koko ga kido zyarukee, .. yue tte yute, daa yappa .. syooziki nakee yuuta
monoo, yuute mo sedatta mono ka, .. yuwadatta mono ka, dotti ka yo.
共通語訳 ここが木戸だから、.. 言えって言って、やっぱ .. 正直だから言っただけ
れど、言ってもしなかったものか、.. 言わなかったものか、どっちか
よ。
222.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
223.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
224.
話者 OY soi zya kee, imaa .. ano PN1 ga sore kiitotte, yappa kiito, sono
[kumano] baki no yuuotta koto kiitorukee, ..
共通語訳 それだから、今 .. あの PN1 がそれ聞いていて、やっぱ聞いて、そ
の[?]お婆さんの言っていたこと聞いているから ..
225.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
226.
話者 OY atti kara kido o ba [sityaa] ti te yuute, yuuto.
共通語訳 あっちから木戸を[引きたい]と言って、言うの。
227.
話者 OT mm.
共通語訳 んん。
228.
話者 OK mm. soo, soo.
共通語訳 んん。そう、そう。
229.
話者 OK [naa] atti kara dekuru wa na.
共通語訳 [?]あっちからできるよね。
230.
話者 OY soz zyarukee ..
共通語訳 それだから ..
231.
話者 OK PN2 san ni ieba nee.
共通語訳 PN2 さんに言えばね。
- 232.

話者 OT	aa, PN2 san.
共通語訳	ああ、PN2 さん。
233.	
話者 OY	PN2 ga ano, ano, ano [inosu] no ki no sita [haroo], koo kido wo ba [hityaa]
	ti ite, a(re) .. yuu wake yo. araa.
共通語訳	PN2 があの、あの、あの[?]の木の下[?], こう木戸を[?]と言って、あ(れ).. 言うわけよ。あれは。
234.	
話者 OT	hai, hai.
共通語訳	はい、はい。
235.	
話者 OT	mm, mm, mm.
共通語訳	んん、んん、んん。
236.	
話者 OY	soz zyarukee, hahaa yappa [bukasi] .. yappa [baba] zyatta to nee yuuottakee,
	yu, soo zyaroo naa [tometoo .. moomoo] ... to yo. mm.
共通語訳	それだから、ははあやっぱ[昔] .. やっぱ[?]だったのねと言っていたか ら、言、そうだろうなあ[と]思っ .. もうもう] .. のよ。んん。
237.	
話者 OT	mm, mm, mm.
共通語訳	んん、んん、んん。
238.	
話者 OY	higasi [yugawa] no minami kido ti [soru]. .. sore kara .. koo ye, ye tukutte
	naran toko wa .. yappa ano ..
共通語訳	東[湯川]の南木戸って[?]。 .. それから .. こう家、家作ってはいけない ところは .. やっぱあの ..
239.	
話者 OY	ano .. obane[suzi].
共通語訳	あの .. 尾根[すじ]。
240.	
話者 OY	obane[ziri] ni ..
共通語訳	尾根[の先]に ..
241.	
話者 OT	mm.
共通語訳	んん。
242.	
話者 OT	mm.
共通語訳	んん。
243.	
話者 OY	obane[ziri] mo yappa ano .. ryoogawa kara tani no .. kawa no kite, itiban
	warii taa moo are yo. ima no kamisiiba zya .. ano PN6 no ..
共通語訳	尾根[の先]もやっぱあの .. 両側から谷の .. 川が来て、一番悪いのは もうあれよ。今の上椎葉じゃ .. あの PN6 の ..
244.	

話者 OT 共通語訳 245.	mm, mm. んん、んん。
話者 OY 共通語訳 246.	ano .. xxx あの .. xxx
話者 OK 共通語訳 247.	puranto, puranto no attoko. プラント、プラントのあるところ。
話者 OY 共通語訳 248.	mm. んん。
話者 OK 共通語訳 249.	[hakyaa]. [?].
話者 OY 共通語訳 250.	mm. んん。
話者 OT 共通語訳 251.	mm, mm, mm. んん、んん、んん。
話者 OY 共通語訳 252.	kuwanokibaru no waki xxx ne. .. ano puranto. 桑の木原（←地名）の脇 xxx ね。.. あのプラント。
話者 OT 共通語訳	hai, hai, mm. はい、はい、んん。

簡易語彙集

（尾前方言見出し）

A - a

aa ita simota yarisokonoota [a: ita
simota yarisokono:ta] *c.* しまった！.

aa itasayaa [a: itasaja:] ああ痛い.

abatazura [abatazura] *n.* あばたがお(あばた顔) .

abu [abu] *n.* あぶ(虻) . **abu kara kamaruru.** 虻にかまれる。

abunyaa [abuna:] *adj.* あぶない(危ない) .
sotti ittara abunyaa gai. そっちにいったら危ないよ。

aburamusi [aburamuçi] *n.* ごきぶり(ゴキブリ) . **abramusi wa kaza no warii.** ゴキブリは臭いが悪い。

ado [ado] *n.* かかと . **ado no takyaa to hundoru kee tukkokuru bai.** かかとの高い靴(ハイヒール)を履いているから転ぶぞ。

agaru [agaru] *v.* のぼる(登る) .

agi [agi] *n.* あご(顎) .

akagire [akagire] *n.* あかぎれ.

akago [akago] *n.* あかちゃん(赤ちゃん) .
akago wa erai komyaa tyuu wai 赤ちゃんはとても小さい。 **akago wa muzoo na.** 赤ん坊はかわいい。
oregae nya akago ga dekita tyuu wai 私の家に赤ん坊ができたんだよ。

akebu [akebu] *n.* あけび(アケビ) .
yuudatiakebu 大きいアケビ.

akeru [akeru] *v.* あける(開ける) . **sono to o ba akete** そのドアを開けてください。

akinyaa [akinja:] *n.* しょうばい(商売) .

akusyaa utta [akuça:utta] *adj.* あきれた。
ano ningen wa akusyaa utta あの人は呆れた人だ。

akutosi *n.* よくとし(翌年) .

akyaa [akja:] *adj.* あかい(赤い) . **ki ni akyaa mi no nattoru.** 木に赤い実がなっている。

amadoree [amadore:] *adj.* あまさがたりない(甘さが足りない) .

amame [amame] *n.* ごきぶり(ゴキブリ) .

amatigii [amatçigi:] [amatçigwi:] *adj.* 1・あますぎる(甘過ぎる) . **satoo bakka irete amatigii** 砂糖ばかり入れて甘すぎる。
2・あまさがたりない(甘さが足りない) . **kono zenzai wa amatiguu site umoo nyaa** このぜんざいは甘さが足りなくておいしくない。

ame *n.* あめ(雨) . **uzumoru to omotottaryaa ame huttyaate kita** じめじめすると思ったら(天気)雨が降ってきた。

amenbo [amembo] *n.* あめんぼ(アメンボ) .
amenbo ga wite sariku. アメンボが浮いてまわる。

amyaa [amja:] *adj.* あまい(甘い) .

amyaaazurasuru [amja:dzurasuru] *v.* あまえる(甘える) . **anoko wa amyaaazura bakkari suruga/sogyaa amayuuna** あの子は甘えてばかりいる/そんなに甘えるな。

anezyo [a'nedʒo] *n.* あね(姉) . **anezyo wa {kiryoo ga ee / yoka onago} ga nee / anne benkyoo osoete {kuren nyaa/kuren noo}** 姉は美人だ/姉さん、勉強を教えてくださいませんか。

ani [ani] *n.* あに(兄) . **oregaye no ani wa atama ga eetyuwai.** 私の兄は勉強ができる。

anisyan [aniçan] *n.* ちょうなん(長男) .

aosigaki [aoɕigakɪ] *n.* あおしがき (アオシガキ) .

aosu [aosu] *v.* しぶをぬく (渋を抜く) .
aosigaki o aosite tabemasu あおし柿を渋抜きして食べます.

aosugari [aosugari] *n.* あおすがり (アオスガリ) .

arakutamasii [arakutamaɕi:] *adj.* あらっばい. **arakutamasii koto suruna** 荒っぱいことをするな.

arare [arare] *n.* みぞれ. **arare ga hutta** みぞれが降った.

arau [arau] *v.* あらう (洗う) . **sono sentakumono aroota ga hweete ii ga** その洗濯物を洗ったけど 干していいよ.

are [are] *n.* もちとりこ (餅取り粉) .
are motte konyaa 餅取り粉を持ってこなければ.

arimusi [arimuɕi] *n.* あり (蟻) . **arimusi no esa wo hakuudoru/kuyaate ikiyuru/motte ikiworu** 蟻が餌を運んでいる.

aritorimusi [aritorimuɕi] *n.* ありじごく (蟻地獄) . *Variant: arizigoku.*

aryaa [arˠa:] *adj.* あらい (荒い) . **ano hito wa dooka ki ga aryaa ne** あの人はなんだか気が荒いね.

asa [asa] *n.* あさ (麻) . **ara asa no huku kitoru noo.** あの人は麻の服を着ているね.

asage [asage] *n.* あさげ (アサゲ) .

asatii [asataɕi:] *n.* あさつゆ (朝露) . **asatii no hikattoru** 朝露が光っている.

asedare あせ (汗) . **asedare kyaate kimotiwari ne** 汗かいて気持ち悪いね. *Morph: ase-dare.*

asi [aɕi] *n.* あし (足) .

asi no hara [aɕinohara] *n.* あしのうら (足の裏) . **asi no hara no ityaa** 足の裏が痛い.

asi no kubu [aɕi no kuɓɓu] *n.* くるぶし (?) .

asi no kuu [aɕi no ku:] *n.* あしのこう (足の甲) . **asi no kuu nu ityaa.** 足の甲が痛い.

asikata [aɕikata] *n.* あしあと (足跡) .

asobu [asobu] *v.* あそぶ (遊ぶ) . **motto benkyoo site yuu asuuda ga yu wa nai?** もっと勉強してよく遊んだほうがいいんじゃない? .

atarasii [ataraɕi:] *adj.* あたらしい (新しい) .
atarasii to koote moroota 新しいのを買ってもらった.

atete [atete] *v.* あてて (当てて) .
mukouzurani tewo atetemisai

atii [ataɕi:] *adj.* あつい (熱い) . **kono otya wa atii nee** このお茶は熱いね.

atogata [atogata] *n.* あばた (にきびあと) .

atukehiku [atukehiku] *n.* ねっちゅうしょ (熱中症) . **atukehiku** 熱中症で倒れる.

atuki [atsuki] *n.* あずき. **hie tookibi yara atuki yara o ba mazete mesi takiyotta. kome wa tiito bakari.** ひえ、とうもろこしや小豆などを混ぜてご飯を炊いていた。米は少しだった.

atukimesi [atsuˠkimeɕi] *n.* せきはん (赤飯) .
kono atukimesi wa umyaa nee. この赤飯はおいしいねえ.

atumeru [atɕumeru] *v.* あつめる (集める) .
atumete okoo ya 集めておきましょう.

atyaa [atɕa:] *adj.* あつい (暑い) .

awa [awa] *n.* あわ (粟) . **kyoo wa awa o kuta**. 今日は粟を食べた。
horakaawa tukurū mon oran. ご飯に混ぜる粟を作る人はいない。 **awa wa daitai moti ni tuku to yo**. 粟はだいたい餅につくんだよ。

awee [awe:] *adj.* あおい (青い) . **awee sora o ba mitoru nee/kinyuu no sora ga awokatta** 青い空を見ているね/昨日の空が青かった。

ayasu [ajasu] *v.* だっこくする (脱穀する) . **takakibi wo ayasitotte**. もろこしを脱穀しといて。

ayu [aju] *n.* あゆ (鮎) .

ayumu [ayumu] *v.* あるく (歩く) . **itiniti zyuppun ayuute mitanara / zippun ayuudanarya** 一日十分歩いてみてください。

aze [aze] *n.* あぜ (畦) . **aze de yokuutoru** 畦で休んでいる。

azisai [adzisai] *n.* あじさい (紫陽花) . **azisai ga syaatoru** あじさいが咲いている。

B - b

babasan [babasan] *Variant: babatyan. n.*
 1・そば (祖母) . **babasan wa muzogattekureru** 祖母は可愛がってくれる。 **babatyan no ryoori wa {umyaa/umai noo}** 祖母の料理は美味しい。 **babasan ora asita ni modoru kee noo, mattokan noo** ばあちゃん、私は明日帰ります、待っておいて下さい。
 2・うば (乳母) . **ano babasan ni hon no yuude moroota** あの乳母さんに本を読んでもらった。

baka [baka] *adj.* ばか (馬鹿) . **baka na kotoo sityaa ikanzo** 馬鹿なことをしてはいけないよ。 **an hito wa bakazuaarukee** あの人は馬鹿だから。

baki [baki] *n.* おば (伯母・叔母) . **〇〇 bakito kakasanwa nakano ee** 〇〇おばとお母さんは仲が良い。 **bakisan wa miyamyaaari iku to yaa** 伯母は今日宮参りに行く。

bebenko [bebenko] *n.* こうし (子牛) . **bebenko ga umareta tyuu wai**. 子牛が産まれたそうだ。

bero *n.* した (舌) .

bettari *adv.* たくさん。

biki *n.* あおがえる (アオガエル) .

binta [binta] *n.* あたま (頭) . **binta no ityaa** 頭が痛い。 **binta no ityaate netawano**. 頭が痛くて寝た。

bon [bon] *n.* ぼん (盆) . **bon ni hakamyaaari modotte kita yo** 盆に墓参り戻ってきたよ。

bonokudo [bo'nokudo] *n.* うなじ。 **bonokudo no ityaa kee oonyaatyaa nekiran(~neraren wai)** うなじが痛いからあおむけにならないと寝られない。

boobura *n.* かぼちゃ (カボチャの一種?) .

boozubinta [bo:zubinta] *n.* ぼうずあたま (坊主頭) .

botiboti [botɛibotɛi] *adv.* ゆっくり. **botiboti ayuman no** ゆっくり歩きなさい.

boyaa [boja:] *adj.* おそい(遅い). **akkonoko wa boyaa mon nee.** あそこの子は走るのが遅いものね.

buen [bueN] *n.* せんぎょ(鮮魚). **buen no uti hayo kuoo ya** 鮮魚のうちに早く食べようよ.

buna [buuna] *n.* ぶな(ブナ). **yama no toppen ni ikanyaa buna no ki wa nyaa** 山の頂上に行かないとブナの木はない.

bungensya [bugenɕa] *adj.* ゆうふく(裕福). **akkonee wa bungensya zyaarukee** あそこの家は裕福であるから.

bunke [bunke] *n.* ぶんけ(分家). **akko no sitaotoya wa bunksita tyuuwai** あそこの弟(長男以外の男兄弟)は分家したようだよ.

burakunomono [burakunomono] *n.* きんじょのひと(近所の人).

buru *v.* ふる(振る). **binta buru** 頭を振る.

butazyuru [butazʲuru] *V.* とんじる(豚汁).

D - d

daidaigyo [daidaigjo] *n.* さかな(昔からいる魚の総称).

daikon [daikon] *n.* だいこん(大根). **daikon o sutte kwoo ya, konya wa** 大根をすって食べましょう、今夜は.

daikon [daikon] *n.* すずしろ(スズシロ). **mukasi wa daikon wa suzushiro to wa iwadatta** 昔はダイコンをすずしろとは言わなかった.

daiku [daiku] *n.* だいく(大工). **yee daiku dza aruga.** 良い大工だ.

daku [ˈdaku] *v.* だく(抱く). **niigurumi dyaata** めいぐるみを胸に抱く.

damakurakasu [damakʏrakasʊ] *v.* だます(騙す). **damakurakyaatyaa ikanzoo** だましてはいけないよ.

dandan [dandaN] *intj.* ありがとう. **dandan nawo** ありがとうございます.

dara [dara] *Variant: dara no me.* [dara no me] *n.* たらのめ(タラの芽). **dara wa tenpura ni site kuu hoka nyaa** タラの芽は天ぷらにして食べるしかない. **dara no me wa tenpura ni sitari sumiso o tuku to umyaa zee** タラの芽は天ぷらにしたり酢味噌をつけるとおいしいですよ.

daranoki [daranoki] *n.* たらのき(タラノキ).

darasinyaa [daraɕina:] *adj.* だらしない. **daraɕina: kakko:wa suna** だらしない格好はするな.

dareru [dareru] *Variant: daruru.* *v.* つかれる(疲れる). **darete igoken wai** 疲れて動けない. **erai daretoru ga.** とても疲れている.

dasu [dasu] *v.* だす(出す). **zyaate kuren no** 出してください. **tegami zyaata** 手紙を出した.

debutin *n.* おでこ.

dekemono [dekemono] *n.* できもの. **dekemono dekotoru.** できものができている.

denwa zo *intj.* でんわだよ（電話だよ）.

deru [*deru*] *v.* でる（出る）. **detyaa ikuna** 出ていくな.

detti [*detʃ:i*] *Variant: dettigo. n.* むすこ（息子）.

detti [*dettɕi*] *n.* おとこのこ（男の子）. **detti boozu wa...** 男の子は...

dobuzake *n.* どぶろく.

dokie [*dokɿe*] *interrogative.* どこへ.

dokkee ikuyaa [*dokkeɪ ikuyaɪ*]

dokubana [*dokubana*] *n.* うすききぬがさたけ（ウスキキヌガサタケ）. **dokubana no oetoru** ドクバナが生えている.

domo [*domo*] *sfx.* たち（達）. **kodomodomo kite kwasidomo kuei** 子供達、来てお菓子を食べなさい.

domo *part.* 〜でも. **na domo hiite kon no** 菜っ葉でもひいてこないか.

donguri [*donguri*] *n.* どんぐり. **kasinomigonnyaku ga dekuru.** どんぐりごんにやくができる.

doo *part.* でしょう. **iwan demo wakarudo.** 言わなくてもわかるでしょう.

doodemokoodemo *adv.* むりやり（無理矢理）.

doozi [*do:zi*] *n.* どま（土間）. **kudo ga attedoozi ga atte.** 台所があって土間があって.

dosi [*dosi*] *n.* ゆうじん（友人）. **araa ore ga dosi tai** あれは私の友人だ.

dottikottya nyaa [*dottɕikottjanjaɪ*] *adj.* にたりよったり（似たり寄ったり）. **kokohen no misyaa doke ite mo dottikottya nyaa** こころ辺の店はどこに行っても似たり寄ったりだ.

doyasu [*dojasu*] *v.* なぐる（殴る）. **doyaataarya te no ityaa** 殴ると手が痛い.

E - e

ego [*ego*] *n.* かわのぶぶん（川の部分の一種）.

-en *sfx.* 〜できない. **inu mo ikien toko** 犬も行けないところ.

erai [*erai*] *adv.* ひじょうに（非常に）. **erai sami:** 非常に寒い.

eree [*ereɪ*] *adj.* かんぺきだ（完璧だ）. **anta no e wa eree naa** あなたの絵は完璧だなあ.

esiren [*ɛɕiren*] *adj.* えたいのしれない（得体の知れない）. **ano hito wa esiren hito zya** あの人は得体の知れない（すごい）人だ. **esiren hito ga kitoru yo** 知らない人が来ているよ. **esiren hutee ki o kittaweeta. dare iran zya taosyaa en bai.yappa** **honsyokunin zya aru bai** とても大きな木を切り倒した。誰でもは倒せないよ。やっぱり本職人（山師）だなあ.

G - g

ga [ga] *n.* が (蛾) . **ga ga tuudoru.** 蛾が飛んでいる。

gake [gake] *n.* がけ (崖) . **akko gake aru kee** あそこに崖があるから. **gake no aru kee, abunyaa zo!** 崖があるから、危ないぞ！.

gakippara [gakippara] *n.* がけ (崖) .

gamadasu [gamadasu] *v.* はたらく (働く) . **gamadasanya nangi suru** 働かないと貧乏する.

gameku [gameku] *v.* なきわめく (泣きわめく) .

ganbaranya [gambarana] *v.* がんばらなければ (頑張らなければ) . **sinboosite ganbaranya** 辛抱して頑張らなければならぬ.

ganbaru [gambaru] *v.* がんばる (頑張る) . **ganbari** 頑張りなさい.

ganko [gan] *adj.* がんこ (頑固) .

gantuuwara [gantsu:wara] *n.* がんせきのおおいところ (岩石の多いところ) . **gantuuwara ni ittara abunyaa gal/gantuuwara ni ita narya sorasora abunyaa ga!** 大きな岩がごろごろしているところに行ったら危ないぞ！/大きな岩がごろごろしているところに行くと、ほらほら危ないぞ！.

gata [gata] *n.* いわ (岩) . **mukoobiryaa ikyaa gata ga aru bai** 向こう側に行けば岩があるよ.

gatawara [gatawara] *n.* いしはら (石原) . **gatawara de kodomo ga asuudooru/asoodooru** 石原で子供たちが遊んでいる. **gatawara ayumyaa abunyaa bai** 石原を歩くと危ないよ.

gatoo [gato:] *adj.* あらっばい. **gatoo suruna** 荒くするな.

gawappa [gawappa] *n.* かつぱ (河童) .
Variant: **hyoosuboo.**

-gee *sfx.* へしに. **kooyoo migeo itte kuu wai.** 紅葉みにいってくるよ.

gettuu *n.* びり (ビリ) . **gettuu zyatta domo ee ga** 最下位だったけどいいよ.
Morph: **biri-gettuu.**

gime [gime] *n.* きりぎりす (キリギリス) .
Variant: **gime no gotaa 「キリギリスのようだ (e.g. 瘦せた人をみて) 」.**

gime *n.* ばった (バッタ) .

gisi [gi:si] *n.* かわぎし (川岸) . **nonbori tutte noboroo ya** 釣っては登り、釣っては登ろうか.

goboo [gobo:] *n.* ごぼう (ゴボウ) . **ora a goboo no kinpira wa zyoozu zyaru ga nee** 私はごぼうのきんぴら (を作るの) は上手だからねえ.

gogyoo [gogjoo] *n.* ごぎょう (ゴギョウ) .
gogyoo wa nanakusa ni iretyaa nakatta 御形は七草に入れていなかった.

gohee *n.* らんぼうもの (乱暴者) . **kono gohee ga!** この乱暴者め！.

gonnyaku [gonjaku] *n.* こんにやく (コンニャク) . **gonnyaku wa nisime ni irete mo umyaa. sumiso de kutemo umyaa** こんにやくは煮しめに入れてもいいし. 酢味噌で食べてもいいし.

gonzoobati [gonzo:bat:si] *n.* ごんぞうばち (ゴンゾウバチ) .

goo [go:] *n.* はこ (箱) .

goto kayasu [phr] へようにする. **いうとおりにする.**

gottyeusi/gotteusi [gottæu:si/gotteu:si] *n.* おすうし (雄牛) . **hutyee gotee si no yasinootoru** 大きい雄牛を養っている. *Variant:* **otokousi; kotyeego.**

gotyaa [gotɕa:] *n.* からだ（体）. **gotyaa ga ityaa.** 体が悪い。 **gotyaa o igokase.** 体を動かそう。 **gotyaaazyuu ityaa wano.** 体中が痛い。

gyaake [gja:ke] *n.* 1・かぜ（風邪）. **gyaake no sitiitoru** 風邪をひいている。

2・ぜんそく（喘息）。

gyaazenboo [gja:zenbo:] *n.* やせている（痩せている）。

H - h

ha *n.* は（歯）. **atarasii ha no oeta./ha ga nugeta** 新しい歯がはえた/葉が抜けた。

haberyoo [haberjo:] *n.* ちょう（蝶）。
haberyoo no zunbyaa kite 蝶がたくさんきて（いる）。

haebae [haebae] *n.* とおいところ（遠いところ）. **haebae ni ori ga togi ga oru** 遠いところに私の友達がいる。

hagebinta [hagebinta] *n.* はげあたま（禿頭）。

hakkaburu [hakkaburu] *n.* はく（吐く）。

hakobera [hakobera] *n.* はこべら（ハコベラ）. **hakobera ga yawarasiku narugoto tukuru** はこべらが柔らかくなるようにつくる。

hamuru [hamuru] *v.* みにつける（身に付ける）. **tekubi ni tokee o hamuru** 手首に時計をつける。

hanaogura [hanaogura] *n.* はなおくら（花オクラ）. **hanaogura wa kuse ga noode umyaa** 花オクラはくせがなくておいしい。

hanaretya [hanaretɕa] *v.* はなれては（離れては）. **hanaretya ikunai** 離れてはいけない。

hanarurya [hanaretɕa] *v.* はなれるのは（離れるのは）. **hanarurya hegenwai** 離れるのはいけない。

hanaryadeken [hanarɿadeken] *v.* はなれられない（離れられない）。

hanasikata [hanaɕikata] *n.* はなし（話）.
sensee ga imakara hanasikatasite kikaseruttyuukee ittoki damattore 先生が今から話をするからちょっと黙ってなさい。

hanasu [hanasu] *v.* はなす（離す）. **sono kodomo kara me o hanasyaa hegen ga.** その子から目を離したらだめ。

hanasu [hanasu] *v.* はなす（話す）. **nani mo hanasazi kaetta gana / nani mo iwazi modotta no** 何も言わずに帰った。

hara [ha'ra] *n.* おなか（お腹）. **hara no(~ga) ityaa** おなか痛い。

hara koppei *adv.* はらいっぱい（腹いっぱい）。

hara zunbyaa はらいっぱい（腹いっぱい）。

harantatu [harantatsu] *v.* はらがたつ（腹が立つ）. **waryaa harantatu koto bakkari suruga** お前は腹の立つことばかりするなあ。

harawata [harawata] *n.* ないぞう（内臓）.
harawata dasanyaa. （動物の）内臓を出さなければ。

harinomimi [harinomimi] *n.* はりのあな（針の穴）. **harinomimi no toosi nikii mon nee.** 針の穴が通しにくいもんね。

harooda *v.* はらむ (孕む) . **ano hito wa harooda** あの人は身ごもった.

haru [ha'ru] はる (貼る) . **bansookoo o hattoru** 絆創膏を貼っている.

hatake [hatake] *n.* はたけ (畑) . **hatake miru** 畑を見る.

hatatesuru [hatatesuru] *Variant: hasuru;* **suru.** *v.* する (擦る) . **noko no hasuranya kirenzo sorya.** 鋸をやすりで擦らないと切れないぞ、それは.

hatikentobi *n.* かえる (カエル) .

hatiku [hatɕiku] *n.* たけのこ (タケノコ) . **hatiku wa kansoo sasete kara nisime ni suru nee** たけのこは乾燥させてから煮しめにするねえ.

hatoko [ha'toko] *n.* はとこ. **hatoko ni ikinari oota wa** はとこに偶然会った.

hayoo [hajo:] *adv.* すぐに. **hayoo modotte kee** すぐに戻っておいで. **hayoo usemodore** 早くうしろ.

hazenoki [hadzenoki] *n.* はぜのき (ハゼノキ) . **haze ga iro no tiitoru/tiite kita** ハゼが紅葉している/紅葉してきた.

he [he] *n.* へ (屁) . **hee hirikaburu.** 屁を漏らす. **hee sitta.** 屁をこいた.

hege *n.* だめ. **aa, hege datta** ああ、だめだった.

hegen [hegen] *adj.* つまらない.

hegen [hegen] *adj.* だめだ. **ano hito wa sigoto mo hegen** あの人は仕事もだめ (しっかりやらない) .

hegenasi [hegenasi] *n.* つまらない人. **araa hegenasi** あの人はつまらない人ね.

hegenasi [hegenasi] *n.* よわむし (弱虫) . **hegenasi zyaru kee gameete bakari oru** 弱虫だから泣いてばかりいる.

-hen *sfx.* へらへん. **kokohen** こころへん. **nanihen** いろいろ.

herasu [herasu] *v.* へらす (減らす) . **tiito heryaate kure** 少し減らして.

heso [heso] *n.* へそ (臍) .

heso no wo [heso no wo] *n.* へそのお (臍の緒) . **heso no wo kiranya.** 臍の緒を切らなければ.

hetima [hetɕima] *n.* へちま (ヘチマ) . **hetima wa ie no sudaregawari ni uetotte mi ga nattara tawasigawari ni tukau to yoo. taberaren ken nee** ヘチマは家のすだれ代わりに植えて実がなったらたわし代わりに使うのですよ. 食べられないですからね.

hidee [ɕide:] *adj.* ひどい. **ano hito wa hidee naa** あの人はひどいなあ. **hidee kota yuuna** ひどいこと言うな.

hie [ɕie] *n.* ひえ (ヒエ) . **kyoo wa hiekari siyoo ya.** 今日はヒエ刈りをしようよ.

higanbana [ɕigambana] *n.* ひがなばな (彼岸花) . **higanbana ga syaatoru.** 彼岸花が咲いている. **higanbana ga aru domo doku tyuu kee nee.** 彼岸花があるけど毒だということからね.

higemusi [ɕigemɯɕi] *n.* けむし (毛虫) . **higemusi ni sasaretanaryaa te no tadaruru** 毛虫に刺されると手がかぶれる. *Variant: kemusi.*

hiibaasan [hi:'ba:sa:n] *n.* そうそぼ (曾祖母) . **hiibaasan mo genki ni sitoru wai** 曾祖母も元気です. **oregaye no hiibaasan wa hyakusaimade ikitawai** 私の曾祖母は100歳まで生きた.

hiiziisan [çi:dzai:san] *n.* そうそふ (曾祖父) .

hiizisan mo mada genki ni sitoru wai

曾祖父はまだ元気だ. **oregae no**

hiiziisan wa tasyanisitoruyo 私の曾祖父は元気になっている。

hikarakasu [çikarakasu] *v.* ひからせる (光らせる) . **hikarakyaate** 光らせて.

hikiware [hikiware] *n.* などうふ (菜豆腐) .

hikokaburyuu [çikokaburju:] *n.* さなぎ (蛹) . **hikokaburyuu o matigoote**

tukoodara tumisiida. 蛹を間違っ
つかんだら潰れてしまった。

himago ['himago] *n.* ひまご (曾孫) . **himago ga umareta tyuu wai** 曾孫が生まれた
そうだ.

himawari [çimauari] *n.* ひまわり (ヒマワリ) . **himawari ga sasan** ヒマワリが
咲かない.

hinoasobi [çinoasobi] *n.* いちにちじゅう
あそぶこと (一日中遊ぶこと) .
kozukaware mo kayasazi hinoasobi
bakkari site iru 手伝いもしないで
一日中遊んでばかりいる。

hirikaburu [çirikaburu] *v.* 1・もらす (大便を漏らす) .
2・へをする (屁をする) .

hiru [çiru] *v.* だいべんをする (大便をする) . **hitta.** (大便を)した。

hiruute [çiru:te] *v.* ひろって (拾って) .

hittamagaru [çittamagaru] *v.* おどろく (驚く) . **kyuuni kiitakee hittamagattawai**
急に聞いたからとても驚いたよ.

hittiite [hittçi:te] *v.* くっついて. **akko no garasii nya nanka hittiitoru mon nee.**
あそこのガラスには何かくっついて
いるもんね。

hiyaa [çija:] *adj.* さむい (寒い) .

hiyaata [çija:ta] *v.* ひやした (冷やした) .
hiyaata ga yeega 冷やした方がいい.

hiyaate

hizen [çizen] *n.* しっしん (湿疹) . **hizen wa mata ni dekuru yatu.** 「ひぜん」
はまたにできるやつ。

hizi [çizi] *n.* ひじ (肘) . **ex**

hizi [hidzi] *n.* ひじ (肘) . **aa itasaya**
hiziutta あー、痛い、肘打った.

hizideppoo [hidzi'deppo: suru] *n.* ひじで
つきとばすこと (肘で突き飛ばす
こと) .

hoguro [hoguro] *n.* ほくろ. **hoguro no deketa.** ほくろができた。

honkawa [honkawa] *n.* ほんりゅう (本流) .

honsyoo [honso:] *adj.* ほんとうの (本当の) . **honsyoo no koto yuute nee** 本
当のこと言ってね.

hookigusa ['ho:kigusa] *n.* ほうきぐさ (ホ
ウキグサ) .

hoorensoo [ho:renso:] *n.* ほうれんそう
(ホウレンソウ) . **hoorensoo nyaa tane ga tukan to to tuku to to aru tyuu wai**
ホウレンソウには種がつか
ないものとつくものがあると言いま
すね.

horosi [horoci] *n.* きず (傷) . **aryaa horosiya nyaa do ka?** あれはぶつ
ぶつした傷じゃないだろうか? .

hosigaki [hoçigaki] *n.* ほしがき (干し柿) .

hosigaru [hofigaru] *v.* ほしがる (欲しが
る) . **hosigattatya kyaa wa en zo** そ
んなに欲しがっても買いません
よ.

hosoo [hoso:] *v.* ほそう (干そう) . **kyuwa tenkino yeeke hutondomo hosooka**
今日は天気が良いから(たくさん)
布団を干そうか.

hosunai [hosunai] *v.* ほさない (干さない) .

hotokenoza [hotokenoza] *n.* ほとけのざ
(ホトケノザ) . **hotokenoza wo uuru**
ホトケノザを植える.

hotokesama [hotokesama] *n.* じゅうしょく
(住職) . **otera no hotokesan** お
寺の住職さん.

hoziku [hodziku] *v.* ほどく . **kono himo**
hozikoo ka ne 紐をほどこうかね.

huku [ɸuku] *v.* ふく (吹く) . **hukeba**
tobisoo na nee/ hukeba tuuda wai 吹
けば飛びそう (な軽さ) だ/ふいた
らとんだよ.

huku [huku] *v.* ふく (拭く) . **mado hwiite**
simoota/ mado huite. / mada mado
hukazi otto ka. 窓を拭き終わった
／窓を拭きなさい。／まだ窓を拭
かないでいるのか。

humu *v.* はく (履く) . **ado no takyaa to**
hundoru kee tukkokuru bai かかとの
高いのを履いているから転ぶよ.

hunegoo [ɸunego:] *n.* いど (井戸) .
hunegoo nya mizu wo yariyotta. 井戸
には水をやっていた。

huru [ɸuru] *v.* ふりかける . **goma hurya**
owari ごまをふりかけたら出来上
がりです.

husaku [ɸuːsaku:] *n.* ふさく (不作) . **kotosi**
wa husaku de tabemono no sukunyaa
kee sinboo senyaa 今年は不作で食
べ物が少ないから辛抱しないと。

hutaitoko [ɸutaitoko] *n.* はとこ.

hutee/hutyee [ɸuteː/ɸutɕeː] *adj.* おおき
い. **hegengi otte hutee koto bakari**
yuu/hutyee tori no kitoru ダメな人間
であって、大きなことばかりいう/
大きい鳥がきている. **hutyee swoo**
ba tukutta (ハチが) 大きい巣をつ
くった。

huti [ɸutɕi] *n.* かわのきゅうにふかく
なるところ (川の急に深くなると
ころ) . **akko no huti ikyya iwo ga oru**
bai あそこの川の急に深くなると
ころに行けば魚がいるよ.

hutomomo [ɸutomomo] *Variant: momo. n.*
ふともも (太もも) . **hutomomo no**
ityaa. 太ももが痛い。

hutyu [ɸutɕu] *n.* よもぎ (ヨモギ) . **hutyu**
wa yugyaate mikisaa de zutte sooke
ni kayaate syoogatu ni motigome to
mazeru to yo よもぎは茹でてミキ
サーですりつぶしてざるにひっこ
り返して正月にもち米と混ぜるの
ですよ.

huu *part.* ～ようだ. **nezumi ga nigeta**
huu. ねずみが逃げたようだ。

huukyamunyaa [ɸuːkjamuɲa:] *adj.* とん
でもない. **huukyamunyaa kota**
yuuna とんでもないことは言う
な.

huumusi [ɸuːmuɕi] *Variant: hoomusi.*
[hoːmuɕi] *n.* かめむし (カメムシ) .
huumusi ga kita kee kaza no warii.
カメムシが来たから臭い。

huutan *n.* ほっぺた. **huutan no akyya**
to./huutan tatyaa ほっぺが赤い人
/ほっぺたをたたいた.

huzi [ɸuzi] *n.* ふじ (藤) . **huzi no hana wa**
tenpura ni site mo toohu ni irete mo
umyaa zee 藤の花は天ぷらにして
も豆腐に入れてもおいしいです
よ.

huzidoohu [ɸuzidoːɸu] *n.* ふじどうふ (藤
豆腐) . **huzidoohu wa kiryye na**
huziio o site umyaa zee 藤豆腐は
きれいな藤色をしていておいしい
ですよ.

hweete kuru [ɸʷeːtekuru] *v.* ほしてくる
(干してくる) . **hutonba hweete**
kuru 布団を干してくる.

hwyaa [ɸja:] *n.* はえ (ハエ) . **kusobyaa no kite** (種類不明の) ハエが来て.

hwyaa [ɸ^jaa] *n.* はい (灰) . **hwyaa de akumizu wo tukuru.** 灰で灰汁水を作る。

hwyaaata [ɸja:ta] *v.* はいた (吐いた) . **hwyaaata tyuu.** 吐いたらしい。

hwyaaata [ɸja:ta] *v.* はいた (掃いた) .

hyookin *n.* おっちょこちよい . **ano zii wa mukasi kara hyookin zyatta mon nee** あのおじいさんは昔からおっちょこちよいだったものね。

Morph: **baka-hyookin.**

hyookintan [ɸo:kintan] *n.* ひょうきんもの (ひょうきん者) . **ano hito wa hyookintan zyarakee** あの人はひょうきん者だから。

I - i

i [i] *n.* い (胃) . **inoti dya ken /i no seeta** 胃が荒れる /.

ibi [ibi] *n.* ゆび (指) .

ibigane [ibigane] *n.* ゆびわ (指輪) .

ibikirikankiri *intj.* ゆびきりげんまん.

ida [ida] *n.* うぐい (ウグイ) . **ida wa kobone ga oyee kee anmari kwan.** ウグイは小骨が多いからあまり食べない。

ide [ide] *n.* ようすいろ (用水路) . **ide hitoru** 用水路を引いている。 **ide sarae** 用水路を掃除しなさい。

ie [ije] *n.* いえ (家) . **ore no ie ni tuku yo** 私の家に着くよ。

iekuryaa [iekurja:] *v.* よう (酔う) .

ienoura [ijenoura] *n.* やね (屋根) . **ienoura ni noboru** 屋根の裏に上る。

ietori [ietori] *n.* ちょうなん (長男) .

igoku *v.* うごく (動く) .

iigyaa [i:g^ja:] *n.* しゃもじ . **ligyaa tukatte mesi iree** しゃもじを使ってご飯を盛りなさい。

ikekisanyaa [ikekisanja:] *adj.* よくぶかい (欲深い) . **ano ko wa nanbo sitemo** **ikekisanyaa kee suru gata nai** あの子はいくらしても欲深いからする甲斐がない。

ikezawasi [ikezawaçi] *adj.* やかましい。

iki hiku [iki çiku] *v.* せきをする (咳をする) .

ikizukuri [ikizukuri] *n.* せきばらい (咳払い) . **ikizukuri suru.** 咳払いする。

ikkurikayasu [ikkurikayasu] *v.* ひっくりかえす (ひっくり返す) .

iku [iku] *v.* いく (行く) . **hayoo ikoo ga** 早く行きましょう . **sottii ikeei** そっちに行きなさい . **sottinyaa ikande** そこ行かないでね . **orega tyende ikuga** 私が一緒に行くよ (家まで送ってあげるよ) . **dokka ikuto?** どこか行くの? .

imiru [imiru] *v.* ふえる (増える) . **mizu no imitte kita wai, abunyaa ze** 水が増えてきたよ, 危ないよ。

imo [imo] *n.* さといも (サトイモ) . **imo wa ne ga ii.** サトシモは根がいい。

imonzi [imonzi] *n.* ふかくほること（深く掘ること）. **imonzi sende li** 深く掘らなくていい. **imonzi suru goto hukoo sunnna** 深く掘るな.

imooto [imo:to] *n.* いもうと（妹）. **sontyoono imooto tyuuwai** 村長の妹らしいよ.

inabikari [inabikari] *n.* いなびかり（稲光）. **inabikari ga hikatta** 稲光が光った.

inda *v.* かえった（帰った）.

ine [ine] *n.* いね(稲). **ine o karu/kogu/ayasu** 稲を収穫する/脱穀する(千歯こきなどで)/脱穀する.

inosu *n.* ゆず（ユズ）.

inu [inu] *n.* いぬ(イヌ). **inu ga ippyaa yasinootoru/kootoru** 犬をたくさん育てている/飼っている.

ioturi [iwotsuri] *n.* さかなつり（魚釣り）.

ippyaa *adv.* いっぱい. **heya ippyaa tirakyaatotte naa.** 部屋いっぱい散らかっててねえ.

irassyai [iraʃʃai] お客を迎えるときのあいさつ.

ireru [ireru] *v.* いれる（入れる）. **sorya kaban ni ireta ze** それは鞆に入れましたよ.

isagiee [isagie:] *adj.* いさぎよい（潔い）. **ore no tootyan wa dare yori mo isagiee zoo** 私のお父さんは誰よりも潔いよ.

isiwara [iʃiwara] *n.* じゃり（砂利）. **isiwara wa niwa nya nai** 砂利は庭にはない.

isogande [isogande] *v.* いそがなくて（急がなくて）. **sogyaa isogande yeega** そんなに急がなくていいよ.

isogasii [isogaʃi:] *adj.* いそがしい（忙しい）.

issyookemmee [iʃʃo:kemme:] *adv.* いっしょうけんめい（一生懸命）.

isyeede [iʃe:de] *v.* いそいで（急いで）. **hayo isyeede/isyeede konnyaa** 早く急いで/急いで来なければいけない.

itaasi [i'ta:ʃi] *n.* へんぺいそく（偏平足）.

itekuru [itekuru] *v.* いてくる（行ってくる）. **tyoitoo itekuruwai** ちょっと行ってくるね.

itigo [itʃigo] *n.* くわのみ（桑の実）. **kono itigo suii wai, maada kuen** この桑の実は酸っぱい、まだ食べられない.

itigo [itʃigo] *n.* いちご（イチゴ）. **itigo wa iroiro taburu miti wa aru domo yappa sonomama kuu to yo, mendokusyaaken nee** 苺はいろいろ食べ方があるけれどやっぱりそのまま食べるのですよ、めんどくさいからね.

itinitizyuu [itʃintʃidzu:] *adv.* いちにちじゅう（一日中）. **itinitizyuu gamazyaaate yaoikadatti roonoo** 一日中働いて大変だったろうねえ.

itoko [itoko] *n.* いとこ. **itoko wa miina seizin sitoru** いとこは皆成人している.

ittokiwa [ittokiwa] *adv.* しばらく.

ittyomo [ittʃomo] *adv.* ぜんぜん（全然）. **ittyomo wakaran** 全然分らない.

ityaa [itʃa:] *v.* いたい（痛い）.

ityoo [itjo:] *n.* いちょう（イチョウ）. **yama nya ityoo no ki wa nyaa** 山にはイチョウの木はない.

iwatake [iwatake] *n.* いわたけ（イワタケ）. **iwatake ba arau ta itinitizyuu kakaru bai** イワタケを洗うのは一日中かかりますよ.

iwo *n.* さかな（魚）. **iwo ga sizuudoru / wite oru** 魚が沈んでいる／浮いている.

izumyaa/izumiyaa [izuːmjaa/izuːmijaa] *n.*
しせい (姿勢). **onamettyo no kuse ni**

sono izumyaa wa nan ka? 女のくせ
にその姿勢はなんだ？.

K - k

ka [ka] *n.* か (蚊). **ka ni kuwareta.** 蚊
に刺された。 **ka ni kamareta.** 蚊に
刺された。 **ka ga kui tita.** 蚊が食い
ついた。 *Variant:* **asidaka.**

kaaneesyon [kaːneːɕoːn] *n.* かーねーしょ
ん (カーネーション). **kaaneesyon**
no nae naosu カーネーションの苗
を植えかえる.

kaatyan ['kaːtʃan] *n.* つま (妻). **saki no**
kaatyan ga kyuu wa yasaibatake ni
ikiyotta wai 隣の奥さんは今日野菜
畑に行ったよ。

kabasiko [kabaɕiko] *n.* かおりまい (香り
米). **umoo nyaa kome nya kabasiko**
mazuryaa umyaa bai. kaza ga yee
mon nee おいしくない米には香り
米を混ぜればおいしいよ。匂いが
いいもんねえ.

kabu [kabu] *n.* かぶ (カブ). **kabu mo**
mukasi wa hosityeete misozuke ni mo
umyaa wai, sanbaizuke sut toki mo at
to yo nee かぶも昔は干して味噌
漬けにもおいしいよ、三杯漬けに
する時もあるのよねえ. **mukasi wa**
kabu wa suzuna to wa iwadatta 昔は
カブをすずなどと言わなかった。

kaesu [kaesu] *v.* もどす (戻す). **kono**
syokki modyeete weete この食器を
戻しておいてください.

kage [kage] *n.* かげ (影). **hito no kage ga**
miyuru 人の影が見える.

kagehinata *n.* さぼり.

kagehinatasuru [kageɕinatasuru] *v.* さぼ
る. **aree kagehinatasurukee** あの人の
人はさぼるから.

kageri [kageri] *n.* かげ (陰). **ano ki no**
kageri i ikoo ka あの木の陰に行こ
うか. **ki no kageri kara tanuki no dete**
kite ozokatta 木の陰から狸が出て
きて怖かった. **akko no kageri ikoo**
ka あそこの日陰に行こうか.

kagu *v.* とる (採る).

kagurako [kagurako] *n.* かぐらのまいて
(神楽の舞手). **kagurako ga yottoru**
神楽の舞手が集まっている。

kai [kʷai] かい (回). **nikwai wa**
mawattekonkatta kara. 2回は周って
こなかったから。

kaiko [kaiko] *n.* かいこ (蚕). **kaikaa kwa**
no haa kuute hutotte ito ga detto tyuu
wai 蚕は桑の葉を食べて太って絹
糸が出るという.

kakasan [kaka] *Variant:* **kaka; kakaa;**
okaatyan. n. かあさん (母さん).
kakasan wa muzoo ga aru 母は優し
い. **kakasan mesi wa maada yaa** 母
さん、ご飯はまだですか？.
kakasan to kasyesiyuu ka 母の手伝
いをする。

kaku [kaku] *v.* かく (書く). **namae**
kyaate / moo kakande yee ga./
kakitoo nyaa. 名前を書いてくださ
い／もう書かないでいいよ／書き
たくない.

kakureru *v.* かくれる (隠れる). **ano neko**
wa kakureta huu bai. あのねこは隠
れたようだな。

kakuru [kakuru] *v.* かける. **usagi wana kakuru.** ウサギ用の罾をかける。

kakusu [kakusu] *v.* かくす (隠す) .
kakusigoto wa dekin mono /deken no 隠し事はできないね.

kakuude [kaku:de] *v.* かこんで (囲んで) .
nabewo kakuude suwattoru 鍋を囲んで座っている.

kakuudoru [kaku:doru] *v.* かこまれて (囲まれて) . **kakuudoru huuwai** 囲まれているようだ.

kama [kama] *n.* かま (鎌) . **kama de te kiran goto yuuzin see** 鎌で手を切らないように用心しなさい。

kamade [kamade] *n.* はたけにむかってみぎうわて (畑に向かって右上手) .
kamade no hoo ni neko ga oru 畑に向かって右上手の方に猫がいる.

kamade no yokoziri [kamadenojokoziri] *n.* はたけにむかってみぎしもて (畑に向かって右下手) . **kamade no yokoziri ni nanika otetoru** 畑に向かって右下手に何か落ちている.

kamando [kamando] *n.* かまど (竈) .
Variant: kudo; kamandoe.

kamasaki [kamasaki] *n.* はたけにむかってひだりうわて (畑に向かって左上手) . **kamasaki ni ziisan ga tattoru** 畑に向かって左上手におじいさんが立っている.

kamasaki no yokoziri
[kamasakinokoziri] *n.* はたけにむかってひだりしもて (畑に向かって左下手) . **kamasaki no yokoziri ni olte aru** 畑に向かって左下手に置いてある.

kaminari [kaminari] *n.* かみなり (雷) .
esiren toee toko de kaminari no nariyori gaa かなり遠いところで雷が鳴っているな.

kamisama [kamisama] *n.* かんぬし (神主) .

kamokutaa [kamokuta:] *n.* けもののあな (獣の穴・巣) . **akko nyaa kamokutaa aru.** あそこにはけものの穴がある。

kamuge [kamuge] かみのけ (髪の毛) .
kamuge hilita. 髪の毛を引っ張った。
kamuge no/ga nukuru. 髪が抜ける。

kanawan [kanawan] *v.* おもうようにうごかない (思うように動かない) . **te mo asi mo kanawan.** 手も足も思うように動かない。

kangaeru [kangaeru] *v.* かんがえる (考える) . **motto kangaeta naryaa omoitukya sen zyaro ka / omoitukya sen doo ka** ずっと考えれば思いつかないかねえ.

kansiroobosi [kanɕiro:boɕi] *n.* いちばんばし (一番星) . **kansiroobosi no deru made suru ya** 一番星が出るまでする.

kantyoo [kantɕo:] *n.* しか (シカ) . **kantyoo no tuude saruku** シカが走っていく。

kantyooigime [kantɕo:gime] *n.* やせている (痩せている) .

kappoohaziku *v.* ゆびではじく (指で弾く) .

karaimo [karaimo] *n.* さつまいも (サツマイモ) . **karaimo nite kuooka.** さつまいもを煮て食べようか。

karao *n.* あさ (麻の一種) .

karasina [karaɕina] *n.* からし菜 (カラシナ) . **nama de sasimi no ken ni sitari kazari ni suru** 生で刺身のつま (けん) にしたり飾りにする.

karasu *n.* からす (カラス) . **karasu ga kwiiarasu** カラスがごみを食い散らかす.

karasuuri [karasuuri] *n.* からすうり (カラスウリ) . **aryaa karasuuri tyuu wai, akyaa to no nattoru** あれはからすうりって言うんだね、赤いのがなっている.

karii [kari:] *adj.* かるい (軽い) . **kono nimotu wa karii nee** この荷物は軽いね.

karuu [ka'ru:] *v.* せおう (背負う) . **kaban o senakyaa karuu** 鞆を肩に背負う.

kasabati [kasabatɕi] *n.* できもの.

kasatuu [kasatsu:] *n.* かさぶた. **kasatuu nu deketa.** かさぶたができた.

kasi [kaɕi] *n.* かし(櫟). **kasi no ki kara totta hyaa ga yoka** 櫟の木からとった灰が良い.

kasinomi [kaɕinomi] *n.* どんぐり.
kasinomigonnyaku tukurū hito ga oru. どんぐりコンニャクを作る人がいる.

katabusi [katabuɕi] *n.* かた(肩).

kataru [kataru] *v.* しゃべる. **syootyuu nuude katariyottaga** 焼酎を飲んでしゃべっていた.

katazukeru [katadzukeru] *v.* かたづける (片付ける) . **tirakyaatotta katazuketanarya/katazukenya/katazu kee** 散らかっているものは片づけなさい.

katowakeyuu [kotowakeju:] *v.* あやまる (謝る) .

-katugoo [katsugo:] *sfx.* ～しながら.

kawa [kawa] *n.* かわ (川) . **kawa ga yogoodoru** 川が曲がっている.
wadomaa kauya ikan kai? みんな、川へいかないかい? . **kauya ikoo ka** 川へ行こうか.

kawabata / kawagoora [kawabata / kawagoura] *n.* かわら (川原) .
kawagoora de isi hiruuta 川原で石を拾った. **kawagoora ni tukemonoisi hiruuni itta** 川原に漬物石を拾いに行った.

kawaiwo [kawaiwo] *n.* かわざかな (川魚) .
kawa(no)iwo wa suki ya an/aburame hara zunbyaa kuuta 川魚は好きじゃない/アブラメをお腹いっぱい食べた.

kawanori [kawanori] *n.* かわのり (カワノリ) . **kawanoryaa totte kite hweete titto kogyaate mesi i kakete kuu.** カワノリは採ってきて干してちょっと揉み碎いてご飯にかけて食べる.

kawaran [kawaran] *v.* かわらない (変わらない) . **seekakuwa ittimo kawaran** 性格は少しも変わらない.

kawazoko [kawazoko] *n.* かわぞこ (川底) .
kawazoke sizuuda 川底に沈んだ.

kaya [kaja] *n.* すすき (ススキ) . **kaya no ho no yuretoru** ススキの穂が揺れている.

kayasi [kajaɕi] *adj.* うらがえし (裏返し) .
kayasimyaa kiru 裏返しに着る.

kayasu *v.* する. **yuugoto mo kayasazi** 言うこともしないで (=聞かないで) .

kayugga [kajugga:] *v.* かえよう (変えよう) . **sonna wadaiba kayugga** 話題を変えよう.

kaza *n.* におい (臭い・匂い) . **kusattotte kaza no warii. usitenyaa.** 腐っていていやなおいがする. 捨てなければ. **kono inosu wa kaza no ee nee.** この柚子はいい匂いがするねえ.

kaza no warii [kaza no wari:] *c.* あくしゅうがする (悪臭がする) .

kaze [kaze] *n.* ようかい (妖怪) . **kaze ni oota** 妖怪に遇った.

kaze [kadze] *n.* かぜ (風) . **kaze ga hwiita** 風が吹いた.

kazimeru *v.* かくす (隠す) .

kazura [kazura] *n.* あおかずら (アオカズラ) . **kazura de tego tukuru/amu** アオカズラで籠を作る.

keburan [keburan] *v.* けむりがこもらない (煙がこもらない) . **keburanyooni yuuzinsitene** 煙が籠らないように気をつけてね.

keeboodan [ke:bo:dan] *n.* しょうぼうし (消防士) . **keeboodan ga hikyaata bai** 消防団が火を消した。

kega [kega] *けが (怪我)* . **kega suru.** 怪我をする。

kenka [ken^wa] *n.* けんか (喧嘩) . **kenkwasuru koto mo attozyanaidesukanee.** 喧嘩することもあるんじゃないですか。

ketina [ketɕina] *adj.* けちな (ケチな) . **araa ketinakee tukawanhazuzyaaruga** あの人のはけちだから、使わないはずだが。

kibi [kibi] *Variant: takakibi. n.* もろこし (モロコシ) . **kibi no moti tiite kwoo ka.** モロコシの餅をついて食べようか。

kien [kieN] *v.* きえない (消えない) . **simino ittyoomo kien** シミが全く消えない.

kii usinoota [ki: uɕino:ta] *c.* きをうしなった (気を失った) .

kikeru [ki'keru] *v.* きく (効く) . **kusuri no kiketa gotaru** 薬が効いたみたい.

kikindosi [kikindoɕi] *n.* ききんのとし (飢饉の年) .

kiku [kiku] *v.* きく (聞く) . **kiita koto o sugu ni sita nara** 聞いたことをすぐにしなさい.

kikyoo [kikjoo] *n.* ききょう (桔梗) . **kikyoo ga kiree na murasakiro de syaatoru** 桔梗がきれいな紫色で咲いている.

kimenya [kimeɲa] *v.* きめないと (決めないと) . **hayo kimenya** 早く決めないと.

kimetekkurenya [kimetekureɲa] *v.* きめてくれないと (決めてくれないと) (決めて) . **asitamazyee kimetekurenya** 明日までに決めて.

kimono [kimono] *n.* いるい (衣類) . **kimono kite ikiyotta.** 着物を着て行きよった。 *Variant: kirumono.*

kimotinoyoka [kimotɕinojoka] *adj.* きもちいい (気持ち良い) . **kimotino yokasaya** 気持ちがいいなあ.

kintama [kintama] *n.* こうがん (睾丸) .

kinu no ito *n.* きぬいと (絹糸) . **kinu no ito zyaate manruu natte dogyaa naru mono iroo** 絹糸を出して丸くなって何をするのだろうか。 *Variant: kaiko no ito.*

kinyuu [kin^ɰu:] *n.* きんのう (昨日) . **kinyuu wa samikattanoo** 昨日は寒かったね。

kiri [kiri] *n.* きり (霧) . **kiri no kaketoru** 霧がかかっている.

kiru [kiru] *v.* きる (着る) . **sogyaa huku kite atuku wa nyaa?** そんなに服を着て暑くないんですか? . **sogyaa maruu marugoto kirande ee wai** そんな??? 着なくていいよ.

kiryee [kir^ɰe:] *adj.* きれい.

kisanyaa [kisan^ɰa:] *adj.* きたない (汚い) . **hikkurikayaate arawanyaa kisanyaa zo** ひっくり返して洗わないと危ないぞ.

kisanyaa mizu [kisanˈja:mizɯ] *n.* げすい
(下水) . **kisanyaa mizu wa doke**
nagyaatemo ee. 下水はどこに流し
てもいい。

kisyoo ga ee [kiʃoːgaeː] *adj.* せいかくが
いい (性格が良い) . **ano hito wa**
kisyoo ga ee ken toku suru ne あの
人は性格が良いから得するね。

kittawosu *v.* きりたおす (切り倒す) .
kittaweeta 切り倒した。

kiyaatesimatta [kijaːteɕimatta] *v.* けして
しまった (消してしまった) .

kiyasu *v.* けす (消す) . **hii kiyaate** 火を消
して . **hii kiyasanya abunyaa zo** 火を
消さないと危ないぞ。

kiyasunai [kijasunai] *v.* きえない (消えな
い) .

kiyuru [kijuru] *v.* きえた (消えた) .
menmee kiyuru ひとりでに消えた。

kizamu [kizamu] *v.* きざむ (刻む) . **sono**
kizanda negi o noseta narya その刻
んだ葱を載せなさい。

kizuwato [kizuato] きずぐち (傷口) .

kizuguti [kizuguti] きずぐち (傷口) .

koba [koba] *n.* やきはた (焼畑) . **koba o**
tukuru tame yabokiri senya 焼畑を
作るために木を切らないと。

kobe [kobe] *n.* こべ (コベ) . **hutyee kobe**
no zunbyaa nattoru wai, awee nee 大
きなコベがたくさんなっています
よ、青いねえ。

koburi [koburi] *n.* こさめ (小雨) . **kyoo wa**
koburi ni nareba ee na 今日は小雨
だといいなあ。

kodani [kodani] *n.* しりゅう (支流) . **tani de**
tutte kuu ka 支流で釣ってこよう
か。

kodomo [kodomo] *n.* こども (子ども) .
oraa kodomoba sannin sodatetawai
私は子どもを3人育てたよ。

kodomodomo [kodomodomo] *n.* こどもた
ち (子どもたち) . **oregae no**
kodomodoma ittyo mo yuu gota
kayasan うちの子どもたちは一つ
も言うようにしない (=いうとお
りにしない) 。

koe [koe] *n.* こえ (声) . **hutyee koe**
komyaa koe. 大きい声小さい声。

koe [koe] *n.* ひりょう (肥料) . **koe ireta**
ga yokaroo 肥料を入れたほうがい
いだろう。

koesakisuru [koesakisuru] *v.* さけぶ (叫
ぶ) . **syootyuu nuude koesakisyoruga**
焼酎を飲んで叫んでいるぞ。

kogu [kogu] *v.* だっこくする (脱穀す
る) .

koinu [koinu] *n.* こいぬ (仔犬) . **koinu no**
tobimawaru 仔犬が走り回る。

koke [ko'ke] *n.* あか (垢) .

komago [komago] *n.* しそん (子孫) .
komago ni osotokanya 子孫に教え
なければ。

kome [kome] *n.* こめ (米) . **kometururya**
zyaazi noo. 米作りは大変だな。

komotta *Variant: motta. v.* こをうんだ (子を
生んだ) . **ano hito wa komotta/motta**
あの人は子を産んだ。

kondotta [kondotta] *v.* こんでいた (混んで
いた) . **erai kondottaga** ひどく混ん
でいた。

koobyaa [koːbjaː] *n.* こうばい (勾配) . **ie no**
koobyaa no aru kee tukoketa 家の勾
配があるのでこけた。

kooma [koːma] *n.* 1・やまのふもと (山の
麓) . **koomani ie aru** 山の麓に家がある。

2・やまのちゅうふく（山の中腹）.
kooma ni hito ga oru gotaru nee 山の中腹に人がいるみたいだね.

koomori [koːmori] *n.* こうもり（コウモリ）.
koomori no kuso site kozuudoru コウモリが糞をして（それが）こんもりしている。

koomukinaba ['koːmukinaba] *n.* 11月に、山の上の方で生えるきのこ。

koorogi [koːrogi] *n.* こおろぎ. **koorogi no naku yoo ni natta ke** コオロギが鳴くようになったので.

kootaigootai [koːtaigoːtai] *adv.* こうたいごうたい（交代交代）.

koraenya [koraɛna] *v.* たえなければ（耐えなければ）.

korayuru [korajuru] *v.* たえる（耐える）.
samiltonya koranyaen 寒いのにには耐えられない.

koroben [koroben] *v.* ころがらない（転がらない）.

korobeta [korobeta] *v.* ころがった（転がった）.

korobeteita [korobeteita] *v.* ころがって（転がって）. **marino korobeteita** 毬が転がっていた.

kosagu *v.* かく（草などを掻く）. **kusa kosagu to ba motte kite kurei** 草をかくものをもってきてくれ.

kosekaaki [kose'kaːki] *n.* はだのひびわれ（肌のひび割れ）.

kosi [koʃi] *n.* **kositagawakyaata** 腰を痛めた.

kosikirebati [koʃikirebatʃi] *n.* あしながばち（アシナガバチ）.

kotaeru [kotaeru] *v.* こたえる（答える）.

kotataki [kotataki] *n.* きつつき（キツツキ）.
kotataki no ana hogasu. キツツキが穴を空ける。

kotiee [kotʃieː] *n.* おす（雄）. **asoko n to wa kotiee no usi ga umareta** あそこの家ではオス牛が生まれた.

kousi [kouʃi] *n.* こうし（子牛）. **kinyuu kousi no umareta** 昨日子牛が生まれた.

kowyaa [kowjaː] *adj.* かたい（堅い・硬い）.
ano hito wa kowyaa mono あの人は堅い人だ. **moti ga kowoo nattemoota** 餅が硬くなってしまった.

koyuru [kojuː] *v.* ふとる（太る）. **ooguryaa surukee koetoru.** たくさん食べるから太っている. **ooguryaa surukee koyuru wai.** たくさん食べるから太りますよ.

kozukaware [kozuːkaware] *n.* てつだい（手伝い）. **kozukaware mo kayasazi hinoasobi bakkaru site iru** 手伝いもしないで一日中遊んでばかりいる.

kozuku [kozuuku] *v.* せきをする（咳をする）. **kozukuna.** 咳をするな.
kozukyaa zyaasi. 咳をすると大変.

kozuudoru [kozuːdoru] *v.* こんもりと盛り上がっている. **akkee nya nani koso kozuudoru?** あそこには何が盛り上がっている？.

kubiru [kubiru] *v.* しぼる（縛る）. **hukuro no himo ba kubitte.** 袋のひもを縛って.

kudaru [kudaru] *v.* おりる（降りる）.
abunyaa ga kudarya 危ないから降りなさい.

kudo [kudo] *n.* ちいさいかまど. **kudo no sita tyaa takee.** かまどの下でお茶を沸かして.

kuitiita [kuitʃiːta] *v.* かみついた. **inu ga kuitiita** 犬がかみついた.

kukerina [kukerina] *n.* まびきな（間引き菜）. **kukerina o itiyaduke ni sita kee tabenyaa.** 間引き菜を一夜漬けにしたのでお食べなさい.

kumabati [kumabatɕi] *n.* すずめばち（スズメバチ）. **kumabati no mootonnee.** スズメバチが飛んでいるね。

kumade *n.* くまで（熊手）.

kumori [kumori] *n.* くもり（曇り）. **kumori wa sukan** くもりは嫌いだ。

kumoru *v.* くもる.

kunuginomi [kunuginomi] *n.* どんぐり. **kunuginomi wa sika ga kite kuu.** どんぐりは鹿が来て食べる。

kurau [kurau] *v.* つれる（釣れる）.

kuree [kure:] *adj.* くろい（黒い）. **kabe no susukete makkuro saa** 壁が煤けて真っ黒だ。

kuro はたけのすみ（畑の隅）. *Morph:* **kuroguro** 「隅々」.

kurome [kurome] *n.* ひとみ（瞳）.

kuroota [kuro:ɔta] *v.* たべた（食べた）. **mesi kuroota.** ご飯を食べた。

kurotake [kurotake] *n.* くろたけ（クロタケ）. **kurotake mo kuwaruru/kurotake o kagiite kama de yugyaate tukemonyee site kuu** クロタケも食べることができる/クロタケを採って釜で茹でて漬物にして食べる。

kuso [kuso] *n.* だいべん（大便）. **kuso hirikaburu.** 大便を漏らす。

kuso- *prfx.* しゅるいふめいの（種類不明の）. **kusobyaa no kite** 種類不明のハエが来て.

kusomusi [kusomuɕi] *n.* むし（虫）. **kusomusi no kite arimusi wo kuyaate ikiotta** よくわからない虫(蟻地獄)が蟻を啗えて行った. **siran naryaa kusomusi** 知らないならクソ虫（という）.

kusyami [kuɕami] *n.* くしゃみ.

kuti *n.* くち（口）. **kutyaa tubilitore.** 口をつむいでろ。（だまってる）.

kutizunbyaa *n.* くち（口）がいっぱいになるさま. **kusuri ga kutizunbyaa ni naru.** 薬が口いっぱいになる。

kutyaage [kutɕa:ge] *n.* としゃぶつ（吐瀉物）. **吐瀉物を吐いた。** 物質文化.

kuu [ku:] *v.* たべる（食べる）. **kono kasi kwanne** このお菓子食べない？. **wasama kwasi kwankao** あなたはこのお菓子食べますか？. **wasama kwasi kuimese** あなたはこのお菓子食べますか？. **hayo kwanyaa** 早く食べなさい. **sono sikaniku wa kutawori umakattagai** その鹿肉は美味しかったか？. **hayoo kwan no** 早く食べなさい. **kwanyaa zikan ni okururu ga** 食べないと時間に送れるぞ。

kuwa [kuwa] *n.* くわ（鍬）. **kuwa de yoka yoo ni uttaru** 鍬でしっかり耕した。

kwanzin [kwanziN] *n.* こじき（乞食）. **kwanzin ga kiyotta, waddoma nan kururu?** 乞食が来た、私たちは何をあげようか？. **kwanzin no kitabai** 乞食が来たよ。

kwaseru [kʷaseru] *v.* たべさせる（食べさせる）. **esa kwasenyaa.** えさを食べさせないと。

kwasi [kʷaɕi] *n.* かし（菓子）.

kyaagi [kʲaːgi] *n.* いろり（囲炉裏）からつ
るす鉤. **kyaagi no ippon attokee**
ikanya. 鉤の一本あるところに行
かないと（＝そこそこお金のある
ところに嫁に行かないと）。

kyaaazenboo *Variant: kyaaazinboo. n.* るりか
けす（ルリカケス）. **waredomo**
kyaaazenboo no gotoaru あなたキャ
ーゼンボーのようだ。

kyakuzin [kjakuziN] *n.* きやく（客）. **ore ga**
ie nya kyakuzin no kuru tyuu wai 私
の家には客が来ます。

kyoozyaa [kʲoːˈzaː] *n.* きょうだい（兄弟）.
kyoozyaagenka sita wai 兄弟喧嘩を
した。

kyozyaa [kʲodzaː] *n.* きょうだい（兄弟）.
ano kyozyaa wa naka no ee wai
あの兄弟は仲がいい。

kyuu [kʲuː] *n.* きょう（今日）. **kyuu wa**
nansuru ya 今日は何をする？.

kyuuni [kjuːni] *adv.* とつぜん（突然）.

kyuuzi toko *n.* ちょうどよいところ.

M - m

mabuta [mabuta] *n.* まぶた（瞼）.

mago [ˈmago] *n.* まご（孫）. **uti no magaa**
geetoboori ikityaa tyuu wai 私の孫
がゲートボールにいきたいらしい。

mameru *v.* まぜる（味噌と混ぜる）.

manuke [manuke] *adj.* まぬけ.

mara [mara] *n.* だんせいき（男性器）.

marikaburu [marikaburu] *v.* もらす（小便
を）.

mata aoo ya nee [mata aoːyaneː] じゃあ
ね.

mata kitenee [mata kiteneː] お客を送り出
すとき.

matigyaanasi [matɕigjaːnaɕi] *adv.* かなら
ず（必ず）. **matigyaanasi kite**
kurennoo 必ず来てね.

matu [matɕu] *v.* まつ（待つ）. **ano hito**
mattoru kedomo kon wai あの人を
待っているけど来ない.

matu [matsu] *n.* あかまつ（アカマツ）.
matu no husi o tobasiwotta マツの
ふしを燃やしていた.

mau *v.* 1・とぶ（飛ぶ）. **kaya no huu ga**
moote kuru 萱の穂が飛んでくる.
ano tori wa moote ita mon ne

2・まう（舞う）. **yuki ga mau** 雪が
舞う.

mayu *n.* まゆげ（眉毛）. **mayuge ga koi.**
眉毛が濃い.

mazemesi [mazemeɕi] *n.* まぜごはん（混
ぜご飯）. **mazemesi tukutte miroo ka**
nee 混ぜご飯を作ってみようかね
え.

mebataki [mebataki] *n.* まばたき.
mebatakya sunnai. まばたきはする
な.

medaka [medaka] *n.* めだか（メダカ）.

mee *n.* め（目）. **mee ni memono ga**
haltta 目にごみが入った.

meeko [ˈmeːko] *n.* めい（姪）. **meeko ga**
netoru 姪が寝ている.

megantyoo [megantɕoː] *n.* めじか（雌鹿）.

megenaga *n.* まつげがながいこと（まつ
毛が長いこと）. **ano ko wa**
megenaga あの人のはまつ毛が長い.

mekongoo [mekongo:] *n.* めくばせ（目配せ）.

mekubari [mekubari] *n.* めくばせ（目配せ）.

memono *n.* ほこり（目に入るほこり）.

mena *n.* おんな（女）.

menmee [memme:] *n.* じぶん（自分）.
menmeedome 自分たちで. **menme no limaya yuuna** 自分の思うことばかり言うな.

menmegae *n.* わがや（我が家）.
 Variant: **oregae**; **menmenokata**.

menmenokata *n.* わがや（我が家）.
 Variant: **oregae**; **menmegae**; **menmenokata**.

meno warii [meno warii] *c.* 1・がんびょうである(眼病である) . **me no waruu site isya itawano**. 眼病にかかって医者に行った。
 2・しりよくがわるい（視力が悪い）.

mentama [mentama] *n.* めだま（目玉）.
mentama hikarakyaate/hikarakyaatotte ogottawaro. 目玉を光らせて怒った。

mesi taku [meɕitaku] *v.* すいじする（炊事する）. **kamyaa kakete mesitaku** 釜にかけてごはんをたく。

metago [me'tago] *n.* おんな（女）. **uti no metago wa ibaru tyuu wai** 私の娘は偉そうだ.

meyoo [mejo:] *n.* めくばせ（目配せ）. **are ga meyoo sita**. あいつが目配せした。

miburi [miburi] *n.* おかん（悪寒）. **miburi suru** 悪寒がする.

miburii *n.* みぶるい（身震い）.

mikakuru *v.* みかける（見かける）.

mina [mina] *adv.* ぜんぶ（全部）. **mina kuute simoota** 全部食べてしまった.

miru [miru] *v.* みる（見る）. **uti no neko wa mirankane / uti no neko o miradatta doo ka / kute miroo ka naa**. うちの猫を見ていませんか?/うちの猫を見なかった?／食べてみようかなあ。

miseru [miseru] *v.* みせる（見せる）. **sore misete kuren no** それを見せてください.

miso [miso] *n.* みそ（味噌）. **miso koote kite kurei** 味噌を買ってきてくれ.

misottyo [misottɕo] *n.* みそさざい（ミソサザイ）. **misottyo no gotaru**（体の小さい人に向かって）ミソサザイのようだ. **misottyo no saruki hazimetaraa** ミソサザイが歩き始めたら. **misottyo tyuu tori wa tikagoro miran nee** ミソサザイという鳥は、近頃は見ないねえ.

mitibati [mitɕibatɕi] *n.* みつばち（ミツバチ）.

mituga [mitsuga] *n.* くまで（熊手）. **nii no mituga koote kita** 新しい熊手を買ってきた.

mituguwa [mitsuːguːwa] *n.* びっちゅうぐわ（備中鍬）. **mituguwa de okosanya hegengaa** 備中鍬で（土を）起こさないのだめだ.

miuti [miu'tɕi] *n.* しんせき（親戚）. **miuti no zyoo de hanasiaoo ka** 親戚だけで集まろうか.

mizo *n.* みぞ（溝）.

mizore [mizore] *n.* みぞれ. **ame ga mizore ni natta ga** 雨がみぞれになったよ.

mizukuti [mizukutɕi] *n.* げんりゅう（源流）.

mizusumasi [mizusumaɕi] *n.* みずすまし (ミズスマシ) . **mizusumasi wa tan naka o ba hote saiku.** ミズスマシは田んぼの中を這ってまわる。

modoru [modoru] *v.* かえる (帰る) . **moo modoru ya** もう帰っちゃうのか。

moma [moma] *n.* むささび (ムササビ) . **kinuu moma mita** 昨日ムササビを見た。

mominoki [mominoki] *n.* もみのき (モミノキ) . **mominoki totte kite kazaru** モミノキをとってきて飾る。

moo [mo:] *adv.* もう . **mo: ɕimo:tano** もう終わったの？ .

morau [morau] *v.* もらう . **morau dake morattokoo ka** もらうだけもらっところか。 **syoozyoo wo moroota** 賞状をもらった。

mosi(ka) *adv.* もし .

mosu [mosu] *n.* あさ (麻の一種) .

motogamisama [motogamisama] *n.* まえのかんぬし (前の神主) . **an hitoga motogamisama yo.** あの人が前の神主さんだよ。

motogoe [motogoe] *n.* ひりょう (肥料の一種) .

motoya [moto'ya] *Variant: motoye. n.* ほんけ (本家) . **motoya ni sumu** 本家に住む。 **OOsanwa motoyeno monowai** ○○さんは本家の人だよ。

moyasi [moyaɕi] *n.* もやし (モヤシ) . **moyasi wa tukuran kee koote kite yugaite ponzu kakete kute mo umyaa** モヤシは作らないから買ってきて、茹でてポン酢をかけて食べてもいい。

mugiyara *n.* むぎをささえるしちゅう (麦を支える支柱) .

mugiyarabati

[muɕijarabatɕi] *Variant: mugiyara. n.* むぎやらばち (ムギヤラバチ) . **mugiyara kara syaata.** ムギヤラバチに刺された。

mukodono *n.* むこ (婿) .

mukoozune [mu'ko:dzune] *n.* すね (脛) . **mukoozune atattara ityaa** すねを当てたら痛い。

mukoozura *n.* おでこ . **mukoozura ni sirusi no aru wai** おでこにしるしがあるね。

munegi [munegi] *n.* はりぎ (梁木) .

musuko *n.* むすこ (息子) . **orege no musuko wa yakyuusensyu ni narityaa tyuu wai** うちの息子は野球選手になりたいようだ。

muudekuree [mu:dekure:] *v.* もんでくれ (揉んでくれ) . **kata muudekuree** 肩をもんでくれ。

muzoo かわいい。

muzoogaru [muzo:garu] *v.* かわいがる。

muzorasii *adj.* かわいらしい。

myooga [myo:ga] *n.* みょうが (ミョウガ) . **kosyoo to myooga to kizande syooyu to tukete kuu to umyaa ga** こしょうとみょうがとを刻んで醤油につけて食べるとおいしいよ。

myuuto [mju:to] *n.* ふうふ (夫婦) . **myuuto tyenoodo doke ik kai** 夫婦揃ってどこへ行くんですか？ .

na [na] *n.* な (菜) . **na domo hiite kite dogyaaka site kwoo ka, aemono ni sen noo** 葉っぱでも引っこ抜いてきてどうにかして食べましょう、あえ物にしないんですか(しましよう) .

naao *part.* へだね. **kyoo wa tenki no ee koto naao** 今日は天気がいいですね.

naasyaarui [na:sa:rui] *n.* ようさいい (葉菜類) . **syuru ni irut to ni naasyaarui hiite kon no. nandemo aru doo ga** 味噌汁に入れるのに(何でもいから) 葉っぱを引き抜いてきなさい. なんでもあるでしょう.

naba ['naba] *n.* しいたけ (シイタケ) . **kyuu wa naba mo hutottoru gotaru kee tori ikoo ka** 今日はしいたけも大きくなっているようなので採りに行きましょうか.

nadesiko [nadeɕiko] *n.* なでしこ (ナデシコ) . **nadesiko no hana o tumikiru** ナデシコの花を摘んで捨てる(枯れたやつなど).

nageru [nageru] *v.* なげる (投げる) . **nagenno** 投げなさい.

naizoo [naizo:] *n.* ないぞう (内臓) .

nakebessuru [nakebessuru] *v.* なく (泣く) . **akagono nakebessuru** 赤ちゃんが泣く.

nakebesu [nakebesu] *n.* なきむし (泣き虫) . **ano kowa nakebesuzyaa** あの子は泣き虫だ.

nakiworabu [nakiworabu] *v.* なきさけぶ (泣き叫ぶ) .

naku [naku] *v.* なく (泣く) . **koko de nyaatara warui zo** ここで泣いたらかっこ悪い.

namakemono [namakemono] *n.* なまけもの.

nandemo [nandemo] *adv.* なんでも.

nandemokandemo

[nandemokandemo] *adv.* いろいろ (色々) . **nandemokandemo tame:te miro:kano:** 色々試してみようかねえ.

nangi [nangi] *n.* びんぼう (貧乏) . **nangi sitoru** 貧乏している.

nangyattotte [nang^jattotte] *v.* なげすてておいて (投げ捨てておいて) .

nankin [nanɕin] *n.* かぼちゃ (カボチャ) . **uti na hyootannankin mo aru to wai** うちにはひょうたん南京 (長いかぼちゃ) もあるのですよ.

nanten [nanten] *n.* なんてん (ナンテン) . **syoogatu ni nanten o kazaru** 正月にナンテンを飾る.

naosu *v.* かくす (隠す) .

naosu [naosu] *v.* なおす (直す) . **naosite mo hegen naa** 直してもだめだなあ.

naosu [naosu] *v.* うえかえる (植えかえる) . **nae o naosu** 苗を植えかえる.

naryaa *part.* へしなさい. **hanasi kiita naryaa** 話ききなさい.

nasubi [nasubi] *n.* なす (ナス) . **nasubi no tyuu o mottara tataru wai, ityaa nee** ナスのヘタを持ったら刺さるよ、痛いねえ.

nazoru *Variant:* **nazuru.** *v.* さする. **wakibara nazoru** 脇腹をさする.

nazuna [nazuna] *n.* なずな (ナズナ) . **nazuna o bettari oetoru** ナズナをたくさん植えている.

neburikabutteru *v.* いねむりしている (居眠りしている) . **benkyoo mo kayasazi neburikabutteru gaa** 勉強もしないで居眠りしてるよ.

nedoko [nedoko] *n.* けもののあな (獣の穴・巣) .

negi [negi] *n.* ねぎ (ネギ) . **namanegi wa karyaa nee** 生のねぎは辛いねえ.

nemaru [nemaru] *v.* くさる (腐る) . **sono mesi wa nemattoruke kwangaeega** そのご飯は痛んでいるので食べない方がいい.

nenkaranenzyu [nenkaranendzu:] *adv.* いつも. **nenkaranendzu: nu:de bakari otte** いつも飲んでばかりいて.

neramu [neramu] *v.* にらむ (睨む) .

nidoguromame [nidoguromame] *n.* くろまめ (黒豆) . **nidoguromame wa kawano yaarakoo site** 黒豆は皮がやわらかくて.

nidohuro [nidoɸuro] *n.* いんげんまめ (いんげん豆) . **nidohuro mo yugyaate sumiso de kute mo umyaa to yoo.** **tyaate kute mo umyaa.** いんげん豆も茹でて酢味噌で食べてもおいしいのですよ、炊いて食べてもおいしい.

nigeru [nigeru] *v.* にげる (逃げる) . **nezumi ga nigeta huu** 鼠が逃げた.

niigurumi *n.* ぬいぐるみ.

niinoto [ni:note] *adj.* しんちょうした (新調した) . **nii no to huton wa yappari nukii** 新調したふとんはやっぱりあたたかい.

niku *n.* かもしか (カモシカ) . **niku ga taki hooto noboru/niku o totta naryaa hegen** カモシカが岩山をかけのぼる/カモシカをとったらいけない.

ninzin [nindʒin] *n.* にんじん (ニンジン) . **ano hito no uti ni wa ninzin tukutturui wai.** あの人の家ではにんじんを作っていますよ.

nira [nira] *n.* にら (ニラ) . **tamago to nira to mazete huraipan de yaate kute mo umyaa ga nee.** 卵とにらを混ぜてフライパンで焼いて食べてもおいしいがねえ.

nira no hana [nira no hana] *n.* にらのはな (ニラの花) . **kokohen zya nira no hana kuiyoran** このあたりではにらの花は食べていない.

nisime [niɕime] *n.* にしめ (煮しめ) . **nituke tyutaa mendoo na kee mettyaa sen** 煮しめというのはめんどうだからめったにしない (作らない) .

no zyoo *part.* だけ・ばかり . **miuti no zyoo** 身内だけ. **mizu no zyoo nuudoru ke** 水ばかりのんでいるから. **asyaa komoo sitotte hara no zyoo wa erai nee** 足は細くて腹ばかり太っているねえ.

nobiri [nobiri] *n.* のびる (ノビル) . **nobiri wa kizoodo misyee mamete namuru** ノビルは刻んで味噌と混ぜてなめる.

noboru [noboru] *v.* のぼる (登る) . **yamyaa nobotta wai** 山に登った.

nobosekaze [nobosekaze] *n.* かぜ (風の一種) . **nobosekazenno huitakara asitawa haruruwai** のぼせ風が吹いたから明日は晴れるよ.

nobosuru [nobosuru] *v.* むちゅうになる (夢中になる) .

nodo [nodo] *n.* のど (喉) . **nodo no ityaa.** 喉が痛い.

nodobotoke [nodobotoke] *n.* のどぼとけ (喉仏) . **nodobotoke no ityaawano.** 喉仏が痛い.

nodomara [nodomara] *n.* のどぼとけ (喉仏) .

noko [noko] *n.* のこぎり (鋸) .

nomayuru [nomajuru] *v.* みずがぎゃくり
ゆうする (水が逆流する) . **kono
hen nyaa nomayuru tokowa nyaa**
この辺に水が逆流するところはない.

nomikai [nomikai] *n.* のみかい (飲み会) .

noo ga ee [no: ga e:] *adj.* かしこい (賢い) .

noru [noru] *v.* のる (乗る) . **kuruma nya
noran wai** 車には乗らない.

nozawana [nozawana] *n.* のざわな (ノザ
ワナ) . **nozawana wa tukemon ni suru
to umyaa ga nee** 野沢菜は漬物に
するとおいしいがねえ.

nukago [nukago] *n.* むかご (ムカゴ) . **yama
de sizen ni ueta honnukago ga umyaa**
山で自然に生えた本ムカゴがおい
しい.

nukii [nuki:] *adj.* あたたかい (暖かい) .
nukuu wa nyaa do ka naa 暖かく
(暑く) ないかなあ.

nukii [nuki:] *adj.* あつい (暑い) .

nukumeru [nukumeru] *v.* あたためる (温
める) . **gotyaawo nukumeru** 体 (五
体) を温める . **syuruwo nukumete
kwookai** 味噌汁を温めてこようか.

nukumoru *v.* あたたまる.

numa [numa] *n.* ぬま (沼) . **asoko no numa
ni ikyya sisi no ato ga aru ga** あそこ
の沼に行けば猪の跡があるよ.

nurii [nuri:] *adj.* ぬるい . **nuruburo ni itta**
ぬる風呂に入った.

nuriutugi [nuriutugi] *n.* ぬりうつぎ (ヌリウ
ツギ) . **nuriutugi ga sasu** ヌリウツ
ギが咲く.

nusutoboo [nustobo:] *n.* どろぼう (泥棒) .

O - o

obane [obane] *n.* おね (尾根) . **ano obane
ga yoknee** あの尾根がきれいだね.
obane nobottaga tikyaayo 尾根を上
った方が近いよ.

obii [obi:] *adj.* おもい (重い) . **kono
nimotu wa obii nee** この荷物は重い
ね.

ogantyoo [ogantɕo:] *n.* おじか (雄鹿) .
**ogantyoo yori megantyoo no hooga
koetoru kee umyaa.** 雄鹿より女鹿
の方が太っているからおいしい.

ogoru [ogoru] *v.* おこる (怒る) . **ziisan
kara ogorareyotta.** じいさんに怒ら
れた (ものだ) . **oggotte warukatta na.**
おこって悪かったな.

ogosu [ogosu] *v.* はらをくだす (腹を下
す) . **hara ogeeta.** 腹を下した.

oiko [oi'ko] *n.* おい (甥) . **oiko ga
syoogakunyugaku suru tyuu wai** 甥
が小学校に入学した.

okai [okai] *n.* おかゆ (お粥) . **okai tyaate
kuoo ka** おかゆを焚いて食べよう
か.

okiru [okiru] *v.* おきる (起きる) . **hayoo
okireba tyaahen na bai ne / hayoo
okiru to tyaahen na ne** 早く起きる
のは大変だね.

oku [oku] *v.* おく (置く) . **site weete mo
son wa nyaa ga.** しておいても損は
ないよ.

okubyoomono [okɯbjoomono] *n.* おくび
ようもの（臆病者）。

okutte [okutte] *v.* おくって（送って）。
tegami ba okutte kureta 手紙を送っ
てくれた。

omosiree [omosiɾe:] *adj.* おもしろい（面白
い）。**omosiree yume mita wai** 面白
い夢を見たよ。

ona *n.* おんな（女）。

onago *n.* おんな（女）。

onago no kyoozyaa [ona'go no k'jo:'za:] *n.*
しまい（姉妹）。**ano onago no**
kyoozyaa no tura no nitoru yo あの
姉妹は顔が似ている。

onagonoko *n.* おんな（女）。

onamettyo *n.* おんな（女）。**onamettyo no**
kuse ni sono izumyaa wa nan ka 女
のくせにその姿勢はなんだ。

onbako [ombako] *n.* おおばこ（オオバコ）。
onbako no ha o hareba umi ga deru
mon noo. オオバコの葉を貼れば
膿が出るもんね。

ondomo [ondomo] *n.* わたしたち（私た
ち）。

onna- *prfx.* めすの（雌の）。

oodoogohee [o:do:gohe:] *n.* おうちやく
（横着）。**oodoogohee suruna** 横着
するな。**agena oodoogohee suru to**
to asobuna. nani saruru yara wakaran
zo あんな意地悪する子と遊ぶな。
何されるやら分からないぞ。

oodoona [o:do:na] *adj.* おうちやくな（横
着な）。**ano kowa oodoonakee** あの
子は横着だから。

oonyaake [o:n'ja:ke] *n.* あおむけ。
oonyaate neru あおむけで寝る。

orabu *Variant: orau. v. 1*・さけぶ（叫ぶ）。
syootyuu nuude orabiyoru ga 焼酎を
飲んで叫んでいるぞ。

2・なく（鳴く）。

oran [oran] *v.* いない（居ない）。
kantyoowa kokyaanya oran 鹿がこ
こにはいない。

oregae [oregae] *Variant: oregai; orege. n.* わ
がや（我が家）。**ware oregae ikoo ya**
おまえ、俺の家にいこうよ。**oregai**
no kodomo miradatta dooka? うちの
子を見なかった？。

oregaenta *n.* つま（妻）。**oregaenta katyaa**
sippu hatte kureta wai. 私の妻が（/
は？以下nt参照）肩にしっぷを這
ってくれた。

oreine [oreine] *v.* いてね（居てね）。**kokoni**
oreine ここにいてね。

oru [oru] *v.* こもっている（籠ってい
る）。**tikagora ienonakya bakkari**
oruga 近頃は家の中に籠っている。
nukitoki oru 暖かい部屋（ところ）
に籠っている。

orukaoo [orukao:] お店に入るとときのあ
いさつ。

ose [ose] *n.* おとな（大人）。**osee**
nattemo itumademo kodomo no
goto kayaatoru 大人になってもい
つまでも子供みたいにしている。

oteru *v.* おちる（落ちる）。

otitiite [otɕitɕiite] *v.* おちついて（落ち着
いて）。**otitiite sinkokyyu sitaga yeega**
落ち着いて深呼吸した方がいい。

otitukanya [otɕitsukana] *v.* おちつかない
と（落ち着かないと）。**tittaa**
otitukanya ちよっと落ち着かない
と。

otodakesuru [otodakesuru] *v.* さわぐ（騒
ぐ）。**sogyaa otodake sunna** そんな
に騒ぐな。

otokomasari [otokomasari] *adj.* おとこま
さり（男勝り）。**anko wa otokomasari**
あの子は男勝り。

otooto [o'to:to] *n.* おとうと（弟）. **uti no otooto wa atama ga ee tyuu wai** 私の弟は頭が良い.

otorosyaa [otoroɕa:] *adj.* 1・おそろしい（恐ろしい）.
2・いやだ（嫌だ）.

ototyee [ototɕe:] *n.* おととい（一昨日）.

otta [otta] *v.* いた（居た）. **kantyoono otta** 鹿がいた.

ottii [ottɕi:] *n.* おじ（伯父・叔父）. **Oottiiwa motomotokara zimotono monowai** ○○おじは元々から地元の人だよ. **ottii wa kyuu wa yakubya ni iku to yaa** 伯父は今日役場に行かれる.

oyadomo *n.* りょうしん（両親）. **oregae no kodomo wa benkyoo suru tokyo oyadomi kiku wa.** うちの子供は勉強するときは両親にきくよ.

oyakata ni naru *v.* せいちゅうになる（成虫になる）.

oyako [oya'ko] *n.* おやこ（親子）. **oyako de tabi syuu ka** 親子で旅しようか.

oyuru [ojuru] *v.* はえる（生える）. **koomuki no takusan oetoru** コウムギがたくさん生えている.

ozogaru [ozogaru] *v.* こわがる（恐がる）. **takyaa tokowa ozogarumonna** 高いところは恐がるものね. **musuko wa tyuusa ozogaru kee zyaazi bai.** 息子は注射をこわがるから大変だ.

ozyee [oze: ~ oze:] *adj.* こわい（怖い）. **yuusari dete sarukiryaa nan no detkurka wakaran kee ozyee zo** 夜に出て歩いていたなら何が出てくるかわからないから怖いぞ. **kore ozyee nee.** これ怖いね.

R - r

rakkyu [rakkju] *n.* らっきょう（ラッキョウ）. **rakkyu wa nama de kizoode misyee mamete kuu** ラッキョウは生で刻んでみそと混ぜて食べる.

ribakatto [ribakatto] *n.* ばんそうこう.

rikoona [riko:na] *adj.* かしい（賢い）. **ano ko wa rikoona kozyaa.** あの子は賢い子だ.

rindoo [rindo:] *n.* りんどう（リンドウ）. **rindoo no yoka yoo ni syaatoru** リンドウが美しく咲いている.

ryoosi [ryoosi] *n.* りょうし（漁師）. **ore ga totaa ryoosi ni naritakatta tyuu domo naredatta tyuu wai** わたしの父は漁師になりたかったというが、なれなかったということだ.

S - s

sabiru [sabiru] *v.* のぞく (穀物に混じっている異物を除く) . **koraa sabiru kikai desu** これは穀物に混じっている異物を除く機械です。

sado [sado] *n.* いたどり (イタドリ) . **kodomo no utyaa harusaki naryaa sio o kami tutuude totte kute sarukiyotta** 子供の頃は春先になれば塩を紙に包んで (イタドリを) 採って食べて歩いていた. **ore yorika ano ko no hoo ga untokosyaa sado totte kita wai** 私よりもあの子のほうが、たくさんイタドリをとってきたよ。

sae [sae] *n.* やまのうえのところ (山の上の所) . **yama no sae no hatake no koooddo do ne** 山の上のほうの畑が凍っているだろうね。

sagasu *v.* さがす (探す) (みつける) . **sagyaate kureta.** 探してくれた。

sageru [sageru] *v.* さげる (下げる) .

saka [saka] *n.* さか (坂) . **nonborizaka o noboru** 上り坂を上る。

sakenomi [sakenomi] *n.* のみかい (飲み会) . **sakenomi aru kee ikoo ka.** 飲み会があるから行こうか。

sako [sako] *n.* たに (谷) . **sako nyaa mizu ga waku** 谷には水が湧く. **sako o kawa ga nagarete iru** 谷に川が流れている。

sakugoya [sakugoja] *n.* さくでかこまれたこや (柵で囲まれた小屋) .

samasanya [samasana] *V.* ひやしなさい (冷やしなさい) . **bintaba samasanya** 頭を冷やしなさい。

samii [sami:] *adj.* さむい (寒い) . **kinyuuyorika samiino kyuwa samunarutyuganoo yuki no huryaa samiiyo** 昨日よりも寒いなあ 今日には寒くなるというけどね 雪が降ったら寒いよ。

sane [sane] *n.* たね (種) .

sangwatu [sang^watsu] *n.* さんがつ (三月) .

sangyaaneko *n.* のらねこ (野良猫) . **sangyaaneko no kitya kee zyaasi** のらねこが来たから大変だぞ。 .

sariku [sariku] *v.* あるく (歩く) . **asuude sariku.** 遊んで歩く。 **ziityan, ima kara sarite kuu ka no?** じいちゃん、今から歩いてくるかね? .

sasou [sasou] *v.* さそう (誘う) . **ano hito sasooode kita narya** あの人を誘ってきなさい。

sasu *v.* さす (指す) . **ibi de syaata** 指で挿した。

sasu *v.* さく (咲く) .

sazae [sazae] *n.* さざえ (サザエ) . **sazae wo yaate kwoo ya.** サザエを焼いて食べようよ。

sedo [sedo] *n.* うら (家のうら) .

see [se:] *n.* かわのぶぶん (川の部分の一種) . **akkaa senaa hayai mon noo.** あそこは川は早いもんね。

sekaru *v.* しまる (閉まる) . **akari mo sekari mo sen.** 開きも閉まりもしない。

seki [seki] *n.* せき (堰) . **kawa o ba seki suru** 川に木を取り付ける。

semigara [semigara] *n.* せみのぬけがら (セミの抜け殻) . **kinoha ni semigara no hittiitotta wai** 木の葉にセミの抜け殻がひっついてたよ。
Variant: **semi no kara.**

senaka [senaka] *n.* せなか (背中) .

sendou [sendo:] *n.* きこりのしゅうだん (木こりの集団) .

sengobana [sengobana] *n.* せんごばな (セングバナ) .

senpuri [sempu'ri] Variant: **senburi.** *n.* せんぶり (センブリ) .

senso [senso] *n.* せんぞ（先祖）．

sensui [sensui] *n.* いけ（池）． **orega i nya**
sensui no aru. 私の家には池がある。

seri [seri] *n.* せり（セリ）． **seri wa**
dokuzeri ni nitoru せりは毒ぜりに似ている．

sesekeu [sesekeu] *v.* 1・あつかう（扱う）．
2・かってにいじる（勝手にいじる）． **sesekeyaa hegen** いじったらだめ．

settin [settɕin] *n.* ベンじョ（便所）． **settin**
ni litte kuru. 便所に行ってくる．
mukasi wa settin zyatta mon naa. 昔は（汲み取り式）便所だったもんね．

sewa nyaa *phr.* しんぱいない（心配ない）．
maa sewa nyaa hi no tettoru kee まあ心配ないでしょう日が照っているから．

sewasii [sewaɕi:] *adj.* せわしい（忙しい）．
ano ningenwa sewasiikee あの人はせわしい人だから．

sewasii [sewaɕi:] *adj.* やかましい． **akkono**
ina: sewaɕi:no: あそこの犬はやかましいなあ．

siigiku [ɕi:gikw] *n.* すいば（スイバ）．
siigiku totte siwo tukete kwoo ka noo. スイバを取って塩をつけて食べようかな．

siira [ɕi:ra] *n.* もみがら（粃殻）． **siira**
imasaki usiteta 粃殻をさつき捨てに行った．

sikusiku [ɕikuɕiku] しずかになくようす（静かに泣く様子）．

sinatoko [ɕinatoko] *n.* だっこくさぎょうをするばしょ（脱穀作業をする場所）． **sinatoka** **taigyaa samii** 脱穀作業をする場所はとても寒い．

sinboosenya [ɕimbo:sepa] *v.* たえなければ（耐えなければ）．

sinmosu *n.* あさ（麻の一種）．

sinnosu [ɕinnosu] *n.* こうもん（肛門）．
sittaka sin no su akambee; sittaka sin
no su aka zin no su （いずれも、ケンカしたときに相手を馬鹿にする言葉）．

sinrui [ɕinrui] *n.* しんるい（親類）．
sontyooto oregayewa sinruiyo 村長と私は親類よ．

sinyaa [ɕina:] *sfx.* 〜の方． **kottisinyaa ikoka**
こっちの方に行こうか．

sioase *n.* あせ（汗）．

siokaryaa [ɕiokarja:] *adj.* しおからい（塩辛い）． **titto siokaryaa nee** 少し塩辛いねえ．

siraga [ɕiraga] *n.* しらが（白髪）．

sirame [ɕirame] *n.* けじらみ（毛ジラミ）．

siree [ɕire:] *adj.* しろい（白い）． **ano hito**
no kao no siree nee あの人の顔が白いね．

siribeta [ɕiribeta] *n.* しり（尻）． **siribeta no**
ityaawano. 尻が痛い．

sirimoti [ɕirimotɕi] *n.* しりもち． **sirimoti tilta**
しりもちをついた．

siriwo [ɕiriwo] *n.* しっぽ（尻尾）． **siriwo**
huru. 尻尾を振る．

siru [ɕiru] *v.* しる（知る）． **sitte weetemo**
son wa nyaa ga 知っておいても損はないよ．

sisi *n.* いのしし（イノシシ）． **uriboo wa**
sisi no ko yo. うりぼうはイノシシの子だよ．

sisigari [ɕiɕigari] *n.* りょう（猟）． **asitarya**
dokono yamani sisigari ikoukanee. 明日はどこの山に猟に行こうかな．

sitago [ɕitago] *n.* すえっこ (末っ子) .
akkono sitagowa tobigatinya haya tyuuwai あそこの末っ子は走りが速いらしいよ.

sitaotoya [ʃita'otoya] *n.* ぶんけのひと (分家の人) . **sitaotoya no ie ni sumu** 分家の人々の家に住む.

sitara [ɕitara] *n.* した (舌) . **sitara dyaate nigeta.** 舌を出して(あっかんべーして)逃げた.

sitoru [ɕitoru] *v.* している. **musukoga benkyoo sitoru** 息子が勉強をしている.

sitta [ɕitta] *v.* へをした (屁をした) .

siyotta [ɕijotta] *v.* していた. **zilisanto baasanga ryooriwo siyotta** おじいさんとおばあさんが料理をしていた.

sizindono [ɕizindono] *n.* はいってはいけないとち (入ってはいけない土地) .
koko wa sizindono matuttur kee hairan ga ee bai. ここは入ってはいけばい土地だから入らない方がいいよ.

sobiite [sobi:te] *v.* ひっぱって (引っ張って) . **karaikiran kara sobiite kita** 背負えないから引っ張ってきた.

sono [sono] *n.* はたけ (畑) .

soodosuru [so:odosuru] *v.* さわぐ (騒ぐ) .
taigyani soodoosenka そんなに騒ぐな.

sooke ざる.

sozisi

sugari [sɯgari] *n.* すがりばち (スガリバチ) .

sugi [sɯgi] *n.* すぎ (スギ) . **sugi no mi no kotosi wa bettari nattoru** 杉の実が今年はたくさん成っている.

sugoku [sugoku] *n.* しごく . **sugeete arawanyaa** (繊維を) しごいて洗いなさい.

suika [suika] *n.* すいか (スイカ) . **nukwii tokyaa suika domo hiyaate kwoo ka** 暑い時はすいかでも冷やして食べようか.

suiziba [swiɰziba] *n.* だいどころ (台所) .
suiziba wa mizu no toriguti ga ii toko ni tukuru. 台所は水の取り口がよいところに作る.

suki [suki] *n.* すき (鋤) .

sumu [sumu] *v.* すむ (住む) . **kokii kite sunde sannan ni naru** ここに住んで3年になる.

sune [sune] *n.* あし (足) . **sune n nagyaa** 足が長い. **koko wa sune, booru ket to ga asi** ここはスネ (=足) , ボールをけるのがアシ (=足首) .

suneboozu [sunebo:zu] *n.* ひざ (膝) .

sungyaata [sungʲa:ta] *v.* へをすかした (屁をすかした) .

sunugebe [sunuɰgebe] *Variant: sungebe. n.* すかしっ屁.

suru [suru] *v.* する. **suru to ka sen to ka hakkiri syee** するのかししないのかははっきりしなさい.

sutokodomo [sutokodomo] *n.* いたずらっこ. **ano sutokodomo domo wa warikoto bakari kayaate** あのいたずらっこたちはいたずらばかりして.

suwaru [suwaru] *v.* すわる (座る) . **isu ni suwatte mattote/ matotta narya** 椅子に座って待っておいてください.

syaa [ɕa:] *n.* おかず. **kakasan to kyuuya mesi no syaa wo tukuryoo** 母と今日はおかずを作るよ.

syaaenbatake [ɕaːembatake] *n.* はたけ
(畑) . **syaaenbatake o tataku** 畑を
たたく.

syaberu [ɕaberu] *v.* しゃべる. **ano**
onagowa yuu syaberumonnoo あの
女の人をよくしゃべるものね.

syagoyasi [sjagojaɕi] *n.* おおあめ (大雨) .
kyoo wa esiren syagoyasi suru naa o,
doko ni mo deraren ga 今日はたい
そう雨が降ってるな、どこにも出
かけられない.

syakkuri [ɕakkuri] *n.* しゃっくり. **syakkuri**
no tomaran noo. しゃっくりがとま
らないね.

syakunage [ɕakunage] *n.* しゃくなげ(シ
ャクナゲ). **syakunage ga kiree ni**
syaatoru シャクナゲがきれいに咲
いている.

syoobu [ɕoːbu] *n.* しょうぶ(ショウブ).
syoobu de atama o musubu 菖蒲で
頭を結ぶ.

syooga [ɕoːga] *n.* しょうが (ショウガ) .
syooga wa kitte hweetokeba
kazegusuri ni naru tyuu yo 生姜は切
って干しておけば風邪薬になると
言いますよ.

syoonozyu [ɕoːnozu] *n.* じゃがいも (ジャ
ガイモ) . **syoonozyu wa ne no ii noo.**
ジャガイモは根がいいね.

syumu *v.* しみる (染みる) .

syungiku [ɕungiku] *n.* しゅんぎく (シュン
ギク) . **kon'ya domya nabe suu ka.**

syungiku domo hiite kite nanihen o ba
irete kwoo ya. karada ga nukumoru
bai 今夜でも鍋をしようか。春菊
でも引っこ抜いてきて色々な野菜
を入れて食べましょう。体があつ
たまりますよ.

syuru *n.* しる (汁) .

syuso [ɕuso] *n.* しそ (シソ) . **syuso no**
senmaiduke wa goo ni narabete sio
hutte kasanete omosi o site. しその
千枚漬けはゴウ (四角い箱) に並
べて塩を振って重ねて重しをして
(作ります) .

syuuben [ɕuːben] *n.* おしっこ (小便) .
syuuben marikaburu. 小便を漏らす。
syuuben mariikanya marikaburu. 小
便をしに行かなければ漏らす。

syuusa [ɕuːsa] *n.* しかい (司会) .

syuutooya [ɕuːto'oya] *n.* しゅうとめ
(舅) ・しゅうと (姑) . **syuutooya**
to kenka sita wai 姑と喧嘩した.

T - t

ta(nnaka) [ta(nnaka)] *n.* たんぼ (田んぼ) .
akko no tannaka yoka nee あそこの
田んぼはいいね.

tabaku *v.* はく (吐く) . **tabyaata tyuu.** 吐
いたらしい.

taburu *v.* たべる (食べる) . **tabun nara**
tabesasite mo ii tya kedo 食べるな
ら食べさしてもいいんだけど.

taigyaa *adv.* とても.

taihuu [taifu:] *n.* たいふう（台風）. **taihuu no kuru tyuu wa/taihuu no kita gaa** 台風が来るらしい/台風が来たよ.

takenokoimo [takenokoimo] *n.* たけのこいも（タケノコイモ）. **takenokoimo wa tukuran domo kooto kuu. anmari umyaa ta omowan** タケノコイモは作らないけれど買って食べる。あまりおいしいとは思わない.

takimono [takimono] *n.* たきぎ（薪）. **takimontori senyaa kotosi no huyu takuta nyaa bai** 薪を取っておかないと今年の冬たくのはないよ. **takimono kozuudaru ne** 薪が積んであるね.

takiotosi [takiotosi] *n.* おきび（熾火）. **takiotosi wa hituki ga ee.** 熾火は火のつきがいい.

taku [taku] *v.* たく（焚く）. **hii tyaatuketa naryaa** 火を焚きつけなさい. **hi taku** 火を焚く. **ora hii tyaatoru toko zya** 私は火を焚いているところだ. **hi no moetoru ga.** （標準語訳が未記載）.

taku [taku] *v.* にる（煮る）.

tamagaru [tamagaru] *v.* おどろく（驚く）.

tamanegi [tamanegi] *n.* たまねぎ（玉葱）. **tamanegi o kiru to me ni syumu** 玉葱を切ると目にしみる.

tamari [tamari] *n.* みずたまり（水たまり）. **sokee mizu ga tamattoru zo** そこに水がたまってるぞ.

tamesu [tamesu] *v.* ためす（試す）. **ude de tamesite mitanyaraa/miroo ka na** 自分の腕を試しましょう（人に/自分に）.

tan [tan] *n.* たん（痰）. **tan no deryaa zyaazi ga.** 痰が出たら大変だ.

taniwatari [tani'watari] *n.* たにわたり（タニワタリ）.

tanuude [tanu:de] *v.* たのんで（頼んで）. **kozukyaa tanuude yeedooka** おつかい頼んでもいい？.

tasukuru [ta'sukuru] *v.* たすける（助ける）. **tasukete kuren kai/tasukete kure i** 助けてください.

tataku [tataku] *v.* うつ（打つ）. **uma o muti de tataku** 馬を鞭で打つ.

tataru [tataru] *v.* ささる（刺さる）.

tatidomatta [tatsidomatta] *v.* たちどまった（立ち止まった）. **namae yobaretakee tatidomattawai** 名前を呼ばれたから立ち止まった.

tatu [tatsu] *v.* たつ（立つ）. **soko ni tatte mattota narya** そこに立って待っていないさい.

tayuudono [taju:dono] *n.* ぐうじ（宮司）.

tego *n.* かご（籠）.

tengusohiru *v.* はく（吐く）.

tenki [tenki] *n.* てんき（天気）. **tenki no yoka saa** 天気がいいね.

tenkiame *n.* てんきあめ（天気雨）.

tenohara [tenohara] *Variant: tenohira. n.* てのひら（手のひら）. **tenohara o kayasu** 手のひらを返す.

tenohusi [tenoφuɕi] *n.* ゆびのかんせつ（指の関節）.

ti [tɕi] *n.* おっぱい. **ti nomasenyya.** おっぱいを飲ませなければならぬ.

tidimeru [tɕidzimeru] *v.* ちぢめる（縮める）. **tiduuda wai** 縮んでしまったよ.

tigutigu [tɕigutɕigu] *adj.* はんたい（反対）. **tɕigutɕiguni haku** 反対に履く.

tiigusa [tɕi:guɕa] *n.* つゆくさ（ツユクサ）. **tiigusa no muzorasii hana no syaatoru** つゆくさのかわいい花が咲いている.

tikaziite [tɕikadɕi:te] *v.* ちかづいて (近づいて) . **tikaziite kita** 近づいて来た.

tinomigo [tɕinomigo] *n.* ちのみご (乳飲み子) .

tintin [tɕintɕin] *n.* だんせいき (男性器) .

titto [tɕitto:] *adv.* ちょっと. **titto**
tugimane surune ちょっと注いであげるね.

tizimaki [tɕizimaki] *n.* たつまき (竜巻) .
tizimaki ga kita, nigenyaa zyaazi zol
台風が来た、逃げないと大変だぞ! .

tizyuuge [tɕizu:ge] *n.* ちぢれげ (縮れ毛) .

tobokeru [tobokeru] *v.* とぼける.
toboketoryaa senkai とぼけているんじゃないか.

tobu [tobu] *v.* はしる (走る) . **tobu no ga hayai mon ne/hito ga tobiyoru.** 走るのが速いからね。/人が走っている。

todoro [todoro] *n.* たき (滝) . **yagate todoro ni tuku** もうすぐ滝に着く.

toga [toga] *n.* つが (ツガ) . **toganoki de tukutta hasira** ツガの木で作った柱.

togi *n.* ともだち (友達) .

tokidokyaa [tokidokja:] *adv.* ときどき (時々) . **tokidokyaa dete sarikannoo** 時々は出て歩かないと.

tokitosi [takiotɕi] *n.* はい (灰の一種) .

tokorobati [tokorobatɕi] *n.* くろすずめばち (クロスズメバチ) .

tokyaanoonatta [tokja:no:natta] *adj.* めちゃくちゃ. **tokyaanoonattawai** (災害などで)めちゃくちゃになった.

tokyaata [tokʲa:ta] *v.* とけた (溶けた) .
dogyaasite kooriwa tokyaatato どのようにして氷は溶けたの? .

tokyaate [tokʲa:te] *v.* とかして (溶かして) .
satooba tokyaa kureru 砂糖を溶かしてくれる? .

tomasaku [tomasaku] *n.* いたち (イタチ) .

tomengoto [tomengoto] *v.* とめないように (止めないように) . **irigutizyaa tomengoto sitekurei** 入口で止めないようにして.

tomunnai [tomunnai] *v.* とめないで (止めないで) . **oreba sogyaa tomunnai** 私を止めないで.

tomuuya [tomu:ja] *v.* とめて (止めて) .
kurumaha kokyee tomuuya 車はここに止めて.

tonti ga ee *phr.* おもしろい (面白い) .
oregae n totaa tonti ga yokatta to yo
私の父は面白い人だったのよ.

tontyan [tontɕan] *Variant: otottyan; ototyán; tottyan; tootyán; otoo; toto; toti. n.* とうさん (父さん) . **tontyan wa ozyee** 父さんは怖い. **tota ozyee** 父さんは怖い. **otottyan, nanzigoro ni modoru ya?** 父さん、何時に帰るの? . **tootyán wa gankomono da** 父は厳しい人だ.

tookibi [to:kibi] *n.* とうきび (トウキビ) .
tookibi idete kuu. トウキビをゆでて食べる.

toorande [to:rande] *v.* とおらないで (通らないで) . **sottyaa toorande** そこ通らないでね.

tootyán [to:'tʃan] *n.* おっと (夫) . **tootyán to hutari de kooyoo mirya ite kuru wai / tyan, mesi demo kwoo ya** 夫と二人で紅葉を見て来ます/あんた、ご飯でも食べましょうか.

toppen [toppen] *n.* ちょうじょう (頂上) .
ki no toppen ni tori no hoodoru 木のでっぺんに鳥がとまっている.
yamano toppen made ikooka 山の頂上まで行こうか.

toru [toru] *v.* とる (取る) . **kagi otita domo toryaen to wai** 鍵を落としたけど取れない.

tosioori [toʃio:ri] *n.* としより (年寄り) . **tosioori no yuu koto wa yakwii tatu wai** お年寄りの言うことは役に立つ.

totinomi [tocɕinomi] *n.* とちのみ (トチノミ) . **totinomi no otete kuru/aetoru** トチノミが落ちてくる/落ちている.

totokaka [totoka'ka] *n.* りょうしん (両親) . **totokaka mo kyuu wa tyenoode yama ni iku tyuu wai** 両親も今日は一緒に山に行く.

touryou [to:rjo:] *n.* とうりょう (棟梁) .

tubaki [tɕubaki] *n.* つばき (椿) . **tubaki wa mi no hutye to ga naru zee** 椿は大きい実がなりますよ.

tubame [tsubame] *n.* つばめ (ツバメ) .

tubi [tsubi] *n.* じょせいき (女性器の全体) .

tubi no mame [tsubi no mame] *n.* じょせいき (女性器の中の「あれ」) .

tuburu *v.* つむぐ・だまる . **kutyaa tubilfore.** 口はつぐんでろ (=だまってる) .

tuee [tsue:] *adj.* つよい (強い) . **ano ko wa tuee nee** あの子は強いね.

tukinomono [tsukinomono] *n.* げっけい (月経) , せいり (生理) .

tukkorobasu [tsu'kkorobasu] *v.* つきとばす (突き飛ばす) .

tukokyaata [tsukokʰa:te] *v.* おとして (落として) . **tyanomi zyawa tukokyaate utiwatte simootawai** 茶飲み茶碗を落として割ってしまった.

tuku *v.* つく (付く) . **iro no tiite kita** 色がついてきた.

tukurinbyoo [tsu'kurinbjo:] *n.* けびょう (仮病) .

tukuziru [tsukuziru] *v.* つつく . **sobyaa oru to ba tukuziite mita wa.** そばにいろのをつついてみた.

tumetyaa [tsumetja:] *adj.* つめたい (冷たい) . **huyu wa yubi no saki ga tumetyaa nee** 冬は指の先が冷たいね.

tumikiru *v.* つんですてる (摘んで捨てる) .

tunboo *n.* つんぼ.

tunmoreru/tunmoru
[tunmoreru/tunmoru] *v.* おれる (折れる) . **hone tunmoreta/tunmotta** 骨が折れた.

tunmoru [tsum'moru] *v.* ねんごする (捻挫する) . **asikubi tunmotta** 足首をくじいた.

turusigaki [turuɕigaki] *n.* ほしがき (干し柿) .

tutibati [tsuwtɕibatɕi] *Variant: dorobati. n.* ちばち (ツチバチ) .

tuto [tsuto] *n.* ふくらはぎ . **tuno no ityaa.** ふくらはぎが痛い.

tutumi [tsuwtsumi] *n.* いけ (池) . **tutumi wa kotti nya nai kara ne.** 池はこっちにはないからね.

tutumu *v.* つつむ (包む) . **tutuude kubittoke** 包んで結んどけ.

tuu [tsu:] *Variant: tyuu. [tɕu:] n.* へた . **tomato no tuu** トマトのへた . **kaki no tyuu** 柿のへた.

tuubi suru [tsu:bi suru] *v.* せいこうする (性交する) . **tuubi suru.** 性交する.

tyaahen *adj.* たいへんだ (大変だ) . **asa okiru to wa tyaahen na nee.** 朝起きるのは大変だ.

tyaatukeru *v.* たきつける (焚き付ける) . **hii tyaatuketa** 火をつけた.

tyan *intj.* あんた（妻が夫に）. **tyan, mesi domo kwoo ya.** あんた、ご飯でも食べようか。

tyenooode~tyende [tʰɛnoːde] *adv.* いっしょに（一緒に）.

tyoka [tʰɔka] *n.* やかん. **tyoka kakyuuka** やかんを（火に）かけようか。

tyuu [tʰɯː] *sfx.* らしい. **hwyaaata tyuu.** 吐いたらしい。

tyuusa [tʰɯːsa] *n.* ちゅうしゃ（注射）. **tyuusa wa ozol.** 注射は怖い。

U - u

ude [ude] *n.* ひじからさき（肘から先）.

uketotta [uketotta] *v.* うけとった（受け取った）. **tegamiwo uketotta** 手紙を受け取った。

umoo nyaa [umoːɲaː] *adj.* おいしくない。

umyaa [umˈjaː] *adj.* おいしい. **umyaabai kuteminno** 美味しいよ、食べてみる？. **kaatyan no tukutta kinpira wa umyaa nee** お母さんの作ったきんぴらは美味しいねえ. **kono sisiniku wa umyaa bai** このいのしし肉はおいしいな。

unagi [unagi] *n.* うなぎ（ウナギ）.

uname [uname] *n.* めすうし（雌牛）. **uname o zyaazi ni sodatetoru** 雌牛を大事に育てている。 **unamezura** メス牛のような顔。

undomo [undomo] *n.* おまえら。

unto [unto] *Variant: untokosyaa. adv.* たくさん. **naba unto toretano:** しいたけがたくさん取れた。

uppaturu [uppatsurru] *v.* たたく（叩く）. **hoppe wo uppaturu** 頬を叩く。

uri [uri] *n.* きゅうり（キュウリ）. **uryaa dogyaa site taburu? sunomono ga umyaa doo ka, tukemono ga umyaa doo ka/uri to wakame ga au ga nee** きゅうりはどうやって食べますか？酢の物がおいしいだろうか、漬物がおいしいだろうか/きゅうりとわかめが合うよねえ。

usagi wana [usagi wana] *n.* うさぎよのわな（ウサギ用の罠）. **usagi wana kakuru.** ウサギ用の罠をかける。

usiteru *Variant: usituru. [uʃituru] v.* すてる（捨てる）. **gomi usitete kite** ゴミ捨ててきて. **usitende tottyeetekurei** 捨てないでとっておいてね。

utikuyasu *v.* こわす（壊す）. **kodomo ga utikuyasu kee tokee kazimeta./ tokee utikuyaate simooota** 子供が壊すから時計を戻した（隠した）/時計を壊してしまった。

utisozisi

utiwaru [utɕiwaru] *v.* わる（割る）. **tyanomi zyawa tukokyaate utiwatte simootawai** 茶飲み茶碗を落として割ってしまった。

utu [utsu] *v.* はたけをたがやす（畑を耕す）. **sono utte kuren noo** 畑を耕してくれ。

utu [utsu] *v.* うつ（打つ）.

utugi [utɕugi] *n.* うつぎ (ウツギ) . **utugi wa siryee hana no ippyaa saku wai. mi mo naru zee.** うつぎは白い花がたくさん咲きます、実もなりますよ.

uu [u:] *v.* おう (追う) . **neko wa nezumi o uute sarukiyoru huu** 猫が鼠を追いかけているようだ.

uubangyaa [uːbaŋɡjaː] *adj.* 1・きがおおき (気が大きい) . **uubangyaa kee ee nee** 気が大きいからいいね.
2・おおざっぱな (大雑把な) .

uugyan [uːɡjanna] *adj.* おっとりしている. **ano hito wa uugyan na nee** あの人はおっとりしているね.

uumizu [uːmizu] *n.* こうずい (洪水) . **kono hen nyaa uumizu nya naran kee** このへんは洪水にはならないから.

uumori [uːmori] *n.* おおもり (大盛り) .

uwadan [uwadan] *n.* すぐれているさま. **ano hito wa ore yori uwadan iku tai** あの人は私より上を行く (優れている) .

uzi [uʒi] *n.* けものみち (獣道) . **koko ni uzi ga aru kee wana kakereba sugu emono ga kakaru zoo/zoi** ここに獣道があるから、罾を仕掛ければすぐに獲物がかかるぞ. **sisi no uzi ga dekitoru** 猪の道ができています.

uzumoru *v.* むしむしする (蒸し蒸しする) . **uzumoru to omotottaryaa ame huttyaate kita** 蒸し蒸しすると思っていたら雨がふってきた.

W - w

wagadomo [wagadomo] *n.* 2人称複数 (子供) .

wagamama [wagamama] *adj.* わがまま (我儘) .

wakaru [wakaru] *v.* わかる (分かる) . **wakaran koto nyaa ya? / iwan demo wakattoru ga./iwan demo wakaru doo ga.** わからないことはありませんか?/言わなくてもわかっているよ。/それぐらいわかるでしょう。

waku [waku] *v.* せいざいする (製材する) . **yamatoko de ita ni waku.** 山で板に製材する。

wakudoo *n.* かえる (カエル) . **wakudoo no nyaatoru/ wakudoo no orabu kee (~ oroode) sewasii** カエルが鳴いている。/カエルが鳴いてうるさい.

wakyaa [wakjaː] *adj.* わかい (若い) . **ano hito wa wakyaa nee** あの人は若いね. **ore mo mukasi wa wakakatta domo ga ima wa tosioita wai** 私も昔は若かったけれど今は年老いたよ.

wakyaa mon [wakjaːmoN] *n.* わかもの (若者) . **wakyaa mon wa hegen wai** 若者はだめだ。

warabe [warabe] *n.* わらび (ワラビ) . **warabe o ori ni ittaryaa, tiitto sika nakatta wai.** ワラビを折りに行ったら、少ししかなかったよ.

waredomo [waredomo] *n.* 2人称複数 (成人) .

waregae *n.* あなたのいえ (あなたの家) .

warihiyori [wariɕijori] *n.* あくてんこう (悪天候) .

warii [wari:] *adj.* わるい (悪い) . **warii koto sitara hegen** 悪いことしたらだめよ.

warikoto [warikoto] *n.* いたずら. **warikoto kayaate** いたずらをして.

waruboozu *n.* わるぼうず (悪坊主) .

waruguti/warukuti *n.* わるぐち (悪口) .
waruguti yuuna. gaman senya. 悪口いうな。我慢しなさい。

warya [warjaa] *n.* あんたは. **warya nantuukai** あんたは何を言っているんだ.

wasama [wasama] *n.* あなたさま (あなた様) . **wasama dokke iku ka o?** 貴方はどちらに行かれるのですか。

wasamaa dokkara kitayaa [wasama: dokkara kitaya:]

wasi [ɥaɕi] *n.* いぬわし (イヌワシ). **wasi no tobioru** イヌワシが飛んでいる.

wazato [wazato] *adv.* わざと.

wazawaza [wazawaza] *adv.* わざわざ.

wazurau [wazuɾau] *v.* 1・びょうきになる (病気になる) . **wazuroote sinda.** 病気にかかって死んだ.
2・むかむかする.

wiite *v.* うく (浮く) .

wo *n.* ひも (紐) .

Y - y

ya *part.* へか. **wakaran koto nyaa ya?** わからないことはないか? .
nanzigoro ni modoru ya? 何時ごろに戻るの? .

yaara [ja:ra] *n.* しちゅう (作物を支える支柱) . **kyuuri ni yaara kureta wai.** きゅうりに支柱をたてたよ. **yaara taturu.** 支柱を立てる.

yabo [jabo] *n.* やきはた (焼畑) . **yoo mukasi wa yabo kitta** 昔はよく焼畑をした.

yaburu [yaburu] *v.* やぶる (破る) . **yabutte suteta narya** 破って捨てなさい.

yagate *adv.* もうすぐ.

yakkogasi *n.* もち (焦がして固くなった餅) .

yama [jama] *n.* もり (森) . **yama ni itte sansai demo totte kuu ka na** 森に行つて山菜でも採つてこようかな.

yamabuki [jamabuɕi] *n.* やまぶき (ヤマブキ) . **yamabuki no hana no sasihazimeta** ヤマブキの花が咲き始めた.

yamahuuzuki [jamaɸ:zuki] *n.* からすうり (カラスウリ) . **yamahuuzuki no akyaa mi no nattoo** カラスウリノの赤い実がなっている.

yamaitigo [jamaicɕigo] *n.* ふゆいちご (フユイチゴ) . **tori ga yamaitigo no mi o kiloru** 鳥がふゆいちごの実を食べている.

yamamomo [jamamomo] *n.* やまもも (ヤマモモ) . **ten ga yamamomo totte kutoru** テンがヤマモモをとって食べる.

yamanokamidono [jamanokamidono] *n.*
 はいってはいけないとち（入ってはいけない土地）.

yamasi [jamaɕi] *n.* きこり（木こり）. **douse yamasisikya dekentodzaken gakkounya ikandeeekoto nyaakanyaa.**
 どうせ山師しかできないのだから学校には行かないでいいんじゃないかなあ。 **yamasyaa syodoogu wa tyeedokanyaa** 木こりは道具を手入れしときなよ。

yamatutuzi [jamatsutsudzi] *n.* つつじ（ツツジ）. **yamatutuzi no yokayooni syaatoru** つつじがきれいに咲いている。

yamenkai [jamenkai] *v.* とめなさい（止めなさい）. **terebibakari mirazii mou yamenkai** テレビばかり見るのを止めなさい。

yamituku [jamitsuku] *v.* わずらう（患う）. **yamitiita.** 患った。

yamunnai [jamunnai] *v.* とめない（止めない）.

yamyuuya [jamju:ja] *v.* とめようや（止めようや）. **kokohende yamyuuya** このへんで止めよ。

yaoikan [yawoikan] *adj.* いやだ（嫌だ）. **samuusite yaoikan** 寒くていやだ。

yappari [jappari] *adv.* けっきょく（結局）. **yappari hege datta** 結局だめだった。

yaru [jaru] *v.* あげる. **kore wa yaran bai** これはあげません。

yasehibokeru [jaseɕibokeru] *v.* やせほそる（やせ細る）. **ara yasehiboketoru ga naa.** あの人はやせ細っているよね。

yasii たやすい. **yasii koto** たやすいこと性質。

yatate [jatate] *n.* くうほう（空砲の一種）. **yatate utta.** 知らせの空砲を撃った。

yawyaa [jaw^ɟa:] *adj.* やわらかい（柔らかい）. **niku ga katakatta domo yawoo natta** 肉が硬かったけれども柔らかくなった。

yazai [jadzai] *n.* ざいもく（材木）. **yazai kirunarya higan sugitekara kire.** 材木を切るなら彼岸を過ぎてから切れ。

yede [jede] *n.* うで（腕）. **yede no ittosite** 腕が痛くて。

yenoha [jenoha] *n.* やまめ（ヤマメ）. **yenoha wa yaatemo tyaatemo namademo nmyaa wai** ヤマメは、焼いても炊いても生でも美味しいよ。

yesiren [jeɕiren] *Variant:* **yasiden.** *adv.* とても. **yesiren umyaane** とてもおいしいね。

yetabosi [jetaboɕi] *n.* いえつぶし（家つぶし）.

yobu *v.* よぶ（呼ぶ）. **tomodati yuude kita narya** 友達を呼んできて。

yodakii [jodaki:] *adj.* めんどくさい（面倒くさい）. **soozi suttowa yodakii** 掃除するのは面倒くさい。

yodakii [jodaki:] いやだ。

yodomi [jodomi] *n.* かわのぶぶん（川の部分の一種）. **akko no yodomi ikyya tururu bai.** あそこの川に行けば釣れるよ。

yodoosi [jodo:ɕi] *adv.* ひとばんじゅう（一晩中）. **yodoosi nuude bakari otte** 一晩中飲んでばかりいて。

yogoodoru *v.* まがっている（曲がっている）. **kawa no yogoodoru** 川が曲がっている。

yoka [joka] *adj.* よい (良い) . **yokasa nee, ore mo hosii nee** いいな, 私も欲しいな. **yu natta** よくなった.

yoka yoo ni suru [jokajo:nisuru] しんちょうする (新調する) .

yakahiyori [jokaçijori] *n.* せいてん (晴天) .

yokaonago [yokaonago] *n.* かのじょ (彼女) .

yokaotoko [yokaotoko] *n.* かれし (彼氏) .

yoki [joki] *n.* おの (斧) . **yoki wo togu.** 斧を (砥石で) 研ぐ.

yokou [jo'kou] *v.* 1・やすむ (休む) .
yoroketa kee yokooya 疲れたから休みましょう. **yokoimese** 休憩しなさい.
2・ねる (寝る) .

yokuboo *n.* よくばり (欲張り) . **ara yokuboo zyatta** あの人はよくばりだった.

yomego [jomego] *n.* よめ (嫁) . **akko no yomega yuu gamadasu waa** あそこの嫁はよく働くよ.

yomezyo [yomedzo] *n.* よめ (嫁) . **yomezyo wa nan mo ikiziran** 嫁はなにもできやしない.

yomu [jomu] *v.* よむ (読む) . **kono hon yomanyaa ikan ga.** この本を読まないといけません. **ima hon yondoru ga nee.** 今本を読んでもねえ.
sinbun wa yoman mon nee. 新聞は読まないからねえ. **hon yuuda ne** 本読んだ? .

yodayanyaa [jo:dajan'a:] *adj.* ざつぜんとしている (雑然としている) . **eral yodayanyaa mon naa.** ひどく雑然としているもんね.

yooyaku [jo:jaku] *adv.* やっと . **yooyaku tadori tuitawai** やっとたどり着いた.

yosebaka [josebaka] *n.* はか (墓) .

yosita [joçita] *n.* うそつき (嘘つき) . **ano yositaga yuukotoga wakarumonoka** あのうそつきが言うことはわかるもんか.

yottiita [jottçiita] *v.* よりあつまる (寄り集まる) . **yottiitaga yeega** 寄り集まった方がいい.

yottiite [jottçiitoru] *v.* ちかづいて (近づいて) . **kottii yottiitekei** こっちに近づいておいで. **komyaa kodomoga yottiite kita** 小さい子供が近づいて来た. **yottiite konya** 近づきなさい. **yottiite miyoru** 近づいて見ている.

yottukoo [jottsuko:] *v.* ちかづこう (近づこう) . **sonnara yottukooka** それなら近づこうか.

yurinone [jurinone] *n.* ゆりね (ユリ根) .
yurinone wa yamayuri no ne o hotte kite zutte katakuri ni site kyaate tabu. ユリ根はヤマユリの根を掘ってきて擦って片栗粉にして混ぜて食べる.

yuruguso [juruguso] *n.* げりべん (下痢便) . **yuruguso sitta.** 下痢便を出した.

yururi [jururi] *n.* いろり (囲炉裏) . **yururii hii tyaate** 囲炉裏に火をたいて (= 火を入れて) .

yuuzin *n.* ようじん (用心) . **yuuzin see** 用心しなさい.

zenmyaa *Variant: zenmai. n.* ぜんまい (ゼンマイ) . **zenmyaa o tori itta ryaa, tiitto sika nakatta wai** ゼンマイを採りに行ったけれど少ししかなかったよ. **zenmyaa ba yugyaate hi ni hosu** ゼンマイを湯がいて日に干す.

zataru [dzataru] *v.* めかるむ. **zida no zetattoru** 地面がぬかるんでいる.

zettanboo [zettambo:] *n.* めかるみ. **kono zettanboo wa ayumi nikui bai** このぬかるみは歩きにくいよ. **zettanboo suruna, yogoruru ga!** 泥遊びするな、汚れるでしょうが!.

zi [dzi] *n.* ぢ (痔) .

zida [dzi:da] *Variant: zibeta. n.* じめん (地面) . **zida ni suwaru** 地面に座る. **kodomo ga zida ni suwattoru** 子供が地面に座っている.

zigo [dzi:go] *n.* ちよくちょう (直腸?) . **sin no zigo made deru ga.** 直腸まで出る (?) .

ziisan [dzi:sa:n] *Variant: zityan. n.* そふ (祖父) . **ziityan kara otosidama moroota** 祖父からお年玉をもらった. **zityan ima kara saruki ikoo ka** じいちゃん、今から歩きに行こうか.

zinsya [dzi:nsa] *n.* じんじゃ (神社) . **rokusya zinsya** 六社神社.

ziuri [dziuri] *n.* うり (瓜) . **tane o zibun de tottote akutosi mata uuru** 種を自分でとっておいて来年また植える.

zurii [zuri:] *adj.* ずるい. **sigoto ni ittotte mo zurii gena ga** 仕事に行っているもずるいな.

zuruzurubettari [guʒutsuku] *onm.* **esiren zuruzurubettari no tenki ya aru** ぐずついた天気が続いている.

zuusii [zu:ʕi:] *n.* ぞうすい (雑炊) .

zyaara [ʒa:ra] *n.* へいち (平地) . **akko no zyaara wa yokatoko nee** あそこの平地はいいところだね. **omae wa zyaara ga nyaa kara nani mo dekin** 尾前には平地がないから何もできない.

zyaazi [dʒa:ʒi] *adj.* たいへんだ (大変だ) . **tan no deryaa zyaazi ga.** 痰が出たら大変だ. **zyaazi na koto ukewoota** 大変なことを請け負った. **kaminari no naru tokyaa heso o kakusanyaa zyaazi bai** 雷がなるときはへそをかくさないと大変だよ.

zyaazu [dʒa:zu] *n.* だいず (大豆) . **kotosyaa zyaazu ga dekita ke miso domo tukoo** 今年は大豆ができたから味噌でもつきましよう. **zyaazu tukutta ato wa hatake ga yoka** 大豆を作った後の畑は良い.

zyooseki *adv.* あんのじょう (案の定) . **zyooseki, amega huttyaatekita.** 案の定、雨が降ってきた.

zyunsa [dʒunsa] *n.* けいさつかん (警察官) . **zyunsa ga kita.** 警察が来た.

簡易語彙集

（共通語見出し）

あ

ああ痛い **aa itasayaa**

あおい (青い)

adj. awee

あおかずら(アオカズラ)

n. kazura

あおがえる(アオガエル)

n. biki

あおしがき(アオシガキ)

n. aosigaki

あおすがり(アオスガリ)

n. aosugari

あおむけ **n. oonyaake**

あかい (赤い)

adj. akyyaa

あかぎれ **n. akagire**

あかちゃん (赤ちゃん)

n. akago

あかまつ (アカマツ)

n. matu

あか (垢) **n. koke**

あきれた **adj. akusyaa**

utta

あくしゅうがする (悪臭が

する) **c. kaza**

no warii

あくてんこう (悪天候)

n. warihiyori

あけび (アケビ)

n. akebu

あける (開ける)

v. akeru

あげる **v. yaru**

あご (顎) **n. agi**

あさげ (アサゲ)

n. asage

あさつゆ (朝露)

n. asatii

あさ (麻の一種)

n. karao

n. mosu

n. sinmosu

あさ (麻) **n. asa**

あしあと (足跡)

n. asikata

あしながばち (アシナガバ
チ)

n. kosikirebati

あしのうら (足の裏)

n. asi no hara

あしのこう (足の甲)

n. asi no kuu

あし (足) **n. asi**

n. sune

あじさい(紫陽花)

n. azisai

あずき **n. atuki**

あせ (汗) **asedare**

n. sioase

あぜ (畦) **n. aze**

あそぶ (遊ぶ) **v. asobu**

あたたかい (暖かい)

adj. nukii

あたたまる **v. nukumoru**

あたためる (温める)

V. nukumeru

あたま (頭) **n. binta**

あたらしい (新しい)

adj. atarasii

あつい (暑い)

adj. atyaa

adj. nukii

あつい (熱い) **adj. atii**

あつかう (扱う)

v. seseku

あつめる (集める)

v. atumeru

あてて (当てて)

v. atete

あなたさま (あなた様)

n. wasama

あなたのいえ (あなたの
家)

n. waregae

あに (兄) **n. ani**

あね (姉) **n. anezyo**

あばたがお (あばた顔)

n. abatazura

あばた (にきびあと)

n. atogata

あぶない (危ない)

adj. abunyaa

あぶ (虻) **n. abu**

あまい (甘い)

adj. **amyaa**
あまえる (甘える)
v. **amyaaazurasu**
ru
あまさがたりない (甘さが足りない)
adj. **amadoree**
adj. **amatigii**
あますぎる (甘過ぎる)
adj. **amatigii**
あめんぼ (アメンボ)
n. **amenbo**
あめ (雨) *n.* **ame**
あやまる (謝る)

v. **katowakeyuu**
あゆ (鮎) *n.* **ayu**
あらい (荒い)
adj. **aryaa**
あらう (洗う) *v.* **arau**
あらっばい
adj. **arakutamas**
ii
adj. **gatoo**
ありがとう *intj.* **dandan**
ありじごく (蟻地獄)
n. **aritorimusi**
あり (蟻) *n.* **arimusi**

あるく (歩く)
v. **ayumu**
v. **sariku**
あわ (粟) *n.* **awa**
あんたは *n.* **warya**
あんた (妻が夫に)
intj. **tyan**
あんのじょう (案の定)
adv. **zyooseki**

い

い (胃) *n.* **i**
いえつぶし (家つぶし)
n. **yetabosi**
いえ (家) *n.* **ie**
いく (行く) *v.* **iku**
いけ (池) *n.* **sensui**
n. **tutumi**
いさぎよい (潔い)
adj. **isagiee**
いしはら (石原)
n. **gatawara**
いそいで (急いで)
v. **isyeede**
いそがしい (忙しい)
adj. **isogasii**
いそがなくて (急がなく

て)
v. **isogande**
いたい (痛い) *v.* **ityaa**
いたずら *n.* **warikoto**
いたずらっこ
n. **sutokodomo**
いたち (イタチ)
n. **tomasaku**
いたどり (イタドリ)
n. **sado**
いた (居た) *v.* **otta**
いちご (イチゴ) *n.* **itigo**
いちにちじゅうあそぶこ
と (一日中遊ぶこ
と)
n. **hinoasobi**

いちにちじゅう (一日中)
adv. **itinitizyuu**
いちばんぼし (一番星)
n. **kansiroobosi**
いちょう (イチヨウ)
n. **ityoo**
いっしょうけんめい (一生懸命)
adv. **issyooken**
mee
いっしょに (一緒に)
adv. **tyenoode~t**
yende
いってくる (行ってくる)
v. **itekuru**
いっぱい *adv.* **ippyaa**

いつも
adv. **nenkarane**
nzyu
 いてね (居てね)
v. **oreine**
 いとこ *n.* **itoko**
 いど (井戸)
n. **hunegoo**
 いない (居ない) *v.* **oran**
 いなびかり (稲光)
n. **inabikari**
 いぬ(イヌ) *n.* **inu**
 いぬわし(イヌワシ)
n. **wasi**
 いね(稲) *n.* **ine**

いねむりしている (居眠り
 している)
v. **neburikabutt**
oru
 いのしし (イノシシ)
n. **sisi**
 いもうと (妹)
n. **imooto**
 いやだ (嫌だ)
adj. **otorosyaa**
adj. **yaoikan**
 いるい (衣類)
n. **kimono**
 いれる (入れる) *v.* **ireru**
 いろいろ (色々)
adv. **nandemok**

andemo
 いろり (囲炉裏)
n. **yururi**
 いろり (囲炉裏) からつる
 す鉤 *n.* **kyaagi**
 いわたけ (イワタケ)
n. **iwatake**
 いわ (岩) *n.* **gata**
 いんげんまめ (いんげん
 豆)
n. **nidohuro**

う

うえかえる (植えかえる)
v. **naosu**
 うく (浮く) *v.* **wiite**
 うぐい (ウグイ) *n.* **ida**
 うけとった (受け取った)
v. **uketotta**
 うごく (動く) *v.* **igoku**
 うさぎようのわな (ウサギ
 用の罠)
n. **usagi wana**
 うすききぬがさたけ (ウス

キキヌガサタ
 ケ)
n. **dokubana**
 うそつき (嘘つき)
n. **yosita**
 うつぎ (ウツギ)
n. **utugi**
 うつ (打つ) *v.* **tataku**
v. **utu**
 うで (腕) *n.* **yede**
 うなぎ (ウナギ)
n. **unagi**

うなじ *n.* **bonokudo**
 うば (乳母)
n. **babasan**
 うらがえし (裏返し)
adj. **kayasi**
 うら (家のうら)
n. **sedo**
 うり (瓜) *n.* **ziuri**

え

えたいのしれない (得体の
知れない)

adj. **esiren**

お

おいしい *adj.* **umyaa**

おいしくない *adj.* **umoo
nyaa**

おい (甥) *n.* **oiko**

おうちゃくな (横着な)
adj. **oodoona**

おうちゃく (横着)
n. **oodoogohee**

おう (追う) *v.* **uu**

おおあめ (大雨)
n. **syagoyasi**

おおきい
adj. **hutee/hutye
e**

おおざっぱな (大雑把な)
adj. **uubangyaa**

おおばこ (オオバコ)
n. **onbako**

おおもり (大盛り)
n. **uumori**

おかず *n.* **syaa**

おかゆ (お粥) *n.* **okai**

おかん (悪寒) *n.* **miburi**

おきび (熾火)
n. **takiotosi**

おきる (起きる)
v. **okiru**

おくって (送って)

v. **okutte**

おくびょうもの (臆病者)
n. **okubyoomon**

o

おく (置く) *v.* **oku**

おこる (怒る) *v.* **ogoru**

おしっこ (小便)
n. **syuuben**

おじか (雄鹿)
n. **ogantyoo**

おじ (伯父・叔父)
n. **ottii**

おすうし (雄牛)
n. **gottyeusi/gott
eusi**

おす (雄) *n.* **kotiee**

おそい (遅い) *adj.* **boyaa**

おそろしい (恐ろしい)
adj. **otorosyaa**

おちついて (落ち着いて)
v. **otitiite**

おちつかないと (落ち着か
ないと)
v. **otitukanya**

おちる (落ちる)
v. **oteru**

おつちょこちょい
n. **hyookin**

おっとりしている

adj. **uugyan**

おっと (夫) *n.* **tootyan**

おっぱい *n.* **ti**

おでこ *n.* **debutin
n. mukoozura**

おとうと (弟) *n.* **otooto**
おとこのこ (男の子)
n. **detti**

おとこまさり (男勝り)
adj. **otokomasar
i**

おとして (落として)
v. **tukokyaata**

おととい (一昨日)
n. **ototyee**

おとな (大人) *n.* **ose**

おどろく (驚く)
v. **hittamagaru**

v. **tamagaru**

おなか (お腹) *n.* **hara**

おね (尾根) *n.* **obane**

おの (斧) *n.* **yoki**

おば (伯母・叔母)
n. **baki**

おまえら *n.* **undomo**

おもい (重い) *adj.* **obii**

おもうようにうごかない (思うように動かない)

かならず (必ず)

おもうようにうごかない
(思うように動
かない)

v. **kanawan**

おもしろい (面白い)

adj. **omosiree**

phr. **tonti ga ee**

おやこ (親子) *n.* **oyako**

おりる (降りる)

v. **kudaru**

おれる (折れる)

v. **tunmoreru/tu
nmoru**

おんな (女) *n.* **mena**

n. **metago**

n. **ona**

n. **onago**

n. **onagonoko**

n. **onamettyo**

お客を迎えるときのあい

さつ **irassyai**

お客を送り出すとき

mata kitenee

お店に入るとときのあい

さつ **orukaoo**

か

か (蚊) *n.* **ka**

かあさん (母さん)

n. **kakasan**

かいこ (蚕) *n.* **kaiko**

かい (回) **kai**

かえった (帰った)

v. **inda**

かえよう (変えよう)

v. **kayugga**

かえる (カエル)

n. **hatikentobi**

n. **wakudoo**

かえる (帰る)

v. **modoru**

かおりまい (香り米)

n. **kabasiko**

かかと *n.* **ado**

かくす (隠す)

v. **kakusu**

v. **kazimeru**

v. **naosu**

かくれる (隠れる)

v. **kakureru**

かく (書く) *v.* **kaku**

かく (草などを掻く)

v. **kosagu**

かぐらのまいて (神楽の舞
手)

n. **kagurako**

かける *v.* **kakuru**

かげ (影) *n.* **kage**

かげ (陰) *n.* **kageri**

かこまれて (囲まれて)

v. **kakuudoru**

かこんで (囲んで)

v. **kakuude**

かご (籠) *n.* **tego**

かさぶた *n.* **kasatuu**

かし (榎) *n.* **kasi**

かしこい (賢い)

adj. **noo ga ee**

adj. **rikoona**

かし (菓子) *n.* **kwasi**

かぜ (風の種類)

n. **nobosekaze**

かぜ (風邪) *n.* **gyaake**

かぜ (風) *n.* **kaze**

かた (肩) *n.* **katabusi**

かたい (堅い・硬い)

adj. **kowyaa**

かたづける (片付ける)

v. **katazukeru**

かってにいじる (勝手にい
じる)

v. **seseku**

かつば (河童)

n. **gawappa**

かならず (必ず)

adv. **matigyaana
si**

かのじょ (彼女)
n. yokaonago
 かぶ (カブ) *n. kabu*
 かぼちゃ (カボチャの一種?)
n. boobura
 かぼちゃ (カボチャ)
n. nankin
 かまど (竈)
n. kamando
 かま (鎌) *n. kama*
 かみついた *v. kuitiita*
 かみなり (雷)
n. kaminari
 かみのけ (髪の毛)
kamuge
 かめむし (カメムシ)
n. huumusi
 かもしか (カモシカ)
n. niku
 からし菜 (カラシナ)
n. karasina

からすうり(カラスウリ)
n. karasuuri
n. yamahuuzuki
 からす (カラス)
n. karasu
 からだ (体) *n. gotyaa*
 かるい (軽い) *adj. kari*
 かれし (彼氏)
n. yokaotoko
 かわいい *muzoo*
 かわいがる
v. muzoogaru
 かわいらしい
adj. muzorasii
 かわぎし (川岸) *n. gisi*
 かわざかな (川魚)
n. kawaiwo
 かわぞこ (川底)
n. kawazoko
 かわのきゅうにふかくな
 るところ(川の急
 に深くなるとこ

ろ) *n. huti*
 かわのぶぶん(川の部分の
 一種) *n. ego*
n. see
n. yodomi
 かわのり (カワノリ)
n. kawanori
 かわらない(変わらない)
v. kawaran
 かわら (川原)
n. kawabata /
kawagoora
 かわ (川) *n. kawa*
 かんがえる (考える)
v. kangaeru
 かんぬし (神主)
n. kamisama
 かんぺきだ (完璧だ)
adj. eree
 かーねーしょん(カーネー
 ション)
n. kaaneesyon

が

がけ (崖) *n. gake*
n. gakippara
 がんこ (頑固)
adj. ganko
 がんせきのおおいところ
 (岩石の多いと

ころ)
n. gantuuwara
 がんばらなければ(頑張ら
 なければ)
v. ganbaranya
 がんばる (頑張る)
v. ganbaru

がんびょうである(眼病で
 ある) *c. meno*
warii
 が (蛾) *n. ga*

き

きえた (消えた)

v. **kiyuru**

きえない (消えない)

v. **kien**

v. **kiyasunai**

きがおおいき (気が大きい)

adj. **uubangyaa**

ききょう (桔梗) *n.* **kikyoo**

ききんのとし (飢饉の年)

n. **kikindosi**

きく (効く) *v.* **kikeru**

きく (聞く) *v.* **kiku**

きこりのしゅうだん (木こりの集団)

n. **sendou**

きこり (木こり)

n. **yamasi**

きざむ (刻む)

v. **kizamu**

きずぐち (傷口)

kizuwato

kizuwuti

きず (傷) *n.* **horosi**

きたない (汚い)

adj. **kisanyaa**

きつつき (キツツキ)

n. **kotataki**

きぬいと (絹糸) *n.* **kinu**

no ito

きのう (昨日)

n. **kinyuu**

きめてくれないと (決めてくれないと) (決めて)

v. **kimetekkuren**

ya

きめないと (決めないと)

v. **kimenya**

きもちいい (気持ち良い)

adj. **kimotinoyok**

a

きやく (客)

n. **kyakuzin**

きゅうり (キュウリ)

n. **uri**

きょうだい (兄弟)

n. **kyoozyaa**

n. **kyozyaa**

きょう (今日) *n.* **kyuu**

きりぎりす (キリギリス)

n. **gime**

きりたおす (切り倒す)

v. **kittawosu**

きり (霧) *n.* **kiri**

きる (着る) *v.* **kiru**

きれい *adj.* **kiryee**

きをうしなった (気を失った) *c.* **kii**

usinoota

きんじょのひと (近所の人)

n. **burakunomo**

no

<

くうほう (空砲の一種)

n. **yatate**

くさる (腐る)

v. **nemaru**

くしゃみ *n.* **kusyami**

くち (口) *n.* **kuti**

くち (口) がいっぱいになるさま

n. **kutizunbyaa**

くっついて *v.* **hittiite**

くまで (熊手)

n. **kumade**

n. mituga
くもり (曇り)
n. kumori
くもる **v. kumoru**
くるぶし (?) **n. asi no kubu**
くろい (黒い)

adj. kuree
くろすずめばち (クロスズメバチ)
n. tokorobati
くろたけ (クロタケ)
n. kurotake
くろまめ (黒豆)
n. nidoguroma

me
くわのみ (桑の実)
n. itigo
くわ (鍬) **n. kuwa**

 <

ぐうじ (宮司)

n. tayuudono

 け

けいさつかん (警察官)
n. zyunsa
けしてしまった (消してしまった)
v. kiyaatesimatt a
けじらみ (モジラミ)
n. sirame
けす (消す) **v. kiyasu**
けちな (ケチな)
adj. ketina

けっきょく (結局)
adv. yappari
けびょう (仮病)
n. tukurinbyoo
けむし (毛虫)
n. higemusi
けむりがこもらない (煙がこもらない)
v. keburan
けもののあな (獣の穴・巣)

n. kamokutaa
n. nedoko
けものみち (獣道)
n. uzi
けんか (喧嘩) **n. kenka**

 げ

げすい (下水)
n. kisanyaa mizu
げっけい (月経)

n. tukinomono
げりべん (下痢便)
n. yuruguso
げんりゅう (源流)

n. mizukuti

こ

こいぬ(仔犬) *n.* **koinu**

こうがん (睾丸)

n. **kintama**

こうし (子牛)

n. **bebenko***n.* **kousi**

こうずい (洪水)

n. **uumizu**

こうたいごうたい (交代交代)

adv. **kootaigoota****i**

こうばい (勾配)

n. **koobyaa**

こうもり (コウモリ)

n. **koomori**

こうもん (肛門)

n. **sinnosu**こえ (声) *n.* **koe**こおろぎ *n.* **koorogi**こさめ (小雨) *n.* **koburi**

こじき (乞食)

n. **kwanzin**

こたえる (答える)

v. **kotaeru**

こどもたち (子どもたち)

n. **kodomodom****o**

こども (子ども)

n. **kodomo**こべ (コベ) *n.* **kobe**こめ (米) *n.* **kome**こもっている (籠っている) *v.* **oru**

ころがった (転がった)

v. **korobeta**

ころがって (転がって)

v. **korobeteita**

ころがらない (転がらな

い) *v.* **koroben**

こわい (怖い)

adj. **ozyee**

こわがる (恐がる)

v. **ozogaru**

こわす (壊す)

v. **utikuyasu**

こをうんだ (子を生んだ)

v. **komotta**

こんでいた (混んでいた)

v. **kondotta**

こんにやく (コンニャク)

n. **gonnyaku**

こんもりと盛り上がっている

v. **kozuudoru**

こ

ごきぶり (ゴキブリ)

n. **aburamusi***n.* **amame**

ごぎょう (ゴギョウ)

n. **gogyoo**

ごぼう (ゴボウ)

n. **goboo**

ごんぞうばち (ゴンゾウバ

チ)

n. **gonzoobati**

さ

さかなつり (魚釣り)
n. **ioturi**
 さかな (昔からいる魚の総称)
n. **daidaigyo**
 さかな (魚) *n.* **iwo**
 さか (坂) *n.* **saka**
 さがす (探す) (みつける)
v. **sagasu**
 さくでかこまれたこや (柵で囲まれた小屋)
n. **sakugoya**
 さく (咲く) *v.* **sasu**
 さけぶ (叫ぶ)
v. **koesakisuru**

v. **orabu**
 さげる (下げる)
v. **sageru**
 ささる (刺さる)
v. **tataru**
 さざえ (サザエ)
n. **sazae**
 さする *v.* **nazoru**
 さす (指す) *v.* **sasu**
 さそう (誘う) *v.* **sasou**
 さつまいも (サツマイモ)
n. **karaimo**
 さといも (サトイモ)
n. **imo**
 さなぎ (蛹)
n. **hikokaburyuu**

さぼり *n.* **kagehinata**
 さぼる
v. **kagehinatasuru**
 さむい (寒い)
adj. **hiyaa**
adj. **samii**
 さわぐ (騒ぐ)
v. **otodakesuru**
v. **soodosuru**
 さんがつ (三月)
n. **sangwatu**

ざ

ざいもく (材木)
n. **yazai**
 ざっぜんとしている (雑然)

としている)
adj. **yodayanyaa**

ざる **sooke**

し

しいたけ (シイタケ)
n. **naba**
 しおからい (塩辛い)
adj. **siokaryaa**
 しかい (司会)
n. **syuusa**
 しか (シカ) *n.* **kantyyoo**
 しごく *n.* **sugoku**

しずかになくようす (静かに泣く様子)
sikusiku
 しせい (姿勢)
n. **izumyaa/izu miyaa**
 しそん (子孫)
n. **komago**

しそ (シソ) *n.* **syuso**
 した (舌) *n.* **bero**
n. **sitara**
 しちゅう (作物を支える支柱)
n. **yaara**
 しっしん (湿疹)
n. **hizen**
 しっぽ (尻尾) *n.* **siriwo**

していた *v.* **siyotta**
 している *v.* **sitoru**
 しばらく *adv.* **ittokiwa**
 しばる (縛る) *v.* **kubiru**
 しぶをぬく (渋を抜く)
v. **aosu**
 しまい (姉妹) *n.* **onago**
no kyoozyaa
 しまった! *c.* **aa ita**
simota
yarisokonoota
 しまる (閉まる)
v. **sekaru**
 しみる (染みる)
v. **syumu**
 しゃくなげ(シャクナゲ)
n. **syakunage**
 しゃっくり *n.* **syakkuri**
 しゃべる *v.* **kataru**
v. **syaberu**

しゃもじ *n.* **iigyaa**
 しゅうとめ (舅)・しゅう
 と (姑)
n. **syuutooya**
 しゆるいふめいの (種類不
 明の)
prfx. **kuso-**
 しゅんぎく (シュンギク)
n. **syungiku**
 しょうが (ショウガ)
n. **syooga**
 しょうばい (商売)
n. **akinyaa**
 しょうぶ (ショウブ)
n. **syoobu**
 しょうぼうし (消防士)
n. **keeboodan**
 しらが (白髪) *n.* **siraga**
 しりもち *n.* **sirimoti**
 しりゅう (支流)
n. **kodani**

しりよくがわるい (視力が
 悪い) *c.* **meno**
warii
 しり (尻) *n.* **siribeta**
 しる (汁) *n.* **syuru**
 しる (知る) *v.* **siru**
 しろい (白い) *adj.* **siree**
 しんせき (親戚)
n. **miuti**
 しんちょうした (新調し
 た) *adj.* **niinoto**
 しんちょうする (新調す
 る) **yoka yoo**
ni suru
 しんぱいない (心配ない)
phr. **sewa nyaa**
 しんるい (親類)
n. **sinrui**

じ

じぶん (自分)
n. **menmee**
 じめん (地面) *n.* **zida**
 じゃあね **mata aoo ya**
nee
 じゃがいも (ジャガイモ)
n. **syoonozyu**

じゃり (砂利)
n. **isiwara**
 じゅうしょく (住職)
n. **hotokesama**
 じょせいぎ (女性器の中の
 「あれ」)
n. **tubi no**

mame
 じょせいぎ (女性器の全
 体) *n.* **tubi**
 じんじゃ (神社)
n. **zinsya**

す

すいか (スイカ)

n. **suika**

すいじする (炊事する)

v. **mesi taku**

すいば (スイバ)

n. **siigiku**

すえっこ (末っ子)

n. **sitago**すかしっ屁 *n.* **sunugebe**

すがりばち (スガリバチ)

n. **sugari**すき (鋤) *n.* **suki**すぎ (スギ) *n.* **sugi**すぐに *adv.* **hayoo**

すぐれているさま

n. **uwadan**

すすき (ススキ)

n. **kaya**

すずしろ (スズシロ)

n. **daikon**

すずめばち (スズメバチ)

n. **kumabati**

すてる (捨てる)

v. **usiteru**

すね (脛)

n. **mukoozune**すむ (住む) *v.* **sumu**する *v.* **kayasu***v.* **suru**

する (擦る)

v. **hatatesuru**

すわる (座る)

v. **suwaru**

ず

ずるい *adj.* **zurii**

せ

せいかくがいい (性格が良

い) *adj.* **kisyoo****ga ee**

せいこうする (性交する)

v. **tuubi suru**

せいざいする (製材する)

v. **waku**せいちゅうになる (成虫に
なる)*v.* **oyakata ni****naru**

せいてん (晴天)

n. **yokahiyori**

せいり (生理)

n. **tukinomono**

せおう (背負う)

v. **karuu**

せきはん (赤飯)

n. **atukimesi**

せきばらい (咳払い)

n. **ikizukuri**

せきをする (咳をする)

v. **iki hiku***v.* **kozuku**せき (堰) *n.* **seki**

せなか (背中)

n. **senaka**せみのぬけがら (セミの抜
け殻)*n.* **semigara**せり (セリ) *n.* **seri**

せわしい (忙しい)

adj. **sewasii**

せんぎょ (鮮魚)

n. **buen**

せんごばな (センゴバナ)

n. **sengobana**せんぞ (先祖) *n.* **senso**

せんぶり (センブリ)

n. **senpuri**

ぜ

ぜんぜん (全然)

adv. **ittyomo**

ぜんそく (喘息)

n. **gyaake**

ぜんぶ (全部)

adv. **mina**

ぜんまい (ゼンマイ)

n. **zenmyaa**

そ

そうそふ (曾祖父)

n. **hiiziisan**

そうそぼ (曾祖母)

n. **hiibaasan**

そふ (祖父) *n.* **ziisan**

そぼ (祖母)

n. **babasan**

ぞ

ぞうすい (雑炊)

n. **zuusii**

た

たいふう (台風)

n. **taihuu**

たいへんだ (大変だ)

adj. **tyaahen**

adj. **zyaazi**

たえなければ (耐えなければ)

v. **koraenya**

v. **sinboosenya**

たえる (耐える)

v. **korayuru**

たきぎ (薪)

n. **takimono**

たきつける (焚き付ける)

v. **tyaatukeru**

たき (滝) *n.* **todoro**

たくさん *adv.* **bettari**

adv. **unto**

たく (焚く) *v.* **taku**

たけのこいも (タケノコイモ)

n. **takenokoimo**

たけのこ (タケノコ)

n. **hatiku**

たすける (助ける)

v. **tasukuru**

たたく (叩く)

v. **uppaturu**

たちどまった (立ち止まった)

v. **tatidomatta**

たち (達) *sfx.* **domo**

たつまき (竜巻)

n. **tizimaki**

たつ (立つ) *v.* **tatu**

たにわたり (タニワタリ)

n. **taniwatari**

たに (谷) *n.* **sako**

たね (種) *n.* **sane**

たのんで (頼んで)

v. **tanuude**

たべさせる (食べさせる)

v. **kwaseru**

たべた (食べた)

v. **kuroota**たべる (食べる) v. **kuu**v. **taburu**

たまねぎ (玉葱)

n. **tamanegi**

ためす (試す)

v. **tamesu**たやすい **yasii**

たらのき (タラノキ)

n. **daranoki**

たらのめ (タラの芽)

n. **dara**

たんぼ (田んぼ)

n. **ta(nnaka)**たん (痰) n. **tan**

だ

だいく (大工) n. **daiku**

だいこん (大根)

n. **daikon**

だいず (大豆)

n. **zyaazu**

だいどころ (台所)

n. **suiziba**だいべんをする (大便をする) v. **hiru**

だいべん (大便)

n. **kuso**だく (抱く) v. **daku**だけ・ばかり part. **no****zyoo**だす (出す) v. **dasu**

だっこくさぎょうをする

ばしょ (脱穀作業

をする場所)

n. **sinatoko**

だっこくする (脱穀する)

v. **ayasu**v. **kogu**

だます (騙す)

v. **damakurakas****u**だめ n. **hege**だめだ adj. **hegen**

だらしない

adj. **darasinyaa**

だんせいき (男性器)

n. **mara**n. **tintin**

ち

ちいさいかまど n. **kudo**

ちかづいて (近づいて)

v. **tikaziite**v. **yottiite**

ちかづこう (近づこう)

v. **yottukoo**

ちぢめる (縮める)

v. **tidimeru**

ちぢれげ (縮れ毛)

n. **tizyuuge**

ちのみご (乳飲み子)

n. **tinomigo**

ちゅうしゃ (注射)

n. **tyuusa**

ちょうじょう (頂上)

n. **toppen**

ちようどよいところ

n. **kyuuzi toko**

ちょうなん (長男)

n. **anisyan**n. **ietori**

ちょう (蝶)

でんわだよ (電話だよ)

ちょう (蝶)

n. haberyoo

ちよくちょう (直腸?)

n. zigo

ちよつと *adv.* tittoo

ぢ

ぢ (痔) *n.* zi

っ

つかれる (疲れる)

v. dareru

つが (ツガ) *n.* toga

つきとばす (突き飛ばす)

v. tukkorobasu

つく (付く) *v.* tuku

つちばち (ツチバチ)

n. tutibati

つつく *v.* tukuziru

つつじ (ツツジ)

n. yamatutuzi

つつむ (包む)

v. tutumu

つばき (椿) *n.* tubaki

つばめ (ツバメ)

n. tubame

つまらない *adj.* hegen

つまらない人

n. hegenasi

つま (妻) *n.* kaatyan

n. oregaenta

つむぐ・だまる *v.* tuburu

つめたい (冷たい)

adj. tumetyaa

つゆくさ (ツユクサ)

n. tiigusa

つよい (強い) *adj.* tuee

つれる (釣れる)

v. kurau

つんですてる (摘んで捨てる) *v.* tumikiru

つんぼ *n.* tunboo

て

てつだい (手伝い)

n. kozukaware

てのひら (手のひら)

n. tenohara

てんきあめ (天気雨)

n. tenkiame

てんき (天気) *n.* tenki

で

できもの *n.* dekemono

n. kasabati

でしょう *part.* doo

でる (出る) *v.* deru

でんわだよ (電話だよ)

intj. denwa zo

と

とうきび (トウキビ)
n. **tookibi**
 とうさん (父さん)
n. **tontyan**
 とうりょう (棟梁)
n. **touryou**
 とおいところ (遠いところ) *n.* **haebae**
 とおらないで (通らないで)
v. **toorande**
 とかして (溶かして)
v. **tokyaate**
 ときどき (時々)
adv. **tokidokyaa**
 とけた (溶けた)
v. **tokyaata**
 としゃぶつ (吐瀉物)

n. **kutyaage**
 としより (年寄り)
n. **tosioori**
 とちのみ (トチノミ)
n. **totinomi**
 とつぜん (突然)
adv. **kyuuni**
 とても *adv.* **taigyaa**
adv. **yesiren**
 とぶ (飛ぶ) *v.* **mau**
 とぼける *v.* **tobokeru**
 とめて (止めて)
v. **tomuuya**
 とめないで (止めないで)
v. **tomunnai**
 とめないように (止めないように)
v. **tomengoto**

とめない (止めない)
v. **yamunnai**
 とめなさい (止めなさい)
v. **yamenkai**
 とめようや (止めようや)
v. **yamyuuya**
 ともだち (友達) *n.* **togi**
 とる (取る) *v.* **toru**
 とる (採る) *v.* **kagu**
 とんじる (豚汁)
v. **butazyuru**
 とんでもない
adj. **huukyamun yaa**

ど

どこへ
interrogative. **doki e**
 どぶろく *n.* **dobuzake**

どま (土間) *n.* **doozi**
 どろぼう (泥棒)
n. **nusutoboo**
 どんぐり *n.* **donguri**

n. **kasinomi**
n. **kunuginomi**

な

な (菜) *n.* **na**
 ないぞう (内臓)

n. **harawata**
n. **naizoo**

なおす (直す) *v.* **naosu**
 なきさけぶ (泣き叫ぶ)

v. nakiworabu
 なきむし (泣き虫)
n. nakebesu
 なきわめく (泣きわめく)
v. gameku
 なく (泣く)
v. nakebessuru
v. naku
 なく (鳴く) **v. orabu**
 なくる (殴る)
v. doyasu

なげすてておいて (投げ捨てておいて)
v. nangyattotte
 なげる (投げる)
v. nageru
 なす (ナス) **n. nasubi**
 なずな (ナズナ)
n. nazuna
 なでしこ (ナデシコ)
n. nadesiko
 などうふ (菜豆腐)

n. hikiware
 なまけもの
n. namakemon
o
 なんてん (ナンテン)
n. nanten
 なんでも **adv. nandemo**

に

におい (臭い・匂い)
n. kaza
 にげる (逃げる)
v. nigeru
 にしめ (煮しめ)
n. nisime
 にたりよったり (似たり寄ったり)

adj. dottikottya nyaa
 にらのはな (ニラの花)
n. nira no hana
 にらむ (睨む)
v. neramu
 にら (ニラ) **n. nira**

にる (煮る) **v. taku**
 にんじん (ニンジン)
n. ninzin

ぬ

ぬいぐるみ **n. niigurumi**
 ぬかるみ **n. zettanboo**
 ぬかるむ **v. zetaru**

ぬま (沼) **n. numa**
 ぬりうつぎ (ヌリウツギ)
n. nuriutugi

ぬるい **adj. nurii**

ね

ねぎ (ネギ) **n. negi**
 ねっちゅうしょう (熱中

症)
n. atukehiku

ねる (寝る) **v. yokou**
 ねんざする (捻挫する)

v. tunmoru

の

のこぎり (鋸) **n. noko**

のざわな (ノザワナ)

n. nozawana

のぞく (穀物に混じっている異物を除く)

v. sabiru

のどぼとけ (喉仏)

n. nodobotoke

n. nodomara

のど (喉) **n. nodo**

のびる (ノビル)

n. nobiri

のぼる (登る) **v. agaru**

v. noboru

のみかい (飲み会)

n. nomikai

n. sakenomi

のらねこ (野良猫)

n. sangyaaneko

のる (乗る) **v. noru**

は

は (歯) **n. ha**

はいた (吐いた)

v. hwyaata

はいた (掃いた)

v. hwyaata

はいつてはいけないとち
(入ってはいけない土地)

n. sizindono

**n. yamanokami
dono**

はい (灰の一種)

n. tokitosi

はい (灰) **n. hwyaa**

はえる (生える)

v. oyuru

はえ (ハエ) **n. hwyaa**

はか (墓) **n. yosebaka**

はく (吐く)

n. hakkaburu

v. tabaku

v. tengusohiru

はく (履く) **v. humu**

はげあたま (禿げ頭)

n. hagebinta

はこべら (ハコベラ)

n. hakobera

はこ (箱) **n. goo**

はしる (走る) **v. tobu**

はぜのき (ハゼノキ)

n. hazenoki

はたけにむかってひだり

うわて (畑に向か
って左上手)

n. kamasaki

はたけにむかってひだり

しもて (畑に向か
って左下手)

**n. kamasaki no
yokoziri**

はたけにむかってみぎう
わて (畑に向かっ
て右上手)

n. kamade

はたけにむかってみぎし
もて (畑に向かっ
て右下手)

**n. kamade no
yokoziri**

はたけのすみ (畑の隅)

kuro

はたけをたがやす (畑を耕
す) **v. utu**

はたけ (畑) **n. hatake**

n. sono

n. syaaenbatake	はなす (離す)	v. harantatu
e	v. hanasu	はらむ (孕む)
はたらく (働く)	はなれては (離れては)	v. harooda
v. gamadasu	v. hanaretya	はらをくだす (腹を下す)
はだのひびわれ (肌のひび割れ)	はなれられない (離れられない)	v. ogosu
n. kosekaaki	v. hanaryadeke	はりぎ (梁木)
はとこ n. hatoko	n	n. munegi
n. hutaitoko	はなれるのは (離れるのは)	はりのあな (針の穴)
はなおくら (花オクラ)	v. hanarurya	n. harinomimi
n. hanaogura	はらいっぱい (腹いっぱい) adv. hara	はる (貼る) haru
はなし (話)	koppei	はんたい (反対)
n. hanasikata	hara zunbyaa	adj. tigutigu
はなす (話す)	はらがたつ (腹が立つ)	
v. hanasu		

ば

ばか (馬鹿) adj. baka	n. gime	n. ribakatto
ばった (バッタ)	ばんそうこう	

ひ

ひえ (ヒエ) n. hie	ひじでつきとばすこと (肘で突き飛ばすこと)	v. ikkurikayasu
ひからせる (光らせる)	n. hizideppoo	ひっぱって (引っ張って)
v. hikarakasu	ひじょうに (非常に)	v. sobiite
ひがんばん (彼岸花)	adv. erai	ひとばんじゅう (一晩中)
n. higanbana	ひじ (肘) n. hizi	adv. yodoosi
ひざ (膝)	n. hizi	ひとみ (瞳) n. kurome
n. suneboozu	ひっくりかえす (ひっくり返す)	ひどい adj. hidee
ひじからさき (肘から先)		ひまご (曾孫)
n. ude		n. himago

ひまわり (ヒマワリ)

n. himawariひも (紐) *n.* wo

ひやした (冷やした)

v. hiyaata

ひやしなさい (冷やしなさ

い)

v. samasanyaひょうきんもの (ひょうき
ん者)*n.* hyookintan

ひりょう (肥料の一種)

n. motogoeひりょう (肥料) *n.* koe

ひろって (拾って)

v. hiruute

び

びっちゅうぐわ (備中鍬)

n. mituguwa

びょうきになる (病気になる)

る)

v. wazurauびり (ビリ) *n.* gettuu

びんぼう (貧乏)

n. nangi

ふ

ふうふ (夫婦)

n. myuuto

ふえる (増える)

v. imiruふかくほること (深く掘る
こと)*n.* imonziふくらはぎ *n.* tutoふく (吹く) *v.* hukuふく (拭く) *v.* huku

ふさく (不作)

n. husaku

ふじどうふ (藤豆腐)

n. huzidoohuふじ (藤) *n.* huzi

ふともも (太もも)

n. hutomomo

ふとる (太る)

v. koyuru

ふゆいちご (フユイチゴ)

n. yamaitigoふりかける *v.* huruふる (振る) *v.* buru

ぶ

ぶな (ブナ) *n.* buna

ぶんけのひと (分家の人)

n. sitaotoyaぶんけ (分家) *n.* bunke

へ

へ (屁) *n. he*

へいち (平地)

n. zyaara

へそのお (臍の緒)

*n. heso no wo*へそ (臍) *n. heso*へた *n. tuu*

へちま (ヘチマ)

n. hetima

へらす (減らす)

v. herasu

へをした (屁をした)

v. sitta

へをすかした (屁をすかした)

v. sungyaata

へをする (屁をする)

v. hirikaburu

へんぺいそく (偏平足)

n. itaasi

べ

べんじょ (便所)

n. settin

ほ

ほうきぐさ (ホウキグサ)

n. hookigusa

ほうれんそう (ホウレンソウ)

*n. hoorensoo*ほくろ *n. hoguro*

ほこり (目に入るほこり)

n. memono

ほさない (干さない)

v. hosunai

ほしがき (干し柿)

*n. hosigaki**n. turusigaki*

ほしがる (欲しがる)

v. hosigaru

ほしてくる (干してくる)

v. hweete kuru

ほそう (干そう)

*v. hosoo*ほった *n. huutan*

ほとけのざ (ホトケノザ)

*n. hotokenoza*ほどく *v. hoziku*

ほんけ (本家)

n. motoya

ほんとうの (本当の)

adj. honsyoo

ほんりゅう (本流)

n. honkawa

ぼ

ぼうずあたま (坊主頭)

*n. boozubinta*ぼん (盆) *n. bon*

ま

まう (舞う) *v. mau*
 まえのかんぬし (前の神主)
n. motogamisa
ma
 まがっている (曲がっている)
v. yogoodoru
 まご (孫) *n. mago*

まぜごはん (混ぜご飯)
n. mazemesi
 まぜる (味噌と混ぜる)
v. mameru
 まつげながいこと (まつ毛が長いこと)
n. megenaga
 まつ (待つ) *v. matu*
 まぬけ *adj. manuke*

まばたき *n. mebataki*
 まびきな (間引き菜)
n. kukerina
 まぶた (瞼) *n. mabuta*
 まゆげ (眉毛) *n. mayu*

み

みかける (見かける)
v. mikakuru
 みずがぎゃくりゅうする
 (水が逆流する)
v. nomayuru
 みずすまし (ミズスマシ)
n. mizusumasi
 みずたまり (水たまり)
n. tamari

みせる (見せる)
v. miseru
 みそさざい (ミソサザイ)
n. misottyo
 みそ (味噌) *n. miso*
 みぞれ *n. arare*
n. mizore
 みぞ (溝) *n. mizo*
 みつばち (ミツバチ)
n. mitibati

みにつける (身に付ける)
v. hamuru
 みぶるい (身震い)
n. miburii
 みょうが (ミョウガ)
n. myooga
 みる (見る) *v. miru*

む

むかご (ムカゴ)
n. nukago
 むかむかする *v. wazurau*
 むぎやらばち (ムギヤラバチ)
n. mugiyarabati
 むぎをささえるしちゅう
 (麦を支える支

柱)
n. mugiyara
 むこ (婿) *n. mukodono*
 むささび (ムササビ)
n. moma
 むしむしする (蒸し蒸しする)
v. uzumoru

むし (虫) *n. kusomusi*
 むすこ (息子) *n. detti*
n. musuko
 むちゅうになる (夢中になる)
v. nobosuru
 むりやり (無理矢理)
adv. doodemok

oodemo

め

め (目) <i>n. mee</i>	めすうし (雌牛) <i>n. uname</i>	<i>adj. tokyaanoon</i>
めい (姪) <i>n. meeko</i>		atta
めくばせ (目配せ) <i>n. mekongoo</i>	めすの (雌の) <i>prfx. onna-</i>	めんどくさい (面倒くさい) <i>adj. yodakii</i>
<i>n. mekubari</i>	めだか (メダカ) <i>n. medaka</i>	
<i>n. meyoo</i>	めだま (目玉) <i>n. mentama</i>	
めじか (雌鹿) <i>n. megantyoo</i>	めちゃくちゃ	

も

もう <i>adv. moo</i>	もみがら (粃殻) <i>n. siira</i>	<i>v. marikaburu</i>
もうすぐ <i>adv. yagate</i>	もみのき (モミノキ) <i>n. mominoki</i>	もり (森) <i>n. yama</i>
もし <i>adv. mosi(ka)</i>	もやし (モヤシ) <i>n. moyasi</i>	もろこし (モロコシ) <i>n. kibi</i>
もちとりこ (餅取り粉) <i>n. are</i>	もらう <i>v. morau</i>	もんでくれ (揉んでくれ) <i>v. muudekuree</i>
もち (焦がして固くなった餅) <i>n. yakkogasi</i>	もらす (大便を漏らす) <i>v. hirikaburu</i>	
もどす (戻す) <i>v. kaesu</i>	もらす (小便を)	

や

やかましい <i>adj. ikezawasi</i>	<i>n. koba</i>	<i>n. kantyooime</i>
<i>adj. sewasii</i>	<i>n. yabo</i>	やせほそる (やせ細る) <i>v. yasehibokeru</i>
やかん <i>n. tyoka</i>	やすむ (休む) <i>v. yokou</i>	やっと <i>adv. yooyaku</i>
やきはた (焼畑)	やせている (痩せている) <i>n. gyaazenboo</i>	やね (屋根) <i>n. ienoura</i>

やぶる (破る)

v. **yaburu**

やまのうえのところ (山の

上の所) *n.* **sae**

やまのちゅうぶく (山の中

腹) *n.* **kooma**

やまのふもと (山の麓)

n. **kooma**

やまぶき (ヤマブキ)

n. **yamabuki**

やまめ (ヤマメ)

n. **yenoha**

やまもも (ヤマモモ)

n. **yamamomo**

やわらかい (柔らかい)

adj. **yawyaa**

ゆ

ゆうじん (友人) *n.* **dosi**

ゆうふく (裕福)

adj. **bungensya**ゆず (ユズ) *n.* **inosu**ゆっくり *adv.* **botiboti**

ゆびきりげんまん

intj. **ibikirikankiri**

ゆびではじく (指で弾く)

v. **kappoo hazik****u**ゆびのかんせつ (指の関
節)*n.* **tenohusi**

ゆびわ (指輪)

n. **ibigane**ゆび (指) *n.* **ibi**

ゆりね (ユリ根)

n. **yurinone**

よ

よい (良い) *adj.* **yoka**

ようかい (妖怪)

n. **kaze**

ようさいるい (葉菜類)

n. **naasyaarui**

ようじん (用心)

n. **yuuzin**

ようすいろ (用水路)

n. **ide**よう (酔う) *v.* **iekuryaa**

よくとし (翌年)

n. **akutosi**

よくばり (欲張り)

n. **yokuboo**

よくぶかい (欲深い)

adj. **ikekisanyaa**よぶ (呼ぶ) *v.* **yobu**よむ (読む) *v.* **yomu**よめ (嫁) *n.* **yomego***n.* **yomezoyo**

よもぎ (ヨモギ)

n. **hutyu**よりあつまる (寄り集ま
る) *v.* **yottiita**

よわむし (弱虫)

n. **hegenasi**

ら

らしい *sfx.* **tyuu**

らっきょう(ラッキョウ)

n. **rakkyu**

らんぼうもの(乱暴者)

n. **gohee**

り

りょうしん(両親)

n. **oyadomo***n.* **totokaka**

りょうし(漁師)

n. **ryoosi**りょう(獵) *n.* **sisigari**

りんどう(リンドウ)

n. **rindoo**

る

るりかけす(ルリカケス)

n. **kyaaazenboo**

わ

わかい(若い)

adj. **wakyaa**

わかもの(若者)

n. **wakyaa mon**

わかる(分かる)

v. **wakaru**

わがまま(我儘)

adj. **wagamama**

わがや(我が家)

n. **menmegae***n.* **menmenokat****a***n.* **oregae**わざと *adv.* **wazato**わざわざ *adv.* **wazawaza**

わずらう(患う)

v. **yamituku**

わたしたち(私たち)

n. **ondomo**

わらび(ワラビ)

n. **warabe**わるい(悪い) *adj.* **warii**

わるぐち(悪口)

n. **waruguti/war****ukuti**

わるぼうず(悪坊主)

n. **waruboozu**わる(割る) *v.* **utiwaru**

～

～か *part.* **ya**～しながら *sfx.* **-katugoo**～しなさい *part.* **naryaa**～しに *sfx.* **-gee**～だね *part.* **naao**～できない *sfx.* **-en**～でも *part.* **domo**～の方 *sfx.* **sinyaa**～ようだ *part.* **huu**～らへん *sfx.* **-hen**

執筆者紹介

下地理則（しもじ みちのり，九州大学・准教授）

小川晋史（おがわ しんじ，熊本県立大学・講師）

新永悠人（にいなが ゆうと，成城大学・非常勤講師）

平塚雄亮（ひらつか ゆうすけ，志學館大学・講師）

占部由子（うらべ ゆうこ，九州大学学生）

清岡美里（きよおか みさと，九州大学学生）

古田万紀子（ふるた まきこ，九州大学卒業生）

坂井美日（さかい みか，国立国語研究所・プロジェクト PD フェロー）

国立国語研究所・椎葉民族芸能博物館共同事業

尾前調査班 中間報告書 —宮崎県椎葉村尾前方言 簡易語彙集と文法概説—

2016年3月15日発行

編集 下地理則・小川晋史・新永悠人・平塚雄亮・坂井美日

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel.042-540-4300（代表）

<http://www.ninjal.ac.jp/>

©国立国語研究所

**A concise dictionary and sketch grammar of
Omae Siiba, a dialect of Miyazaki Japanese**

Michinori Shimoji

Shinji Ogawa

Yuto Niinaga

Yusuke Hiratsuka

Mika Sakai

March 2016